

1. 文教育学部

I	文教育学部の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	1－2
II	「教育の水準」の分析・判定	・ ・ ・ ・ ・	1－5
	分析項目 I 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・	1－5
	分析項目 II 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・	1－52
III	「質の向上度」の分析	・ ・ ・ ・ ・	1－60

I 文教育学部の教育目的と特徴

1. 文教育学部の教育目的

本学は、中期目標において「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」と自己定義し、「21 世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成する」ことをミッションとして掲げている。このミッションを達成するために、中期目標における学士教育の目標を、「リベラルアーツを基礎とし、学生の選択を重視した新たな学士課程教育を構築し、21 世紀社会に必要とされる豊かな教養と深い専門的能力を統合的に備えた創造性と実践力を培う」こととしている。

文教育学部は、本学のリベラルアーツ教育の中核となっている人文・社会科学系の教養教育、外国語教育、スポーツ健康、及び留学生向けの特別科目を担当している。また、専門教育の目的を、人文・社会科学系の幅広い学問領域の授業を通じて獲得する確かな専門的基盤を基に、社会の様々な場で生涯にわたってそれを創造的に応用し実践する力を持った優秀なジェネラリストを育成することとしている（資料 1－1）。この目的を達成するために 4 学科 1 学環を構成し、それぞれの特徴に沿った人材を養成している（資料 1－1）。

2. 文教育学部の特徴

文教育学部の特徴は、①人間と社会に関する過去・現在・未来について、学生が主体的に多様な学問分野を選択することにより、マクロとミクロの両面から学ぶことが可能となる「文系総合学部」であること、②①を実質化するために、「複数プログラム選択履修制度」を実施し、多彩な 12 の主プログラムと 25 の強化・副・学際プログラムを用意し、学科・コースを超えて領域横断的・学際的な学修を可能にしていること（資料 1－2）、③哲学・倫理学、歴史学、地理学、文学、言語学、芸術学、教育学、社会学、心理学、国際関係学などの多様な研究領域の専任教員が、「少人数制教育」によって個々の学生の関心や進路に沿ったきめ細やかな指導を行っていること、④グローバル化社会に適した人材を育成するために、「グローバル人材育成事業」に学部の教員・学生ともに先導的に取り組んでいることの 4 点にある。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者は文教育学部の在学生及び卒業生、進学先の本学及び他大学の大学院、就職先の官公庁・企業・各種教育機関・NPO 等である。本学文教育学部を目指す女子高校生も関係者に含まれる。在学生及び卒業生の期待は上述の文教育学部の教育に関わる目的に挙げた諸事項を在学期間中に確実に身に付けることであり、進学先大学院の期待は幅広い教養を基礎とした柔軟で独創的な発想を持ち、革新的な研究を展開することの可能な人材養成である。就職先諸機関の期待は、高い専門基礎力とグローバルな視点を持った優秀なジェネラリストとして活躍可能な人材育成である。進学先として文教育学部を志願する女子高校生の期待は魅力ある文系総合学部であり続けることであると考えられる。

【資料 1－1】文教育学部の目的

○国立大学法人お茶の水女子大学学則(抜粋)

(文教育学部の目的)

第3条の2 文教育学部は、人文・社会科学系の学問を中心に、講義、演習、実験、実習等の多様な授業を通じて、学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見能力、情報処理能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、前条第2項に定める文教育学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

一 人文科学科

人文科学科は、人類の様々な歩みの中の現象を広く文化として捉え、深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理した上で、独自の論理を築きあげる総合的な力を有する人材を養成する。

二 言語文化学科

言語文化学科は、人間の言語活動や様々な言語表現の本質について深い知見を有するような人材、また、個々の言語に関して高い運用能力を有するような人材、更には各言語圏に固有の文化とそれら相互間の交流について幅広い知識を有するような人材を養成する。

三 人間社会科学科

人間社会科学科は、社会学、教育科学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得し、人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成する。

四 芸術・表現行動学科

芸術・表現行動学科は、音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的研究と実践の両面から追求し、現代的問題への対応に適用できるような人材を養成する。

【資料 1－2】複数プログラム選択履修制度において文教育学部の提供する
プログラム一覧

(出典：平成 27 年度履修ガイド p. 30 より抜粋)

○プログラムの種類・内容及び単位数の関係表

プログラムの種類 (提供プログラム)	専門教育			プログラム内容等
	文教育学部	理学部	生活科学部	
主プログラム (21 プログラム)	44、103 又は 48 単位	60 単位	42 又は 60 単位	各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的で調和的に修得するためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科。
強化プログラム (19 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	各専門領域をさらに深く、または広く学ぶためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科、グローバル文化学環及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科。
副プログラム (24 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学習機会を提供するためのプログラム。 ＜提供学部学科＞ 文教育学部 14 ・哲学・倫理学・美術史プログラム ・比較歴史学プログラム ・地理環境学プログラム ・日本語・日本文学プログラム ・中国語圏言語文化プログラム ・英語圏言語文化プログラム ・仏語圏言語文化プログラム ・日本語教育プログラム ・社会学プログラム ・教育科学プログラム ・心理学プログラム (A・B) ・舞踊教育学プログラム ・音楽表現プログラム 理学部 5 ・数学プログラム ・物理学プログラム ・化学プログラム ・生物学プログラム ・情報科学プログラム 生活科学部 5 ・人間・環境科学プログラム ・発達臨床心理学プログラム ・公共政策論プログラム ・ジェンダー論プログラム ・生活文化学プログラム
学際プログラム (6 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	新たな領域融合型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人養成に対応するためのプログラム。 ＜提供学部学科＞ 文教育学部グローバル文化学環 ・グローバル文化学プログラム 理学部数学科、物理学、情報科学科 ・応用数理プログラム 理学部物理学、化学科 ・物理・化学プログラム 理学部化学科、生物学科 ・ケミカルバイオロジープログラム 理学部生物学科、化学科、情報科学科 ・生命情報学プログラム 生活科学部人間生活学科 ・消費者学プログラム

- 注) ① 強化プログラムの履修は、同領域の主プログラムを履修していることが選択の要件です。
- ② 副プログラムは、履修した主プログラムと同領域のものは選択できません。ただし、グローバル文化学を主プログラムとする学生は、所属する学科のいずれかのコース・講座の提供する副プログラムの履修を必修とします。
- ③ 学際プログラムのうち、理学部の提供する 4 プログラムについては、理系の学生（理学部全学科と生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科）のみ選択できます。
- ④ 文教育学部芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科の学生も、副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。
- ⑤ 文教育学部人間社会科学科が開設する総合人間発達科学主プログラムについては、第 2 プログラムの選択を課しません。

プログラムの選択方法

主プログラムは、理系の学生は、入学時点で決定しています。文系の学生は、1 年次終了時（1 月頃）に Web 申請し、申請者数（第一希望者の数）が受け入れ上限数を上回っている場合は、当該主プログラム提供学科（コース・講座）における選考により決定します。

第 2 プログラムは、文系理系とも 2 年次終了時に、Web 申請により選択できます。

第 3 プログラムは、2 年次終了以降、随時、Web 申請可能です。

Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 組織体制と教員の配置

(1) 学科・コース・学環

本学部は、人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科及び芸術・表現行動学科の4学科・12の専門コース及び学科共通のコースであるグローバル文化学環並びに副プログラムのみ提供している日本語教育コースで構成されている(資料1-3)。

【資料1-3】文教育学部の学科・環・コースと教員数

(平成27年10月1日現在、カッコ内は女性教員数)

○文教育学部の学科・環・コースと教員数(平成27年10月1日現在文教育学部教授会構成員)					
()内は、そのうちの女性教員数					
学科	コース	教授	准教授	講師	助教
人文科学科	哲学・倫理学・美術史コース	1 (1)	2 (0)	0 (0)	2 (2)
	比較歴史学コース	7 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	地理学コース	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)
言語文化学科	日本語・日本文学コース	3 (1) ※	2 (1)	0 (0)	2 (2)
	中国語圏言語文化コース	3 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	英語圏言語文化コース	2 (1)	6 (4)	0 (0)	0 (0)
	仏語圏言語文化コース	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
人間社会科学科	社会学コース	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
	教育科学コース	5 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	心理学コース	5 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース	2 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (1)
	音楽表現コース	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)
グローバル文化学環		6 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
日本語教育コース		1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)
合計		40 (14)	22 (13)	0 (0)	8 (8)
※平成27年4月に理事に着任した教授は除外					

(出典：学務課資料)

(2) 教員配置

文教育学部の専任教員数は70名である(平成27年10月1日現在 前掲資料1-3)。学部内の教育に関する検討事項については、学部教授会により全教員参加で検討を行う(資料1-4)ほか、学部長及び各学科・コース・学環の主任による主任会議、学部長及び各学科・講座の委員による学部内委員会等を設置し学部内の教育に関する検討事項を審議している(資料1-5)。

【資料１－４】文教育学部教授会審議事項の例

○学部教授会審議事項	
文教育学部教授会議題〔第３回・平成２７年６月１０日（水）〕	
I. 前回議事録の確認 平成２７年５月１３日（水）	【サイボウズ】
II. 報告事項	
1. 学部長報告	
教育研究評議会	５／２０【サイボウズ】
部局長等連絡会	５／２９、６／３
2. 委員会等報告	
学部入試実施部会	５／１８【記録回覧】
衛生委員会	５／２５【記録回覧】
セクシュアル・ハラスメント等人権委員会	５／２５【記録回覧】
附属学校委員会	５／２９、６／８【記録回覧】
3. 平成２７年度自然地理学奨学金受賞候補者の推薦について	【資料１】
4. 平成２７年度池田摩耶子・重記念奨学金基金審査委員の推薦について	
5. 平成２７年度非常勤講師の辞職について	【資料２】
6. その他	
III. 審議事項	
1. 基幹研究院専任教員の本学部教育担当及び教授会構成員の承認について １件（人文科学系 助教）	
2. 平成２７年度非常勤講師資格審査委員会の設置について	【資料３】
3. 平成２７年度非常勤講師の委嘱の取止めについて	【資料３】
4. 平成２７年度非常勤講師の委嘱について	【資料４】【履歴回覧】
5. 平成２８年度入学選抜要項について	【資料回覧】
6. 平成２８年度文教育学部・生活科学部（人間生活科学科）第３年次編入学学生募集要項について	【資料回覧】
7. 本学在学中他大学等において修得した学生に対する既修得単位の認定について	【資料５・回収】
8. 平成２７年度単位互換協定に基づく特別聴講学生の受入れについて	【資料６】
9. 平成２７年度大学間交流協定に基づく交換留学生（特別聴講学生）の受入れについて	【資料７】
10. 平成２７年度大学間交流協定に基づく交換留学生（特別聴講学生）の受入れについて（サマープログラム）	【資料８】
11. 平成２７年度（４月入学）私費外国人留学生（研究生）の入学辞退について	【資料９】
12. 平成２７年度（４月継続）私費外国人留学生（研究生）の継続辞退について	【資料９】
IV. その他	
1. オープンキャンパスについて	
2. 成績不振学生に対する指導について	
3. 人文科学研究編集委員会より報告	
次回教授会 平成２７年７月１日（水）１５：５０	

【資料1－5】文教育学部の学部内委員会

平成27年度 学科長及びコース・環主任・会議構成員一覧学部内委員

学 科 長	
人文科学科	天 野
言語文化学科	野 口
人間社会科学科	坂 元
芸術・表現行動学科	水 村

コース主任		内線
1 学部長	菅 原	5270
2 哲学	天 野	5170
3 歴史	岸 本	5176
4 地理	長谷川	5196
5 日文	大 塚	5204
6 中文	宮 尾	5216
7 英文	野 口	5228
8 仏文	中村(俊)	5239
9 日本語	森 山	5691
10 社会	平 岡	5246
11 教育	浜 野	5248
12 心理	坂 元	5257
13 舞踊	水 村	5264
14 音楽	永 原	5275
15 グロ文	荒 木	5190

自己点検・評価委員会	
1 委員長	菅 原
2 哲学	三浦(謙)
3 歴史	神 田
4 地理	水 野
5 日文	大 塚
6 中文	和 田
7 英文	野 口
8 仏文	中村(俊)
9 日本語	西 川
10 社会	平 岡
11 教育	棚 橋
12 心理	石 口
13 舞踊	新 名
14 音楽	小 坂
15 グロ文	熊 谷

コース等	学部入試方法 検討委員 15名	教務関係事項 検討委員会	情報ネットワーク 委員会	広報委員会	FD委員会
1 委員長	中 野	宮 澤	加 納	竹 村	米 田
2 哲学	中 野	三浦(謙)	安 成	宮 下	安 成
3 歴史	古 瀬	安 成			
4 地理	水 野	宮 澤	伊 藤(美)	竹 村	加賀美
5 日文	松 岡	荻 原			
6 中文	和 田	伊藤(さ)			
7 英文	松 崎	中 西			
8 仏文	中村(俊)	中村(俊)	杉 野	石 口	米 田
9 日語	加 納	加 納			
10 社会	(富士原)	平 岡			
11 教育	富士原	(平 岡)	新 名	中村(美)	井 上
12 心理	上 原	大 森			
13 舞踊	中村(美)	新 名			
14 音楽	小 坂	井 上	注1	注2	注3
15 グロ文	三 浦	小 林			
16 学部選出	杉 野	-	-	-	-

人文科学研究編集委員	
人文科学	小 風
言語文化	竹 村
人間社会	坂 本
芸術表現	中村(美)
生活科学部	小 谷
	-
	-

ピアサポートプログラム運営委員会	
学部長	菅 原
コーディネーター	安 成
人文科学	安 成
言語文化	宮 尾
人間社会	棚 橋
芸術表現	新 名
グロ文	小 林

注1 情報ネットワーク委員会：人間社会科学科にグロ文を含める。

注2 広報委員会：各学科から1名選出。言語文化学科にグロ文を含める。

注3 FD委員会：教務関係事項検討委員会から各学科1名選出。人文科学科にグロ文を含める。

(出典：学務課資料)

2. 多様な教員の確保の状況

(1) 教員の男女比

教員のうち35名(教授14名、准教授13名、助教8名)が女性である(前掲資料1-3)。女性教員比率は、教授35.0%、准教授59.1%、助教100%、全体で50.0%であり、バランスのとれた教員男女比となっている。本学全体の女性教員比率は常に40%を超え、第2期中期目標期間中、国立大学法人の中でトップである(人間文化創成科学研究科(教育)分析項目Ⅰ-観点「教育実施体制」資料Ⅰ-1-9参照)。

3. 在籍学生数

(1) 少人数教育

学生収容定員は828名、現員932名である(平成27年5月1日現在 資料1-6)。専任教員1名当たり学生数は1学年平均3.3名であり、少人数教育を実践している。学部全体の定員充足率は平成27年度のみ111%であるが、第2期を通じて定員充足率は100~110%の範囲に収まっており(資料1-7)、過度な定員超過を示すことなく推移している。

【資料1-6】文教育学部の入学者数・在学者数・収容定員等
(平成27年5月1日) (「教育情報の公表レビュー」より)

		入学定員	第3年次入学定員	収容定員	入学者・在学者数				
					1年次	2年次	3年次	4年次	合計
					入学者	在学者	在学者	在学者	入学者＋在学者
文教育学部	人文学科	55	10	220	64	60	59	71	254
	言語文化学科	80		320	91	86	93	111	381
	人間社会科学科	40		160	42	42	47	53	184
	芸術・表現行動学科	27		108	28	28	27	30	113
	学部共通			20					
	小計	202		828	225	216	226	265	932
※編入者数は、その年次の在学者に含む									

(出典：学務課資料)

【資料1-7】文教育学部の定員充足率(平成22年度~27年度)

○文教育学部入学定員充足率(平成22~27年度)							
学科等名称	項目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
文教育学部全体	志願者数	1,100	1,090	1,108	1,004	839	866
	合格者数	239	240	240	240	232	239
	入学者数	218	216	213	219	218	225
	入学定員	202	202	202	202	202	202
	入学定員充足率	1.07	1.06	1.05	1.08	1.07	1.11
人文学科	志願者数	344	300	393	330	266	307
	合格者数	71	70	67	69	65	69
	入学者数	61	61	57	59	60	64
	入学定員	55	55	55	55	55	55
	入学定員充足率	1.10	1.10	1.03	1.07	1.09	1.16
言語文化学科	志願者数	388	409	347	357	305	235
	合格者数	96	96	98	96	93	96
	入学者数	87	83	86	91	87	91
	入学定員	80	80	80	80	80	80
	入学定員充足率	1.08	1.03	1.07	1.13	1.08	1.13
人間社会学科	志願者数	234	249	235	178	148	207
	合格者数	45	45	47	47	46	46
	入学者数	43	43	42	42	43	42
	入学定員	40	40	40	40	40	40
	入学定員充足率	1.07	1.07	1.05	1.05	1.07	1.05
芸術・表現行動学科	志願者数	134	132	133	139	120	117
	合格者数	27	29	28	28	28	28
	入学者数	27	29	28	27	28	28
	入学定員	27	27	27	27	27	27
	入学定員充足率	1.00	1.07	1.03	1.00	1.03	1.03
学科等名称	項目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
第3年次入学収容定員	志願者数	112	100	111	98	74	71
	合格者数	18	12	10	14	12	11
	入学者数	18	12	10	14	9	10
	入学定員	10	10	10	10	10	10
	入学定員充足率	1.80	1.20	1.00	1.40	0.90	1.00

(出典：入試課資料)

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

(2) 留学生受入れ

留学生（留学生、学部研究生、日本語・日本文化研修生、交換留学生）の在学比率は平成27年度で6.6%であり、第2期目標期間中6年間の平均受入人数は74.83名で、日本人正規学生以外に対しても広く門戸を開いている（資料1－8）。

【資料1－8】

平成22～27年度文教育学部留学生受入人数					
平成22年度					
学科名	留学生	学部研究生	日研生※	交換留学生	合計
人文科学科	4	5	0	3	12
言語文化学科	8	26	7	4	45
人間社会科学科	6	15	0	0	21
芸術・表現行動学科	0	1	0	0	1
グローバル文化学環	2	4	0	0	6
日本語教育コース	0	0	0	6	6
合計	20	51	7	13	91
※日研生とは、日本語・日本文化研修留学生であり、日本語及び日本文化を集中的に学ぶ非正規学生のことである。					
平成23年度					
学科名	留学生	学部研究生	日研生※	交換留学生	合計
人文科学科	3	6	0	1	10
言語文化学科	7	7	5	3	22
人間社会科学科	5	16	0	1	22
芸術・表現行動学科	0	0	0	0	0
グローバル文化学環	1	3	0	9	13
日本語教育コース	0	0	0	0	0
合計	16	32	5	14	67
平成24年度					
学科名	留学生	学部研究生	日研生※	交換留学生	合計
人文科学科	3	3	0	0	6
言語文化学科	6	8	5	5	24
人間社会科学科	3	22	0	0	25
芸術・表現行動学科	0	0	0	0	0
グローバル文化学環	0	8	0	6	14
日本語教育コース	0	0	0	0	0
合計	12	41	5	11	69
平成25年度					
学科名	留学生	学部研究生	日研生※	交換留学生	合計
人文科学科	2	3	0	0	5
言語文化学科	6	4	0	6	16
人間社会科学科	3	24	0	0	27
芸術・表現行動学科	0	0	0	0	0
グローバル文化学環	0	9	13	8	30
日本語教育コース	0	0	0	0	0
合計	11	40	13	14	78
平成26年度					
学科名	留学生	学部研究生	日研生※	交換留学生	合計
人文科学科	1	1	0	2	4
言語文化学科	7	12	0	9	28
人間社会科学科	3	25	0	0	28
芸術・表現行動学科	0	0	0	0	0
グローバル文化学環	0	8	9	6	23
日本語教育コース	0	0	0	0	0
合計	11	46	9	17	83
平成27年度					
学科名	留学生	学部研究生	日研生※	交換留学生	合計
人文科学科	2	2	0	0	4
言語文化学科	4	3	0	12	19
人間社会科学科	2	18	0	0	20
芸術・表現行動学科	0	1	0	1	2
グローバル文化学環	0	3	7	6	16
日本語教育コース	0	0	0	0	0
合計	8	27	7	19	61

(出典：国際課資料)

4. 教育プログラムの編成

(1) 複数プログラム選択履修制度

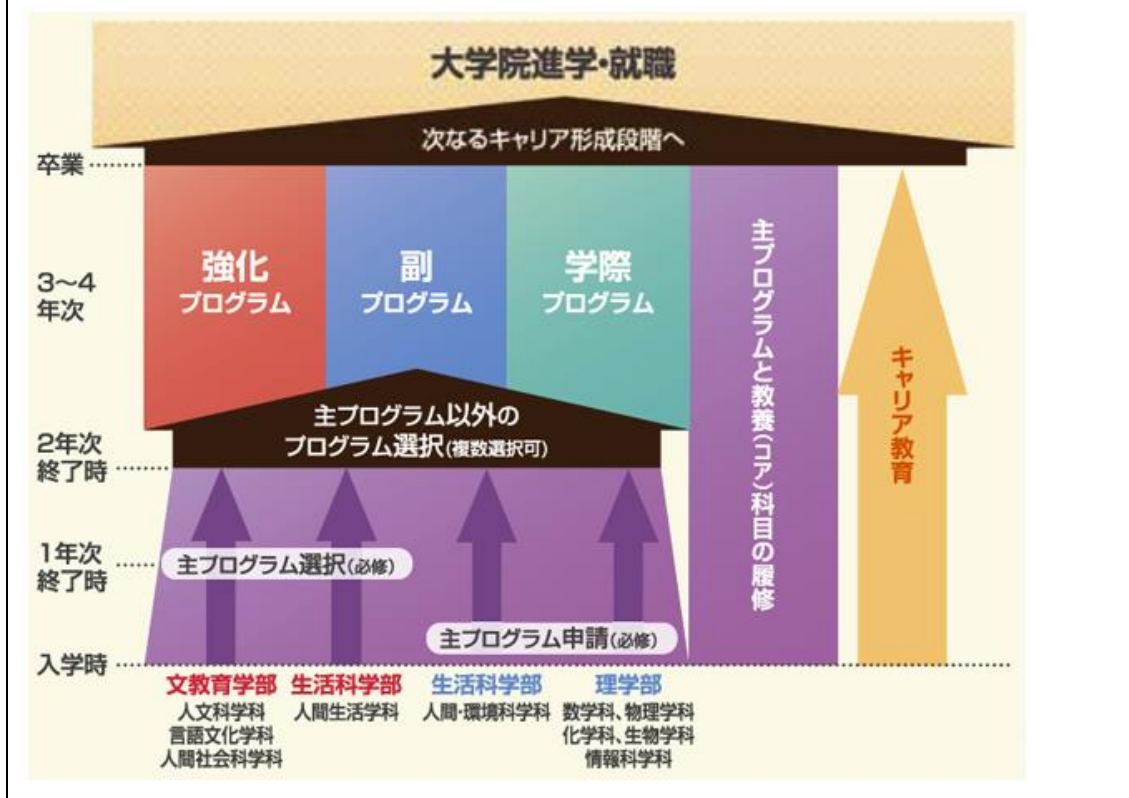
第2期中期計画（Ⅰ-1-(1)-5）（資料1-9）に則り、平成23年度より、学部・学科等の教育組織を横断し学生が主体的に選択できる全学的な複数プログラム選択履修制度（資料1-10）を導入した。文教育学部が提供する副プログラムは14と全学で最も多く（前掲資料1-2）、学部内での領域横断的な学びを可能にしている。平成26年度では第2・第3プログラムとして副プログラム及び学際プログラムを履修している文教育学部の学生は53.6%に達し、多様な副プログラム・学際プログラムを履修している（資料1-11、資料1-12）、また、他学部の学生も文教育学部開設の副プログラム・学際プログラムを履修しており（資料1-13）、本学部においては「複数プログラム選択履修制度」が実質化している。

【資料1-9】第2期中期目標・中期計画：教育に関する目標を達成するための措置（抜粋）

○第2期中期計画（抜粋）
国立大学法人お茶の水女子大学の中期目標・中期計画 Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 4. 学士課程においてお茶大型リベラルアーツ教育を推進し、専門基礎力、学士力を養う。 5. 社会や学生の多様なニーズに応えるために、 <u>学生が主体的に選択できる教育プログラムを導入し、学士課程を再構築する。</u> 6. 教育の質保証を行うために、 <u>カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの策定により学士課程の到達目標を明確化する。</u> 7. 生涯にわたる学びを保証する観点から、大学とそれにつながる初等・中等教育との連携を強化することを目指し、 <u>大学と附属学校との一貫した教育体制を整備する。</u> 1 2. <u>カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに対応したアドミッション・ポリシーを策定し、実行する。</u> 1 3. 高大連携特別選抜による入学者の追跡調査を定期的に行い、入学前教育課程、入試方法の改善を図る。

【資料 1－10】複数プログラム選択履修制度の概要

○複数プログラム選択履修制度



(出典：複数プログラム選択履修制度パンフレット 2015 版 p. 6 抜粋)

【資料 1－11】複数プログラム選択履修制度：副プログラム・学際プログラムの履修状況
(平成 26 年度)

平成26年度 複数プログラム選択制度													
:文教育学部の第2・第3プログラムの選択状況													
学部	所属学科	主プログラム名	在籍学生数	第2プログラム						第3プログラム			
				強化プログラム		副プログラム		学際プログラム		副プログラム		学際プログラム	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
文教育学部	人文科学科	哲学・倫理学・美術史	17	7	41.2%	9	52.9%	1	5.9%	1	5.9%	0	0.0%
		比較歴史学	28	22	78.6%	5	17.9%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
		地理環境学	7	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
		グローバル文化学	7	-	-	7	100.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
		小計	59	36	61.0%	21	35.6%	2	3.4%	3	5.1%	0	0.0%
	言語文化学科	日本語・日本文学	33	28	84.8%	4	12.1%	1	3.0%	2	6.1%	0	0.0%
		中国語圏言語文化	5	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%
		英語圏言語文化	26	16	61.5%	9	34.6%	0	0.0%	3	11.5%	0	0.0%
		仏語圏言語文化	12	5	41.7%	5	41.7%	2	16.7%	0	0.0%	1	8.3%
		グローバル文化学	16	-	-	16	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		小計	92	52	56.5%	34	37.0%	5	5.4%	5	5.4%	1	1.1%
	人間社会科学科	社会学	12	3	25.0%	7	58.3%	2	16.7%	2	16.7%	0	0.0%
		教育学	14	8	57.1%	5	35.7%	1	7.1%	1	7.1%	0	0.0%
		心理学	16	6	37.5%	10	62.5%	0	0.0%	2	12.5%	0	0.0%
		グローバル文化学	5	-	-	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		小計	47	17	36.2%	27	57.4%	3	6.4%	5	10.6%	0	0.0%
	合計		198	105	53.0%	82	41.4%	10	5.1%	13	6.6%	1	0.5%

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

【資料1-12】文教育学部生の副プログラム・学際プログラムの選択パターン

平成26年度 文教育学部2年生の第2、第3プログラムの選択パターン

所属学科	主プログラム名	第2プログラム
人文科学科	哲学・倫理学・美術史	強化プログラム、比較歴史学（副）、地理環境学（副）、日本語・日本文学（副）、心理学B（副）、グローバル文化学環（学際）
	比較歴史学	強化プログラム、哲学・倫理学・美術史（副）、地理環境学（副）、日本語・日本文学（副）、社会学（副）、グローバル文化学環（学際）
	地理環境学	強化プログラム
	グローバル文化学	哲学・倫理学・美術史（副）、比較歴史学（副）、地理環境学（副）
言語文化学科	日本語・日本文学	強化プログラム、哲学・倫理学・美術史（副）、日本語教育（副）、心理学B（副）、グローバル文化学環（学際）
	中国語圏言語文化	強化プログラム、グローバル文化学環（学際）
	英語圏言語文化	強化プログラム、比較歴史学（副）、日本語・日本文学（副）、日本語教育（副）、心理学B（副）
	仏語圏言語文化	強化プログラム、比較歴史学（副）、地理環境学（副）、日本語教育（副）、グローバル文化学環（学際）
	グローバル文化学	日本語・日本文学（副）、中国語圏言語文化（副）、英語圏言語文化（副）、仏語圏言語文化（副）、日本語教育（副）
人間社会科学科	社会学	強化プログラム、比較歴史学（副）、地理環境学（副）、日本語・日本文学（副）、教育学（副）、心理学A（副）、グローバル文化学環（学際）
	教育学	強化プログラム、哲学・倫理学・美術史（副）、英語圏言語文化（副）、心理学A（副）、グローバル文化学環（学際）
	心理学	強化プログラム、比較歴史学（副）、社会学（副）、教育学（副）
	グローバル文化学	社会学（副）、教育学（副）

（注）芸術・表現行動学科所属の学生は対象外

所属学科	主プログラム名	第3プログラム
人文科学科	哲学・倫理学・美術史	生活科学部・生活文化学（副）
	比較歴史学	選択なし
	地理環境学	比較歴史学（副）
	グローバル文化学	日本語教育（副）
言語文化学科	日本語・日本文学	比較歴史学（副）、生活科学部・発達臨床心理学（副）
	中国語圏言語文化	選択なし
	英語圏言語文化	日本語・日本文学（副）、教育学（副）、心理学B（副）
	仏語圏言語文化	グローバル文化学環（学際）
	グローバル文化学	選択なし
人間社会科学科	社会学	地理環境学（副）、英語圏言語文化（副）
	教育学	英語圏言語文化（副）
	心理学	選択なし
	グローバル文化学	選択なし

（注）制度上、芸術・表現行動学科の学生も第3プログラムは選択可能だが選択者はいなかった。

（出典：学務課資料）

【資料 1－13】他学部生による文教育学部提供副プログラムの選択パターン

平成26年度 他学部 2 年生による文教育学部提供プログラムの選択パターン			
学部	学科	主プログラム名	第 3 プログラム
理学部	生物学科	生物学	仏語圏言語文化（副）
	情報科学科	情報科学	比較歴史学（副）
生活科学部	人間生活学科	生活社会科学	グローバル文化学環（学環）
		生活文化学	哲学・倫理学・美術史（副）、比較歴史学（副）

（出典：学務課資料）

5. 教養教育への貢献

（1）21 世紀型文理融合リベラルアーツ

第 2 期中期計画（I-1-(1)-4）（前掲資料 1－9）に則り、平成 20 年度より従来の教養教育を改革し、21 世紀型文理融合リベラルアーツを開始した。本学リベラルアーツは 5 つのテーマから成るが（資料 1－14）、文教育学部担当の教員は全てのテーマに貢献している（資料 1－15）。教員の公募に際してもリベラルアーツを重視し、公募要領にもそれを明示している（資料 1－16）。

【資料 1－14】21 世紀型文理融合リベラルアーツの概要

○21 世紀型文理融合リベラルアーツ

教育の特色：教養教育

21世紀型文理融合リベラルアーツ

自然科学・人文科学・社会科学の領域を横断し
知の基盤を学び、広い視野を身につける

お茶の水女子大学の教養教育の中核をなすが、文系・理系を融合した「21 世紀型文理融合リベラルアーツ」です。教養教育の一環として 1～2 年次を中心に履修するプログラムで、現代世界を読み解く「鍵」となる 5 つのテーマごとの系列科目群からなっています。

高度な専門教育を支え、使いこなすためには、あらゆる状況に対応できる発信・交渉能力と領域横断的な広い視野、変化に対応する判断力が必要です。これらの能力は、どんな専門分野に進んでも重要な基礎となるもので、将来を生き抜くうえで大きな糧となります。1 年次のうちからリベラルアーツの系列科目群を体系的に学ぶことで、文系、理系の領域を横断した視野を速やかに獲得するとともに、社会を生き抜く支えとなり得る基礎的な能力を養うことができます。

プログラムの特徴

リベラルアーツは文系・理系にまたがる 5 つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）によって、講義・討論・実習・実験・演習を組み合わせた系列科目群からなっています。本人がそれぞれの目的や興味によって科目を履修する自由を選択することができ、1 年次から専門性の高いテーマを自然科学・人文科学・社会科学の 3 つの観点から多角的かつ体系的に学ぶことができます。目標はテーマを根源から理解することです。ひとつのテーマに文理双方から問題を問うかけること、そこを「切り口」として深く掘り下げていくことで、学術的にも価値ある領域横断的な知識と経験を身につける。さまざまなシーンで応用可能な実践力を高めていきます。なお、必要単位数を履修すると、申請に基づき成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

テーマと系列科目群

各系列にはそれぞれ 2 年間で 1 クールとする「講義」と、少人数の実験形式で行われる「演習・実習・実験」の 2 種類の授業科目が豊富に用意されています。

講義では、テーマに立脚した基礎知識を、専門分野の基礎を修得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的とします。

演習では文献読解、実験調査、口頭発表などが中心となります。テーマに関連するテキスト（書物や論文）を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読み・聞き・書き・語り・作るという作業を通じて、思考力やコミュニケーション力を養成します。さらに採択や観察などを活用し、自ら作り出す経験を積み重ね、インターシップなどを通して具体的な体感を得て、知識を経験に裏付けられた実践力へと高めていきます。

■ リベラルアーツの 5 つのテーマ

生命と環境

近年、生存の場としての環境の重要性はますます強く認識されるようになってきました。環境とのかかわりを深く理解し、新たな共生の方法を創出することは、21 世紀を生きる私たちに課せられた重大な使命です。生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「環境」の視野の導入を図ります。生命とは何か、現代科学における生命論、生命倫理から生命を取り巻く自然環境、文化環境、地域と風土などの問題を扱います。

- 講義：生命の科学、生命倫理と法、多様な生命学、生物人類学、生命と環境の科学、惑星地球の科学、大気と水、文化と環境、環境と風土、開発と共生
- 演習：環境保護活動リサーチ、生命科学と環境問題、トランス・サイエンス入門、地図を読む
- 実習：基礎生命科学、海洋環境学ダイビング

色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、自然の原理と私たちの文化や社会について学びます。色・音・香を通じて自然現象の基礎を理解するとともに、人間（生物）が自然界や社会・文化的環境をいかに認識し、受容して利用していくのか、さらにそれをどのようにして社会的、文化的環境として蓄積していくかを探究し、広く人間と自然、人間と社会の相互作用についての理解の視点を養います。

- 講義：分子から見た色と香り、生命と色・音・香、色・音・香の物理学、コンピュータが創る色と音、情緒と意識の心理学、色・音・香と生活文化、音論における色・音・香、音楽と色・音・香、おいしさと色・音・香、知覚認知と環境デザイン
- 実習：感覚の科学、おいしさをサイエンス、音を読む、見る、聴く、歴史の歴史を読む

生活世界の安全保障

人間は安全を確保するため、さまざまな社会的・技術的・文化的な装置を作りだしてきました。しかし時代の進展につれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、それが逆に新たな危険や紛争・不平等などの脅威を生み出しています。身近な安全を守るために何が必要かを考えることを通じ、技術と制度と文化の相互関係や生命としての人間のあり方を捉え直します。

- 講義：生活世界と法、情報社会の安全保障、リスクの社会、平和と暴力、開発と共生、社会技術革新学、現代物質文明の発展、ゲノム時代の健康増進、水の安全保障、社会的弱者の存在論、環境科学
- 演習：歴史のなかの危機とその克服、教育における危機、地図を読む、トランス・サイエンス入門
- 実習：NPO のインターンシップ

ことばと世界

ことばは世界とどのようなかかわりを持つのでしょうか。ことばは何を表し、私たちはそれによって何を表現しているのでしょうか。人間を取り巻く世界（人間社会や自然界）を、人間はどのようにして記述し、どのように伝えたのでしょうか。自然言語、数学言語、コンピュータ言語など科学の「知」を記述することばの仕組みと働き、文学作品や新聞・雑誌などに記述された言語による表現世界など、ことばについて多面的に考えます。

- 講義：日本語論、言語の習得と発達、論理学、文化の記号学、日本文学、海外の文学、教養のことば、自然のことば、グローバル化社会を生きる、文法と意味、知能環境論
- 演習：教養のことば、ことばを語る、ことばを読む、手紙学入門

ジェンダー

ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別であり、グローバル化が進む現代では実に巧妙に私たちの生活に入り込んでいます。性別に関係なく充実した幸福な生活を営む社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学び、ジェンダー視点の導入を行います。今を生きるジェンダー学を学ぶことで視野を拓き、新しい形の問いとして活躍できる国際人を目指します。

- 講義：女性史・男性史とジェンダー、グローバル経済とジェンダー、政治・政策とジェンダー、映画とセクシュアリティ、アートとジェンダー、宗教文化とジェンダー、グローバル化/ローカル化とジェンダー、生活デザイン/デザインとジェンダー
- 実習：福祉・エコノミーとジェンダー、文化メディアとジェンダー、開発・社会運動とジェンダー、テクノロジーとジェンダー

（出典：大学案内 2016 pp. 16-17）

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

【資料1－15】21世紀型文理融合リベラルアーツ科目の担当者例（平成27年度開講科目）

リベラルアーツ科目「ことばと世界」系列				
	科目名	キーワード・主題	担当教員	時間割
理論	ことばと世界 1 日本語論	日本語学	文教育学部言語文化学科: 染谷 裕子	後期: 水: 3/4 限
	ことばと世界 2 言語の習得と発達	発達言語学	文教育学部人間社会学科: 上原 泉	前期: 水: 1/2 限
	ことばと世界 3 論理学	論理学	文教育学部人文科学科: 三浦 謙	後期: 水: 3/4 限
	ことばと世界 11 文法と意味	文法と意味	シミュレーション科学教育研究センター: 峯島 宏次	後期: 月: 3/4 限
	ことばと世界 12 知能環境論	知能環境論	教育開発センター: 半田 智久	前期: 金: 3/4 限
表現	ことばと世界 4 文化の記号学	記号学	文教育学部言語文化学科: 大塚 常樹	後期: 水: 3/4 限
	ことばと世界 5 日本文学	日本文学	文教育学部言語文化学科: 谷口 幸代	H28 年度開講
	ことばと世界 6 海外の文学	外国文学	文教育学部言語文化学科: 大原 宣久	前期: 水: 1/2 限
	ことばと世界 7 数理のことば	数学	理学部数学科: 真島 秀行	後期: 水: 3/4 限
	ことばと世界 8 自然のことば	物理学	理学部物理学科: 曹 基哲	前期: 水: 3/4 限
	ことばと世界 10 グローバル化社会を生きる	外国語と社会	文教育学部言語文化学科: 可納 なおみ	後期: 金: 3/4 限
演習	ことばと世界 22 数理のことば	数学	理学部数学科: 萩田 真理子	前期: 水: 3/4 限
	ことばと世界 24 ことばを探る	外国語と社会	文教育学部言語文化学科: 中村 俊直	前期: 月: 3/4 限
	ことばと世界 25 ことばを読む	日本語と社会	文教育学部言語文化学科: 谷口 幸代	前期: 水: 3/4 限
	ことばと世界 27 手話学入門	手話	生活科学部人間生活学科 : 越後 節子、小谷 眞男	前期: 月: 3/4 限

（出典：21世紀型文理融合リベラルアーツウェブサイトより抜粋

http://www.ocha.ac.jp/la/subjects/1_w.htm）

【資料 1－16】リベラルアーツを重視した教員公募の例

○教員公募（抜粋）	
平成 25 年 7 月 1 日	
<p>国立大学法人お茶の水女子大学長 羽 入 佐和子 (公印省略)</p> <p>教員の公募について(依頼)</p> <p>拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。 お茶の水女子大学では、現在、日本文化の国際発信を重視しています。 このたび本学では、倫理学・倫理思想史を専門とし、教育と研究の国際化に寄与できる教員を公募いたします。 つきましては、貴学・機関関係者及び関係諸方面にご周知いただくとともに、適任者の推薦についてよろしくお取り計らいくださいますようお願いいたします。 敬具</p> <p>記</p> <p>1. 職名及び人員 助教 (Assistant Professor) 1 名 (常勤、任期 5 年)</p> <p>4. 専門分野 倫理学・倫理思想史 (倫理学における価値、規範等に関わる現代社会の諸問題およびさまざまな古典的思想文化の伝統との連携教育が可能なこと)</p> <p>5. 主な担当科目 (大学院) 倫理学特論、倫理学原論、生命倫理学特論等 (学 部) 倫理学概論、倫理学基礎論、倫理学研究指導、宗教と倫理学等 <u>教養教育科目 (リベラルアーツ「宗教と色・音・香」)、</u> <u>道德教育の研究</u></p> <p>6. 応募資格 (1)博士の学位を有する方 (2)大学院の研究指導ができる方 (3)専門分野に関する教育及び研究の経験と実績を有する方 (4)<u>リベラルアーツの精神を有し、それを教育として実践できる方</u> (5)できれば、英語でも授業のできる方</p> <p>(略)</p> <p>15. 提出書類 (1)履歴書 (2)研究業績一覧 (著書、論文(審査の有無別)、招待講演、学会発表、その他に分類すること) (3)主要な著書、論文等の別刷り又は写し (5 点以内業績一覧中に○印を付すこと) (4)これまでの研究概要及び着任後の研究計画 (5)<u>本学で行おうとするリベラルアーツ及び専門教育についての考え方と、これまでの教育実績 (合わせて 2,000 字程度)</u></p>	

6. 入試体制

(1) アドミッション・ポリシー

文教育学部では、入試に関して学科ごとにアドミッション・ポリシーを策定し、募集要項等で公表している (資料 1－17)。さらに、学部入試方法検討委員会を設け、入学試験の実施に関して、その管理・運営の体制を整えている (前掲資料 1－5)。

2 学部のアドミッション・ポリシー

◆ 文教育学部

人間は、過去から現在に至るまで地球上のさまざまな地域で、言語をはじめとする文化や科学技術を創造し、政治、経済、教育などの諸社会組織を発展させてきました。人間と文化と社会を理解するためには、時間軸と空間軸の上に現代社会を位置づけ、マクロからミクロに至る多角的なアプローチが必要です。

文教育学部は、人間と文化と社会に迫る、人文・社会系の総合的な学部です。人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科の4つの学科からなり、各学科には複数のコースが置かれ、また学科の枠を越えたグローバル文化学環が設けられています。あわせて 13 のコース・環があり、それぞれが専門教育の各種プログラム(主・強化・副・学際)を提供し、また学生が所属する組織となります。多彩なプログラムと少人数教育によって、専門的に深く、総合的に広く学ぶためのカリキュラムを用意しています。

高校での学習は、その後の人生を「よく生きる」ためのものです。本学部志望者には、高校において文科系の科目はもちろん理数系の科目まで幅広く、同時にどんな欲に深く学習することを望みます。

多様な領域でのリーダーを目指し、意欲と能力と個性に富んだ皆さんが志望されることを期待します。

II 学科の受入方針

文教育学部

【人文科学科】

本学科は、人間の様々な歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データを粘り強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

高校では、様々な教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、入学後、自分が何を学びたいのかを見極め、1年次末に人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。

【前期日程】

前期日程については、大学入試センター試験および本学の個別学力検査の合計点によって可否を判定します。

【後期日程】

後期日程については、より個性的な学力を見るために、大学入試センター試験の得点の高い方から順に3教科・科目を利用し(150点)、本学の試験(100点)との合計で可否を判定します。

本学の試験では、英語の課題文を読んだうえで、設問に従って論述するという小論文を出題します。この試験では英和辞書(電子式を除く。)の持ち込みを認めています。なぜなら、ここでは英文の逐語訳ができるかどうかよりも、全体の文意を的確に捉えることができるか(英語の読解力)という点を重視しているからです。くわえて、発想の独創性、論理構成力、豊かで正確な文章表現力といった点が評価の対象となります。

【言語文化学科】

皆さんは学校では主として国語や外国語の授業で文学や言語に接してきました。そしてそれ以上に、生まれてから現在までの家庭生活や社会生活の中で、言葉を操る力を獲得し、心を揺さぶる文学作品に出会ってきたことでしょう。その中で、言葉や文学の美しさや不思議さを一度も感じたことのない人はあまりいないと思います。

言語文化学科での学習研究を通じて、皆さんは漠然とした感動や疑問を明確な言語として表現し、さらにそれを説明、解明していく方法を学ぶことでしょう。また、そうした方法を身につけることにより、これまで気づかずにいた言葉や文学の面白さや不思議さを発見することでしょう。また、日本語・中国語・英語・フランス語の各言語文化圏に固有の文化や思想、そして異文化間の交渉や交流について深く知ることになるでしょう。

私たちは、そのような知的行為に興味を持ち、そのための訓練に耐えられるだけの、十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への愛着を持った学生を求めます。入学後は、1年次末に主プログラムを決定します。

【前期日程】

大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で決まります。大学入試センター試験に関しては、国語や外国語の点数を特に重く見ることはしていません。それは、本学科の選抜方法が、高校までどの科目もおそろきすることなくきちんと学習してきた学生を選ぶことを目的としているからです。大学入試センター試験では主要5又は6教科の基礎的な学力を判定します。本学の個別学力検査は国語と外国語ですが、いずれも基礎的な知識の他に、長い文章を正確に読みとる力、自分の考えを文章できちんと表現する力があるかを見ます。

【人間社会科学科】

人間社会科学科は、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり(社会学)、心理的側面を考察したり(心理学)、人間の発達について多角的に考える(教育科学)という、3つの研究領域がありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語(外国語)・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに役立つでしょう。このほか地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

人間社会科学科には、上記のように社会学コース、心理学コース、教育科学コースの3つのコースがあり、各コースはそれぞれ主・強化・副プログラムを提供しています(教育科学コースは総合人間発達科学主プログラムも提供)。入学後、各コースの特徴と自分の関心とを精査検討し、1年次末にいずれかのコース又はグローバル文化学環が提供する主プログラムを選択することになります。

【前期日程】

前期日程では、大学入試センター試験によって、幅広い基礎的な知識・教養を身につけているかどうかを判断します。学科ごとの個別学力検査では、大学での研究に必要な不可欠な基礎的能力を身につけた志願者を得るために、国語・数学・外国語の3科目入試にしています。

【後期日程】

後期日程では、幅広い基礎的教養のほか個性的な学力を見るために、大学入試センター試験の5又は、6教科に加え、小論文を採用しています。小論文では、「読み、思考し、表現する」能力などが評価の対象となります。

【芸術・表現行動学科】

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追究しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制度をとっておりません。受験の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

【舞踊教育学コース】：

本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。舞踊は高校で学ぶ全ての教科と関連していますので、幅広く学習を進めてください。その上で、保健体育、国語及び英語については特に重点的に学習し、基本的な運動能力、文章表現力、英文の読解力をきちんと身につけてください。

前期日程では、大学入試センター試験及び本学の個別学力検査の合計点によって合否を判定します。

【音楽表現コース】：

音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。高校で学ぶ教科は全て重要ですが、音楽は言うまでもなく、英語と世界史はしっかりと身につけてきてください。

【前期日程】

大学入試センター試験と本学の個別学力検査による合計点で決まります。但し、実技検査全科目の平均点が6割に満たない場合は不合格となります。

【後期日程】

大学入試センター試験によって決まります。但し、実技検査全科目の平均点が6割に満たない場合は不合格となります。

※ グローバル文化学環

2005年度に創設されたコースです。グローバル化する現代社会の課題を、①地域研究・地域文化、②多文化交流・多文化共生、③国際関係・国際協力、という3つの領域を組み合わせることで、動態的に捉え、実践的に学んでいこうというのが、グローバル文化学環のコンセプトです。

その特徴は、文教育学部の3つの学科(人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科)のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修を行うことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

(2) 高大連携特別推薦入試

高大連携教育研究事業の一環として高大連携特別選抜入試を行っており、文教育学部では毎年継続的に附属高等学校からの入学者を受け入れ、その人数は総じて全学で最も多くなっている（資料 1－18、資料 1－19）。附属高等学校に対する文教育学部教員による出張授業も、平成 22 年度から 27 年度まで年間 13～17 回開催した。

【資料 1－18】 高大連携教育研究と高大連携特別入試（出典：本学ウェブサイトより抜粋）
http://www.cf.ocha.ac.jp/sesd/project/report_2013.pdf#page=118&zoom=auto,-82,799

〔2. 校種間の連携・接続についての研究〕

1. 高大連携教育研究プロジェクトにかかる調査研究

お茶の水女子大学では、附属高校と大学の合計 7 年間の特別教育プログラムを設定し、2005 年度附属高校入学者から実施してきた。特別教育プロジェクトにおいては、高校教員と大学教員が協力して編成した、全生徒対象の「教養基礎」科目が附属高校のカリキュラムに位置づけられ、希望者を対象とした「選択基礎」科目が本学の各学科・講座・コースに開設された。そして、高大連携特別入試を経て第 1 期生 8 名が 2008 年度に本学に入学し、2009 年度は第 2 期生 7 名、2010 年度は第 3 期生 13 名、2011 年度は第 4 期生 9 名、2012 年度は第 5 期生 4 名、2013 年度は 10 名が入学した。

【大学入学者についての追跡調査】

現 4 年生（2010 年度入学）は卒業に際し、本人の卒業後の進路及び、高校・大学 7 年間の自分の成長についてレポートでの回答を得た。また各所属学科・コースには学生生活の様子に関するアンケートと卒業論文（研究）の評価アンケートを依頼し、回答を得た。大変優秀な成績を収め、高い評価を得ている学生もおり、高大連携プログラムによって早い時期から大学の研究に触れ、問題意識を高めていた効果を評価する意見も複数あった。

現 3 年生（2011 年度入学）については、1 月末から 2 月の上旬に全員と面談調査及びアンケート調査を実施した。所属するゼミの決定が迫っており、研究テーマを具体的に考え始めている様子や、大学院進学か就職かについても具体的な準備の状況が語られた。就職活動については、夏のインターン経験や、説明会への参加、エントリー・シートの提出など、着々と準備を進めている様子が報告された。

現 2 年生（2012 年度入学）については、6 月に全員と面談調査及びアンケート調査を実施した。1 年次の学業成績の振り返りや、大学生活全般、サークル活動や社会活動等への参加を尋ね、充実した大学生活を送っている様子が報告された。

現 1 年生（2013 年度入学）は、入学時のオリエンテーションで、追跡調査の説明と協力依頼を行った際、入学時点での大学生活への期待に関するアンケートに回答してもらった。

【資料 1－19】高大連携の受入実績

高大連携特別推薦入試による受入実績（平成22～27年度）		（単位：人）					
学部	学科	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
文教育学部	人文科学科	1	0	0	1	0	1
	言語文化学科	2	2	0	2	2	1
	人間社会科学科	4	2	1	3	1	3
	芸術・表現行動学科	0	1	0	0	0	0
理学部	数学科	0	0	0	0	0	0
	物理学科	1	0	0	0	0	0
	化学科	1	1	1	1	0	0
	生物学科	0	0	1	1	0	0
	情報科学科	1	1	0	0	1	0
生活科学部	食物栄養学科	1	1	0	1	1	1
	人間・環境科学科	1	0	1	0	0	0
	人間生活学科	1	1	0	1	0	0
文教育学部の割合		53.8%	55.6%	25.0%	60.0%	60.0%	80.0%

（出典：入試課資料）

（3）入学前予約型奨学金制度

全学的な措置として平成 23 年度より入学前予約型の奨学金制度（みがかずば奨学金制度）を設置し、経済的制約によって受験を諦めることのないよう門戸を広げる工夫をしている（資料 1－20）。平成 23～27 年度までの全学採用者 104、文教育学部の採用学生はそのうちの 50%を占めている（資料 1－21）。

【資料1-20】みがかずば奨学金制度の概要

○みがかずば奨学金制度

受験生の皆様へ

頑張るあなたを応援するお茶の水女子大学です

校歌

みがかずば 玉もかがみも なにかせん
学びの道も かくこそ ありけれ

みなさんもお茶の水女子大学で原石を
磨いてみませんか？

お茶の水女子大学 みがかずば奨学金 (予約型奨学金)

お茶の水女子大学みがかずば奨学金（予約型奨学金）は、入学を希望される受験生の皆様に入学後の経済支援を行うことを目的として、入試出願前に申請頂いて、入試合格・入学後に奨学金を受けられることを事前にお約束する制度です。



申請資格

- ①日本の高等学校又は中等教育学校を平成27年度に卒業見込みの者（現役生対象）
- ②平成28年4月に本学学部1年生に入学する予定の者で、本学に強く入学を志願する者
- ③成績・人物とも優秀（調査書の学習成績概評がA以上の者）で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者

給付額・採用者数

- ①奨学金支給額 1年目 30万円 2年目 30万円
- ②採用者数 25人

申請期間

平成27年9月1日～9月20日
※高等学校経由での提出となるので、各高等学校の提出期限に従ってください。

結果通知

平成27年10月に審査（内定者決定）を行い、推薦された高等学校の学校長と本人宛に通知します。（本奨学金の内定は、本学の合格を保証するものではありません。）
なお、内定後、一般入試（前期・後期）、AO入試、推薦入試、高大連携特別入試のいずれでも受験できます。

問い合わせ先

お茶の水女子大学学生・キャリア支援課 Tel. 03-5978-5147 Mail. gakusei@cc.ocha.ac.jp

※詳細については、募集要項（6月下旬頃本学ホームページに掲載予定）をご覧ください。



国立大学法人
お茶の水女子大学



（出典：学生・キャリア支援課資料）

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

【資料 1－21】みがかずば奨学金制度採用学生数（文教育学部）

年度	申請者数	採用者数	うち文教育学部生
23	41	19	10
24	37	16	9
25	49	26	13
26	62	20	10
27	67	23	13
		104 名	55 名

（出典：学生・キャリア支援課資料）

7. 国際性を確保する体制

(1) グローバル文化学環

平成17年度に設置されたグローバル文化学環はグローバル人材を養成することを主目的としており、文教育学部の複数学科（人文科学科・言語文化学科・人間社会学科）から2年次に主プログラムとして専攻することができる（資料1－22）。また、本学環は副プログラム・学際プログラム（グローバル文化学プログラム）を全学に提供している。

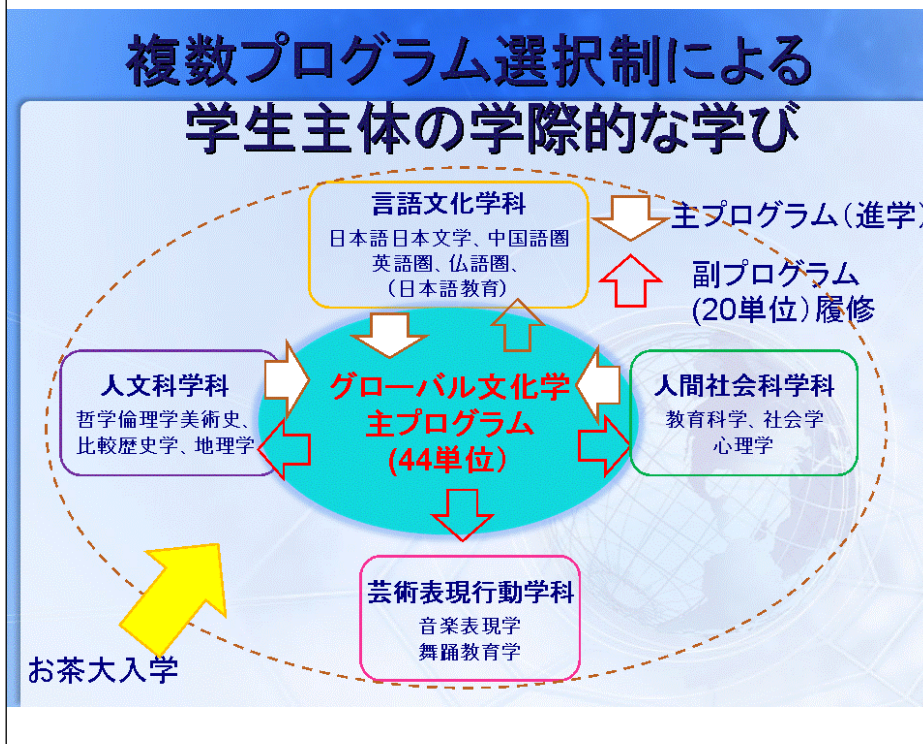
【資料1－22】 グローバル文化学環の概要

グローバル文化学環 | 文教育学部



コースの概要

グローバル文化学主プログラムは、人文科学科、言語文化学科、人間社会学科のいずれの学科の学生もこれを選択することができ、この主プログラムを履修する学生はグローバル文化学環に所属することになります（学籍は入学時の学科のままです）。グローバル文化学学際プログラム（20単位）は、第一のプログラムとして他の主プログラムを選択した学生が、第二あるいは第三のプログラムとして履修するためのものです。主プログラムでは、実習と卒業研究が必修になっていますが、学際プログラムではこれらは必修科目ではありません。



（出典：グローバル文化学環ウェブサイトより抜粋）

http://www.li.ocha.ac.jp/global/Summary_major.html

(2) グローバル人材育成推進事業

平成 24 年度に、日本学術振興会の事業である「グローバル人材育成推進事業」に採択され、その対応組織としてグローバル人材育成推進センターを設置し、本学部言語文化学科の教員を中心とする教育体制を整備した（資料 1－23）。また、英語・日本語によるサマープログラムでは本学部の人文科学領域、社会科学領域の教員も授業を担当している（資料 1－24）。

【資料1-23】グローバル人材育成事業への参加（1）



女性の力を、もっと世界に。

グローバル人材育成推進事業
お茶の水女子大学は、語学力・社会性・IT活用能力などさまざまな面での「グローバル力」の強化を通じて、国際的に活躍する女性リーダーの育成に取り組んでいます。このサイトでは、その取り組みの具体的な内容や成果についてご案内いたします。

[詳細 >](#)

グローバル人材育成推進事業とは

【構想の目的】

本学学生の語学力、コミュニケーション能力、異文化理解力の強化を図り、さらに

1. 研修留学の機会を拡大し、グローバルに活躍できる人材を育成するとともに、優れた留学生を受け入れて、教育の国際化を促進する。
2. 短期研修プログラムによる学生の海外派遣と留学生の受入を促進する。
3. 海外の交流協定校と教職員の相互研修システムを構築し、国際的な能力を強化する。

【育成する人材像】

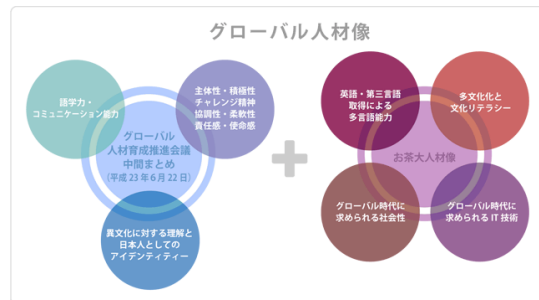
グローバル人材の3要素に加え、4つの能力を持つ人材像を育成する。

<3要素>:

- I. 語学力・コミュニケーション能力
- II. 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- III. 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

<4つの能力>:

- (1) 英語・第三言語習得による多言語能力
- (2) 多文化化と文化リテラシー
- (3) グローバル時代に求められる社会性
- (4) グローバル時代に求められるIT技術



【スタッフ】

・センター長	小川 温子	理事 国際・研究担当
	高崎 みどり	理事 教育担当
・副センター長	佐々木 泰子	国際担当評議員（文教育学部言語文化学科）
	千葉 和義	教育企画室長（理学部）
・センター員		
清水 徹郎	外国語教育センター長（文教育学部言語文化学科）	
戸谷 陽子	グローバル教育センター長（文教育学部言語文化学科）	
塚田 和美	リーダーシップ養成教育研究センター長（理学部）	
菅原 ますみ	文教育学部長	
吉田 裕亮	理学部長	
藤田 宗和	生活科学部長	
最上 善広	大学院人間文化創成科学研究科長	

【資料 1－24】 グローバル人材育成事業への参加 (2)

○英語によるサマープログラム 2015 年度	
<p>2015 OCHANOMIZU UNIVERSITY SUMMER PROGRAM IN ENGLISH</p> <p>Theme I: Contemporary Perspectives on Social Policy, Education, Family and Development</p> <p>テーマ I： 現代日本の社会政策、教育、家族、発達に関するパースペクティブ</p> <p>Teaching staff: Yuko NONOYAMA-TARUMI (Adjunct Researcher, Institute for Advanced Study, Waseda University)</p> <p>Marcelo DE ALCANTARA (Associate Professor, Department of Social Sciences and Family Studies, Ochanomizu Univ.)</p> <p>Satoko MATSUMOTO (Research Collaborator, Ochanomizu Research Center for Human Development and Education; Adjunct Faculty, Department of Psychology, Ochanomizu Univ.)</p> <p>Harumi KITABAYASHI (Director, Global Collaboration Center, Ochanomizu Univ.)</p> <p>Mika OMORI (Professor, Department of Psychology, Ochanomizu Univ.)</p> <p>[Outline]</p> <p>This course, taught by an interdisciplinary team of five professors, will present various perspectives on education, family law, child development, and health issues. Each session consists of lectures and discussions. Students are expected to actively participate in class discussions.</p> <p>本授業では、5名の学際的な教員が現代日本の社会政策、教育、家族、子どもの発達に関する様々なパースペクティブをプレゼンする。各セッションは講義とディスカッションから構成されている。学生の活発なディスカッションへの参加を期待する。</p>	

(http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/others/SummerProgramInEnglish_2015_Brochure.pdf)

8. 教員の教育力向上のための体制

(1) 学部内 FD

文教育学部では、各コースからの委員から成る FD 委員会を設け、学部教育組織として教員の教育力向上や授業の改善に努めている (資料 1－5)。

9. 教育プログラムの質保証の体制

(1) カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

教育プログラムの質保証に関しては、文教育学部に教務関係事項検討委員会が設置されている（前掲資料1－5）。この委員会が主体となって、第2期中期計画（I-1-(1)-6）（前掲資料1－9）に則り、平成23年度末までに、学部・学科・コースごとの、アドミッション・ポリシー（前掲資料1－17）、カリキュラム・ポリシー（資料1－25）、ディプロマ・ポリシー（資料1－26）の3ポリシーが整備され、現在、ウェブサイト（「教育情報の公開」：<http://www.ocha.ac.jp/education/index.html#AC267>）で公開されている。

【資料1－25】文教育学部のカリキュラム・ポリシー

II 学部の教育課程編成・実施方針

文教育学部

1. 人間の文化と社会への関心を核とし、人文・社会科学系の学問を中心とした学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力の養成を目指す。
2. 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術表現行動学にかかわる多彩な専門教育プログラムと専門科目を開設し、講義・演習・実習などの多様な形態の授業を通して、学修者のニーズに応じて、人間の文化と社会の複雑な事象を追究・分析するために必要な知識や技能を習得させることを目指す。
3. 学科により、高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許取得ならびに、社会調査士、学芸員、社会教育主事資格取得のための科目を設置する。

(1) 人文科学科

人間の文化について、深く幅広い知識を習得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけ出し、必要な資料・データを収集・整理した上で、独自の論理を築き上げる総合的な力を身につけさせることを目指す。

人文科学科が開設する専門教育プログラムの編成方針は以下のとおりである。

- ① 哲学・倫理学・美術史プログラムは、人類が求めてきた真・善・美という価値に関わる事象について、専門的かつ体系的知識を習得するとともに、それらの価値の問い直しをはかることを通じて、人間について深くまた多角的に分析・考察する力を養成することを目指す。
- ② 比較歴史学プログラムは、日本、アジア、西洋という地域軸と古代から現代までの時間軸を手がかりに、相互の比較や連関・交流に着目することで社会全体を俯瞰する視角を身に付け、社会の全体像を総合的に把握できるような柔軟な思考力を養うことを目指す。
- ③ 地理環境学プログラムは、研究では文系と理系の知をローカルな地域・場所で考え、結びつける総合科学を目指し、実践では現実的な諸問題の解決のために、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスを養成することを目指す。

(2) 言語文化学科

「ことば」やそれに基づき生成される文学・芸術について考究するために、日本語・日本文学、中国語圏言語文化学、英語圏言語文化学、仏語圏言語文化学の専門教育プログラムを設置し、各言語の習得及び体系的な理解、また、文学・芸術に対する基本的な研究方法の習得を目指す。

言語文化学科が開設する専門教育プログラムの編成方針は以下のとおりである。

- ① 日本語・日本文学プログラムは、上代から現代に至る日本文学に関する基礎知識の習得、文学作品に対する研究方法の習得、日本語の体系と歴史についての基礎知識の習得、日本語に対する研究方法の習得を目的とする。
- ② 中国語圏言語文化プログラムは、確実な中国語運用能力の養成をはかり、その基礎の上に立って中国の現代文化および古典文化に関する基礎知識と研究方法を習得し、中国に対する総合的な理解を深めることを目的とする。
- ③ 英語圏言語文化プログラムは、英語と英語圏の文学・文化に関する基礎知識と、さらに理解を深めるための方法論を習得し、また、柔軟な英語運用能力を習得するとともに深い思想を英語で正確に理解して、発信できる能力を身につけさせることを目的とする。
- ④ 仏語圏言語文化プログラムは、フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身につけ、仏語圏の言語文化や社会事情に精通し、さらに他の言語圏の文化との比較考察を行うことを目的とする。

また、上記の専門教育プログラムに加えて、日本語教育学の補助的なプログラムを設置し、日本語非母語話者などに対する日本語教育・習得に関する基本的知識や実践的スキルを習得できるようにする。

(資料 1 - 25 続き)

(3) 人間社会科学科

人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たせるように、社会学、教育学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得させることを目指す。

人間社会科学科が開設する専門教育プログラムの編成方針は以下のとおりである。

- ① 社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察し、社会意識・ジェンダー・社会政策等の主要な社会学的領域に文化人類学や教育社会学等の隣接領域科目も加えながら、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを目指す。
- ② 教育学プログラムは、教育思想、教育史、教育社会学、文化人類学、教育方法学、教育開発論、生涯学習論等の教育学諸領域の知見と方法によって、人間と教育のあり方についての豊かで創造的な思考力を獲得させることを目指す。
- ③ 総合人間発達科学主プログラムは、「教育」という営みを理論と実践の両面から多角的に考察し、教育から人間や社会を広く根本的に考察して得られる知見を、小学校という教育現場で実践的に生かすことができる力量を育てることを目指す。
- ④ 心理学プログラムは、心理学に関する基礎的な知識と、心理学研究に必要なテクニックを学ぶことを通して、人間に関わる事象への深い理解と科学的な見方、論理的で分析的な思考力、幅広い心理学的研究力や実践力を身につけさせることを目指す。

(4) 芸術・表現行動学科

講義、演習、実習など多様な形態の授業を通じて、音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代的問題を発見及び解決するための実践的能力の養成を目指す。

芸術・表現行動学科が開設する専門教育カリキュラムの編成方針は以下のとおりである。

- ① 舞踊教育学コースの専門教育カリキュラムは、講義、演習、実習など多様な形態の授業を通じて、舞踊やスポーツなどの表現行動を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代的問題を発見及び解決するための実践的能力の養成を目指す。
- ② 音楽表現コースの専門教育カリキュラムは、「音楽から世界を理解する」ことを目標に、理論と実践の高い次元での融合を目指す。学術面においては西洋近代のみならず幅広い時代・地域の音楽史・音楽理論の習得や学際的視野に立った問題提起力の養成、実技においては学修者各々のニーズに合わせた基礎から高度に専門的な水準に至る声楽・ピアノ演奏技術の習得、並びに学問領域で習得した内容を演奏に反映しうる能力の養成を目指す。

(5) グローバル文化学環

グローバル文化学環が開設する専門教育プログラムであるグローバル文化学プログラムの編成方針は以下のとおりである。

- ① グローバル化の進む現代世界において、多様な文化を越えた協働を実現するための専門的な教育を実施する。
- ② 地域研究・地域文化、多文化交流・多文化共生、国際関係・国際協力の3つの領域とこれを横断する問題について、参加と実践を通じて、専門的知識、スキル、倫理を養成する。

(出典：平成 27 年度履修ガイド pp. 6-8 より抜粋)

Ⅱ 学部の学位授与の方針

文教育学部

1. 所定の年限在学し、コア科目の中から所定の単位数を修得し、さらに、本学部の教育理念と教育目標に基づいて開設された専門教育プログラムと専門科目から所定の単位数を修得した者に、学士の学位を授与する。
2. 修了に際しては、教員の指導のもとに卒業論文ないしは卒業研究のテーマを決定し、専攻する学問分野の手法に則り、卒業論文ないしは卒業研究を完成することが求められる。
3. 人文・社会科学系の学問を中心とした学術研究のための確かな基礎、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力が着実に習得されていることが修了の要件である。

(1) 人文科学科

哲学、倫理学、美術史学、歴史学、地理学を研究するのに必要な基礎知識と専門知識を体系的に習得した上で、人間の文化に対する深い洞察力を身につけていることが修了の要件である。

(2) 言語文化学科

日本語・日本文学、中国語圏言語文化学、英語圏言語文化学、仏語圏言語文化学のいずれかにつき、当該言語を習得、また体系的に理解し、当該言語による文学・芸術に対する基本的な研究方法を習得していることが修了の要件である。

(3) 人間社会科学科

社会学、教育学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得していることが修了の要件である。

(4) 芸術・表現行動学科

音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代の問題を発見及び解決するための実践的能力が着実に習得されていることが修了の要件である。

(5) グローバル文化学環

文化を越えた協働を実現するためのグローバル文化学についての所定の単位数を取得し、グローバル化の進む社会で求められる知識、スキル、倫理を習得することが修了の要件である。

(出典：平成27年度履修ガイドp.11より抜粋)

(2) カラーコードナンバリング、GPA制度、学修状況チェックシステム (alagin)

全学的な取組として、「カラーコードナンバリング」及び改良型の「GPA制度」を開発した。カラーコードナンバリングでは、学士課程の全科目について、カリキュラム・ポリシーに則り、科目ごとに色分けし、学習経験に応じた履修の順序性を設定し色で表現することで到達目標を明確に可視化した(資料1-27)。文教育学部では、初級(サクラ色)・中級(ライム色)・上級(カーマイン色)科目が3割前後ずつ開講されており、難易度のバランスに配慮した科目構成となっている(資料1-27)。また、スマートフォン等を利用して時間割、履修状況、成績等の学修状況をチェックできるシステム(学修情報システム、alagin: Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system、資料1-28)を開発し、学生が自律的に学びを管理することを可能にした。

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

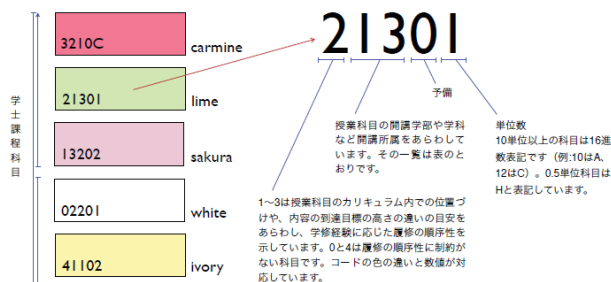
【資料1-27】カリキュラム・ポリシーの可視化：カラーコードナンバリング
平成27年度文教育学部専攻科目のカラーコード別科目数とその比率

カラーコード	科目数	比率
サクラ（初級科目）	181	27.9%
ライム（中級科目）	247	38.0%
カーマイン（上級科目）	218	33.5%
アイボリー（資格関連科目）	4	0.6%
総計	650	100%

○カラーコードナンバリング

CCN

Color Code Numbering



表

ナンバリング2, 3桁	学士課程 専攻学部・学科等
11	文教育学部・人文科学科
12	文教育学部・言語文化学科
13	文教育学部・人間社会学科
14	文教育学部・芸術・表現行動学科
15	文教育学部・グローバル文化学環
21	理学部・数学科
22	理学部・物理学科
23	理学部・化学科
24	理学部・生物学科
25	理学部・情報科学科
31	生活科学部・食物栄養学科
32	生活科学部・人間・環境科学科
33	生活科学部・人間生活学科
40	その他

0 ホワイト

学修順序性がとくにないコア科目、既修得単位や単位互換などによる認定科目。

1 サクラ

カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準が比較的控えめに設定されている科目。

2 ライム

カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・サクラの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性はないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準がやや高く設定されている科目。

3 カーマイン

一般的な学修の順序からみてカラーコード・ライムの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、サクラやライムの特定の科目との学修順序が明確になっていてそれらの単位を取得するか、その成績について一定のグレードポイントを越えた場合に履修が認められる科目。また、他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学習成果の目標の水準が高く設定されている科目。

4 アイボリー

教職等の資格関連科目。

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修◎選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
日本文学概説	2	I～II	11202	○	以下の科目から8単位選択		
日本語学通論	2	I～II	11202	○			
英語圏言語文化入門(1)	1	I～II	11201	○			
英語圏言語文化入門(2)	1	I～II	11201	○			
中国現代文学史	2	I～II	11202	○			
中国古典文学史(宋～清)	2	I～II	11202	○			
ヨーロッパ言語文化論	2	I～II	11202	○			
言語学入門Ⅰ(1)	1	I～II	11201	○			
言語学入門Ⅰ(2)	1	I～II	11201	○			
言語学入門Ⅱ	2	I～II	11202	○			
欧州文化論Ⅰ	2	II～IV	21202	○	以下の科目から26単位選択	○	○の科目から20単位選択
欧州文化論Ⅱ	2	II～IV	21202	○		○	
西欧社会文化論Ⅰ	2	I～IV	11202	○			
西欧社会文化論Ⅱ	2	I～IV	11202	○			
西欧社会文化論Ⅲ	2	II～IV	21202	○		○	
西欧社会文化論Ⅳ	2	II～IV	21202	○		○	
独文学演習Ⅰ	2	III～IV	31202	○		○	
独文学演習Ⅱ	2	III～IV	31202	○		○	
独文学特殊講義Ⅰ	2	III～IV	31202	○		○	
独文学特殊講義Ⅱ	2	III～IV	31202	○		○	

(出典：学務課及び平成27年度履修ガイド p.32 及び p.86 より抜粋)

【資料1-28】学修情報システム

:alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system)



教育開発センター
Center for Research and
Development of Education



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学修状況チェックシステム alagin

MENU

alagin (academic learning and achievement guiding information network system) は、本学で開発した学生にとっての学修状況チェックシステム（時間割表示システム・履修状況、成績等確認システム）です。

ここではalaginが現在、提供している情報や効能などについて紹介します。alaginは常に関係をつづけており、この先もあらたな学修情報を提供していきます。

1 alaginへのアクセス方法



学生はスマートフォンを含む任意の端末から一般的なインターネットブラウザを用いて、**alagin初期画面**にアクセスし、そこから本学の統合認証画面を経て「時間割・学修ナビ」または「学修状況のチェック」に入ります。また、授業アンケートがおこなえる期間には、そのボタンも表示されます。授業アンケート期間は原則として、前・後期学期の最終授業の頃からはじまります。原則として授業アンケートに回答するまでは「学修状況のチェック」をクリックしてもチェックができず、授業アンケートへの回答が必要となる仕組みになっています。

alagin初期画面へは、ポータルサイトや本サイトのトップページにあるリンクボタン、または下記ボタンからでも入れます。

[alaginトップページへ](#)

2 パーソナルな時間割(わたしの時間割表示システム)

認証画面を通過すると各学生が前(1・2)学期または後(3・4)学期に履修登録している時間割が表示されます。これは実際の履修登録データをもとに生成されます。

これにより、これまで起きがらであった登録ミスによる履修(登録したはずの授業科目が登録されていなかった、履修取消ししたはずの科目が取消されていなかったなどの事態)が解消されます。

授業・学習支援システムmoodleやploneを用いている授業については、当該時間割にそれらのマークが付記される場合もあり、そこから直接moodleやploneにリンクされます。

● ● ● ● ● ● ●

(出典：大学ウェブサイト
<http://crdeg5.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/alagin.html>)

- 1-30 -

(3) 自己点検・自己評価

文教育学部には、自己点検・評価を実施する組織として文教育学部自己点検・評価委員会が設置されており、平成24年度には、この委員会が主体となって「国立大学法人お茶の水女子大学 全学・部局別評価要項」の評価項目に基づき、教育プログラムを含む自己評価を実施し、外部評価を受けた。外部評価委員からは、「改善を要する点」が指摘されたが、それに対し、適切に対応している（資料1－29）。

【資料1－29】平成24年度自己点検・評価及び外部評価の「改善を要する点」対応説明書

○平成24年度 自己点検・評価及び外部評価の「改善を要する点」対応説明書（抜粋）	
指摘事項	対応・改善策
【改善を要する点】 ①専任教員数が減少しており、教育支援者数も十分とはいえない。（P86）	【文教育学部】 ・欠員が生じた際の後任人事にあたり、各コース・環における専任教員と学生数との比率に大きな差が生じないように、大学執行部に要望している。 ・予算の範囲内で、できる限り教育支援者（AA）の確保に努める。 【総務機構】 ・後任人事については、現在の教育組織をもとにしてのみ考えるのではなく、教育組織を大ぐくりにして、その上でどのような分野の人事を行うかを決めていく。
【改善を要する点】 ②学生の平均取得単位数は、資格取得科目履修を考慮しても多く、単位実質化の観点からは適切な指導などによる改善が必要である。（P6、86）	【文教育学部】 ・CAP 制導入に向けての検討を開始する。 【教育機構（教務企画室）】 ・本学では、学生の学修パフォーマンスを厳格に反映できる f-GPA を採用し、その数値を褒賞や学修指導に反映させている。今後は、GPA の数値が低くなる場合のディメリットを学生に周知させることにより、履修単位数が自主的に制限される方策を講じる。あわせて、キャリア支援活動と連携しながら将来の職業ビジョンを明確化させることにより、自分に本当に必要な資格だけを履修するように誘導する。
【改善を要する点】 ③図書館などの自主的学習施設における開館時間、蔵書・機器設備に改善の余地がある。（P86）	【文教育学部】 ・各コースの図書室の蔵書をこれまで以上に附属図書館に移すように努める。 ・コースの蔵書を減らすことで学生用パソコンを増設することが可能となる。 【教育機構（教務企画室）】 ・まずは、学生のニーズを調査することにより、学生が欲している自主的学習施設の開館時間、蔵書、機器設備を精査する。その結果を踏まえて、開館時間の延長のための非常勤職員の雇用や業務委託、設備費等の予算を順次計上する。

（出典：大学ウェブサイト

http://www.ocha.ac.jp/introduction/hyouka/pdf/050203_24bun_kaizensetsumei.pdf）

(4) 受験生への情報発信

毎年7月に学部オープンキャンパスを開催し、大学案内の配布や学部・学科・コースの説明、模擬授業の開催も含めて、外部への情報発信に努めている（資料1-30）。

【資料1-30】学部オープンキャンパスタイムテーブル（平成27年度）

○学部オープンキャンパス（平成27年度）

オープンキャンパス 2015 タイムテーブル

7/20 月

●文教育学部

文教育学部 Aグループ 【人 文 科 学 科】 ……比較歴史学コース、地理学コース 【言 語 文 化 学 科】 ……中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース 【人 間 社 会 科 学 科】 ……教育科学コース、心理学コース 【芸術・表現行動学科】 ……音楽表現コース	
9:00～ 9:15 9:15～ 9:35 9:35～ 9:50	(会場：大学講堂) 学長挨拶 入試制度、カリキュラム、奨学金、学生寮などについての説明 文教育学部Aグループ 学部説明会 (※終了後、各コース説明会場へ移動)
10:00～12:00	文教育学部Aグループ コース説明会 【比較歴史学コース】 →パンフレット [P.17] をご覧ください 【地理学コース】 →パンフレット [P.18] をご覧ください 【中国語圏言語文化コース】 →パンフレット [P.20] をご覧ください 【英語圏言語文化コース】 →パンフレット [P.21] をご覧ください 【教育科学コース】 →パンフレット [P.24] をご覧ください 【心理学コース】 →パンフレット [P.25] をご覧ください 【音楽表現コース】 →パンフレット [P.27] をご覧ください
文教育学部 Bグループ 【人 文 科 学 科】 ……哲学・倫理学・美術史コース 【言 語 文 化 学 科】 ……日本語・日本文学コース、仏語圏言語文化コース 【人 間 社 会 科 学 科】 ……社会学コース 【芸術・表現行動学科】 ……舞踊教育学コース 【グローバル文化学環】	
13:00～13:15 13:15～13:35 13:35～13:50	(会場：大学講堂) 学長挨拶 入試制度、カリキュラム、奨学金、学生寮などについての説明 文教育学部Bグループ 学部説明会 (※終了後、各コース説明会場へ移動)
14:00～16:00	文教育学部Bグループ コース説明会 【哲学・倫理学・美術史コース】 →パンフレット [P.16] をご覧ください 【日本語・日本文学コース】 →パンフレット [P.19] をご覧ください 【仏語圏言語文化コース】 →パンフレット [P.22] をご覧ください 【社会学コース】 →パンフレット [P.23] をご覧ください 【舞踊教育学コース】 →パンフレット [P.26] をご覧ください 【グローバル文化学環】 →パンフレット [P.28] をご覧ください

(出典：企画戦略課（広報担当）資料)

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

- ①専任教員一人当たりの学生実員が少なく、学生の学修ニーズにきめ細かに対応している。女性教員の比率は半数に達し、女性リーダーの育成を目指す本学の方針と合致しているとともに、この比率は国立大学法人の中でも常にトップを維持し、男女共同参画推進に貢献している。
- ②全学的な措置である複数プログラム選択履修制度を導入した。中でも、文教育学部は、主プログラム数 12、強化プログラム数 10、副プログラム数 14、学際プログラム数 1 など、最も多くのプログラムを開設しており、学生の領域横断的で柔軟な学びを実現している。
- ③グローバル文化学環を組織し、全学のグローバル人材育成推進事業により国際的な人材の育成を行っている。
- ④アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの 3 ポリシーを整備し、GPA制度と全科目に関するカラーコードナンバリングの導入によって履修の到達目標や学修の成果を可視化した。また、学修情報システム (alagin: Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) を開発し、学生が自律的に学びを管理することを可能にしている。
- ⑤平成 24 年度に自己評価を実施し、外部評価を受けた。外部評価委員からの「改善を要する点」に対して、適切に対応している。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 教育課程の編成

(1) カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー

教育課程はカリキュラム・ポリシー（前掲資料1-25）に沿って編成されている。卒業については、各学科・学環の所定単位（資料2-1）を取得することに加え、卒業論文ないしは卒業研究を完成させることを学士の学位授与の要件として定めたディプロマ・ポリシー（前掲資料1-26）に沿って認定をおこなっている。

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

【資料2-1】学科・学環ごとの履修規程

(出典:平成27年度履修ガイドpp.216-218より抜粋)

別表第1-1(第6条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数	
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)				コ ア 科 目	専 攻 科 目	学 部 共 通 科 目	他 学 科 の 専 攻 科 目	他 学 部 の 科 目	全 学 共 通 科 目	教 職 共 通 科 目	教 職 に 関 する 科 目		必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム										
人 文 科 学 科		18			20	2	44		20						20				124
言 語 文 化 学 科		18			20	2	44		20						20				124
人 間 社 会 科 学 科		18			12	2	48		20						24				124
グ ロー バ ル 文 化 学 環		18			20	2	44		20						20				124

- 備考 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることができることはできない。
- 11 グローバル文化学環履修者は、所属学科によらず、グローバル文化学環の欄に記載される科目・単位を履修すること。また、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと所属学科の副プログラムを履修すること。

別表第1-2(第6条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位					自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数	
		コア科目					専門教育科目(必修プログラム)	コ ア 科 目	専 攻 科 目	学 部 共 通 科 目	他 学 科 の 専 攻 科 目	他 学 部 の 科 目	全 学 共 通 科 目	教 職 共 通 科 目	教 職 に 関 する 科 目		必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康											
人間社会科学科総合人間発達科学プログラム		18		12	2	103							0				135

- 備考 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 5 教職に関する科目(教職概論、教職実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 6 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることができることはできない。

別表第1-3(第6条関係)

学科別 科目区分	必修及び選択必修の科目・単位					自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数		
	コア科目					専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目		教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
	文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康												
芸術・表現行動学科	18			12	2	64							28				124

- 備考 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 5 教職に関する科目(教職概論、教職実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 6 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることができることはできない。

(2) 文理融合リベラルアーツと複数プログラム選択履修制度

文教育学部履修規程第3条(資料2-2)に即して科目を設置している。教育目的並びに授与学位、各学科・学環の専門性に応じて、必修及び選択必修科目と自由選択科目とに所定単位が配分されている(前掲資料2-1)。1年次は文理融合リベラルアーツや外国語をはじめとするコア科目と学科共通科目の履修を中心とし、2年次に主プログラムを選択・決定、3年次から第2プログラムとして強化プログラム、又は副プログラム・学際プログラムを選択・決定して履修する(資料2-3)。

【資料2-2】文教育学部の履修規程

○国立大学法人お茶の水女子大学文教育学部履修規程

(授業科目の区分)

- 第3条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、専攻科目、関連科目、学部共通科目、全学共通科目、教職共通科目、教職に関する科目及び外国人留学生特別科目とする。
- 2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語及び朝鮮語)及びスポーツ健康とする。
- 3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムを構成する科目とする。
- 4 専攻科目は、各学科・環において設置する科目とする。
- 5 関連科目は、芸術・表現行動学科に関連の深い科目であって、必修又は選択として指定する。
- 6 各学科・環で共通して履修できる科目として、学部共通科目を置く。
- 7 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。
- 8 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める教職に関する科目を置く。また、教科に関する科目として教職共通科目を置く。
- 9 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

(出典：平成27年度履修ガイド p.215 より抜粋)

【資料2-3】プログラムの選択履修に関する学生に対するガイド

皆さんは、自分の目標に合わせてプログラムを設定していくことになりますが、一つ目、二つ目のプログラム(第1、第2プログラム)の設定は、自分の所属する学部、学科の提供するものから選択しなければなりません。また、三つ目のプログラム(第3プログラム)は、それぞれ他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択可能ですので、「Ⅱ 授業科目一覧」を見て確認してください。

また、プログラムの種類・内容及び単位数の関係については、次の表を参照してください。

- | | | |
|---------|------|--|
| 第1プログラム | 必修 | 主プログラム(自分の所属する学科から選択) |
| 第2プログラム | 選択必修 | 強化プログラム又は副プログラム又は学際プログラム(自分の所属する学部内から選択) |
| 第3プログラム | 自由選択 | 副プログラム又は学際プログラム |



(出典：平成27年度履修ガイド p.29 より抜粋)

2. 社会的ニーズに対応した教育課程

(1) 現代的課題に即した授業科目の設置

グローバル COE プログラム（「格差センシティブな人間発達科学の創成」）による先進的な研究成果を学部授業科目「格差社会の人間発達科学論 A・B」として開講し、子どもの貧困や教育格差に関する国際比較などに関する学際的な視点からのアプローチについて学ぶ機会を提供している（資料 2－4）。グローバル文化学環の「地域研究実習Ⅱ」では、平成 23 年秋以来、東日本大震災で多大な被害を受けた岩手県陸前高田市の米崎小学校の仮設住宅を継続的に訪ねて住民との交流を行い、市役所や現地の住民、活動団体からも聞き取りを行っている。授業は平成 27 年度で 5 年度目を迎え、陸前高田を訪ねた学生は計 117 名に及ぶ。毎年、報告書を刊行し成果を地域に還元している（資料 2－5）。

【資料 2－4】現代的課題に即した科目例：「格差社会の人間発達科学論」の成果報告書
(抜粋)

平成 25 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	継続型
事業名称	「格差センシティブな人間発達科学の創成」に関する教育事業
取組代表者名 担当者名	* 事業担当者は全員記入してください。 菅原ますみ（取組代表者）、浜野隆、大森美香、坂元章、榊原洋一、平岡公一 三輪建二、米田俊彦、坂本佳鶴恵、大森正博、董倫子

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

1. 授業実施

グローバルCOE 期間中の教育と研究の成果を学生に還元するための授業を通年でおこなった。“社会的格差と人間発達”をテーマとし、前期科目として“子どもの発達にみる格差：地域・学校・家庭”（全 15 回）、後期科目として“ジェンダーをめぐる格差の形成と構造”（全 15 回）を学部学生を対象として実施し、1 年生から 4 年生まで前期 67 名・後期 33 名の履修者を得た。授業参加者は授業テーマに関して大きな関心を示し、非常に積極的に授業に取り組んでいる。人間の発達過程における社会的格差の問題に対してセンシティブな視点を有する学生の育成に資することができたものと思われる。

【開講時間】水曜日 7～8 限（前期、後期）

【教室】共通講義棟 2 館 101 室（前期）、共通講義棟 2 号館 102 室（後期）

【履修実績】

●前期『格差社会の人間発達科学論 A：子どもの発達にみる格差：地域・学校・家庭』

<履修者数>

①格差社会の人間発達科学論 A：25 名

②教育学特殊講義Ⅳ：19 名

③社会意識論：19 名

④社会心理学特殊講義Ⅳ：4 名

計 67 名（1 年 19 名、2 年 26 名、3 年 11 名、4 年 11 名）

<講義内容>

①ガイダンス

②青少年有害情報対策から読み解く「子どもとメディア」

③開発途上国の子どもの養育環境と QOL

④モバイル社会における“ネットいじめ”の現状と教育的介入の課題

⑤養育環境の心理学的検討：環境心理学の視点から

⑥6. GCOE 学校調査に見る中高生の格差（Ⅰ）：統計的に差を捉えるとはどういうことか

⑦7. GCOE 学校調査に見る中高生の格差（Ⅱ）：個人差と学校間差を分離する

⑧8. GCOE 学校調査に見る中高生の格差（Ⅲ）：QOL の時系列的な変化の差を捉える

(出典：http://www.ocha.ac.jp/program/project/ocha_gp/ocha_gp3_d/fil/h25seika_7.pdf)

2014年度陸前高田実習（「地域研究実習Ⅱ」・「地域調査方法論演習」）報告会
主催：お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環

震災の記憶を語り継ぎ、 今、陸前高田から考える

本プログラムは、第4回国際学生フォーラム（3月7日～16日、グローバル教育センター主催）との合同で行われ、新たにスミス大学、マウントホリヨーク大学が加わり、海外7か国9大学から学生を招いて実施されます。

また、3月12日14時から、13日10時より同会場にて海外大学生による第4回国際学生フォーラムが行われますので、合わせてご参加ください。

日時：2015年3月10日（火）

午前10時～午後5時30分

場所：お茶の水女子大学

共通講義棟2号館102室



《プログラム》

午前：実習参加学生からの報告

10:00～ 開会

10:10～ 実習参加学生の報告

11:50～12:10 質疑応答

午後：ゲストスピーカーによる講演と討論

13:30～ 開会

13:40～ 「お茶の水女子大学の陸前高田実習」

14:00～16:30

實吉（みよし）義正さん（陸前高田観光物産協会副会長）

佐藤一男さん（陸前高田市米崎小学校仮設住宅自治会長）

三井俊介さん（特定非営利活動法人 SET代表理事）

16:40～17:30 全体討論

◇ゲスト紹介◇

實吉さんは、震災の記憶を伝える力強い語り部として全国を飛び回っています。

佐藤さんは、津波の最高到達点に桜を植える桜ライン311の副代表でもあり、SNSで日々のメッセージを発信しています。

三井さんは、まだ20代の若さですが、震災を機に陸前高田に住み着き、地元の人と協働しながら、新たな豊かさを生み出すことをめざして活動しています。



【参加申し込み・問い合わせ】 参加自由（午後の部のみの参加も歓迎します）

※なお学外から参加される方は、氏名・所属・連絡先を明記のうえ下記に申込みをお願いします。 グローバル文化学環 global@cc.ocha.ac.jp

（出典：<http://www.li.ocha.ac.jp/global/pdf/150310ShinsaiSeminar.pdf>）

3. 国際通用性のある教育課程

(1) グローバル人材育成を目指した外国語教育

文教育学部言語文化学科の教員が中心となって学生のコミュニケーション能力の向上を目指した ACT (Advanced Communication Training) プログラム (資料 2-6) を開講し、また英語のみを使用する交流型の教育プログラムであるイングリッシュ・キャンプ (平成 27 年 7 月 10 日～12 日の 2 泊 3 日、国立女性教育会館で実施、資料 2-7) を開催するなど、学生の実践的な英語力の向上を目指した外国語教育プログラムの提供に貢献している。

また、四学期制の導入に伴い、平成 25 年度から全学的に外国語科目の必修単位数を増加させた。

【資料 2-6】 グローバル人材育成事業に関連した授業科目

: ACT (Advanced Communication Training)

ACT プログラム

日本社会の急速なグローバル化に伴い、就職や研究活動でも英語を話したり書いたりする能力が強く求められるようになりました。ACT プログラムは学生をグローバル社会で活躍する人材に育成するため、実践的な英語教育を提供するものです。在学中に留学をめざす人、国際機関や外資系企業への就職をめざす人などに欠かせないプレゼンテーション、ライティング、ビジネス英語、資格英語など、グローバルの現場で役立つ科目を用意しています。

下表の履修科目から合計 12 単位を修得することにより、プログラムの修了証を取得でき、成績証明書に Advanced Communication Training Program の修了が明記されます。

Advanced Communication Training (ACT) Program

As Japanese society rapidly globalizes, oral and written English skills have become increasingly necessary for students in their job hunting and research activities. The ACT Program is designed to provide practical English education to help students become professionals who can flourish in today's global society. The program offers courses that will be useful in the global workplace, including presentations, writing, business English, English for certification, etc., which are essential for students who are planning on studying abroad while in school, as well as for those trying to land a job at international organizations or foreign-owned companies. By earning a total of 12 credits from the courses listed in the table below, students will receive diplomas, while their transcripts will also clearly show that they have successfully completed the Advanced Communication Training Program.

	学 部	大 学 院
CB	Advanced Communication Training I (ESA) ●	上級英語コミュニケーション演習(ESA) I *
	Advanced Communication Training II (ESA)	上級英語コミュニケーション演習(ESA) II *
	Advanced Communication Training III	上級英語コミュニケーション演習 III *
	Advanced Communication Training IV	上級英語コミュニケーション演習 IV *
	Advanced Communication Training V	上級英語コミュニケーション演習 V *
	Advanced Communication Training VI ●	上級英語コミュニケーション演習 VI *
	総合コース(Summer Program in English, Theme I) *	Special Lecture in Humanities and Sciences I *
SB	上級英語 I (R/W)	上級英語演習 I (R/W) *
	上級英語 II (R/W)	上級英語演習 II (R/W) *
	上級英語 III (L/S)	上級英語演習 III (L/S) *
	上級英語 IV (L/S)	上級英語演習 IV (L/S) *
PT	Academic Writing A (文系) / B (理系)	英語アカデミックライティング A (文系) / B (理系)
	Academic Presentation A (文系) / B (理系)	英語アカデミックプレゼンテーション A (文系) / B (理系)
	TOEFL 対策ゼミ R/L *	TOEFL 対策演習 R/L *
	TOEFL 対策ゼミ S/W *	TOEFL 対策演習 S/W *
	IELTS 対策ゼミ R/L *	IELTS 対策演習 R/L *
	IELTS 対策ゼミ S/W *	IELTS 対策演習 S/W *
	時事英語 I	時事英語演習 I *
	時事英語 II	時事英語演習 II *
	ビジネス英語 I	ビジネス英語演習 I *
	ビジネス英語 II	ビジネス英語演習 II *
	英語プレゼンテーション I	英語プレゼンテーション演習 I *
	英語プレゼンテーション II	英語プレゼンテーション演習 II *

「Advanced Communication Training I、II」は留学などをめざす学生を対象に開講される科目。留学先での研究計画や研究報告を英語でまとめ、英語で発表します。

「Advanced Communication Training III～VI」は世界レベルの研究や国際機関・外資系企業への就職をめざす学生が対象。特定の研究テーマを決め、英語で学び、研究成果を英語で発表します。

ESA=English for Study Abroad.

CB=Contents-Based.

SB=Skill-Based.

PT=Practical Training

* 卒業または修了単位に含めることができない

(出典: グローバルな女性リーダーを目指す人のためのガイドブック p. 5 より抜粋)

http://www.ocha.ac.jp/plaza/press/ocgl_pamphlet_2015.pdf)

【資料 2－7】 グローバル人材育成事業に関連した交流型教育プログラム

: イングリッシュ・キャンプ (出典: 大学ウェブサイトより抜粋)

<http://www-c.cf.ocha.ac.jp/flec/wp-content/uploads/sites/2/2014/06/ea3180506816407baf43ff56b3aece93.pdf>

イングリッシュ・キャンプ English Camp

English Camp is held every year at the National Women's Education Center(NWEC) in Saitama. For three days, about twenty Ochadai students can immerse themselves in English without having to leave Japan. This is the perfect opportunity to gain English-speaking practice and to have fun at the same time.

Japanese and foreign students arrive at the camp on a Friday evening after they finish their classes at the university. The evening is spent chatting, snacking, and getting to know each other. Students play communicative games and engage in various discussions on Saturday morning, and after lunch everyone breaks into small

groups to prepare for the evening activities, which includes group performances in English. Saturday evening is spent relaxing and chatting in English until after midnight. English activities and discussions continue on Sunday until after lunch.

At the end of English Camp everyone is tired but happy. Students have not only made new friends who may be from different departments and faculties, they also have developed more confidence in themselves as English speakers.



English Camp is a very pleasant opportunity to practice communicating in English. The three-day camp is filled with various fun activities such as a theatrical performance in English. It is also a good chance for making new friends. (Saki Suemori)

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

(2) 学生の海外派遣

本学は平成 27 年 10 月現在、66 の海外の大学と交流協定を締結しているが、そのうち 38 校と 1 機関について文教育学部の教員が相談員を務めており（資料 2－8）、日常的に学生の海外派遣のコーディネートに関わっている。交換留学派遣学生の人数は第 2 期中期目標期間開始時（平成 22 年度）の 14 名から平成 27 年度の 30 名へと倍増し、平成 21 年度から 27 年度までの全学 190 名（大学院生を含む）の交換留学派遣学生のうち 68.4%（130 名）が文教育学部の学生である（資料 2－9）。

【資料 2－8】文教育学部の教員が相談員となっている大学間国際交流大学一覧

大学間国際交流協定校における文教育学部教員の貢献

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

協定大学	締結年月日	相談員	国・地域名
アジア (22校)			
インドネシア国立芸術大学デンパサール校	2014. 01. 10	中村美奈子 准教授	インドネシア
韓国芸術総合学校舞踊院	2011. 01. 17	福本まあや 助教	韓国
啓明大学校	2013. 07. 09	森山新 教授	韓国
建国大学校	2014. 03. 21	森山新 教授	韓国
高麗大学校	2015. 02. 24	森山新 教授	韓国
淑明女子大学校	2000. 02. 14	森山新 教授	韓国
同徳女子大学校	2005. 03. 30	森山新 教授	韓国
釜山大学校	2012. 03. 21	調整中	韓国
梨花女子大学校	2000. 02. 28	森山新 教授	韓国
アジア工科大学院大学	2004. 12. 29	熊谷圭知 教授	タイ
11 タマサート大学	2007. 06. 13	森山新 教授	タイ
チェンマイ大学	2010. 05. 27	熊谷圭知 教授	タイ
開南大学	2012. 05. 25	森山新 教授	台湾
国立政治大学	2001. 07. 25	浅田徹 教授	台湾
国立台北芸術大学	2002. 01. 29	永原恵三 教授	台湾
国立台湾大学	1999. 12. 17	森山新 教授	台湾
大連外国語大学	2006. 10. 02	森山新 教授	中国
北京外国語大学	2005. 10. 17	小風秀雅 教授	中国
北京大学歴史学系	2002. 01. 26	小風秀雅 教授	中国
復旦大学歴史学系	2010. 10. 12	小風秀雅 教授	中国
国立ハノイ教育大学	2008. 03. 03	浜野隆 教授	ベトナム
ハノイ大学	2013. 02. 18	森山新 教授	ベトナム
中 東 (1校)			
アンカラ大学	2007. 08. 08	三浦徹 教授	トルコ
アフリカ (1校)			
カイロ大学	2007. 03. 15	三浦徹 教授	エジプト
北 米 (5校)			
ヴァッサー大学	2006. 06. 01	戸谷陽子 教授	アメリカ
オルブライト大学	2015. 04. 27	戸谷陽子 教授	アメリカ
カリフォルニア大学サンディエゴ校	2014. 01. 02	森山新 教授	アメリカ
バーデュー大学	2004. 01. 26	戸谷陽子 教授	アメリカ
マギル大学	2015. 04. 29	戸谷陽子 教授	カナダ
オセアニア (3校)			
ニューサウスウェールズ大学	2011. 09. 30	森山新 教授	オーストラリア
モナシュ大学	1994. 12. 14	森山新 教授	オーストラリア
オタゴ大学	2003. 12. 19	調整中	ニュージーランド
ヨーロッパ (9校)			
オックスフォード大学クイーンズコレッジ	1994. 01. 18	森山新 教授	イギリス
マンチェスター大学	2009. 09. 15	森山新 教授	イギリス
ロンドン大学 東洋・アフリカ研究院	1999. 08. 05	小風秀雅 教授	イギリス
カレル大学	2004. 09. 07	森山新 教授	チェコ
ケルン大学	2010. 03. 18	永原恵三 教授	ドイツ
パリ・デイドロ(パリ第7)大学	2008. 02. 01	古瀬奈津子 教授 田中琢三 助教	フランス
ブレーズ・バスカル(クレルモン第2)大学	2009. 08. 28	田中琢三 助教	フランス
ワルシャワ大学	2010. 02. 10	森山新 教授	ポーランド
ブカレスト大学	2009. 08. 03	森山新 教授	ルーマニア
その他締結機関			
Study Abroad Foundation	2014. 04. 02	森山新 教授	アメリカ

(出典：国際課資料)

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目 I

【資料 2－9】交換留学派遣学生の人数：平成 21～27 年度

(出典：国際課資料)

学部・研究科名		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
文教育学部		4	14	11	22	22	27	30	130
理学部		0	0	1	1	2	2	1	7
生活科学部		2	1	2	3	3	5	11	27
人間文化創成科学研究科		3	2	3	6	2	3	7	26
合 計		9	17	17	32	29	37	49	190

(3) 留学生や海外の大学生との交流型の授業

グローバル文化学環と日本語教育副プログラムが連携して提供する授業科目（「多文化間交流論」「多文化共生論」等）では、平成 22 年度より留学生と日本人学生の交流型授業を行っている。また、韓国・同徳女子大学校と毎年、日本又は韓国で日韓大学生国際交流セミナーを実施しており、平成 27 年度のセミナーでは日本人学生による韓国語での発表も行われた。

グローバル文化学環では、平成 23 年度以降、毎年世界 7 か国（7～9 大学）から学生を集め、東日本大震災や災害に対する国際協力について考える国際学生フォーラムを実施している（資料 2－10）。平成 25 年度に実施されたアメリカのヴァッサー大学での国際学生フォーラムには文教育学部生 12 名を含む 14 名を派遣した。平成 26 年度には外務省の KAKEHASHI プロジェクトに採択され、文教育学部生 18 名を含む 23 名がニューヨーク、ボストン、シカゴなどの大学と合同のフォーラムをアメリカで開催するなど、活発な活動を展開した。

What we can do as students before and after disasters

震災復興を超えたグローバルな対話と協力



4th International Student Forum Report

～ 第 4 回国際学生フォーラム報告書 ～

March 7-16, 2015

Ochanomizu University, Tokyo, Japan

Global Education Center

Global Human Resource Development Center

Global Studies for Intercultural Cooperation

Ochanomizu University

(出典: Tea Pot 「第 4 回国際学生フォーラム報告書 (表紙)」

http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/57166/1/0_hyoushi.pdf)

4. 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

(1) 講義、演習、実習、実験科目の配置

コースごとの特性に応じて、講義、演習、実習、実験科目のバランスに留意した編成を工夫している。平成 27 年度のカリキュラムでは、文教育学部全体で全科目に占める演習・実習・実験科目の割合は 62.5%であり、少人数での体験型科目を豊富に配置して学生の主体的な学習の促進に努めている（資料 2－11）。

【資料 2－11】平成 27 年度文教育学部のコース別の講義、演習・実習・実験科目数
(専攻科目)

コース名	講義	演習・実習・実験	総計	演習・実習・実験科目の割合
哲学・倫理学・美術史コース	29	31	60	51.7%
比較歴史学コース	29	38	67	56.7%
地理環境学コース	5	26	31	83.9%
日本語・日本文学コース	28	24	52	46.2%
中国語圏文化コース	5	24	29	82.8%
英語圏言語文化コース	21	60	81	74.1%
仏語圏言語文化コース	7	20	27	74.1%
日本語教育コース	4	8	12	66.7%
社会学コース	13	9	22	40.9%
教育科学コース	27	29	56	51.8%
心理学コース	11	36	47	76.6%
舞踊教育学コース	15	26	41	63.4%
音楽表現コース	10	51	61	83.6%
グローバル文化学環	40	24	64	37.5%
総計	244	406	650	62.5%

(出典：学務課資料)

(2) 卒業論文の指導法の工夫

文教育学部では全てのコースで卒業論文を課しており、複数教員による査読体制を整え、年間を通した報告会や発表の実施によって論文指導の充実を図っている。平成 27 年度には卒業論文の質の向上に向けた研究倫理教育のあり方についてのアンケート調査を実施し、それに基づく学部教授会での研修会を FD 活動の一環として実施した（資料 2－12）。

平成 27 年 9 月 9 日 文教育学部教授会資料

卒論の研究倫理教育に関するアンケート集計結果

1. アンケートの目的

：文教育学部における卒論執筆生に対する研究倫理教育の現状について各コースの状況を共有し、今後の本学部における研究倫理教育の充実に役立てる。

2. 集計結果

1) 学生 1 名に対する指導教員の人数について

① 卒論・レポート作成過程の指導教員の人数

【集計】1 名：9、 1～2 名：1、 3 名：1、 実質 3 名：1

② 卒論・レポートの査読教員の人数（主指導教員を含めて）

【集計】2 名：10、 3 名：2、 4 名：2

：作成指導は 1 名が多数を占めたが、査読はすべてのコースで 2 名以上であり、複数査読体制が実現されている。

2) 卒論・卒業レポート等に関するコース内での発表会・報告会

① 発表会・報告会の回数：すべてのコースで発表会・報告会が 1 回以上実施されている。

【集計】1 回：2、 2 回：3、 1～2 回：1、 1～3 回：1、 2～3 回：2、 3 回：1、 4 回：2、
6 回：1、 10 回：1

② 実施時期

【集計】3 年次 1 月：1、 4 月：4、 5 月：3、 6 月：1、 7 月：9、 8 月：1、 9 月：4、
10 月：7、 11 月：3、 12 月：1、 1 月：3、 2 月：2

＜記述回答＞・そのほか、個別の教員がゼミや合宿で 4 年生に卒論関係の報告を行ってもらい、指導をしている。

・人数など状況によって異なる。夏休み前に 1 回、9 月のゼミ合宿で 1 回といった形だが、人数が少ない場合などは省略することもある。そのほか、適宜各教員のゼミで、4 年生に卒論関係の報告を行ってもらっている

・そのほか、個別の教員がゼミで 4 年生に卒論関係の報告を行ってもらい、指導をしている。

・以上は、卒論作成前の中間報告会であり、卒論を作成したのち、口述試験の時期に、学生が主体的に卒論の報告会を行っている。

5. 学生の主体的な学習を促すための取組

(1) 実践的なインターンシップ科目

学生の社会的問題への認識の深化や学習意欲の向上を目的として、生活に密着した様々なテーマに関わる NPO（非営利団体）でのインターンシップ（資料 2-13）や、教育科学コースによる学校でのインターンシップを科目化し、第 2 期中に延べ 337 名の文教育学部学生が履修した（資料 2-14）。

履修ガイダンスのお知らせ ～書を持って、町に出よう。

文理融合リベラルアーツ・生活世界の安全保障23

『NPOインターンシップ(実習)』

履修ガイダンス

本実習では、貧困対策、国際協力、子育て支援、障害児教育支援、環境保護などに取り組むNPOで実習します。受講生にとって、NPOの現状や課題並びに様々な社会問題について学ぶとともに、自分自身の将来の目標やライフキャリアを考えるよいきっかけとなるでしょう。関心のある方は、是非お越しください！

日時：2015年 4月 13日(月) 5-6限(13:20~14:50)
(※全学共通科目『NPO入門』初回授業内)

場所：共通講義棟1号館 301号室

◆『NPOインターンシップ』実習先予定団体◆

もやい(脱ホームレス支援)/STスポット横浜(舞台制作)/えこお(教育・まちづくり)/チャイルドライン支援センター(子ども電話相談)/環境ネットワーク・文京(環境保護)/市民コンピュータコミュニケーション研究会(情報系)/グランマ富士見台(子育て支援)/シャンティ国際ボランティア会(国際協力)/シャプラニール(同左)/オックスファム(同左)/市民科学研究室(科学技術の研究・教育)他

※『NPOインターンシップ』(協力団体での実習)を受講するには、講義『NPO入門』(前期 月5-6限)を履修する必要があります(昨年度までに履修済みの学生はのぞく)。
※なお、『NPO入門』(講義)だけでも受講できます。

※問合せ先：グローバル協力センター 青木 健太
03-5978-5546 aoki.kenta@ocha.ac.jp



【資料2-14】インターンシップ科目の文教育学部生の履修者数

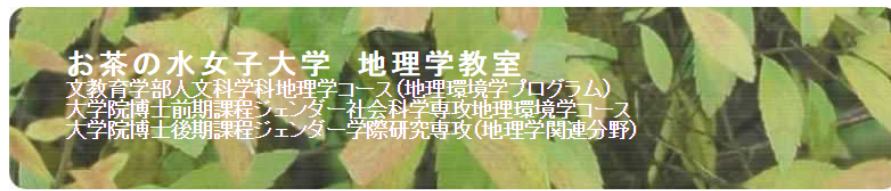
科目名	文教育学部の履修者数						
	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	合計
生活世界の安全保障23 NPOインターンシップ(グローバル教育センター主催科目)	33	13	16	10	5	9	86
学校インターンシップ(文教育学部教育科学コース主催科目)	2	16	12	27	16	21	94
インターンシップ(学生キャリア支援センター主催科目)	117	13	8	4	6	9	157
履修者延べ数	152	42	36	41	27	39	337

(出典：学務課資料)

(2) アクティブラーニングの重視

文教育学部は講義科目よりも少人数での体験型の演習・実習・実験科目が多く(資料2-11)、受講生が自ら課題を見つけ、解決策を発見するための事前準備や授業内でのプレゼンテーション、ピア・フィードバックによる受講生同士のコミュニケーションを通じて、主体的な学習能力の向上を目指している。フィールドワーク科目では(資料2-15)、学生が大学内での事前学習や現地協力者へのアポイントメント、現地での実習、事後の報告書作成までを主体的に行うことによって、実践力や応用力の促進を図っている。芸術・表現行動学科では、教員の指導の下に学生が発表会を企画・運営することにより、学習を総合し、表現探究者としての汎用能力を深化させている(資料2-16)。

【資料2-15】アクティブラーニング重視の科目例（1）（出典：地理学コース（大学ウェブサイトより抜粋 <http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/share/fwork.html>））



HOME » フィールドワーク(巡検)

文教育学部 人文科学科
地理学コース(地理環境
学プログラム)

- ▶ はじめに
- ▶ ゼンバー
- ▶ 教 育
- ▶ 進 路
- ▶ Q & A
- ▶ 入試情報

大学院博士前期課程
ジェンダー社会科学専攻
地理環境学コース

- ▶ はじめに
- ▶ ゼンバー
- ▶ 教育・研究
- ▶ 入試情報

大学院博士後期課程
ジェンダー学際研究専攻
(地理学関連分野)

- ▶ はじめに
- ▶ ゼンバー
- ▶ 教育・研究
- ▶ 入試情報



フィールドワーク(巡検)

地理学の野外調査(field work, field survey)のうち、教育目的のものを特に巡検(excursion)と称しています。学部3年次の地理学フィールドワークAと大学院博士前期課程の地域環境調査講義実習は5日をかけて実施される「大巡検」、それ以外の日帰りで実施されるものは「小巡検」「1日巡検」ということがよくあります。

これらは、教育プログラムの一環ですから、小巡検は「どこに注目して現場を見たらいいのか」という説明つきの「見学」が主になります。ふだんは見過ごしていた街、村、野山にも、意外に見るべきところがあることがわかるはずです。

大巡検では1カ所に滞在しますので、数名のグループで何を調べてみたいかをあらかじめ決め、事前の野外調査演習で統計資料や文献を調査して概要をつかんでおきます。それから現地へ向かい、聞き取りや観察の練習をすることになります。市役所などの公的機関の行政担当者や企業関係者から、その地域についてのレクチャーを受けることも日程に組まれています。その土地をさまざまに歩き回り観察すること、体験すること、人々から話を聞くことなど、現地に身をおかなければ理解できない事柄を、自分でつかまえてくるというのは、きわめて大切なことです。聞き取りや観察の結果については、宿泊先の大広間などで報告会を開いて発表してもらいます。帰京後にレポートを完成させ、これを冊子にまとめて現地の関係者にお礼状とともに発送することで、プログラムは終わります。

2015年度地理学フィールドワークB(小巡検・1日巡検)日程

詳しいスケジュール、行程については、開催2ヶ月～1ヶ月前に文教育学部7階エレベータホール掲示板にてお知らせします。

日 程	行き先・テーマ(担当)
4月11日(土)	「御茶ノ水巡検」(水野)
4月21・22日	巡検ガイダンス(事前授業)(水野)
(火・水)昼	
5月17日(日)	「成城・田園調布」(紹介HP)(宮澤)
5月23日(土)	「文京区の自然をめぐる」(長谷川)
6月5日(金)	「和光～成増の湧水とその保全活動」(長谷川)
6月21日(日)	「都市農業－若手就農者による農業活性化に向けた取り組み(伊勢原市)」(今野)
7月12日(日)	「台地の地形と地質(秋留台地)」(目代)
9月29日(火)	「江戸から現代へー外堀周辺の歴史地理(神楽坂)」(米家)
10月18日(日)	「都心のオアシスを訪ねて(等々力溪谷ほか)」(佐々木)
10月31日(土)	「多摩ニュータウン」(紹介HP)(宮澤)
11月21日(土)	「東京下町ー日本水準原点から荒川ロックゲートまで」(水野)
12月	「環境活動リサーチー環境エコプロダクツ」(長谷川)

最近の地理学フィールドワークA(大巡検)の行き先

年 度	行き先	担当	報告書閲覧
2002年度	熊本県水俣市	熊谷・内藤・内田	
2003年度	広島県庄原市	杉谷・水野	
2004年度	三重県鳥羽市答志島	石塚・栗原・内田	
2005年度	宮崎県宮崎市	水野・田宮	
2006年度	鹿児島県薩摩川内市龍島	熊谷・石塚	
2007年度	石川県輪島市	水野・田宮	
2008年度	長崎県長崎市(紹介HP)	宮澤・水野	■
2009年度	長野県諏訪市(紹介HP)	長谷川・水野	
2010年度	宮城県仙台市	宮澤	■
2011年度	滋賀県高島市朽木	長谷川・水野・熊谷	
2012年度	長野県諏訪市	長谷川・水野	■
2013年度	山形県山形市(紹介HP)	宮澤	■
2014年度	東京都下町地域	水野	■
2015年度	青森県八戸市(紹介HP)	宮澤	

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目 I

【資料2-16】アクティブラーニング重視の科目例(2): 芸術・表現行動学科の発表会
(出典: 文教育学部ウェブサイトより抜粋)

<http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/ongaku/index.html>

http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/buyou/news/20150320/sotsuko2015_1.pdf



お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅰ

(3) 優れた学生への支援や授賞

文教育学部生の各種奨学金受給率は平成 27 年度で 29.2%と 3 学部の中で最も多い（資料 2－17）。文教育学部には独自の“グローバル文化学環奨学基金”（グローバル文化学環に卒業研究を提出した者で、研究の評価が顕著な者に対して授与するもの）があり、平成 27 年度には 2 名に授賞した。また、平成 27 年度より人文科学科地理学コースに在学する者で、自然地理学関係の研究に従事し、優れた研究が見込める者に授与する“自然地理学奨学基金”を新設し、1 名に授賞した（資料 2－17）。

【資料 2－17】文教育学部の奨学金受給者数（出典：大学概要 2016 p.6 より抜粋）

奨学生

（平成27年10月1日現在）

区分		在学生数	日本政府奨学金※	私費留学生奨励費※	日本学生支援機構				本学独自	その他	奨学生数合計	比率(%)
					一種	二種	一種二種併用	小計				
学部	文教育学部	929	2	1	58	73	14	145	103	20	271	29.2%
	理学部	560	1	1	40	34	8	82	23	10	117	20.9%
	生活科学部	571	1	0	39	28	5	72	51	9	133	23.3%
	計	2,060	4	2	137	135	27	299	177	39	521	25.3%
大学院	博士前期課程	491	9	0	55	3	1	59	50	6	124	25.3%
	博士後期課程	376	8	4	31	1	0	32	36	1	81	21.5%
	計	867	17	4	86	4	1	91	86	7	205	23.6%
合 計		2,927	21	6	223	139	28	390	263	46	726	24.8%

※外国人留学生対象

文教育学部の独自奨学金(平成27年度)

基金の名称	授与対象者	奨学金の額	授与者数
グローバル文化学環奨学基金	本学文教育学部グローバル文化学環に卒業研究を提出した者で、研究の評価が顕著な者	20,000円	(H27) 2名
自然地理学奨学基金	本学文教育学部人文科学科地理学コース及び大学院に在学する者で、自然地理学関係の研究に従事し、優れた研究が見込める者	国内調査 10,000円又は 海外調査 30,000円	(H27) 1名

(4) 成績不振学生への学修支援

学修困難を抱える（履修単位不足、成績不振等）学生を支援するために、当該学生が所属する学科・コース・環の教員が中心となり、学内の学修関連組織（学務課及び学生相談室等）と連携する支援体制を整えた。具体的には、各学期における該当学生を学務課が学科・コース・環に連絡し、教員による面談を実施する等の介入に努めている。平成 27 年度には成績不振学生をチェックするシステムを開発し（資料 2－18）、修得単位や GPA といった客観的事実に基づく学修指導を行った。

【資料2-18】成績不振学生のチェックシステム

<成績不振学生をチェックするシステムの画面>

成績不振の状況にあると推定されるケースのチェックシステム

学生番号	氏名	学号	最新学期の累積 GPA	学期ごとの GPA の推移・最小二乗近似による直線回帰の負の傾斜（成績下落）の大きさ	単位取得率（取得単位数／履修単位数）
1	山田 太郎	1001	2.5	0.1	80%
2	田中 花子	1002	2.8	0.2	75%
3	佐藤 一郎	1003	2.2	0.3	70%
4	鈴木 美咲	1004	2.6	0.15	78%
5	高橋 健太	1005	2.4	0.25	72%
6	渡辺 真由	1006	2.7	0.18	76%
7	中村 大輔	1007	2.3	0.35	68%
8	小林 千恵	1008	2.9	0.12	82%
9	加藤 拓海	1009	2.1	0.4	65%
10	山本 由香	1010	2.55	0.15	79%
11	佐々木 隆太	1011	2.45	0.22	73%
12	松本 美穂	1012	2.65	0.17	77%
13	高木 健一	1013	2.35	0.32	69%
14	渡辺 真由	1014	2.75	0.14	81%
15	中村 大輔	1015	2.25	0.38	67%
16	小林 千恵	1016	2.85	0.11	83%
17	加藤 拓海	1017	2.15	0.42	64%
18	山本 由香	1018	2.58	0.16	80%
19	佐々木 隆太	1019	2.48	0.23	74%
20	松本 美穂	1020	2.68	0.19	78%

以下、Ⅰ～Ⅲの指標により学習成果不振の兆候を判断する。

Ⅰ 最新学期の累積 GPA

Ⅱ 学期ごとの GPA の推移・最小二乗近似による直線回帰の負の傾斜（成績下落）の大きさ

Ⅲ 単位取得率（取得単位数／履修単位数）

閲覧権を付与された教職員は、下記のアラート基準（赤、橙、黄の三色の alert color code）により、学習成果の状況を確認することができる。

【アラート基準】

全学的に見て、指標Ⅰ：下位5%、指標Ⅱ：上位5%、指標Ⅲ：下位5%にあること。

赤：3つの指標で該当する場合

橙：2つの指標で該当する場合

黄：1つの指標で該当する場合

(出典：学務課資料)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

- ① 文理融合リベラルアーツ科目を中心とした初年次の幅広い教養科目を基盤にし、2年次からの複数プログラム選択履修制度による学生の主体的な専門科目の選択履修へと階層性・系統性を明確にした教育課程を編成している。
- ② グローバル文化学環が提供する多彩な国際交流プログラム、外国語教育の充実、海外派遣事業の充実、留学生との交流型授業等、グローバル人材の育成という教育目標に適った教育内容となっている。
- ③ 演習・実習・実験科目が62.5%と多く、その内容もフィールドワークや学生の企画による主体的なアクティブラーニングとなるよう工夫されている。
- ④ 学習困難（履修単位不足、成績不振等）を抱える学生に対する支援体制を確立した。
- ⑤ 社会格差や震災後の復興問題といった現代的課題に即した教育内容を提供している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点到に係る状況)

1. 履修・修了状況

(1) 単位の取得状況

平成22～26年度の卒業生の取得単位数を見ると(資料3-1)、平成22年度の学部平均146.8単位から平成26年度の140.7単位へと減少し、学生の学修意欲の高さを維持しつつも、単位の実質化の方向に向かって改善が進んでいることが示されている。成績についても(資料3-2)、在学4年間(平成26年度卒業生)での学部平均GPAが2.66と良好であり、多くの学生が充実した学修を実現している。

【資料3-1】文教育学部卒業生平均取得単位数(平成22～26年度)

文教育学部卒業生平均取得単位数 平成19年度入学生平成22年度卒業生						
	人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科	グローバル文化学環	学部全体
卒業生人数	39	73	41	26	20	199
最少取得単位数	124	126	124	124	126	124
最大取得単位数	233	216	196	208	160	233
平均取得単位数	152.10	140.64	146.93	156.88	137.5	146.81
平成20年度入学生平成23年度卒業生						
	人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科	グローバル文化学環	学部全体
卒業生人数	48	75	40	23	23	209
最少取得単位数	124	124	124	124	124	124
最大取得単位数	223	182	184	192	168	223
平均取得単位数	148.08	137.29	143.4	145.70	139.48	142.79
平成21年度入学生平成24年度卒業生						
	人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科	グローバル文化学環	学部全体
卒業生人数	46	72	39	23	22	202
最少取得単位数	124	124	124	124	124	124
最大取得単位数	210	183	164	206	182	210
平均取得単位数	147.24	138.51	139.44	143.74	140.14	141.81
平成22年度入学生平成25年度卒業生						
	人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科	グローバル文化学環	学部全体
卒業生人数	43	63	39	25	26	196
最少取得単位数	126	124	125	124	124	124
最大取得単位数	201	178	194	182	154	201
平均取得単位数	146.84	137.81	143.46	145.76	133.23	141.42
平成23年度入学生平成26年度卒業生						
	人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科	グローバル文化学環	学部全体
卒業生人数	50	62	41	29	12	194
最少取得単位数	124	124	124	124	126	124
最大取得単位数	178	163	182	207	156	207
平均取得単位数	143.72	132.76	142.83	149.21	135	140.70

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅱ

【資料３－２】文教育学部卒業生の成績（GPA）（平成 26 年度卒業生の場合）

文教育学部生の GPA

（平成 26 年度卒業生（在学期間４年間の学生のみ））

	最小値 / strict GPA	最大値 / strict GPA	平均 / strict GPA
人文学科	1.57	3.54	2.69
言語文化学科	1.78	3.43	2.69
人間社会学科	2.01	3.16	2.74
芸術・表現行動学科	1.73	3.02	2.47
学部 総計	1.57	3.54	2.66

注）strict GPA：授業科目ごとの成績評価（100 点満点の素点評価、下記の 1）の SS）を 1）の算定方法で GP に置き換え、つぎに 2）の算定方法で、その GP に該当の科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求める。最高点は 4.5、最低点は 0.5 となる：

<算出式>

1) $GP = (SS - 55) / 10$ ただし、 $GP < 0.5$ は $GP = 0.0$ とする。

SS は 100 点満点の素点評価

2) $GPA = (\text{履修科目の } GP \times \text{当該科目の単位数}) \text{ の総和} / \text{履修総単位数}$

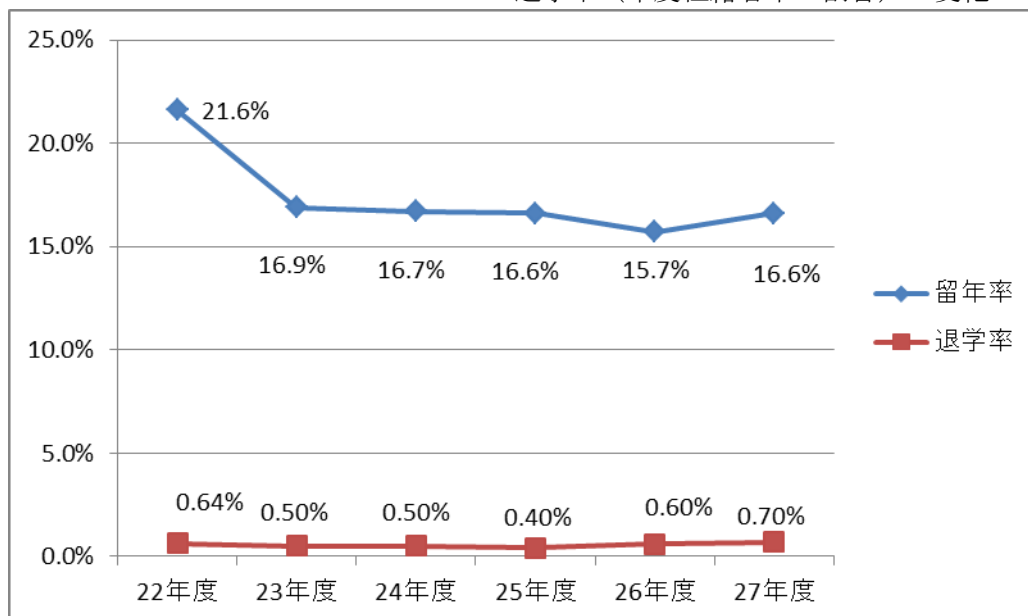
履修総単位数には不合格となった科目（GP = 0）の単位数も含まれる。

（出典：学務課資料）

（２）留年率、退学者数

平成 22～27 年度までの 4 年次生における留年者の割合（留年率）は平成 22 年度の 21.6% から平成 23～27 年度の 16% 程度（15.7%～16.9%）へと低下した（資料 3－3）。学部全体での退学者は平成 22～27 年度は 0.4%（４名）～0.7%（６名）と少ない水準を維持している（資料 3－3）。

【資料 3－3】文教育学部留年率（４年次在学者数に対する割合）と退学率（年度在籍者中の割合）の変化



（出典：学務課資料）

2. 資格取得状況・受賞

(1) 資格取得状況

文教育学部では、教員免許（中学校教諭（一種）、高等学校教諭（一種）、小学校教諭（一種）、幼稚園教諭（一種））、博物館学芸員、社会教育主事、社会調査士の資格取得が可能だが、年度によって取得率（卒業生総数に占める述べ資格取得人数の割合）に差があるものの、平成 23 年度を除いては各年 6 ～ 7 割程度の高い取得率を示している（資料 3－4）。

【資料 3－4】文教育学部生による各種資格取得状況

文教育学部生による各種資格等取得状況

(単位：人)

	平成 22 年度卒	平成 23 年度卒	平成 24 年度卒	平成 25 年度卒	平成 26 年度卒
中学校教諭（一種）	54	24	37	30	42
高等学校教諭（一種）	58	27	46	35	44
小学校教諭（一種）	8	4	3	9	6
幼稚園教諭（一種）	2	3	3	6	3
博物館学芸員（注 1）	10	10	16	6	14
社会教育主事（注 1）	3	1	4	9	12
社会調査士	13	11	16	20	17
合計人数	148	80	125	115	138
資格取得率（卒業総数に対する取得延べ人数の割合）	74.4%	38.3%	61.9%	58.7%	71.1%

注 1: 当該年度の 3 月卒業者のうち、卒業までに各種資格実習単位を取得した者の人数を計上

(出典：学務課資料)

(2) 学生の受賞

芸術・表現行動学科舞踊教育学コースでは、全日本高校・大学ダンスフェスティバルにおいて平成 22 年度から 27 年度まで 25 年度を除き毎年受賞しており、高い水準での表現教育が達成されている（資料 3－5）。

【資料 3－5】文教育学部生による受賞の例（舞踊教育学コース）

文教育学部生による受賞記録（平成 22～27 年 11 月）

年月	受賞者（団体）	名称
平成 22 年 8 月	舞踊教育学コース	第 23 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 大学創作コンクール部門 NHK 賞
平成 23 年 8 月	舞踊教育学コース	第 24 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 大学創作コンクール部門 特別賞
平成 24 年 8 月	舞踊教育学コース	第 25 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 大学創作コンクール部門 特別賞
平成 26 年 8 月	舞踊教育学コース	第 27 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 大学創作コンクール部門 特別賞
平成 27 年 8 月	舞踊教育学コース	第 28 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 大学創作コンクール部門 神戸市長賞

(出典：大学ウェブサイト「News & Info」より抜粋)

3. 学生の評価

(1) 学業の達成度・満足度

本学では前期末（7月）と後期末（1月）に、学生による匿名の授業アンケートを実施している。文教育学部の学生による回答率は、平成22年度前期51.3%・後期48.9%、平成23年度前期47.2%・後期46.3%、平成24年度前期51.9%・46.5%、平成25年度前期51.1%・50.2%、平成26年前期57.2%・後期58.2%で、年度による差はあるものの、平成26年度には増加がみられ6割近くになり、平成27年度には学修情報システム alagin の成績閲覧と連動させたため（アンケートの回答を入力しないと閲覧が不可）、回答率は95.2%と大きく改善した。

学生自身の授業に対する取組の自己評価では、授業への意欲、興味・関心、理解、達成感等で良好な評価が一定しており（資料3-6、全ての年度につき“3. あてはまる”を上回る平均値を示している）、授業方法や内容に対する評価も安定して良好な評価を維持している。

【資料3-6】文教育学部：学生授業アンケートの経年変化（平成22～26年度）

	22年前期	22年後期	23年前期	23年後期	24年前期	24年後期	25年前期	25年後期	26年前期	26年後期	学部平均	全学平均
学生自身の取り組みと達成に関する評価（4.とてもよくあてはまる・3.あてはまる・2.ややあてはまらない・1.まったくあてはまらない）												
意欲的に取り組めた	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	3.0
授業内容に興味や関心が強まった	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
授業の内容を理解できた	3.0	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0
自分の学習・研究に意義があった	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
授業方法・内容に関する評価（4.とてもよくあてはまる・3.あてはまる・2.ややあてはまらない・1.まったくあてはまらない）												
教員の声は聞き取りやすかった	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2
資料の提示は見やすかった	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
説明は判りやすかった	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1
授業は創意工夫がなされていた	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
授業内容の量とスピードは適切だった	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
教員の熱意が感じられた	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
教員は学生の質問・発言を促してくれた	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
授業に満足できた	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2

（出典：学務課資料）

（水準）期待される水準を上回る

（判断理由）

- ① 在学4年間（平成26年度卒業者）での学部平均GPAが2.66と成績良好であり、退学者も平成23～25年度で0.4%（4名）～0.7%（6名）と低い水準を維持している。
- ② 卒業単位数において平成22年度の学部平均146.8単位から平成26年度の140.7単位へと減少し、単位の実質化の方向に向かって改善が進んでいる。
- ③ おおむね高い資格取得率（平成23年度を除いて各年6～7割）を維持している。
- ④ 学生による授業アンケートにおいて、授業に対する取組の自己評価及び授業方法・内容に対して、良好な平均値（肯定的項目に対して“3. あてはまる”を上回る数値）を維持している。

観点 進路・就職の状況

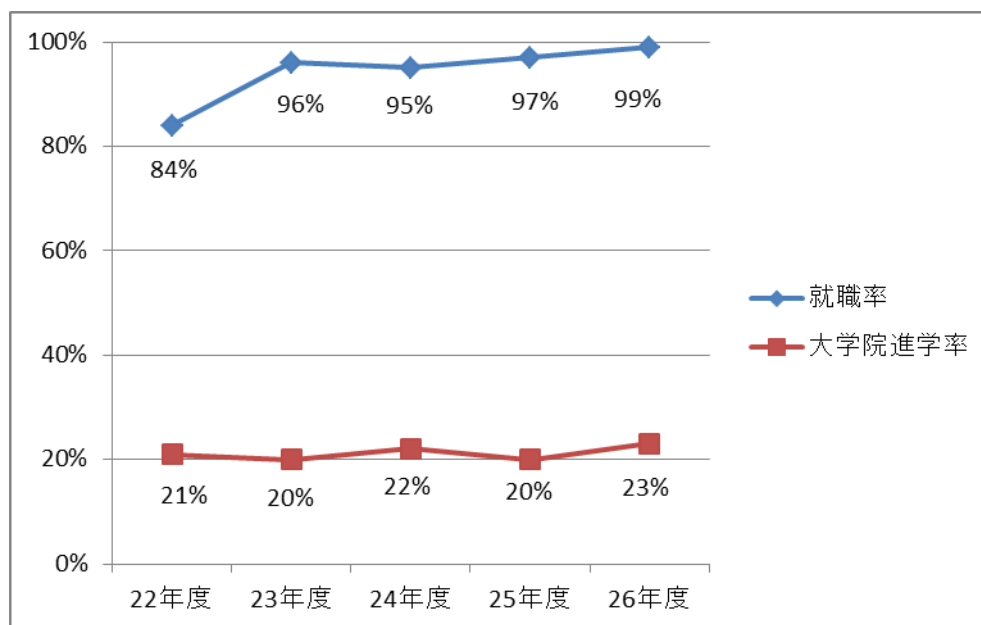
(観点に係る状況)

1. 進路・就職状況

就職率（就職希望者のなかで就職した者の割合）は、平成 22 年度の 84%から平成 26 年度の 99%へと大幅に改善した（資料 4－1）。就職先は、本学部の養成目的に適う教育関係、司法・地方行政関係、図書出版関係、メディア関係、金融関係等の機関・会社であり、幅広い文系分野となっている（資料 4－2）。

大学院進学率は平成 22 年度以来 2 割を維持し（資料 4－1）、全国平均（平成 26 年度学校基本調査より）よりも高い水準（人文系：7.4%、社会科学系：4.4%、教育系：7.9%）にある。

【資料 4－1】文教育学部の就職率・進学率（平成 22 年度～26 年度）



注) 就職率は就職希望者に対する就職者の割合を示している。

大学院進学率は卒業生総数のなかでの進学者の割合を示している

(出典：学生・キャリア支援課資料)

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅱ

【資料４－２】文教育学部生の就職先・進学先（平成 24 年度卒業生）

（５）就職先及び進学先等の状況 【担当：学生・キャリア支援チーム】

学 部		主な就職状況	(H24 年度卒業生) 主な進学先の状況
文 教 育 学 部	人文学科	東京大学、株式会社シエルター、株式会社リクルートキャリア、日本銀行、花王株式会社、きよせの森総合病院、所沢市役所、株式会社中国サンネット、株式会社コーソル、私立東洋高校、ハマゴムエイコム株式会社、学校法人武南学園武南高等学校、静岡県庁、小田急電鉄株式会社、ANA ビジネススクリエイト株式会社、 他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院、早稲田大学大学院
	言語文化学科	東京都庁、アサヒホールディングス株式会社、しのめ信用金庫、ホクト株式会社、明治図書出版株式会社、埼玉県庁、株式会社エラン、北海道ガス株式会社、株式会社三菱東京 UFJ 銀行、株式会社山梨中央銀行、株式会社ゆうちょ銀行、東京大学、富士ゼロックス株式会社、ヤフー株式会社、日本酒類販売株式会社、 他	お茶の水女子大学大学院 早稲田大学大学院、京都大学大学院、上越教育大学大学院
	人間社会学科	株式会社エイチ・アイ・エス、株式会社ユーフィード、東海東京証券株式会社、文京区役所、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、神奈川県庁、群馬県庁、エイチアールワン株式会社、ヤマトホールディングス株式会社、家庭裁判所（調査官）、アクセンチュア株式会社、 他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	芸術・表現行動学	株式会社 K-ballet、R K B 毎日放送株式会社、株式会社テレビ宮崎、大和製缶株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社サダマツ、株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ、東京海上日動火災保険株式会社、群馬県庁、 他	お茶の水女子大学大学院 京都大学大学院

（出典：学生・キャリア支援課資料）

お茶の水女子大学文教育学部 分析項目Ⅱ

2. 在学中の学業の成果に関する卒業生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取

(1) 卒業生アンケート

平成 22 年度から 25 年度に卒業した学生に対するアンケート調査から、大学で受けた教育全般に対して「非常に充実していた」及び「かなり充実していた」（評定は「非常に充実していた」～「非常に不備だった」の 5 件法）と回答した文教育学部の卒業生は 82.1%に上り（文教育学部の回答者は 151 名）、全学の 72.3%（全学回答者は 289 名）を 10 ポイント近く上回って高い満足度が示されている（資料 4－3）。専門科目（講義及び演習・実習・実験）に対しても、8 割前後の卒業生が非常にあるいはかなり充実していたと評価している（資料 4－3）。

本学の教育が社会に出て役立った領域・能力に関する設問では、「全般的な人格形成」、「一般教養の獲得」、「領域を超えた学際知識や興味の獲得」で文教育学部卒業生の 7 割前後が肯定的に評価している（資料 4－3）。これらの項目に「語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得」の項目を加え 4 項目において、全学の学生よりも 6.7～11.7 ポイント上回った数値を示している（資料 4－3）。

【資料 4－3】文教育学部卒業生による大学教育の評価（卒業生アンケートの結果から）

お茶大で受けた教育に対する評価に関する卒業生アンケート (平成22年度～25年度卒業生,全学部:309名,うち文教育学部:170名,回答は「非常に充実していた」～「非常に不備だった」の5件法)			
		文教育学部卒業生の肯定評価の割合 (「非常に充実していた」「かなり充実していた」の回答者の割合)	全学の卒業生の肯定評価の割合 (「非常に充実していた」「かなり充実していた」の回答者の割合)
(1) 教育全般		<u>82.1%</u>	72.3%
(2) 専門・専攻科目(講義)		81.8%	77.2%
(3) 専門・専攻科目(演習・実習・実験)		79.1%	75.2%
(4) 教養教育(リベラルアーツ)		<u>74.0%</u>	62.5%
(5) 専門・専攻科目(卒業論文・卒業研究)		72.9%	72.8%

注)文教育学部の数値の下線は、全学卒業生の数値より5ポイント以上上回っていることを示す。

お茶大の教育が役立った領域・能力に関する卒業生アンケート (平成22年度～25年度卒業生,全学部:309名,うち文教育学部:170名,回答は「非常に役立った」～「ほとんど役にたたなかった」の5件法)			
		文教育学部卒業生の肯定評価の割合 (「非常に役立った」「かなり役立った」の回答者の割合)	全学の卒業生の肯定評価の割合 (「非常に役立った」「かなり役立った」の回答者の割合)
(1) 全般的な人格形成		<u>67.7%</u>	59.6%
(2) 一般教養の獲得		<u>71.5%</u>	59.8%
(3) 専門知識の獲得		<u>82.3%</u>	78.1%
(4) 領域を超えた学際知識や興味の獲得		<u>71.8%</u>	62.8%
(5) 課題を探究し問題解決する能力の養成		<u>65.2%</u>	64.6%
(6) ユニークな発想		<u>38.0%</u>	34.8%
(7) 必要に応じて自ら学習できる能力		<u>69.4%</u>	69.4%
(8) リーダーシップの発揮		<u>27.4%</u>	25.2%
(9) 語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得		<u>39.2%</u>	32.5%
(10) 組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力の獲得		<u>50.3%</u>	53.2%
(11) パソコンやインターネットなどの技術革新や新しい社会システムに対応できる		<u>40.4%</u>	38.6%
(12) 対話や討論などのコミュニケーション力		<u>52.9%</u>	51.8%

注)文教育学部の数値の下線は、全学卒業生の数値より5ポイント以上上回っていることを示す。

(出典：学務課資料)

(2) 企業・官公庁アンケート

本学卒業生・修了生を複数雇用している企業・官公庁等に対するアンケート調査から、「全般的な人格形成」「必要に応じて自ら学習できる能力」で特に高い評価を得ている（一般的な大学生と比較して「特に優れている」「優れている」と肯定的に評価された割合は8割を超えている、資料4-4）。「一般教養」「課題を探究し問題解決する能力の養成」「組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力の獲得」でも肯定的評価が7割前後となっており、「ユニークな発想」で4割台である以外は全項目で5割を超えており（資料4-4）、雇用者の期待に応えた人材を送り出している。

【資料4-4】企業・官公庁等から見たお茶大卒業生の特徴（一般大学生との比較）

企業・官公庁等雇用主から見たお茶の水女子大学の卒業生・修了生の優れている点 （「特に優れている」～「特に劣る」の5件法）		
	本学卒業生・修了生を雇用している企業等の肯定評価の割合（N=41社、「特に優れている」「優れている」の回答割合）	
(1) 全般的な人格形成	85.4%	
(2) 一般教養の獲得	70.7%	
(3) 専門知識の獲得	56.1%	
(4) 領域を超えた学際知識や興味の獲得	58.5%	
(5) 課題を探究し問題解決する能力の養成	68.3%	
(6) ユニークな発想	41.5%	
(7) 必要に応じて自ら学習できる能力	80.5%	
(8) リーダーシップの発揮	56.1%	
(9) 語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得	56.1%	
(10) 組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力の獲得	70.7%	
(11) 適切な情報リテラシーを備え、技術革新や新しい社会システムに対応できる能力	51.2%	
(12) 対話や討論などのコミュニケーション力	70.7%	
注) 回答が得られたのは、官公庁、製造業、情報通信産業等である。従業員規模1,000名以上が大半を占める。		

（出典：学生・キャリア支援センター資料）

（水準） 期待される水準を上回る

（判断理由）

① 就職率が順調に向上し（平成22年度の84%から平成26年度の99%へ）、就職先からみても優秀なジェネラリストを養成する本学部の目的に合致している。一方、大学院への進学実績も全国平均を大きく上回る水準（平均2割程度）を維持し、研究者育成にも努めた。

② 卒業生アンケートから、大学で受けた教育全般に対し「非常に充実していた」及び「かなり充実していた」と回答した文教育学部卒業生が82.1%に上り、全学の72.3%を10ポイント近く上回る高い満足度が示されている。また、第2期における複数プログラム選択制度の導入で目指した学際的で柔軟な学びに関する項目において、「非常に役立った」及び「かなり役立った」と回答した文教育学部卒業生が71.8%に上り、全学の62.8%を9ポイント上回る比較的高い満足度が示されている。これらから、本学部の教育内容・成果が学生の要望に適うものであったと判断する。

③ 企業・官公庁等に対するアンケート調査から、「全般的な人格形成」「必要に応じて自ら学習できる能力」「一般教養」「課題を探究し問題解決する能力の養成」「組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力の獲得」等の項目において高い評価を得ており、本学部においても雇用者の期待に応えた人材を送り出しているといえる。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

(質の向上があったと判断する取組)

- ① 第1期中に開始した文理融合リベラルアーツと第2期に開始した専門教育に関する複数プログラム選択履修制度とが有機的に結合し、平成26年度では第2・第3プログラムとして副プログラム及び学際プログラムを履修している文教育学部生は53.6%に達し、学際的な学習の広がりが実現した。
- ② 第2期に開始したグローバル人材育成推進事業に学部全体で先進的に取り組み、派遣留学生人数の増加（平成21年度の4名から27年度の30名へ年間派遣数が増加）につながった。
- ③ 少人数の演習・実習・実験科目を高い割合（67.2%）で維持し、フィールドワークやインターンシップ、学生の主体的な企画による授業運営など、アクティブラーニングを重視する授業形態を工夫した。
- ④ 現代的問題への対応に適用できるような人材を養成するという教育目標に沿って、第2期中に社会問題化した社会的格差や震災からの復興など、喫緊の社会的課題をテーマとする授業の開発に積極的に取り組み、実社会や学術領域において即戦力となるような人材育成に努めた。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(質の向上があったと判断する取組)

- ① 高いレベルでの平均GPA（平成26年度2.66）を維持しつつ、平均卒業単位数は平成22年度の146.8単位から平成26年度の140.7単位へと減少し、単位の実質化を進めることができた。
- ② 就職率が順調に向上し（平成22年度の84%から平成26年度の99%へ）、一方、大学院への進学実績も全国平均を大きく上回る水準（平均2割程度）を維持し、研究者育成にも努めた。

2. 理学部

I	理学部の教育目的と特徴	2-2
II	「教育の水準」の分析・判定	2-8
	分析項目 I 教育活動の状況	2-8
	分析項目 II 教育成果の状況	2-57
III	「質の向上度」の分析	2-74

I 理学部の教育目的と特徴

1. 目的

本学の第2期中期目標において、本学の目的として、「21世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成する」が示されている(資料 P-1第2期中期目標(抜粋))。学部教育は、このような目的の基礎部分を担うことを目指しており、中期目標の一つに、「新たな学士課程教育の構築」が挙げられ、リベラルアーツを基礎とし、多様な専門性を擁する新たな学士課程を構築することを目指している。

第4期科学技術基本計画(平成23～27年度)では、科学技術イノベーションの推進が掲げられ、それを担う人材育成が強く求められている。その中では、指導的な立場にある女性研究者、自然科学系の女子学生、研究職を目指す優秀な女性を増やすための取組を進めることが期待されている。女子高等教育の先駆者として、本学部は、これまでに多くの女性科学者を輩出してきているが、その実績を基にして、多様化していく社会の中で、豊かな見識と深く柔軟な専門的知性を身につけ、様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育てるための教育を行う。

また、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材の育成が重要であるとする(資料 P-2 大学学則(理学部、各学科目的))。

なお、本学部における教育の対象である学生に関しては、上記の教育目的に整合したアドミッション・ポリシーを掲げ、多様な選抜方法により、本学部あるいは各学科の教育目的の達成にふさわしい学生を確保している(資料 P-3 理学部アドミッション・ポリシー、資料 P-4 各選抜方法募集人員)。

2. 特徴

数学科(20)、物理学科(20)、化学科(20)、生物学科(25)、情報科学科(40)(かつこ内は学生定員)の5学科で構成されている。各学科で学生の個性に応じた少人数教育が実践されていること、担当教員の高い女性比率、女性固有のライフスタイルやキャリアパスに則した研究分野を配慮した教員配置がとられていることなど、社会の中核となる確実な基礎力と高い専門性を持った女性の養成を実現しうる特徴を備えた教育体制となっている。

グローバル化する現代社会の要請に応じることのできる人材育成を目的として、自然・人文・社会領域の総合的理解を深める「21世紀型文理融合リベラルアーツ」が平成20年度から学士課程の教養教育として導入されているが、平成23年度からは、多様で主体的な専門性の高い学びが構築できる「複数プログラム選択履修制度」を導入し、21世紀の社会に必要とされる教養と専門性を備え、自主自立の精神に富んだ、女性リーダーを育成する学士課程教育を実践している。

本学部教員は、大学の基幹研究院に所属して、大学院では人間文化創成科学研究科の理学専攻又はライフサイエンス専攻を担当し、学部では、理学部における教育を担当している(資料 P-5 学部大学院教育組織図)。

[想定する関係者とその期待]

最も重要な関係者は、理学部在学学生であり、多様化する社会に対応できるだけの教養と、基礎となる専門的知識が、学士課程で修得できることを期待している。さらに、専門教育においては、一人ひとりのニーズに沿って、学習意欲を向上させることのできる、柔軟性を持った教育プログラムの提供が望まれている。

また、理学部志願の女子高校生には、科学への関心を高めるのみならず、大学でその関

心がどのように展開されるのかを示すことが期待されている。

卒業生や、研究に係る学会・関係機関、就職先は、理学部の教育の成果を評価する関係者であると同時に、女子高等教育の先駆者としての実績を持つ本学部が、社会のグローバル化や多様性に対応して、科学技術イノベーションに貢献できる女性人材を育成することを期待している。

上述の理学部の教育に関わる目的は、このような期待を十分に勘案して策定されたものであり、本学部の目的を達成することが、「関係者の期待」に応えることであると考ええる。

【資料】

資料 P-1 第2期中期目標(抜粋)

資料 P-2 大学学則（理学部、各学科目的）

資料 P-3 理学部アドミッション・ポリシー

資料 P-4 各選抜方法募集人員

資料 P-5 学部大学院教育組織図

資料 P-1 第2期中期目標（抜粋）

（前文）大学の基本的な目標

国立大学法人お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する。

すべての女性がその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に自己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを深化させることを目標とする。

1. 本学のミッション

世界屈指の女子大学として、21世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成する。加えて、女性のライフスタイルに即応した教育研究のあり方を開発しその成果を社会に還元することで、女性の生涯にわたる生き方、ひいては、すべての人の生き方に関わるモデルの供給源となって、男女共同参画社会を実現し、豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与することを使命とする。

2. 女子高等教育の継承と国際的発展

130 余年にわたる女子高等教育を通して検証・蓄積された知的・教育的遺産を継承しつつ、女性の活躍を促進する教育研究を国際的に展開する。

3. 大学院課程の充実と国際的研究拠点の形成

研究成果を教育に反映させ大学院教育の実質化を推進するとともに国際的研究拠点を形成する。

4. 新たな学士課程教育の構築

学士課程と大学院人間文化創成科学研究科との連携により、総合的教養を備えた高度専門職業人、つまり「教養知と専門知」、「学士力と実践力」を備えた社会人を養成する。そのために、リベラルアーツを基礎とし、多様な専門性を擁する新たな学士課程を構築する。

5. 附属学校と連携した統合的な教育組織の構築

同一のキャンパスに設置されている大学と附属学校が密接に連携し、伝統ある教育研究資産を活用して、生涯にわたる学びを見通した統合的な教育理念と教育組織を構築する。

6. 社会的、国際的貢献の促進

企業・地域との連携を深め、教育研究の成果を社会に還元する。

国際交流を促進し、アジアの女子教育の充実をはじめ、女性の多様な活躍を促し、平和な社会と文化の発展に貢献する。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

1. 世界屈指の大学院教育を行う女子大学として国際水準を凌駕する教育の質保証を目指し、大学院教育の一層の実質化を図る。
2. リベラルアーツを基礎とし、学生の選択を重視した新たな学士課程教育を構築し、21世紀社会に必要とされる豊かな教養と深い専門的能力を統合的に備えた創造性と実践力を培う。
3. 大学・大学院と附属学校との密接な連携を通じて一貫した教育理念を構築し、キャンパス全体として、生涯にわたる女性の発達と活躍を支援する。
4. 女性のライフスタイルとライフステージに適した多様な進路を開拓できるキャリア教育を進める。
5. 高度専門性と研究力を備えた学校教員養成、及び現職教員研究システムを構築する。
6. 国籍・年齢を問わず、本学の教育理念に合致して、優れた資質を持ち、勉学・研究に対する強い意欲を有する女性を受入れる。

資料 P-2 大学学則 (理学部、各学科目的)

(理学部の目的)

第3条の3 理学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、第3条第2項に定める理学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1) 数学科

数学科は、数学的素養と論理的思考力を備え社会の様々な分野で主導的役割を果たすことができる人材及び現代数学の基礎知識と数学的論理思考を身に付け数理的諸科学の発展に貢献できる人材を養成する。

(2) 物理学科

物理学科は、自然科学の基礎である物理学の基礎知識を修得し、それを実際の問題に適用して解決する能力を身に付けた人材を養成する。

(3) 化学科

化学科は、様々な物質から成り立つ自然界を、原子・分子の構成とその変化の視点で捉え、得られた知識を体系化しつつ、化学の諸分野はもとより、生物学、物理学などの基礎分野から、工学や薬学、農学、医学、地球科学、情報学など多彩な応用分野まで幅広く展開できる人材を養成する。

(4) 生物学科

生物学科は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を有して豊かな人間社会の構築に貢献できる人材を養成する。

(5) 情報科学科

情報科学科は、20世紀に登場し新しい科学の対象となった「情報」というものを探究するための基礎となる知識や方法論と、その様々な応用の実態を学び、更にその成果の上に、これらを自ら開拓するための研究力の基礎を身に付けた人材を養成する。

(出典：平成27年度履修ガイドp.207より抜粋)

資料 P-3 理学部アドミッション・ポリシー

◆ 理学部

理学部とは、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。

本理学部は、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科からなり、少人数ゆえのきめ細かな指導により、高水準の教育・研究を行ってきており、数少ない女子大学の理学部として多くの有為な人材を養成してきました。最近ではさらに大学院に進む者も多く平均進学率は6割を超えています。

このような教育・研究の場に知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

本学部志望者には、高校において、理系科目(数学、理科〔物理、化学、生物〕)を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、および、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目(国語、社会、英語)も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。

(出典：平成27年度入学選抜要項p.1より抜粋)

資料 P-4 各選抜方法募集人員

学部	学 科 等	入学定員	募集人員				
			一般入試		特別入試(参考)		
			前期日程 (※1)	後期日程 (※2)	推薦入試	帰国子女・ 外国学校 (※4)	AO入試
文 教 育 学 部	人 文 学 科	55	32	11	12	若干名	(*5) 10名以内
	言 語 文 化 学 科	80	64	—(*3)	16	若干名	
	人 間 社 会 学 科	40	28	6	6	若干名	
	芸術・表現行動学科 「舞踊教育学コース」	27	12	—(*3)	3	若干名	
	「音楽表現コース」		5	3	4	若干名	
	計	202	141	20	41		
理 学 部	数 学 科	20	13	3	4	若干名	
	物 理 学 科	20	14	3	3	若干名	
	化 学 科	20	16	4	—(*6)	—(*6)	
	生 物 学 科	25	18	3	4	若干名	
	情 報 学 科	40	23	10	7	若干名	
	計	125	84	23	18		
生 活 科 学 部	食 物 栄 養 学 科	36	31	5	—(*6)	—(*6)	
	人 間 ・ 環 境 学 科	24	19	5	—(*6)	—(*6)	
	人 間 生 活 学 科	65	53	—(*3)	12	若干名	
	計	125	103	10	12		
合 計		452	328	53	71		

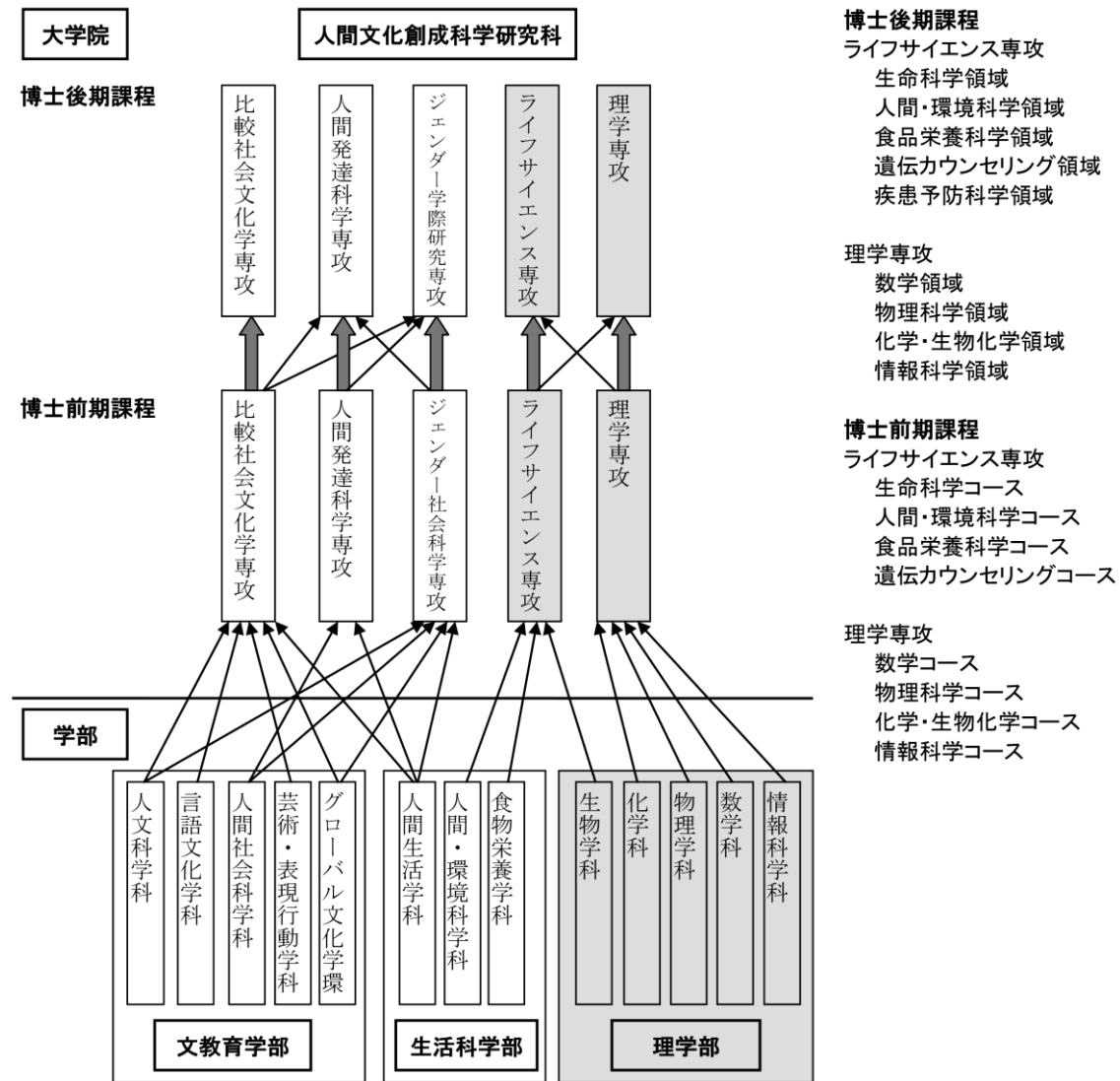
〔注〕

- (※1) 「高大連携特別入試」一本学附属高等学校からの推薦入試の特別入試（3学部で定員10名）は、前期日程に含む。
- (※2) 「AO入試」の募集人員（10名以内）は、後期日程に含む。ただし、後期日程の募集を行わない学科については、前期日程に含む。
- (※3) 文教育学部言語文化学科、文教育学部芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」、生活科学部人間生活学科では、前期日程のみの募集で、後期日程の募集は行わない。
- (※4) 「帰国子女等」は「帰国子女・外国学校出身者特別入試」を表し、合格者（若干名）は、前期日程の合格者に含む。
- (※5) 文教育学部芸術・表現行動学科ではAO入試の募集は行わない。
- (※6) 理学部化学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科では、推薦入試、帰国子女・外国学校出身者特別入試の募集は行わない。

○「私費外国人留学生特別入試」の募集人員は、各学科とも若干名。

(出典：平成27年度入学者選抜要項 p.9 より抜粋)

資料 P-5 学部大学院教育組織図



Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 基本的組織の編成

＜基本的組織の概要＞

自然科学の基礎となる、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科を備え、理学の専門教育のみならず、全学の理系基礎教育・教養教育も責任を持って担当できる組織である。(全学の理数系基礎科目のほとんどを理学部教員が担当。)担当専任教員数は、各学科ともおおむね十数名であり、各学科において教育に必要な研究分野の教員が確保されている。また、女性教員の割合は約3割である。教員1人当たりの学生数は8人弱である。各学科学生定員は、情報科学科の40人が最大で、それ以外は、20～25人であり、小クラスの教育の場が確保されている(資料 E-1-1-1 理学部担当教員配置表、資料 E-1-1-2 学科別定員、現員、卒業者数、資料 E-1-1-3 理学部各学科教員担当分野の編成)。

＜専任教員の配置＞

各学科とも、当該分野の教育をほぼカバーできる専任教員を有している。さらに、遺伝子工学、ナノ界面化学、複雑系科学といった新しい領域や、生命情報学、ケミカルバイオロジーのような分野横断型領域への教員の配置も行われている。また、各科目を担当する教員は、それにふさわしい教育の背景となる研究における実力を備えている(資料 E-1-1-3 理学部各学科教員担当分野の編成、資料 E-1-1-4 授業科目と担当教員の研究(代表例))。

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅰ

資料 E-1-1-1 理学部担当教員配置表（教育支援者含む）（平成27年8月現在）

単位：人、かつこ内は女性の人数

	教授	准教授	講師	助教	教員計	AA**
数学科	4	3(1)	2(2)	1	10(3)	2(2)
物理学科	9(1)	2(1)		2	13(2)	3(3)
化学科	6*(2*)	4(3)		1	11(5)	2(2)
生物学科	7(2)	5(1)		1(1)	13(4)	1(1)
情報科学科	7(1)	6(1)			13(2)	3(3)
共通***	1		1(1)		2(1)	
計	34(6)	20(7)	3(3)	5(1)	62(17)	11(11)

* 理事1名を含む

** アカデミック・アシスタント

*** ライフワールド・ウォッチセンター、ラジオアイソトープ実験センター

（出典：学務課資料）

資料 E-1-1-2 学科別定員、現員、卒業生数

年度	学科	入学 定員	3年次 編入学 定員	在籍数					3年次 編入	外国人留 学生	留年 生数	卒業生 数	科目等履修 生・聴講生・ 研究生等
				1年次	2年次	3年次	4年次	合計					
平成 22 年度	数学科	20		23	23	24	24	94	3			23	
	物理学科	20		21	25	23	34	103	1			26	
	化学科	20		22	22	23	26	93	0			24	
	生物学科	25		25	24	28	29	106	1			26	
	情報科学科	40		39	42	43	49	173	3			47	
	学部計	125	10	130	136	141	162	569	8	1	19	146	7
平成 23 年度	数学科	20		20	23	25	25	93	2			23	
	物理学科	20		22	21	26	30	99	1			24	
	化学科	20		21	22	22	23	88	0			21	
	生物学科	25		27	24	27	31	109	3			28	
	情報科学科	40		43	38	44	45	170	2			41	
	学部計	125	10	133	128	144	154	559	8	2	11	137	10
平成 24 年度	数学科	20		22	18	22	27	89	0			24	
	物理学科	20		22	21	23	30	96	2			23	
	化学科	20		23	21	24	24	92	1			22	
	生物学科	25		27	27	25	28	107	1			25	
	情報科学科	40		40	42	39	47	168	1			43	
	学部計	125	10	134	129	133	156	552	5	2	12	137	10
平成 25 年度	数学科	20		20	22	20	24	86	2			20	
	物理学科	20		22	22	23	30	97	2			27	
	化学科	20		21	23	24	25	93	3			21	
	生物学科	25		27	26	27	28	108	0			25	
	情報科学科	40		39	39	45	42	165	3			38	
	学部計	125	10	129	132	139	149	549	10	2	15	131	7
平成 26 年度	数学科	20		22	19	25	22	88	3			20	
	物理学科	20		23	22	22	26	93	0			23	
	化学科	20		22	21	26	27	96	3			24	
	生物学科	25		28	27	27	29	111	1			25	
	情報科学科	40		40	39	40	49	168	1			44	
	学部計	125	10	135	128	140	153	556	8	4	13	136	9

（出典：学務課資料）

資料 E-1-1-3 理学部各学科教員担当分野の編成

○その１： 各学科の概況

数学科	解析、代数、幾何という構成で、数学の分野としてバランスがとれており、現代数学の基礎教育を実施するために必要な構成となっている。
物理学科	素粒子・宇宙物理学から物性物理学まで、物理学の各専門分野の教員が確保されるとともに、学士課程において、これらの専門分野の土台となる物理学の基礎教育を実施できる構成となっている。
化学科	物質の関わる広い分野をカバーしつつ、近年拡大している生命化学分野にも配慮しながら、各専門分野（物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、生化学）を考慮した布陣となっている。
生物学科	生化学、遺伝学、発生生物学、生理学、細胞生物学、生命情報学などの専門分野を中心に、分子レベルからマクロな地球レベルにわたる教育ができる体制となっており、急速に発展しつつある現代生物学の動向に対応した基礎教育が可能な構成となっている。
情報科学科	情報科学の数学的基礎から、コンピュータグラフィックス、ネットワーク、人工知能、流体シミュレーションなど情報科学の最先端に至るまで幅広い教育が可能な構成となっている。

○その２： 各学科担当教員の研究分野一覧

(平成 27 年 8 月現在在籍 教授、准教授、助教)

学科	職名	氏名	研究テーマまたは分野
数学科	教授	塚田 和美	微分幾何学
	教授	中居 功	幾何学 (WEB 幾何学)、位相幾何学 (特異点論、複素力学系)
	教授	真島 秀行	複素領域における微分方程式論
	教授	横川 光司	代数幾何学、ホモトピー数学
	准教授	大場 清	位相幾何学
	准教授	戸田 正人	幾何学周辺
	准教授	萩田 真理子	離散数学
	講師	古谷 希世子	関数解析学 (特に、発展方程式と偏微分方程式)
	講師	堀江 充子	代数的整数論
	助教	山下 真	作用素環論、非可換幾何学
物理学科	教授	奥村 剛	ソフトマター物理、化学物理
	教授	小林 功佳	物性理論、表面物理学
	教授	菅本 晶夫	素粒子物理学、高エネルギー物理学
	教授	曹 基哲	高エネルギー物理学、素粒子物理学
	教授	出口 哲生	統計物理学、数理物理学、ソフトマター物理
	教授	浜谷 望	結晶物理学、極限物性学
	教授	番 雅司	量子情報理論、非平衡統計力学
	教授	古川 はづき	強相関電子系の物性実験、中性子散乱
	教授	森川 雅博	宇宙物理学、非平衡の場の理論
	准教授	北島 佐知子	量子情報理論、非平衡統計力学
	准教授	外館 良衛	凝縮系物理学、協力現象と創発、磁性体物理学
	助教	梅原 利宏	複雑系水溶液の誘電緩和
	助教	河野 能知	素粒子物理と LHC/ATLAS 実験、検出器開発
	教授	小川 温子	生物化学、糖質科学、分子生命化学
化学科	教授	近藤 敏啓	電気分析化学、ナノ界面化学、自己組織化
	教授	鷹野 景子	計算化学、理論化学、コンピュータシミュレーション・分子認識機構
	教授	益田 祐一	物理化学、溶液化学
	教授	森 義仁	非線形化学、非平衡系化学
	教授	山田 眞二	合成有機化学、有機光化学、固体有機化学
	准教授	相川 京子	生化学、細胞生物学、タンパク質科学
	准教授	棚谷 綾	有機構造化学、医薬化学、超分子化学

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅰ

	准教授	森 寛敏	理論化学、量子分子化学、分子軌道計算・分子動力学計算・d/f-ブロック元素
	准教授	矢島 知子	有機合成化学、立体選択的合成、有機フッ素化学
	助教	三宅 亮介	錯体化学、超分子化学、生体機能関連化学
生物学科	教授	加藤 美砂子	植物分子生理学、カフェイン生合成・植物脂質の代謝制御・微細藻類の環境影響評価
	教授	小林 哲幸	細胞生化学・脂質分子・メタボローム解析
	教授	作田 正明	植物生理学、植物色素の分子進化・転写ネットワーク
	教授	千葉 和義	細胞観測法の開発、発生・細胞生物学
	教授	松浦 悦子	ミトコンドリアの複製と発現の仕組み、分子遺伝学
	教授	最上 善広	動物生理学・宇宙生物学・細胞運動
	教授	由良 敬	生命情報学
	准教授	清本 正人	海産動物の発生生物学、形態形成と細胞分化
	准教授	近藤 るみ	分子進化学、集団遺伝学
	准教授	寫田 智	多様性生物学・海洋植物、適応分子進化・系統地理・集団遺伝構造解析
	准教授	服田 昌之	サンゴを中心とした動物進化の遺伝的研究
	准教授	宮本 泰則	分子細胞生物学・神経細胞・細胞接着
	助教	佐藤 敦子	環境発生進化学
情報科学科	教授	浅本 紀子	離散数学・文書処理系
	教授	伊藤 貴之	情報可視化・マルチメディア
	教授	小口 正人	ネットワークコンピューティング・ミドルウェア
	教授	河村 哲也	数値流体力学・数値シミュレーション
	教授	小林 一郎	知能情報処理
	教授	椎尾 一郎	ヒューマンインタフェース
	教授	吉田 裕亮	応用解析学・作用素環論
	准教授	浅井 健一	プログラミング言語
	准教授	粕川 正充	コンピュータアーキテクチャ
	准教授	工藤 和恵	数値計算・統計力学
	准教授	郡 宏	複雑系科学
	准教授	齋藤 豪	画像処理・コンピュータグラフィックス
	准教授	戸次 大介	数理言語学・理論言語学

*ライフワールド・ウォッチセンター、ラジオアイソトープ実験センター担当者を除く。

お茶の水女子大学理学部 分析項目 I

資料 E-1-1-4 授業科目と担当教員の研究 (代表例)

所属学科・教員名	授業科目	研究論文
数学科・山下 真	積分論 1, 2、微分積分学 1~4、関数解析特論、解析学特別講義、数学英語	K. De Commer, A. Freslon, M. Yamashita; "CCAP for universal discrete quantum groups", Comm. Math. Phys. 331 (2014), no. 2, 677-701.
数学科・中居 功	線形代数学 3, 4、微分積分学 5、集合論 3、位相構造特論、	I. Nakai; Webs and singularities, Journal of Singularities, Vol.9(2014), 151-167.
物理学科・奥村 剛	ソフトマター物理	Yuka TAKEHARA and Ko OKUMURA, High-velocity drag friction in granular media near the jamming point, Phys. Rev. Lett. 112 (2014) 148001.
物理学科・曹 基哲	素粒子物理学	G.C. Cho, K. Hagiwara, Y. Matsumoto, D. Nomura: "The MSSM confronts the precision electroweak data and the muon g-2", JHEP 1111 068(2011).
化学科・鷹野景子	計算化学、物理化学 I 基礎科学 B、基本化学実験 III、専門化学実験 I、化学演習 I, II、特別研究 I, II	M. Otsuka, N. Tsuchida, Y. Ikeda, Y. Kimura, Y. Mutoh, Y. Ishii, K. Takano, DFT study of internal alkyne-to-disubstituted vinylidene isomerization in [CpRu(PhC≡CAr)(dppe)] ⁺ , J. Am. Chem. Soc. 2012, 134(42)17746-56
化学科・山田眞二	有機化学 III、有機化学 IV、基礎科学 A、専門化学実験 II、化学演習 I, II、特別研究 I, II	S.Yamada, N.Yamamoto, E.Takamori: A Molecular Seesaw Balance: Evaluation of Solvent and Counteranion Effects on Pyridinium π Interactions, Org. Lett. 2015, 17, 4862-4865.
生物学科・加藤美砂子	代謝生物学、植物生理学、遺伝子工学、代謝生物学実習、分析・光学機器実習、生物学実習 II、基礎生物学 A、特別研究 I, II、生物学演 I, II	Matsuwaki, I., Harayama, S. and Kato M. Assessment of the biological invasion risks associated with a massive outdoor cultivation of the green algae, Pseudochoircystis ellipsoidea" Algal Research 9, 1-7 (2015)
生物学科・最上善広	生物物理学、バイオメカニクス、動物生理学、LA 生命と色・音・香、LA 基礎生命科学、動物生理学実習、動物生理学臨海実習、分析・光学機器実習、生物学実習 I、特別研究 I, II、生物学演習 I, II	Kage, A., and Mogami, Y. "Individual Flagellar Waveform Affects Collective Behavior of Chlamydomonas reinhardtii." Zoological Science 32, 396-404 (2015)
情報科学科・伊藤貴之	コンピュータが創る色と音、情報処理学、コンピュータビジョン、マルチメディア、コンピュータグラフィックス	T. Itoh, K. Klein, Key-node-Separated Graph Clustering and Layout for Human Relationship Graph Visualization, IEEE Computer Graphics and Applications, Vol. 35, No. 6, pp. 30-40, 2015.
情報科学科・小口正人	情報科学、コンピュータネットワーク I、コンピュータネットワーク II	Asami Higai, Atsuko Takefusa, Hidemoto Nakada and Masato Oguchi: "A Study of Effective Replica Reconstruction Schemes for the Hadoop Distributed File System" IEICE Transactions on Information and Systems, Vol.E98-D, No.4, pp.872-882, April (2015).

2. 多様な教員の確保の状況とその効果

理学部の教員組織の構成は、若手層が薄い現状であり、職階に関しては、ほとんどが教授職と准教授職で構成されている。また、女性教員を3割近く有するのは特徴的であり、理学部学生にとっては、最も身近な女性科学者・研究者であり、良き憧憬効果を与えていると考えられる（資料 E-1-2-1 理学部教員組織）。

資料 E-1-2-1 理学部教員組織（理学部教授会構成教員*）

平成 27 年 10 月 1 日現在

年齢区分	教授		准教授		講師		助教		助手		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
25～29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30～34	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
35～39	0	0	2	1	0	0	2	1	0	0	4	2
40～44	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	2	4
45～49	5	1	3	0	0	0	0	0	0	0	8	1
50～54	6	2	3	2	0	0	1	0	0	0	10	4
55～59	7	1	3	0	0	1	0	0	0	0	10	2
60～64	8	1	0	0	0	2	0	0	0	0	8	3
65	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
合計	28	5	13	7	0	3	4	1	0	0	45	16

* ライフワールド・ウオッチセンター、ラジオアイソトープ実験センターを含む。理事は含まない。

（出典：学務課及び人事労務課資料）

3. 国際的な教育体制への整備

平成 25 年度から外国語必修単位数の増加（資料 E-1-3-1 外国語科目の履修強化）、平成 26 年度から四学期制導入、第 2 学期に必修科目を置かない工夫により海外サマープログラム参加を促すなど、国際交流促進に努め、また、海外大学との交流協定拡大により学生の海外留学機会の確保に努めている（資料 E-1-3-2 大学間交流協定校一覧）。

資料 E-1-3-1 外国語科目の履修強化

平成 27 年度理学部履修規程 (平成 27 年度履修ガイド p. 240 より抜粋)			平成 24 年度理学部履修規程 (平成 24 年度履修ガイド p. 205 より抜粋)		
別表第3 コア科目 (第5条関係)			別表第3 コア科目 (第5条関係)		
授業科目	単位数	備考 (ローマ数字は、標準履修年次を示す。)	授業科目	単位数	備考 (ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
外国語 (必修)	12	<p>●数学科、物理学科、化学科、生物学科：英語・ドイツ語・フランス語・中国語から 1 か国語を 12 単位修得すること。</p> <p>●情報科学科：英語を 8 単位修得すること。残りの 4 単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語から修得すること。</p> <p>* : 必修単位に充てることができる基本科目。</p> <p>* * : 情報科学科の学生のみが必修単位に充てることができる準基本科目。</p> <p>* または * * の付いていない科目の単位は、特別措置等による認定がない限り、必修単位に充てることができない。</p>	外国語 (必修)	8	<p>* 必修単位に充てることができる基本科目。</p> <p>英語を選択した場合、残り 2 単位は、数学科：数学英語、物理学科：物理英語、化学科：化学英語、生物学科：生物学外書講読、情報科学科：英文講読で満たすこと。</p>

お茶の水女子大学理学部 分析項目 I

資料 E-1-3-2 大学間交流協定校一覧（学生派遣可能な協定校のみ）（2015 年 1 月現在）

協 定 校	国 名	締結年月日
アジア（23校）		
韓国芸術総合学校舞踊院	大韓民国	2011. 01. 17
慶北大学校	大韓民国	2011. 06. 22
啓明大学校	大韓民国	2013. 07. 09
淑明女子大学校	大韓民国	2000. 02. 14
同徳女子大学校	大韓民国	2005. 03. 30
釜山大学校	大韓民国	2012. 03. 21
梨花女子大学校	大韓民国	2000. 02. 28
アジア工科大学院大学	タイ	2004. 12. 29
タマサート大学	タイ	2007. 06. 13
チェンマイ大学	タイ	2010. 05. 27
プリンス・オブ・ソンクララー大学	タイ	2009. 08. 14
開南大学	台湾	2012. 05. 25
国立政治大学	台湾	2001. 07. 25
国立台北芸術大学	台湾	2002. 01. 29
国立台湾大学	台湾	1999. 12. 17
大連外国語大学	中国	2006. 10. 02
北京外国語大学	中国	2005. 10. 17
北京大学歴史学系	中国	2002. 01. 26
復旦大学歴史学系	中国	2010. 10. 12
国立ハノイ教育大学	ベトナム	2008. 03. 03
ハノイ大学	ベトナム	2013. 02. 18
ベトナム科学技術アカデミー・ゲノム機関	ベトナム	2013. 10. 15
インドネシア芸術大学デンパサール校	インドネシア	2014. 01. 10
中東（1校）		
アンカラ大学	トルコ	2007. 08. 08
アフリカ（2校）		
カイロ大学	エジプト	2007. 03. 15
マンソウラ大学	エジプト	2003. 03. 30
北米（6校）		
ヴァッサー大学	アメリカ	2006. 06. 01
カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ	2014. 01. 02
カリフォルニア大学デービス校	アメリカ	2010. 09. 30
カリフォルニア大学リバーサイド校	アメリカ	2014. 04. 14
パーデュー大学	アメリカ	2004. 01. 26
南オレゴン大学	アメリカ	2012. 10. 22
オセアニア（3校）		
ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	2011. 09. 30
モナシュ大学	オーストラリア	1994. 12. 14
オタゴ大学	ニュージーランド	2003. 12. 19
ヨーロッパ（26校）		
オックスフォード大学クイーンズコレッジ	イギリス	1994. 01. 18
マンチェスター大学	イギリス	2009. 09. 15
ハル大学	イギリス	2013. 10. 02
ロンドン大学キングスカレッジ	イギリス	2013. 12. 02
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院	イギリス	1999. 08. 05
国立ナポリ大学オリエンターレ	イタリア	2011. 01. 11
コッレージョ・ヌオーヴォ	イタリア	2013. 03. 25
‘サピエンツァ’ローマ大学	イタリア	2012. 07. 12
ウィーン工科大学	オーストリア	2002. 12. 05
リンショープビン大学	スウェーデン	2012. 01. 12
スロバキア工科大学	スロバキア	2003. 03. 04
カレル大学	チェコ	2004. 09. 07
ケルン大学	ドイツ	2010. 03. 18
バーギシェ・ブッパタール大学	ドイツ	2002. 02. 24
ブレーメン応用科学大学	ドイツ	2011. 01. 21
セントリア先端科学大学	フィンランド	2009. 12. 01
タンペレ大学	フィンランド	2003. 02. 13
ストラスブール大学	フランス	2002. 07. 05

お茶の水女子大学理学部 分析項目 I

パリ・ディドロ（パリ第7）大学	フランス	2008. 02. 01
パリ市立工業物理化学高等学校	フランス	2014. 10. 08
フランス研究開発機関	フランス	2014. 11. 24
ブレーズ・パスカル（クレルモン第2）大学	フランス	2009. 08. 28
ボルドー第一大学	フランス	2011. 03. 01
ワルシャワ大学	ポーランド	2010. 02. 10
ブカレスト大学	ルーマニア	2009. 08. 03
トムスク国立教育大学	ロシア	2002. 07. 03

(出典：国際課資料)

4. 外部組織との連携

＜他大学との単位互換制度＞

平成 27 年度末現在において、理学部では都内 5 校（東京工業大学、東京芸術大学、東京外国語大学、東京海洋大学、一橋大学）と単位互換協定を締結している。公開臨海実習に係る特別聴講制度も有している。

単位互換協定に基づく派遣先は、東京工業大学が最も多い。公開臨海実習は、生物学科学生によるものが主である。公開臨海実習に係る特別聴講制度により、全国の大学からの受入れを行っている（資料 E-1-4-1 単位互換の状況）。

資料 E-1-4-1 単位互換の状況

平成 22-27 年度（理学部派遣）

	派遣先大学	科目名	人数
平成 22 年度	東京工業大学	実解析第一	1
	東京工業大学	解析力学	1
	東京工業大学	情報認識	1
	東京工業大学	実解析第二	1
	東京工業大学	微生物工学	3
	東京工業大学	光物理学	1
	北海道大学	公開臨海実習	1
	琉球大学	公開臨海実習	1
平成 23 年度	東京工業大学	生物物理学概論	2
	東京工業大学	物理実験学	1
	東京工業大学	非協力ゲーム理論	1
	東京工業大学	量子力学第一	2
	東京工業大学	土地利用計画論	2
	九州大学	臨海実習 B	1
平成 24 年度	東京工業大学	熱・統計力学第二	2
	東京工業大学	量子力学第二	1
	信州大学	陸水生物学実習	1
	高知大学	臨海実習 B	1
平成 25 年度	東京外国語	ヨーロッパ文学Ⅲ(講義)	1
	東京工業大学	分子神経科学	1
	東京工業大学	集合と位相第一	1
	東京工業大学	集合と位相第一 演習	1
	東京工業大学	都市計画概論	1
	東京海洋大学	基礎物理海洋学	1
	東京海洋大学	食品マーケティング論	1
	東京工業大学	流体科学第二	1
	東京工業大学	原子核物理学概論	1
	東北大学	海洋生物学及び実習Ⅲ	1
	筑波大学	生物学公開臨海実習	2
	名古屋大学	海洋生物学実習及び講義Ⅰ	1
平成 26 年度	東京工業大学	宇宙プラズマ物理学	2

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅰ

平成 27 年度	東京工業大学	代数系と符号理論	1
	東京工業大学	一般相対論	1
	東京工業大学	無機化学(工)第一	2
	東京工業大学	位相幾何学	1
	東京工業大学	現代物理学序論第一	1
	東京工業大学	物理化学第三	1
	九州大学	臨海実習Ⅱ	1
	神戸大学	公開臨海実習 B コース	1
	新潟大学	臨海実習Ⅱ	1
	東京工業大学	反応工学第一	2

(出典：学務課資料)

平成 22-27 年度（理学部受入れ）

年度	受入学生所属大学	科目名	人数	年度	受入学生所属大学	科目名	人数
22				26	一橋大学	発生生物学	1
23	筑波大学	公開臨海実習	1		一橋大学	分子遺伝学	1
	奈良女子大学	公開臨海実習	1		一橋大学	分子細胞情報学	2
	九州大学	公開臨海実習	2		一橋大学	動物系統学	2
	麻布大学	公開臨海実習	1		東京海洋大学	有機化学Ⅲ	1
	北里大学	公開臨海実習	1		東京海洋大学	コンピュータグラフィックス	2
	名城大学	公開臨海実習	2		東京海洋大学	Summer Program in English II	3
24	千葉大学	公開臨海実習	1		弘前大学	公開臨海実習	2
	東京大学	公開臨海実習	1		岩手大学	公開臨海実習	1
	東京農工大学	公開臨海実習	1		茨城大学	公開臨海実習	1
	長岡技術科学大学	公開臨海実習	2		筑波大学	公開臨海実習	2
	富山大学	公開臨海実習	1		東京工業大学	公開臨海実習	1
	豊橋技術科学大学	公開臨海実習	1		東京農工大学	公開臨海実習	1
	東京農工大学	公開臨海実習	1		山梨大学	公開臨海実習	2
	鳥取大学	公開臨海実習	1		京都大学	公開臨海実習	1
	九州大学	公開臨海実習	1		鹿児島大学	公開臨海実習	1
	滋賀県立大学	公開臨海実習	1		桜美林大学	公開臨海実習	2
	関西大学	公開臨海実習	1		中央大学	公開臨海実習	1
	神戸女学院大学	公開臨海実習	1		東京電機大学	公開臨海実習	1
	長浜バイオ大学	公開臨海実習	1		東洋大学	公開臨海実習	1
25	弘前大学	公開臨海実習	1		日本女子大学	公開臨海実習	1
	宮城教育大学	公開臨海実習	2		長浜バイオ大学	公開臨海実習	1
	千葉大学	公開臨海実習	1	27	秋田大学	公開臨海実習	1
	東京農工大学	公開臨海実習	1		千葉大学	公開臨海実習	2
	東京海洋大学	公開臨海実習	2		京都工芸繊維大学	公開臨海実習	1
	名古屋工業大学	公開臨海実習	1		東京電機大学	公開臨海実習	3
	京都工芸繊維大学	公開臨海実習	3		大妻女子大学	公開臨海実習	4
	九州大学	公開臨海実習	1		東洋大学	公開臨海実習	1
	麻布大学	公開臨海実習	1		東京工業大学	生命情報学概論(1)	1
	桜美林大学	公開臨海実習	1		東京工業大学	生命情報学概論(2)	1
	北里大学	公開臨海実習	1		東京海洋大学	進化生物学	1
	慶應義塾大学	公開臨海実習	1				
	東海大学	公開臨海実習	1				
	東洋大学	公開臨海実習	1				
	立教大学	公開臨海実習	2				
	名城大学	公開臨海実習	1				
	福井工業大学	公開臨海実習	2				
	近畿大学	公開臨海実習	2				
	一橋大学	物理化学Ⅰ	2				
	一橋大学	生物統計学	1				
	東京工業大学	コンピュータグラフィックス	2				

5. 入学者選抜方法の工夫とその効果

帰国子女・外国学校の特別入試の制度に加えて、附属高等学校からの高大連携特別入試を実施している。附属高等学校理数系教員との定期的な協議会（理数協議会）の開催や、新入生に対する理数分野の基礎知識、高等学校での理数科目の履修状況の調査を実施し、高等学校教育課程改訂への対応をはじめとして、高大接続教育に継続的に取り組んできた。

6. 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

教員の授業及び指導能力の向上のため FD の一環として理学部教員は積極的に海外研修に出掛けている（資料 E-1-6-1 国際規格の FD 戦略事業による理学部教員の海外派遣研修一覧）。

さらに、教員の他機関との人事交流を行うことにより、他大学の教育研究システムを参考にして、大学の教育研究を活性化させることができるように、平成 22 年 5 月に「東京工業大学との間における教員の人材交流に関する協定書」を締結した。本協定により、理学部教員 1 名が東京工業大学に 3 年間出向した。また、東京工業大学からは 1 名の教員を出向により受け入れている。

資料 E-1-6-1 国際規格の FD 戦略事業による理学部教員の海外派遣研修一覧

2014.02	平成 25 年度 第 15 回 教員海外派遣研修(チェコ・イギリス) 教授:古川はづき
2014.02	第 14 回 教員海外派遣研修 独国 European Molecular Biology Laboratory (EMBL) 教授:千葉 和義
2012.12	第 10 回 教員海外派遣研修 和蘭 アムステルダム大学 准教授:戸次 大介
2012.12	第 9 回 教員海外派遣研修 豪州 シドニー大学 教授:伊藤 貴之
2010.1	第 5 回 教員海外派遣研修 丁抹 コペンハーゲン大学 教授:吉田 裕亮

7. 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

平成24年度に外部評価を実施し、平成25年 8 月に外部評価結果報告書を作成するとともに、指摘を受けた事項について、「改善を要する点」対応説明書を作成した（資料 E-1-7-1 平成24年度自己点検・評価及び外部評価の「改善を要する点」対応説明書（抜粋））。また、学部長と各科選出委員により構成される理学部自己点検・評価委員会を設置し、自己点検及び自己評価に努めている（資料 E-1-7-2 平成27年度理学部自己点検・評価委員会名簿）。

理数に関して強い学習意欲を持つ学生の意欲・能力を伸ばし、将来有為な科学技術関係人材を育成することを目的として、「理数学生応援プロジェクト：理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育」を平成21年度から平成24年度の期間プロジェクトとして実施した（資料 E-1-7-3 理数学生応援プロジェクト）。同事業期間終了後も独自に、研究に意欲的な 2 年次あるいは 3 年次の学部学生を対象とした、アドバンスト・プログラム（プレ卒研）を後継プロジェクトとして継続して実施している。さらに、その成績顕著な学生は学部長表彰として顕彰している（資料 E-1-7-4 【理数学生応援プロジェクト及び後継事業】優秀学生の表彰）。

全学的な取組としての「カラーコードナンバリング」及び改良型の「GPA制度」を導入した。カラーコードナンバリングでは、科目ごとに色分けし、学習経験に応じた履修の順序性を設定し色で表現することで到達目標を明確に可視化した（資料 E-1-7-5 カラーコードナンバリングの例）。

お茶の水女子大学理学部 分析項目 I

資料 E-1-7-1 平成 24 年度自己点検・評価及び外部評価の「改善を要する点」対応説明書(抜粋)

(http://www.ocha.ac.jp/introduction/hyouka/info/hyouka05_d/fil/050204_24ri.pdf)

○平成 24 年度 自己点検・評価及び外部評価の「改善を要する点」対応説明書(抜粋)

指摘事項	対応・改善策
<p>【改善を要する点】</p> <p>○ 教員定数の削減と相関して、いくつかの点検項目において、将来にわたり現在の学部運営および教育研究の水準を維持することは難しいことが予想されている。この点は見過ごすことの出来ない重要な問題で有り、改善へ向けた方策の早期策定がのぞまれる。(P6、89)</p>	<p>【理学部】</p> <p>教員定数の削減は全学的問題であるので、大学執行部との話し合いを通じて改善の方向を模索するとともに、理学部としても、優れた取り組みである「学際プログラム」、「理数応援プロジェクト」ならびに「卒研シフト」を継続実施するために必要な経費および人員を確保するために、新たな外部資金等の獲得に向けて鋭意努力を行う。</p>
<p>【改善を要する点】</p> <p>○ 複数プログラムの実施など、意欲的かつ学生に対するきめ細かい対応が、カリキュラムの複雑化、教員の過度の負担増などにつながらないか危惧され、節目ごとに各種の試みの成果を客観的に評価し、必要に応じた見直しが望まれる。(P6、89)</p>	<p>【理学部】</p> <p>教育プログラムの改革は今端緒にいたばかりである。したがって少し経過を見て、適正な評価を行った後に、継続の如何を審議する。ただし、教育プログラムの改革は全学的問題であるので、本学が今後どのような教育を志向するか全学的議論を通じて、理学部としての改善の方向を模索する。</p> <p>【教育機構(教育企画室)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数プログラム選択履修制度のカリキュラムを定期的に見直し、科目の精査などカリキュラムのブラッシュアップを行う。科目を精査することにより、教員に対する不必要な科目負担増、事務負担増を減少させることを試みる。

資料 E-1-7-2 平成27年度理学部自己点検・評価委員会名簿

平成 27 年度 理学部内委員会名簿 (H27.4.1現在)

委員会名		数 学	物 理	化 学	生 物	情 報
理学部自己点検・評価委員会	学部長	塚田	浜谷	益田	宮本	小林(一)

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学 理学部

理系女性の意欲と個性に根ざした複線教育

<http://www.sci.ocha.ac.jp/risuouen/>お茶の水女子大学
Ochanomizu University<http://www.ocha.ac.jp/>

個性燦めく理系女子を目指して！

プログラムの紹介

本プログラムでは、学生の個性に応じて主体的に選択できる基礎科目を強化させ、その土台の上に研究意欲を点火する特設授業を実施し、さらに高い意欲のある学生には成果目標を明確にした実践研究を体験してもらい、理系人材の育成を行いました。

本プログラムのメインとなる研究実践力育成のための試みとして、アドバンスト・プログラムを実施しました。このプログラムでは、研究実践力の育成を目指す、学会やコンテストへの参加（受賞）を視野に入れた種々の取組が用意されており、教員や大学院生の TA の指導のもとに、卒研前の 1～3 年の学生が通常のカリキュラムとは別に、より実践的な研究を行いました。この取組の内、「微小重力実験への挑戦」では、最初の年に物理チームが、翌年は化学チームがそれぞれ JAXA 主宰の「学生無重力実験コンテスト」に選ばれ、どちらのチームも、その後、サイエンスインカレおよび学会で研究成果を発表しました。また、「微細藻類のオイル生合成に関する研究」では、1 年生のグループが研究に取り組み、サイエンスインカレでの発表も行いました。このチームは、その後も続けて毎年発表を行って、今年はサイエンス・インカレ・コンソーシアム奨励賞 DERUKUI 賞を受賞しました。

さらに、プログラムの中で特に優れた研究をしたチームは、韓国梨花女子大学で行われた日韓 3 女子大学交流合同シンポジウムに大学院生と共に参加して、英語でのポスター発表を行いました。



お茶大での学生生活は、入学当初に想像していたよりもはるかに濃いものでした。4 年前はまだ将来の夢さえつかめていなかったのですが、今では化学分野の研究に大きな魅力を感じています。この想いは、学科での勉強が面白かったのはもちろんのこと、それ以外にも、研究職に憧れをもつきっかけとなった「産総研インターンシップ」、大きなプロジェクトを遂行することの楽しさを知った「JAXA の無重力実験コンテスト」、同じように研究を志す同世代の学生から刺激を受けた「文科省主催サイエンスインカレ」など、多くのアドバンストプログラムに参加する中で得られたものです。

そして、このような貴重な経験ができたのは、理数学生応援プロジェクトのご支援があったからでした。このような素晴らしいプログラムが用意されたお茶大で、参加を促してくれる方々の先生方のもとで、積極的にそれらに取り組めたからこそ、今後も研究を楽しみたい！と進路を定めることができました。忙しすぎるほど有意義で楽しい思い出でいっぱい 4 年間でした！これから大学生活を楽しむ後輩の皆さんも、このようなプログラムをどんどん活用し、自分の将来設計に向けて充実した 4 年間を過ごしてください。

(化学科 4 年 YM)

STUDENT VOICE



参加学生のメリット

プログラムでは、グローバルに活躍できる人材を育成する目的で、より実践的な英語教育にも力を入れ、特設授業（科学英語 I・II）の開講、海外での語学研修を行いました。語学研修としては、プレ留学的な、3・4 年生を対象にしたドイツのブッパタール大学環境科学サマースクール（2 週間）への参加、1・2 年生を対象にした英国ハル大学での理系語学研修（6 週間）を実施しました。

海外研修は、英語力の向上に役立っただけでなく、グローバル環境でのコミュニケーションの重要性を実感できる良い機会になりました。参加者の中からは、その後海外で発表を行ったり、大学院進学後、海外留学を行う学生が出ています。

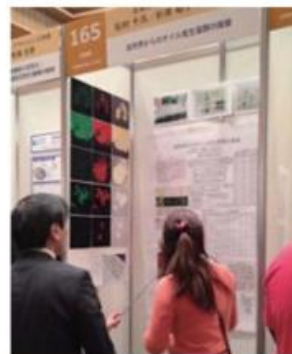
ブッパタール大学環境科学
サマースクール

参加学生の在学中の実績等

この他、プログラムでは、国内の公的研究機関でのインターンシップに学生を派遣しました。インターンシップ中の研究で論文の共同執筆者になった学生もいます。

アドバンスト・プログラムと 3 年生対象のプレ卒研では、多くの学生が 4 年生になる前に学会発表を体験しました。

インターンシップや学会発表を経験した学生の殆どは、その後大学院に進学、または進学を目指しています。さらに、このプログラムでの体験を通して、研究の面白さに目覚め、将来研究者を目指したいと考えている学生もいます。また、プログラムで行った研究をきっかけに、所属学科の分野を超えた領域での研究に進む学生も出ています。



プログラムへの参加条件

少人数制の大学であるため、特設授業に関しては、本学の理数学科に所属している学生であれば、特に参加条件はなく、希望すれば履修可能です。アドバンスト・プログラムや海外語学研修、インターンシップについては、学業成績と参加への意欲に基づき選抜を行います。

入試について

一般入試の他、AO 入試・推薦入試を行います。これらについては、高校での理数系活動実績も評価に取り入れていきます。また、高大連携入試も実施しています。



連絡先

お茶の水女子大学
理数学生応援プロジェクト
risuouen@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学
入試チーム
nyushi@cc.ocha.ac.jp

資料 E-1-7-4 【理数学生応援プロジェクト及び後継事業】優秀学生の表彰

対象 年度	賞	受賞者	研究課題	プログラ ム
H26	優秀研究賞	生物学科 2 年 笹野祥愛	サンゴプラヌラ幼生の遊泳特性	A
		情報科学科 3 年 飯島采永、佐藤果穂	自然言語処理における確実性判断のためのコーパス構築	P
H25	優秀研究賞	生物学科 3 年 杉井昭子、小山香梨、鈴木裕香	オイル産生藻類の環境応答	A
		生物学科 3 年 菊池彩花	ミドリイシサンゴの初期骨格形成	A
		情報科学科 4 年 石井柚季 情報科学科 3 年 岩崎愛	シミュレーション技術を活用した教育用ゲームソフトの開発	P
		情報科学科 3 年 宇津木舞香、佐藤未歩、青木花純	アノテーション技術を利用した自然言語の形式名詞解析の試み	P
H24	優秀研究賞	生物学科 2 年 松村千汎、杉井昭子、小山香梨、鈴木裕香	自然界からのオイル産生藻類の探索	A
		情報科学科 3 年 叢悠悠、中村絢子、酒向美帆、佐宗智子、清水蘭、劉月晴	自然言語処理における確実性判断のためのコーパス構築	P
		生物学科 2 年 濱野文菜、東根佳寿	ミドリイシサンゴの着生変態機構	A
		化学科 3 年 増本優衣、山田有紗、漆原紅 化学科 1 年 伊勢茜	微小重力実験への挑戦	A
	優秀発表賞	生物学科 1 年 大島実莉	Significance of basic study in biology	A
H23	優秀研究賞	生物学科 3 年 高橋志帆	ミドリイシサンゴ初期ポリプの出芽パターン	A
		生物学科 2 年 川井優里	「遺伝子発現データに基づく HTF アイランドプロモータの定義と配列の特徴」および「選択的スプライシング産物のデータベース構築」	A
		生物学科 1 年 小山香梨、杉井昭子、松村千汎	自然界からのオイル産生藻類の探索	A
		情報科学科 3 年 田中リベカ、小池恵里子	グランドチャレンジ「人工頭脳プロジェクト」における確実性判断のためのアノテーション・スキーマ	P
		物理学科 3 年 野中杏菜、八木澤唯	航空機による学生無重力実験コンテスト採択 & 実験実施	A

プログラム A=アドバンス・プログラム P=プレ卒業研究

資料 E-1-7-5 カラーコードナンバリングの例

生物学科

	主：60 単位	強化：20 単位
主プログラム ①教育目標 生物学は自然科学の1分野にとどまらず、周辺領域の医学、薬学、農学、情報学などの学問分野に影響を与え、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼしている。このような時代背景の下で、生物学を学んだ人材の必要性は益々高まっている。生物学主プログラムでは、1、2年次における生物学の基礎分野の講義と基本的な実習によって、核となる知識・理解力・論理力・実験手法を身につけ、3、4年次での専門的な実習及び特別研究を通して、実践力のある人材を育成することを目標とする。		
②内容・構成 上記の目標を達成するために、生物学主プログラムは、学年ごとに段階的に学習を積み重ねる構成内容となっている。1、2年次は、生物学の基礎概念を理解するための必修科目（26 単位）及び基礎的な実験手法を学ぶ必修実習（4 単位）を中心として学んでいく。2、3年次では、この基礎の上に、生物学の各分野の実験手法を学ぶ選択必修実習（8 単位以上）及び選択科目を学ぶ。その後、3年次において生物学強化プログラム、学際プログラム、または他学科の副プログラムを学び、生物学主プログラムの総まとめとしての特別研究（12 単位）及び生物学演習（4 単位）を4年次において履修する。		
強化プログラム ①教育目標 生物学主プログラムを履修する学生を対象に、生物学各分野の専門性の高い講義と実習を含む科目群を提供する。これらの科目群の中から各自の興味に応じた科目を選択することにより、より広く高度な応用的または先進的な知識・理解力・論理力・実践手法を身につけることを目的とする。この強化プログラムを踏まえて、実践的な研究活動を行う主プログラムの特別研究に移行することにより、高度な専門教育の実践が可能となる。また、この強化プログラムにより、大学院における生物学の特定分野の専門性を高める教育に対して学問的な基礎を身につける。		
②内容・構成 生物学主プログラムを学び終えた学生を対象にしているため、必修の科目は設けずに、多様な高度で専門的な講義及び実習から構成される内容となっている。学生の興味に従い、20 単位以上を履修することが要件である。この強化プログラムは、学生に必要と判断される内容を柔軟に含めることができる構成となっている。学生は、自らの主体的な履修科目の選択により、個性的・独創的な生物学を構築することができる。		

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
生化学	2	I	12402	◎			
生物物理学	2	I	12402	◎			
動物系統学	2	I	22402	◎			
植物系統学	2	II	22402	◎			
動物生理学	2	II	22402	◎			
植物生理学	2	I	22402	◎			
代謝生物学	2	II	22402	◎			
基礎遺伝学	2	II	22402	◎			
分子遺伝学	2	II	22402	◎			
細胞生物学	2	II	22402	◎			
発生生物学	2	II	22402	◎			
進化生物学	2	I	12402	◎			
生物統計学	2	II	22402	◎			
生物学実習 I	2	I	22402	◎			
生物学実習 II	2	II	22402	◎			
生物学演習 I	2	IV	32402	◎			
生物学演習 II	2	IV	32402	◎			
特別研究 I	6	IV	32406	◎			
特別研究 II	6	IV	32406	◎			
基礎遺伝学実習	1	II	22401	○	以下の科目から 8 単位以上選択		
分子遺伝学実習	1	III	22401	○			
細胞生物学実習	1	III	22401	○			
細胞生化学実習	1	III	22401	○			
代謝生物学実習	1	III	22401	○			

(出典：平成 27 年度履修ガイド p. 143)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

1. 理学部の教育目的に照らし、適切な専門及び基礎教育を実現できる学科編成と教員配置が行われている。特に、女性教員の構成比率が約3割である点は、女性科学者の活躍を推進させ、理工系女性リーダーを育成していくということにおいて、重要な意味を持つ。(1. 基本的組織の編成、2. 多様な教員の確保の状況とその効果参照)
2. 平成25年度から外国語必修単位数の増加、平成26年度から四学期制導入、海外大学との交流協定拡大により学生の海外留学機会の確保に努めている。
(3. 国際的な教育体制への整備参照)
3. 外部組織との連携として、平成27年度末現在において理学部では都内において5校と単位互換協定を締結し、学生に対し、学内にとどまらず、より広く専門教育を受ける機会を提供している。さらに、附属高等学校からの高大連携特別入試など、高大の継続教育に継続的に取り組んでいる。
(4. 外部組織との連携、5. 入学者選抜方法の工夫とその効果参照)
4. 教員の教育力向上に、平成22年に東京工業大学との間に教員の人材交流に関する協定書を締結した。本協定により理学部教員及び東京工業大学からそれぞれ1名の教員の交流を行っている。
(6. 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果参照)
5. 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫としては、外部評価の実施(平成24年度)、それに基づく「改善を要する点」対応説明書の作成、理学部自己点検・評価委員会による自己点検を行っている。また、学生の学習意欲向上を目的として、文部科学省委託事業「理数学生応援プロジェクト」(平成21-24年度)を実施した。
(7. 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果参照)

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 教育目的の明示

本学の学則において、「理学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成することを目的とする」と、その教育目的並びに、この目的を達成するための理学部各学科の目的が挙げられている（資料 P-2 大学学則（理学部、各学科目的））。これらの目的達成のための工夫として、理学部カリキュラム・ポリシー並びに理学部ディプロマ・ポリシーを策定し、入学時に配布する履修ガイドに明記するとともに、履修指導を通じて学生全員に周知徹底させている（資料 E-2-1-1 理学部カリキュラム・ポリシー、資料 E-2-1-2 理学部ディプロマ・ポリシー）。

また、上記の教育目的に整合したアドミッション・ポリシーを掲げ、多様な選抜方法により、本学部あるいは各学科の教育目的の達成にふさわしい学生を確保している（資料 P-4 理学部アドミッション・ポリシー、資料 P-5 各選抜方法募集人員）。

資料 E-2-1-1 理学部カリキュラム・ポリシー

理学部	
<p>理学は、自然の成り立ちの原理・法則を探究する学問である。理学部では、人類の英知が蓄積された理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につける。自然との中で展開する人間活動を扱う様々な場面において、多大な貢献が出来る次世代のリーダーあるいは中核となる人材育成のための教育を行う。</p> <p>学科により、高等学校・中学校教員免許取得ならびに、学芸員資格取得のための科目を設置する。</p>	
学科	カリキュラム・ポリシー
数学科	<p>数学の基礎的素養として解析学・幾何学・代数学をバランス良く学び、講義で得た知識を、演習・輪講・数学講究（セミナー）を通して実践的に学ぶことにより、抽象化・一般化・厳密性などの数学的論理思考法が身に付けられるようにカリキュラムは編成されている他、数理逍遥など応用的素養のための科目も用意されている。基礎及び応用としての数学的素養を身につけ論理的に問題を捉え解決する能力を持つ人材育成のための教育を行う。</p>
物理学科	<p>物理学の基礎から応用に至るまでの幅広い分野の教育・研究を一貫性を持って遂行することにより、物理現象を理論と実験の双方向から直感的かつ論理的に探究する能力の養成を行う。物理学の探究を通じて、様々な場面で出会う問題に対して還元論的かつ多元的なものの見方を習得し、問題解決能力を向上させ、社会の各分野において時代を先導する人材育成のための教育を行う。</p>
化学科	<p>化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学をはじめとする自然科学の諸分野、加えて、工学、医学、薬学などの応用的分野の知識の必須な領域まで広がっている。化学科では、自然科学はもとより、応用科学分野における諸問題、さらには人類が直面する社会的問題をも解決できる、論理的思考力や自然科学の基礎知識および研究能力を体得し、柔軟な思考力と優れた問題解決力を身につけ、社会に対して多大な貢献が出来る人材育成のための教育を行う。</p>
生物学科	<p>生物学は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を探究する学問であり、周辺領域の医学、薬学、農学、情報学などの学問分野の基盤となり、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼす。生物学科では、多種多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を身につける。自ら考え、問題を提示し解決する能力を有し、豊かな人間社会の構築に貢献できる人材育成のための教育を行う。</p>
情報科学科	<p>情報科学は、「情報」を対象とした数理科学であると同時に、その知見をコンピュータを介して工学的に応用し、幅広く社会に貢献する学問である。情報科学科では、「計算とは何か」「認識とは何か」といった人間・社会・世界が関わる普遍的な法則性に対する思考力と、変化し続ける現代社会の諸相に柔軟に適応し、問題を解決する能力を併せ持つ人材育成のための教育を行う。</p>

(出典：平成 27 年度履修ガイド p. 8 より抜粋)

資料 E-2-1-2 理学部ディプロマ・ポリシー

理学部	
1. 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部学士課程の修了を認める。 2. 理学部各学科が定めた教育課程を履修し、人類の英知が蓄積された理学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけ、人類社会に対して多大な貢献が期待できる人材に対し、理学部学士課程の修了を認める。修了に際しては、卒業研究（数学講究もしくは特別研究）を行わなければならない。教員の指導のもとにテーマを選択し、自然科学の方法論に則って主体的に研究し、その成果を発表しなければならない。	
学科	ディプロマ・ポリシー
数学科	① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部数学科学士課程の修了を認める。 ② 学科が定めた教育課程を履修し、基礎的な数学的素養と論理的に問題を捉え解決する能力が身に付いていると判断するに足る十分な科目を修得できたものに数学講究の受講を認め、さらに、規定の単位数が修得できた上で最終試験に合格したものに学士課程の修了を認める。
物理学科	① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部物理学科学士課程の修了を認める。 ② 学科が定めた教育課程を履修し、物理学の探求によって還元論的かつ多角的な観点を持って問題解決能力の向上を達成し、社会の各分野において活躍が期待できる人材に対して、学士課程の修了を認める。
化学科	① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部化学科学士課程の修了を認める。 ② 学科が定めた教育課程を履修し、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関連した化学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけ、人類社会に対して多大な貢献が期待できる人材に対し、学士課程の修了を認める。
生物学科	① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部生物学科学士課程の修了を認める。 ② 学科が定めた教育課程を履修し、「生き物」の複雑で多様な生命現象の理論や知識を深く知り、さらにより広く高度な応用的または先進的な知識、理解力、論理力、実践手法を身につけ、人間社会に、より豊かな知の財産を築ける人材に対し、学士課程の修了を認める。
情報科学科	① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部情報科学科学士課程の修了を認める。 ② 学科が定めた教育課程を履修し、プログラミングや数学等、情報科学の基礎知識と手法を広く学んだ上で、特定の数理領域もしくは応用領域において、科学的方法論に基づく情報科学の研究を経験し、学術的成果とそこで培った能力を広く社会に還元しうる人材に対し、学士課程の修了を認める。

(出典：平成 27 年度履修ガイド pp. 11-12 より抜粋)

2. 新しい学士課程専門教育プログラムのカリキュラム

本学では、中期目標で掲げられた「新たな学士課程教育の構築」での「多様な専門性」を実現するため、新しい専門教育プログラムとして、学部学科等の教育組織を横断した複数プログラム選択履修制度を平成 23 年度から導入した（資料 E-2-2-1 複数プログラム選択履修制度の概要）。

本制度では、主プログラム（必修）と選択プログラム（自由選択、複数選択可）の組合せにより、多様な可能性を持つ専門基礎力を育成することを目的としている。

1～2 年次の「主プログラム」では、所属学科での専門的な知識や技能の基礎を学び、

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅰ

2年次終了時に、所属学科の専門性を深める「強化プログラム」、他学科の専門を学ぶ「副プログラム」、分野横断的な領域を学ぶ「学際プログラム」を選択する。「学際プログラム」としては、「応用数理」、「物理・化学」、「ケミカルバイオロジー」、「生命情報学」の4つを設置している（資料 E-2-2-2 複数プログラム選択履修制度におけるプログラムの選択時期、資料 E-2-2-4 理学部主プログラム、資料 E-2-2-5 理学部強化プログラム、資料 E-2-2-6 理学部副プログラム、資料 E-2-2-7 理学部学際プログラム）。選択プログラムの選択履修可能な組合せは、表の形で学生に周知している（資料 E-2-2-3 各所属学科が指定する必修以外のプログラム選択一覧）。

現在までの、第2、第3プログラムの選択履修の状況では、多くの学生が主プログラムに引き続いて、第2プログラムとして所属学科の強化プログラムを履修しているが、学際プログラムを第3プログラムとして選択し、専門性の幅を広げている学生も少なからずいる（資料 E-2-2-8 選択プログラム履修者数、資料 E-2-2-9 第2、第3プログラムの選択パターン）。

理学部では、複数プログラム選択履修制度に加えて、「他学科の教員の指導による卒業研究実施の制度」（通称「卒研シフト」）を実施している。この制度は、複数プログラム選択履修制度が導入される以前より、「理系学部・大学院分野横断型教育システム」（理学部及び理系大学院の教育改革）の一環として実施されており、従来の研究分野から飛び出して複合的分野・境界領域へ進出する意欲ある学生に対して、学部・学科の枠を越えた進級・進学プログラムを提供し、従来型の教育体制より効率的に新興分野への人材育成を図ることを目的としている。

実施状況を見ると、複合的分野・境界領域を目指し、分野を転向して進学する学生も出てきており、「分野横断型教育システム」の体制が整っているのが分かる（資料 E-2-2-10 卒研シフトの実施状況）。

資料 E-2-2-1 複数プログラム選択履修制度の概要

(2) 専門教育科目又は専攻科目・関連科目

① 専門教育科目（プログラムに属する科目）

複数プログラム選択履修制度とは、「主プログラム」「強化プログラム」「副プログラム」「学際プログラム」の4つから構成されており、

- 深く専門的な知識を学びたい
- 将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたい
- 分野を横断した最先端の学問領域を学びたい
- 国際理解を深めたい

など、学生が自分の目標にあわせて、学部の域を超えて、さまざまなプログラムを選択的に組み合わせることにより、多様で豊かな学びを構築するための制度です。

「主プログラム」とは

自分の所属する学科から提供される知識や技能の基礎を学ぶプログラムをいいます。

「強化プログラム」とは

専攻した分野をさらに深く、または広く学ぶためのプログラムをいいます。

「副プログラム」とは

自分の専攻した分野と異なる学習プログラムをいいます。

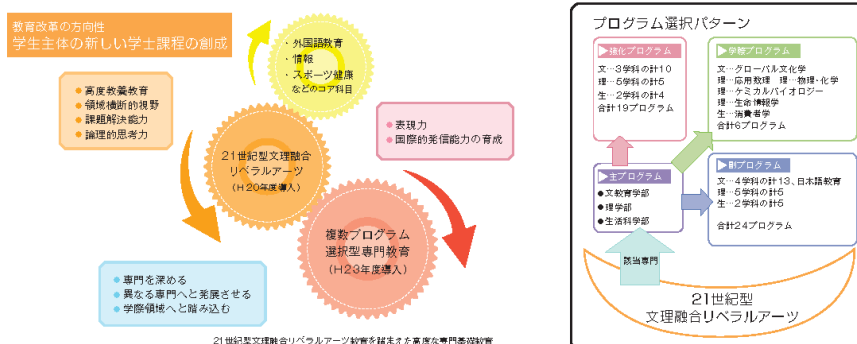
「学際プログラム」とは

さまざまな分野を融合する最先端の知識や技能を学ぶ学際型プログラムをいいます。

皆さんは、自分の目標に合わせてプログラムを設定していくことになりますが、一つ目、二つ目のプログラム（第1、第2プログラム）の設定は、自分の所属する学部、学科の提供するものから選択しなければなりません。また、三つ目のプログラム（第3プログラム）は、それぞれ他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択可能ですので、「Ⅲ 授業科目一覧」を見て確認してください。

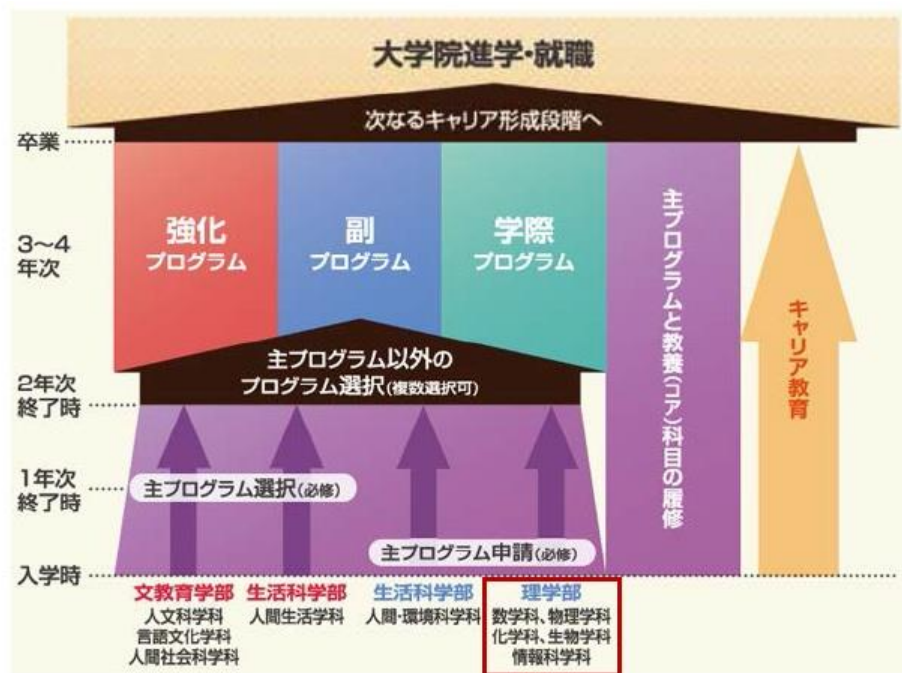
また、プログラムの種類・内容及び単位数の関係については、次の表を参照してください。

第1プログラム	必修	主プログラム（自分の所属する学科から選択）
第2プログラム	選択必修	強化プログラム又は副プログラム又は学際プログラム（自分の所属する学部内から選択）
第3プログラム	自由選択	副プログラム又は学際プログラム



(出典：平成 27 年度履修ガイド p. 29 より抜粋)

資料 E-2-2-2 複数プログラム選択履修制度におけるプログラムの選択時期



(出典：複数プログラム選択履修制度パンフレット 2015 版 p.6 より抜粋)

資料 E-2-2-3 各所属学科が指定する必修以外のプログラム選択一覧

別表第2 (第5条関係)

【(理)二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
数 学 科		○	×	×	○	○	×	×	○
物 理 学 科	○		○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	×	○		○	×	×	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○		○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	×	×		○	×	×	○

【(理)三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	哲 学・倫理学・美術史(副)	比 歴 史 学(副)	地 環 境 学(副)	日 本 語・日本文学(副)	中 国 語 国 語 語 文 化(副)	英 語 国 語 語 文 化(副)	仏 語 国 語 語 文 化(副)	日 本 語 教 育(副)	社 会 学(副)	教 育 学(副)	心 理 学(副A) 人間社会科学科対象	心 理 学(副B) 人間社会科学科以外対象	舞 踊 学(副)	音 楽 表 現(副)	グ ロー バ ル 文 化 学(学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○

【(理)三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
数 学 科		○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○		○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○		○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○		○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○		○	○	○	○

【(理)三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	人間・環境科学(副)	発達臨床心理学(副)	公共政策論(副)	ジェンダー論(副)	生活文化学(副)	消費科学(学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○

(出典：平成27年度履修ガイド p.135 より抜粋)

資料 E-2-2-4 理学部主プログラム

学科名	教育目標	内容・構成
数学科	この主プログラムにおいては二つの大きな目標を持つ。ひとつは広分野に及ぶ現代数学の基礎教育を施すことであり、もうひとつは数学的論理思考力を身に付けさせることである。これにより数学を学び研究しようと志す学生に対しては高度職業人あるいは研究者として自ら学んでいける素地を育むことになる。また数学的論理思考力を身に付けるということはどの分野に進むとしても社会における有為な人物となりうるということで、そのような人物が輩出されることになる。	数学を学ぶ上での基礎となる内容のものや4年間の数学の学習の総まとめとなる「数学講究」を含み、必修もしくは必修に準ずる科目群からなる。数学科で提供する強化プログラム、または、副プログラムの科目を履修する為の予備知識もこのプログラムで提供される。数学科を卒業するためには、この科目群の殆ど全ての60単位以上を履修しなければならない。
物理学科	物理学の主要分野の基礎を講義により学習する。それと平行して、問題解決の能力を養うための演習と、物理現象の自発的な発見と検証の能力を磨くための実験を行う。以上を経て、各人が課題を設定し、これを首尾一貫した系統的な物理学の考え方をを用いて問題を解決することを目標として特別研究を行い、その完成を修了要件とする。	物理学科が用意する講義科目・演習科目・実験科目・特別研究からなる。物理学を学ぶ上で有用であると思われる、数学、地学、ほか、理学の基礎実験科目を含んでいる。
化学科	講義科目における、化学及びそれに関連する分野の概念を理解すること、また、それに基づいた基礎的知識の系統的な修得を目指すとともに、講義科目によって身につけた力を、講義と密接に連携した実験科目の履修により、化学あるいはその関連分野に展開可能かつ実践的な基礎力を身につけることを目標とする。	主プログラムでは、化学の5つの主要分野である物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学の専門分野の基礎を講義により順次学習し、化学の体系を理解する。さらに講義内容の十分な理解と化学の研究に必要な実験手法を身につけるために各分野の実験をおこなう。化学の専門課程を理解する為の基礎を身につけることを目標とする。
生物学科	生物学は自然科学の1分野にとどまらず、周辺領域の医学、薬学、農学、情報学などの学問分野に影響を与え、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼしている。このような時代背景の下で、生物学を学んだ人材の必要性は益々高まっている。生物学主プログラムでは、1、2年次における生物学の基礎分野の講義と基本的な実習によって、核となる知識・理解力・論理力・実験手法を身につけ、3、4年次での専門的な実習及び特別研究を通して、実践力のある人材を育成することを目標とする。	上記の目標を達成するために、生物学主プログラムは、学年ごとに段階的に学習を積み重ねる構成内容となっている。1、2年次は、生物学の基礎概念を理解するための必修科目(26単位)及び基礎的な実験手法を学ぶ必修実習(4単位)を中心として学んでいく。2、3年次では、この基礎の上に、生物学の各分野の実験手法を学ぶ選択必修実習(8単位以上)及び選択科目を学ぶ。その後、3年次において生物学強化プログラム、学際プログラム、または他学科の副プログラムを学び、生物学主プログラムの総まとめとしての特別研究(12単位)及び生物学演習(4単位)を4年次において履修する。
情報科学科	情報科学を学ぶために必要な基礎を身につけるためのプログラムです。研究テーマを決めて指導教員のもとで専門的な情報科学の研究を行う特別研究も含まれますが、特別研究の履修には主プログラムの基礎科目だけでなく強化プログラムまたは副プログラムでそれぞれの専門分野について深く学ぶ必要があります。	コンピュータシステム序論、データ構造とアルゴリズムなどの情報科学の基礎科目、線形代数学1～6、微分積分学1～6、数理基礎論、確率序論、離散数学などの数学系の基礎科目、プログラミング実習、システムプログラミング実習などのプログラミング力を身につけるための実習科目、コンピュータアーキテクチャ、コンピュータネットワーク、マルチメディアなどの情報科学技術を学ぶ科目、特別研究が含まれます。

資料 E-2-2-5 理学部強化プログラム

学科名	教育目標	内容・構成
数学科	数学における様々な分野を特化してより深く理解し追求するためのより高度な専門性の高い知識や能力を養うことに加えて、一つの専門にこだわらず、数学全般に対する視野を広げることがこのプログラムの教育目標であり、現代数学の新しい結果や問題に触れることにより、問題の発見力・構成力を育む他、数学の重要性・おもしろさを後世に伝えていくコミュニケーション力を身につけた、専門性の高い職業人が養成されることが期待される。	各人の興味と能力に応じて、数学の多岐にわたる分野を幅広く学習、あるいは特定分野を深く学習できるように、様々な科目が選択科目として用意されている。これらの科目群のうちのすべての科目が毎年開講される訳ではないが、主プログラムの科目よりは専門性が高いが、現代数学における基礎として位置付けられる科目は毎年、または、隔年で開講され、講義内容の理解を深めるための演習も用意されている。
物理学科	主プログラムで学んだ物理学の基礎的内容を発展させた専門性の高い科目群を履修する。それにより、物理学の細分化された専門分野での高度な知識を習得し、将来、大学院等で具体的かつ最前線の研究テーマに取り組むための実力を身につける。	素粒子・宇宙・原子核・物性物理等の幅広い分野の専門的・応用的科目から構成されている。講義科目に加えて計算機実習科目、および各研究室に配属してそこで行われている研究に触れる科目（物理学基礎研究）を用意している。
化学科	強化プログラムでは、各分野の基礎に立脚し、専門的事柄について講義および実験を通して学習する。これにより、幅広くかつ深い知識を習得するとともに、物質の構造、性質、反応に関する理解を深め、化学的視点に基づいた問題解決能力と問題発見能力を涵養することを目標とする。	物質の構造、性質、反応に関する共通的内容を含む必修科目と、それらを発展させたものもしくは現代化学の先端的内容を含んだ選択科目群から構成される。
生物学科	生物学主プログラムを履修する学生を対象に、生物学各分野の専門性の高い講義と実習を含む科目群を提供する。これらの科目群の中から各自の興味に応じた科目を選択することにより、より広く高度な応用的または先進的な知識・理解力・論理力・実践手法を身につけることを目的とする。この強化プログラムを踏まえて、実践的な研究活動を行う主プログラムの特別研究に移行することにより、高度な専門教育の実践が可能となる。また、この強化プログラムにより、大学院における生物学の特定分野の専門性を高める教育に対して学問的な基礎を身につける。	生物学主プログラムを学び終えた学生を対象にしているため、必修の科目は設けずに、多様な高度で専門的な講義及び実習から構成される内容となっている。学生の興味に従い、20単位以上を履修することが要件である。この強化プログラムは、学生に必要と判断される内容を柔軟に含めることができる構成となっている。学生は、自らの主体的な履修科目の選択により、個性的・独創的な生物学を構築することができる。
情報科学科	主プログラムで情報科学を学ぶために必要な基礎を身につけた後で、更に情報科学についての理解を深めるためのプログラムです。特別研究を円滑に行えるように希望する指導教員の推奨する科目を中心に専門分野について深く学びます。	主プログラムで学んだ基礎を元に、専門性を強化するためのプログラムです。情報科学の様々な研究分野からそれぞれの興味にあった科目を選択して履修することができます。特別研究を担当するそれぞれの教員が履修を推奨する科目を中心になるべく多くの科目を履修できるように情報科学の専門科目を幅広く開講します。

(出典：平成 27 年度履修ガイド pp. 136、138、141、143、146 より抜粋)

資料 E-2-2-6 理学部副プログラム

プログラム名	教育目標	内容・構成
数学	他学科の純粋数学を学ぼうとする学生を対象とし、数学における抽象化、一般化、論理性が数学の発展の上でどのように寄与して来たかを学ぶ事により、物事を抽象的に把握し、その本質を見ぬく力を身につける事がこのプログラムの教育目標である。数学の専門性を追求しながら論理的・抽象的思考力を培い、数学の面白さを理解する知識と感性を備えた人物が養成されることが期待できる。	数学の基礎科目に加えて、解析学、幾何学、代数学の各分野の3科目、概論的な科目である『数理逍遥』を選択科目とする科目構成より成る。基礎を身につけた上で、各人の興味の傾向に従って分野を主体的に選択することが可能である。
物理学	他専攻の学生で、物理学に関心のある者がはじめに修めるべき主要分野の基礎的内容を講義により学習する。講義内容の消化と問題解決能力の養成のための演習を行う。以上を経て、各人が物理学的な考え方に習熟し、それをある程度使いこなせるようになることを目指す。	物理学科が用意する主要分野の基礎的な講義科目・演習科目から成る。
化学	化学の分野における基本的な考え方、基礎知識を身につけるとともに、先端の化学について、その概要をある程度理解できる様な力を養う。	化学関連の全学共通科目において、初歩的なところを学び、化学の各分野の基礎的なものを選択して学べる様な構成となっている。
生物学	生物学の主プログラムを専攻しない他学科の学生に向けて、生物学のエッセンスを学び、生物学を構成する基本的な知識および概念を学ぶことを目的とする。近年の地球環境問題や生命倫理の問題が重要視される社会情勢の中で、生物学を主たる専攻としない学生に対する生物学教育の重要性は、益々高まるものとする。主たる専門に加えて、このような生物学の基礎的な素養を持つ学生を育成することが、本プログラムの目標である。	この副プログラムの履修要件として、生物学の全学共通科目である基礎生物学A、B及び生物学基礎実験を必修科目（6単位）として履修し、これらに加えて生物学の必修科目の中から7科目以上を選択することとする。なお、生物学科の学生はこのプログラムを履修することができない。
情報科学	情報科学の基礎を学ぶための情報科学科以外の学生のための科目です。プログラミングの指導はできませんので各自で勉強してから履修してください。プログラミング課題を伴うマルチメディアⅠ、コンピュータネットワークⅠ、データベースシステムについては、コア科目のプログラミング演習の成績がSまたはAであることを履修の要件とします。人数制限がある場合にはプログラミング演習の成績がSの学生を優先します。	コンピュータシステム序論などの情報科学の基礎科目、数理基礎論、確率序論、離散数学などの数学系の基礎科目、コンピュータアーキテクチャ、コンピュータネットワーク、マルチメディア、暗号と符号などの情報科学技術を学ぶ科目が含まれます。

(出典：平成27年度履修ガイド pp. 148、151、154、155、160 より抜粋)

資料 E-2-2-7 理学部学際プログラム

プログラム名	教育目標	内容・構成
応用数理	数学は、自然、社会諸科学の“言葉”として用いられ、それら諸科学を説明する方法となる。このプログラムでは、数理的方法による諸科学の基礎となる数学と、実際に応用される諸分野を広く学び、数理的方法の有用性を知り、この方法による問題解決力を身につけることが目標である。	数学、物理学、情報科学の3つの科目群からなる。数学科目は数学の中でも、特に応用される事の多い科目から成っている。物理学の科目群は物理学の基礎として重要な科目から成り、情報科学の科目は数学の応用として捉えやすい科目から成る。
物理・化学	物理や化学の主プログラムで学んだ、当該分野の基礎的内容を発展させた専門科目を履修すると共に、相互の分野の基礎的および専門的科目を同時に履修する。それにより、物理学と化学の学際領域で活躍するための基本的な力を身につける。	物理と化学の学際分野に進むために有用である、両分野の入門的科目（基礎化学、物理学概論）および基礎実験科目を配置し、基礎的および専門的な講義科目を集めている。
ケミカルバイオロジー	化学または生物の基礎をもつ学生がその知識と考え方を発展させて、生体分子および生物の働きを説明する学際分野へ進むための橋渡しをする。生命のしくみを物質の視点からより深く学ぶとともに、生体物質の構造と機能の解明、ならびに生体機能を制御する物質の合成・創成のために必要な基盤を習得する。	化学主プログラムまたは生物主プログラムを履修した学生について必要なケミカルバイオロジー分野の基盤的科目及び、それらを発展して学ぶ科目及び周辺領域に視野を広げる科目から構成されている。
生命情報学	生命情報学プログラムは、理学部プログラムの基礎を習得した学生に対して、学際分野である生命情報学の基礎から応用までを提供する。生命情報学研究に最低限必要な基礎知識の習得と様々なデータを解析し新しい知見を抽出するために必要な論理力と技術力の取得を目的とする。これらの習得により、ライフサイエンスのさまざまな分野で活躍できる人材の育成に資する。	理学部の主プログラムを終えた学生に対して、生命情報学の基礎知識と基礎技術を習得させるために、1科目の必修と7科目の選択必修を提供する。選択必修からは3科目を履修する。その上で、今までに学んできた主プログラムと生命情報学の基礎とを合流させて、学生自らがもっとも力を発揮できる領域を見いだし、6科目以上（必修として選択しなかった選択必修科目と選択科目から）を履修する。

(出典：平成27年度履修ガイド pp.149、152、156、158 より抜粋)

お茶の水女子大学理学部 分析項目 I

資料 E-2-2-8 選択プログラム履修者数(出典：学務課資料)

年度	学科	第2プログラム										第3プログラム			
		強化 プログラム	副プログラム					学際プログラム				理学部 プログラム		文教育 学部 プログラム	生活科 学部 プログラム
			数学	物理学	化学	生物学	情報 科学	応用 数理	物理・ 化学	ケミカル・ バイオ	生命 情報学	副	学際		
H25	数学科	19						1				1			
	物理学科	20						1	1				4		
	化学科	23													
	生物学科	25								1			3		
	情報科学科	31		2									1		1
H26	数学科	16					2	1				1	3		
	物理学科	21										1	1		
	化学科	21											7		1
	生物学科	22								5			3		
	情報科学科	39											2	1	
H27	数学科	22													
	物理学科	21							2				3		
	化学科	19								1	1				
	生物学科	19								4	4				
	情報科学科	39													

※各年度1月に実施する本申請結果を計上。

資料 E-2-2-9 第2、第3プログラムの選択パターン

主プログラム	年度	第2プログラム	第3プログラム
数学科	H25	強化プログラム	情報科学副プログラム
	H26	強化プログラム	応用数理学際プログラム
		強化プログラム	物理学副プログラム
物理学科	H25	強化プログラム	生命情報学学際プログラム
		強化プログラム	応用数理学際プログラム
	H26	強化プログラム	化学副プログラム
		強化プログラム	物理・化学学際プログラム
	H27	強化プログラム	物理・化学学際プログラム
化学科	H25	強化プログラム	ケミカルバイオロジー学際プログラム
		強化プログラム	物理学副プログラム
生物学科	H25	強化プログラム	生命情報学学際プログラム
		強化プログラム	ケミカルバイオロジー学際プログラム
	H26	強化プログラム	仏語圏言語文化副プログラム
		強化プログラム	生命情報学学際プログラム
		強化プログラム	ケミカルバイオロジー学際プログラム
情報科学科	H25	強化プログラム	生命情報学学際プログラム
		強化プログラム	人間・環境科学副プログラム
	H26	強化プログラム	応用数理学際プログラム
		強化プログラム	生命情報学学際プログラム
		強化プログラム	比較歴史学副プログラム

(出典：学務課資料)

資料 E-2-2-10 卒研シフトの実施状況

年度	学生の所属学科	指導教員の所属	複数プログラム選択履修制度	
			第2プログラム	第3プログラム
H22	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	物理学科	情報科学科		
	情報科学科	生物学科		
	情報科学科	生物学科		
H23	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	物理学科	情報科学科		
	物理学科	情報科学科		
	物理学科	国立天文台		
H24	情報科学科	生物学科		
	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	物理学科	情報科学科		
	物理学科	情報科学科		
	生物学科	化学科		
H25	情報科学科	生物学科		
	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	数学科	情報科学科		
	物理学科	情報科学科		
H26	物理学科	情報科学科		
	物理学科	情報科学科		
	物理学科	ラジオアイソトープ実験センター		
	化学科	ラジオアイソトープ実験センター		
	人間・環境科学科	ラジオアイソトープ実験センター		
	数学科	情報科学科	強化プログラム	
H27	数学科	情報科学科	強化プログラム	
	数学科	情報科学科	強化プログラム	
	数学科	情報科学科	強化プログラム	
	物理学科	情報科学科	強化プログラム	
	化学科	物理学科	強化プログラム	物理学副プログラム
	情報科学科	生物学科	強化プログラム	生命情報学学際プログラム
H28	情報科学科	数学科	強化プログラム	
	情報科学科	数学科	強化プログラム	
	数学科	情報科学科	強化プログラム	応用数理学学際プログラム
	物理学科	生物学科	生命情報学学際プログラム	生物学副プログラム
	生物学科	化学科	強化プログラム	
	情報科学科	生物学科	強化プログラム	生命情報学学際プログラム

(出典：学務課資料)

3. 教養教育の充実と専門教育の関わり

「新たな学士課程教育の構築」では、リベラルアーツを基礎としており、平成 20 年度から開始された「21 世紀型文理融合リベラルアーツ」では、人文科学・社会科学・自然科学の角度から多面的に学べるようになっている（資料 E-2-3-1 国立大学法人お茶の水女子大学理学部履修規程 別表第 1、資料 E-2-3-2 各授業の平均学生在籍数、資料 E-2-3-3 理学部学生コア科目履修状況 外国語科目以外）。

また、本学部は、全学共通科目として自然科学の基礎的科目を担当し、「21 世紀型文理融合リベラルアーツ」科目も積極的に担当するなど、教養教育の充実と専門教育への架け橋を担っている（資料 E-2-3-4 全学共通科目）。

資料 E-2-3-1 国立大学法人お茶の水女子大学理学部履修規程 別表第1

【複数プログラム選択履修制度導入後】

別表第1 (第5条関係)

(出典：平成27年度履修ガイドp.238より抜粋)

科目区分 学科別	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数	
	コア科目					専門教育科目(必修プログラム)			コア科目	専攻科目	他学科の専攻科目	関連科目	他学部の科目	全学共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム		
	文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム										学際プログラム
数学科	30					60	20			14								124
物理学科	30					60	20			14								124
化学科	30					60	20			14								124
生物学科	30					60	20			14								124
情報科学科	30					60	20			14								124

- 備考
- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
 - 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また外国語の履修方法は別に定める。
 - 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
 - 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
 - 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
 - 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
 - 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
 - 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
 - 9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、6単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
 - 10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については16単位までをコア科目として取り扱う。

【複数プログラム選択履修制度導入前】

別表第1 (第4条関係)

(出典：平成22年度履修ガイドp.90より抜粋)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位											卒業に必要な履修単位数
		専攻科目		関連科目	コア科目						専攻科目	関連科目	自由科目	コア科目						全学共通科目	教職に関する科目	
		必修	選択		選択	文理融合リベラルアーツ	基礎講義	基礎ゼミ	総合科目	情報				外国語	スポーツ健康	選択	選択	文理融合リベラルアーツ	基礎講義			
数学科	44	34	0	30						16						124						
物理学科	54	22	0	30						18						124						
化学科	66	10	0	30						18						124						
生物学科	36	34	0	32						22						124						
情報科学科	42	36	0	30						16						124						

- 備考
- 1 情報処理演習2単位は、必修とする。
 - 2 安全管理概論2単位は、物理学科、化学科、生物学科の学生は必修とする。
 - 3 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。
コア科目の必修単位のうち、外国語での単位は12単位までとする。
 - 4 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
 - 5 教職に関する科目(教職概論及び教育実習を除く。)の単位については、6単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
 - 6 外国人留学生特別科目(日本語演習及び日本事情演習)の単位については、16単位までをコア科目として取り扱う。

資料 E-2-3-2 各授業の平均学生在籍数

各授業の平均学生在籍数【担当:学務課】

H25年度

学部

開講学部・学科等		科目区分	開講科目数	単位取得者数	平均受講者数
理 学 部	数学科	コア 文理融合リベラルアーツ	2	51	25.5
		基礎講義	4	147	36.8
		専門 講義	37	700	18.9
		専門 演習	13	241	18.5
		教職、留学生特別科目、関連科目等	5	60	12.0
	物理学科	コア 文理融合リベラルアーツ	2	127	63.5
		基礎講義	1	1	1.0
		専門 講義	31	666	21.5
		専門 演習	7	151	21.6
		実習・実験	3	61	20.3
	化学科	コア 文理融合リベラルアーツ	3	134	44.7
		講義	30	742	24.7
		専門 演習	2	45	22.5
		実習・実験	7	153	21.9
		教職、留学生特別科目、関連科目等	5	54	10.8
	生物学科	コア 文理融合リベラルアーツ	7	186	26.6
		基礎講義	1	5	5.0
		専門 講義	34	808	23.8
		専門 演習	3	48	16.0
		実習・実験	20	420	21.0
	情報科学科	コア 文理融合リベラルアーツ	4	201	50.3
		情報	17	318	18.7
		専門 講義	42	1,547	36.8
		専門 演習	9	354	39.3
		実習・実験	5	139	27.8
		教職、留学生特別科目、関連科目等	4	17	4.3

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅰ

資料 E-2-3-3 理学部学生コア科目履修状況 外国語科目以外（平成26年度）

科目名	履修者数		単位 修得者数	科目名 (文理融合リベラルアーツ)	履修者数		単位 修得者数
	全学	理学部	(理学部)		全学	理学部	(理学部)
哲学	242	54	51	生命と環境1 生命の科学	8	1	1
現代心理学	261	61	47	生命と環境3 多様性生物学	69	18	13
法学Ⅰ(日本国憲法)	132	64	55	生命と環境4 生物人類学	82	34	30
法学Ⅰ(日本国憲法)	103	7	3	生命と環境6 惑星地球の科学	121	37	31
法と文学	37	1	1	生命と環境8 文化と環境	158	15	13
政治学入門	41	1	1	生命と環境22 海洋環境学ダイビング(実習)	11	5	5
ミクロ経済学入門	96	9	7	生命と環境23 環境保護活動リサーチ(演習)	20	11	11
マクロ経済学入門	84	29	9	生命と環境24 生命科学と環境問題(演習)	5	4	4
基礎微分積分学	31	31	29	生命と環境26 地図を読む(演習)	13	4	4
基礎線形代数学	49	47	45	生命と環境25 トランス・サイエンス論入門(演習)	6	2	1
統計学	112	75	63	色・音・香1 分子から見た色と香り	88	38	38
お茶の水女子大学論	159	30	28	色・音・香3 色・音・香の物理学	63	47	42
情報処理演習	1	1	1	色・音・香4 コンピュータが創る色と音	96	66	63
メディアリテラシ	19	10	10	色・音・香7 舞踊における色・音・香	105	17	16
情報科学	9	8	6	色・音・香8 宗教と色・音・香	135	22	22
情報処理学	17	17	15	色・音・香9 おいしさと色・音・香	182	42	39
プログラミング演習1	20	16	16	色・音・香21 感覚の科学(演習)	18	7	6
プログラミング演習2	22	21	20	色・音・香22 おいしさのサイエンス(演習)	18	7	7
コンピュータ演習2	12	9	8	色・音・香23 音を読む、創る(演習)	20	6	6
情報学演習1	19	19	17	色・音・香24 感覚の歴史を読む(演習)	21	2	2
プログラミング演習1	5	3	3	生活世界の安全保障3 リスクの社会史	77	4	4
コンピュータ演習1	1	1	1	生活世界の安全保障4 平和と暴力	59	2	1
情報学演習2	3	1	1	生活世界の安全保障7 現代物質文明の履歴	89	40	36
情報処理演習	22	22	22	生活世界の安全保障8 ゲノム時代の健康管理	48	21	18
情報処理演習	23	23	23	生活世界の安全保障11 規範科学	1	1	1
情報処理演習	22	22	22	生活世界の安全保障21 歴史のなかの危機とその克服(演習)	17	1	1
情報処理演習	28	28	28	生活世界の安全保障24 リスク管理(演習)	1	1	0
情報処理演習	39	39	39	生活世界の安全保障25 地図を読む(演習)	8	3	3
情報科学	42	42	41	生活世界の安全保障26 トランス・サイエンス論入門(演習)	2	1	1
情報処理学	2	1	1	生活世界の安全保障6 社会技術革新学	7	7	5
スポーツ健康実習	121	1	1	ことばと世界1 日本語論	78	9	7
スポーツ健康実習	134	134	134	ことばと世界2 言語の習得と発達	68	9	8
スポーツ健康実習	76	74	72	ことばと世界3 論理学	42	15	13
スポーツ健康実習	63	63	61	ことばと世界4 文化の記号学	226	12	12
スポーツ科学概論	14	5	5	ことばと世界5 日本文学	98	10	8
健康科学概論	44	9	5	ことばと世界6 海外の文学	181	33	28
生涯スポーツ	12	5	5	ことばと世界7 数理のことば	43	24	23
生涯スポーツ	14	6	5	ことばと世界8 自然のことば	43	15	13
生涯スポーツ	19	4	4	ことばと世界10 グローバル化社会を生きる	20	3	3
生涯スポーツ	18	2	2	ことばと世界11 文法と意味	11	6	6
生涯スポーツ	18	1	1	ことばと世界12 知能環境論	8	5	5
生涯スポーツ	19	1	0	ことばと世界22 数理のことば(演習)	19	12	12
生涯スポーツ	19	1	0	ことばと世界24 ことばを探る(演習)	19	2	2
総合コース	1	1	0	ことばと世界27 手話学入門(演習)	15	1	1
				ジェンダー2 グローバル経済とジェンダー	47	5	3
				ジェンダー3 映画とセクシュアリティ	78	11	10
				ジェンダー5 宗教文化とジェンダー	107	5	3
				ジェンダー9 生殖テクノロジーとジェンダー	95	24	23
				ジェンダー21 福祉・エコノミーとジェンダー(演習)	13	4	4
				ジェンダー1 女性史・男性史とジェンダー	68	4	4

(出典：学務課資料)

資料 E-2-3-4 全学共通科目

別表第9 全学共通科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考	授業科目	単位数	備考
NPO入門	2		基礎化学B(1)	1	
女性リーダーへの道(入門編)	2		基礎化学B(2)	1	
女性リーダーへの道(ロールモデル入門編)	2		基礎生物学A	2	(生物学科は履修できない)
女性リーダーへの道(実践入門編)	2		基礎生物学B	2	(生物学科は履修できない)
平和と共生演習	2		大気・海洋科学概論	2	
国際共生社会論実習	2		物理学基礎実験	2	(物理学科は履修できない)
キャリアアブランとライフプランⅠ	2		化学基礎実験	2	(化学科は履修できない)
キャリアアブランとライフプランⅡ	2		生物学基礎実験	2	(生物学科は履修できない)
情報コミュニケーション技術と創発性	2		数理基礎論	2	
働く女性の権利と地位	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)	確率序論	2	
共生社会で働く	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)	コンピュータシステム序論	2	
グループワークとマネジメント	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)	生命情報学概論(1)	1	
キャリアプランニング実習	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)	生命情報学概論(2)	1	
インターンシップ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)	計算生物学(1)	1	
クリエイティブ・ライティングⅠ	2		計算生物学(2)	1	
クリエイティブ・ライティングⅡ	2		海外交換留学等認定科目	2~12	
クリエイティブ・ライティングⅢ	2		科学英語Ⅰ	2	
クリエイティブ・ライティングⅣ	2		科学英語Ⅱ	2	
博物館概論	2		Advanced Communication TrainingⅠ	2	
博物館資料論	2		Advanced Communication TrainingⅡ	2	
博物館経営論	2		Advanced Communication TrainingⅢ	2	
博物館資料保存論	2		Advanced Communication TrainingⅣ	2	
博物館展示論	2		Advanced Communication TrainingⅤ	2	
博物館教育論	2		Advanced Communication TrainingⅥ	2	
博物館実習	3		Academic Writing	2	
博物館情報・メディア論	2		Academic Presentation	2	
初等解析Ⅰ	2	(数学科、情報科学科は履修できない)	Summer Program in EnglishⅠ	2	
初等解析Ⅱ(1)	1	(数学科、情報科学科は履修できない)	Summer Program in EnglishⅡ	2	
初等解析Ⅱ(2)	1	(数学科、情報科学科は履修できない)	Summer Program in EnglishⅢ	2	
初等線形代数学	2	(数学科、情報科学科は履修できない)	Summer Program in EnglishⅣ	2	
初等代数学	2		Summer Program in EnglishⅤ	2	
物理学概論A	2	(物理学科は履修できない)	Summer Program in EnglishⅥ	2	
物理学概論B	2	(物理学科は履修できない)	国際交流実習	2	
基礎化学A	2		Interdisciplinary Lectures in EnglishⅠ	2	

授業科目	単位数	備考
Interdisciplinary Lectures in EnglishⅡ	2	
Interdisciplinary Lectures in EnglishⅢ	2	
Interdisciplinary Lectures in EnglishⅣ	2	
Interdisciplinary Lectures in EnglishⅤ	2	
Interdisciplinary Lectures in EnglishⅥ	2	
舞台芸術実践概論Ⅰ	2	
舞台芸術実践概論Ⅱ	2	
文化芸術制作演習Ⅰ	2	
文化芸術制作演習Ⅱ	2	
物理学サブリメント	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
生物学サブリメント	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
英語基礎強化ゼミ	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
TOEFL対策ゼミR/L	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
TOEFL対策ゼミS/W	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
IELTS対策ゼミR/L	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
IELTS対策ゼミS/W	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
企画・運営力養成講座	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
中国語力強化ゼミⅠ	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
中国語力強化ゼミⅡ	2	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅰ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅱ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅲ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅳ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅴ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅵ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅶ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅷ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅸ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅹ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅠ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅡ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅢ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅣ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅤ	1	(卒業に必要な単位数に含めることができない)

(出典：平成27年度履修ガイドp.247より抜粋)

4. 新入学生に対する補完教育

生物、物理の2科目については、高等学校で履修していなかった、あるいは理解が不十分な学生を対象とした補完授業（サプリメント）を附属高等学校の教員が行っている。新入生に対する補完教育とともに附属高等学校理科教諭らと理学部の連携を図る一環になっている（資料 E-2-4-1 補完授業のシラバス例、資料 E-2-4-2 理学部新入学生の補完授業履修者数）。

資料 E-2-4-1 補完授業のシラバス例

生物学サプリメント [15N0053]			
科目名 Course Title	生物学サプリメント [15N0053] Supplementary Class of Biology		
科目区分・科目種	全学共通科目	クラス	全学科
CCBM		キャリアデザイン	
単位数	2.0単位	履修年次	1年
担当教員	竹村 朝子		
学期	前期		
曜日・時限・教室	金曜 7～8限 共通講義棟1号館205室		
受講条件・その他注意			
高等学校の理科で、生物分野を学習しなかった学生が基本。			
授業の形態			
講義			
教科書・参考文獻			
【教科書】なし。 【参考書】「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」数研出版株式会社 920円プラス税(予定)			
評価方法・評価割合			
小論文(レポート)=メールで回収 提出締切:7/31(金)内容については授業内で告知			
主題と目標			
高等学校の理科で、生物分野を学習しなかった学生を対象として、高校程度の知識の習得と内容の理解を目標とする。			
授業計画			
生物の分類、細胞の構造と機能、細胞の一生、代謝(主としてエネルギー代謝)、生殖と発生、古典的遺伝学、分子遺伝学			
時間外学習			
【予習】講義の最初のうちについてこれなさそうだと自分で判断した場合は、参考書を一読して授業に臨むこと。 【復習・必須】次の講義までに、前回講義の内容(ノート、参考書)を一読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。			
学生へのメッセージ			
生物学の基礎を学ぶ科目です。それぞれの専門科目への理解を深めるため、また、現代社会を生きて行く上でも重要な知識を得るために頑張ってください。			

(出典：お茶の水女子大学平成27年度シラバスより抜粋)

資料 E-2-4-2 理学部新入学生の補完授業履修者数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生物学サプリメント	9	8	9	4	9	8
物理学サプリメント	11	12	9	1	8	

(出典：学務課資料)

5. 社会人の学び直し

科目等履修生の制度により社会人の学び直しのニーズに対応し、教育を提供できる体制を整えている(資料 E-2-5-1 科目等履修生受講科目数)。

資料 E-2-5-1 科目等履修生受講科目数 (理学部担当教員による科目)

科目の種類		延べ履修科目数(科目数×履修人数)					
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
専門科目	数学	5	30	4			
	物理		6	1	3	5	6
	化学	1	1	5		1	
	生物	2	14	2	4	2	2
	情報科学	4	2	1	1		
全学共通・理学部共通		12	11	10	11	8	5

(出典：学務課資料)

6. 小、中、高等学校及び他大学との連携

平成21年度から始めた「科学への誘いセミナー」は、毎年12月末から翌年の1月の時期に3日間にわたり、理学部教員が最先端の自然科学の講義(実験・実習を含む)を理系志望の高い女子高校生に向けて行っている。講座内容は高等学校の理科・数学の範疇にとどまるものではないハイレベルではあるが、例年100名を越える参加者が関東近県から訪れている(資料 E-2-6-1 「科学への誘いセミナー」の実施状況)。

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)採択の関東近県6女子高校との交流を行い、課題研究の指導並びに先端科学に関する実験・実習の講習会等を通して、当該高等学校との連携の強化も図った(資料 E-2-6-2 小、中、高等学校及び他大学との連携活動の実施状況)。

また、日本の科学教育の高度化の一つとして、生物学科では、生物学オリンピックの実施に貢献した(資料 E-2-6-3 生物学科による生物学オリンピックへの貢献)。

資料 E-2-6-1 「科学への誘いセミナー」の実施状況

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実施日	H22.12.19 H22.12.23 H22.12.26	H23.12.18 H23.12.23 H23.12.25	H24.12.23 H25.1.5 H25.1.6	H25.12.14 H25.12.21	H26.12.21 H26.12.23
講座数	11	13	10	9	10
参加高校数	10	11	11	6	14
参加高校生数	105	124	132	62	179

資料 E-2-6-2 小、中、高等学校及び他大学との連携活動の実施状況

(平成 22 年度)

- ・サイエンス&エデュケーションセンターを中心に、東京都北区及び文京区において環境学習、理科教育の支援事業を実施するとともに、新たに、埼玉県戸田市と教育に関する相互協力を目的とする協定の締結を行った。

(平成23年度)

- ・教育関係共同利用拠点に認定された湾岸生物教育研究センターにおいて、東京湾の浅海性・深海性の生物を活用する教育拠点として、利用大学の授業科目に応じたオーダーメイド実習や臨海実習を提供したほか、中学校や高等学校を対象とした臨海実習を 10 コース実施し、実験材料（ウニ等の海産動物）を 58 の中学校・高校・大学に提供している。
- ・川越女子高校の SSH 活動の支援として、高校生による探究活動の発表会を企画した。発表会では、本学の学生及び大学院生が討論者として参加し、研究発表に関する質疑応答やフリーディスカッション、大学の研究室訪問などを行った。参加した高校生は 10 名。

(平成24年度)

- ・教育関係共同利用拠点湾岸生物教育研究センターにおいて、所在地である千葉県館山市と相互交流協定を締結し、館山市教育委員会との協力による小中学生対象の「夏休み科学論文のための観察実験会」の実施や館山市中央公民館との共催による「大学 Jr. サイエンス」の実施等の取組を行っている。
- ・高校生の SSH 活動の支援として、高校生による探究活動の発表会を企画した。発表会には、川越女子高校、熊谷女子高校、春日部女子高校から 28 名が参加し、本学の学部学生、大学院生および大学教員を交えて、研究発表と討論を行った。高校生による研究室訪問も実施した。

(平成26年度)

- ・利用大学の授業科目に応じたオーダーメイド実習を首都圏の 8 大学に提供し、それとともに、国内外の研究組織や大学と連携して学生を受け入れた。（共同利用総数 31 大学、196 人）。
- ・スーパーサイエンスハイスクール等の小中高校生の実習、社会人講座、教員研修、協定自治体である館山市との連携事業等 19 コースを実施した。
- ・実験材料としての海産生物の提供方法を改善し、ウニ等の海産動物を 28 大学と 150 の中学・高校等へ実験材料として送付提供した。
- ・スーパーサイエンスハイスクール事業採択 6 女子高等学校（SSH 6 女子高）の研究交流会を夏休みに本学理学部で主催すると同時に、課題研究に関して研究相談会と実施した。また、年度末には、本学で課題研究発表会を開催した。

(平成 27 年度)

- ・平成 26 年度と同様に SSH 6 女子高の研究交流会を夏休みに本学理学部で開催し、本学理学部各学科において特色ある研究の紹介を行った。

資料 E-2-6-3 生物学科による生物学オリンピックへの貢献

- (1) 平成 21 年度から生物学オリンピック国内 1 次予選の出題委員に生物学科から 2 名の教員が参画して問題作成に加わった。50 名を超える委員による出題提案の中で、4 年間で計 8 題が採択された。
- (2) 平成 23、24 年度には、国内予選で選抜されて国際生物学オリンピックに出場が内定した本選メンバーと補欠メンバーに対して、国際生物学オリンピック日本委員会からの依頼を受けて、本学生物学科が特別教育を担当した。また平成 23～25 年度には、国際生物学オリンピック本選に理学部教員が、試験問題の現場翻訳と大会中の選手のケアを務めた。特に、平成 23、24 年度には、本学生物学科の特別教育の貢献が極めて高かったとして、国際生物学オリンピック日本委員会から感謝状が授与された。

7. グローバル人材養成

海外語学研修については、春期休暇あるいは夏期休暇に参加できるシステムがある。利用学生数の年度ごとの変動は大きいですが、海外語学研修そのものへの関心は高い。海外留学に対する学生のニーズへの対応と、留学制度の積極的な利用のため、一部の海外研修では単位認定も行っている(資料 E-2-7-1 大学間交流協定に基づく理学部からの派遣学生一覧、資料 E-2-7-2 大学間交流協定に基づく派遣以外の理学部生海外派遣プログラム)。また、少数ではあるが、学部留学生及び外国人研究生の受入れを行っている。

平成 24 年度採択の「グローバル人材育成推進事業」による「英語によるサマープログラム」では、本学部の教員も授業を担当している(資料 E-2-7-3 グローバル人材育成推進事業への参加)。

資料 E-2-7-1 大学間交流協定に基づく理学部からの派遣学生一覧

年度	派遣先大学(国名)	派遣者数	認定単位数	派遣期間
H 23	タンペレ大学(フィンランド)	1	0	2011.8-2012.8
H 24	ウィーン大学(オーストリア)	1	12	2012.10-2013.6
H 25	モナシュ大学(オーストラリア)	1	14	2013.7.15-2014.6.27
H 25	セントリア先端科学大学(フィンランド)	1	0	2013.8.26-2014.5.4
H 26	モナシュ大学(オーストラリア)	1	0	2014.7.28-2015.6.27
H 26	バーギシェ・ブツパタール大学(ドイツ)	1	0	2014.10.6-2015.2.6
H 27	セントリア先端科学大学(フィンランド)	1	—	2015.9-2016.5

(出典：国際課資料)

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅰ

資料 E-2-7-2 大学間交流協定に基づく派遣以外の理学部生海外派遣プログラム

年度	プログラム名	派遣先(国名)	参加人数	単位認定有無	派遣期間
22	モナシュ大学短期研修	モナシュ大学(オーストラリア)	3	有	2011.2.27-3.26
	オタゴ大学短期研修	オタゴ大学(ニュージーランド)	1	有	2011.2.15-4.3
	マンチェスター大学短期研修	マンチェスター大学(イギリス)	2	有	2010.8.8-9.12
	ハル大学理系研修	ハル大学(イギリス)	11	有	2011.2.12-3.27
23	モナシュ大学短期研修	モナシュ大学(オーストラリア)	1	有	2012.2.25-4.1
	オタゴ大学短期研修	オタゴ大学(ニュージーランド)	1	有	2012.2.14-4.1
	マンチェスター大学短期研修	マンチェスター大学(イギリス)	3	有	2011.7.22-8.29
	ブッパタル大学環境科学サマースクール	バーギシェ・ブッパタル大学(ドイツ)	7	無	2011.9.6-9.18
	ハル大学理系研修	ハル大学(イギリス)	13	有	2012.2.11-3.25
24	モナシュ大学短期研修	モナシュ大学(オーストラリア)	1	有	2013.2.18-3.22
	オタゴ大学短期研修	オタゴ大学(ニュージーランド)	5	有	2013.2.14-4.1
	マンチェスター大学短期研修	マンチェスター大学(イギリス)	6	有	2012.7.25-8.26
	ハル大学短期研修	ハル大学(イギリス)	3	無	2013.2.9-3.17
	ニューサウスウェールズ大学短期研修	ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)	1	無	2013.2.16-3.31
	カリフォルニア大学リバーサイド校短期研修	カリフォルニア大学リバーサイド校(アメリカ)	2	無	2013.2.17-3.24
	情報理工学分野で国際的に活躍する女性研究者・技術者を育てる学生交流プログラム	オウステロボテナ先端科学大学(フィンランド)	1	無	2012.8.30-11.1
	情報理工学分野で国際的に活躍する女性研究者・技術者を育てる学生交流プログラム	シドニー大学(オーストラリア)	1	無	2012.10.9-12.10
	日韓3女子大学交流合同シンポジウム	梨花女子大学(韓国)	9	無	2012.7.16-7.18
	慶北大学校サマープログラム	慶北大学校(韓国)	1	無	2012.8.5-8.10
	ブッパタル大学環境科学サマースクール	バーギシェ・ブッパタル大学(ドイツ)	8	無	2012.9.2-9.16
	国際調査(スタディーツアー)	ホーチミン医科薬科大学他	3	無	2012.8.31-9.6
25	マンチェスター大学短期研修	マンチェスター大学(イギリス)	6	有	2013.8.2-9.9
	ハル大学短期研修	ハル大学(イギリス)	10	有	2014.2.17-3.29
	ニューサウスウェールズ大学夏期短期研修	ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)	2	有	2013.8.3-9.13
	ニューサウスウェールズ大学春期短期研修	ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)	1	無	2014.2.16-3.29
	春期ロシア語ロシア文化研修	トムスク国立教育大学(ロシア)	3	有	2014.2.17-3.10
	日韓3女子大学交流合同シンポジウム	梨花女子大学(韓国)	2	無	2013.12.10-12.12
	ブッパタル大学環境科学サマースクール	バーギシェ・ブッパタル大学(ドイツ)	4	有	2013.9.16-9.27
	国際調査(スタディーツアー)	ベトナム	1	無	2013.9.1-9.7
	国際調査(スタディーツアー)	バングラデシュ	1	無	2013.8.31-9.7
26	モナシュ大学短期研修	モナシュ大学(オーストラリア)	4	有	2015.2.15-3.21
	オタゴ大学短期研修	オタゴ大学(ニュージーランド)	4	有	2015.2.15-3.30
	マンチェスター大学短期研修	マンチェスター大学(イギリス)	4	有	2014.8.4-9.5
	ハル大学短期研修	ハル大学(イギリス)	4	有	2015.2.15-3.21
	カリフォルニア大学リバーサイド校短期研修	カリフォルニア大学リバーサイド校(アメリカ)	1	有	2014.8.4-9.5
	慶北大学校サマースクール	慶北大学校(韓国)	2	無	2014.8.11-8.23
	ボン大学インターナショナルサマーコース	ボン大学(ドイツ)	1	無	2014.8.5-8.29
	ブッパタル大学環境科学スプリングスクール	バーギシェ・ブッパタル大学(ドイツ)	3	有	2015.3.2-3.13
	理系研究インターンシッププログラム	イーストアングリア大学(イギリス)	1	無	2014.9.22-10.25
	理系研究インターンシッププログラム	セントリア先端科学大学(フィンランド)	2	無	2014.10.24-12.26
	国際共生社会論実習※1	Special Education and Rehabilitation Center for Disabled Children(SERC) (ネパール)	1	無	2014.8.30-9.6
	KAKEHASHI Project※2	ニューヨーク市立ハンターカレッジ、マウントホリヨーク大学、アマーستカレッジ等	1	無	2014.11.4-11.15

※1 全学共通科目「国際共生社会論実習」の一環

※2 文教育学部専門科目「国際交流論Ⅱ」の一環

(出典：国際課資料)

2015 OCHANOMIZU UNIVERSITY SUMMER PROGRAM IN ENGLISH**Theme II: Time and Forms in Nature****テーマⅡ： 科学の中の時間と形**

Teaching staff:	Takayuki ITO	(Professor, Natural/Applied Sciences Division, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu Univ.)
	Tetsuyuki KOBAYASHI	(Professor, <i>ditto</i>)
	Toshihiro KONDO	(Professor, <i>ditto</i>)
	Rumi KONDO	(Associate Professor, <i>ditto</i>)
	Masayuki HATTA	(Associate Professor, <i>ditto</i>)
	Yoshihito MORI	(Professor, <i>ditto</i>)
	Masahiro MORIKAWA	(Professor, <i>ditto</i>)
	Kei YURA	(Professor, <i>ditto</i>)

[Outline]

Nature is filled with structurally diverse substances and living creatures, which are altered in a time-dependent manner. The physical nature of form (structure or assembly) and its change are figured out by the sciences, especially mathematics, physics, chemistry, biology and information science. The lectures examine and explain the science on time and forms, and are given in English by teaching staff in the Faculty of Science. Each lecturer will present, in simple terms, the latest areas of interest in their own field of expertise. This will ensure an overall comprehensive approach.

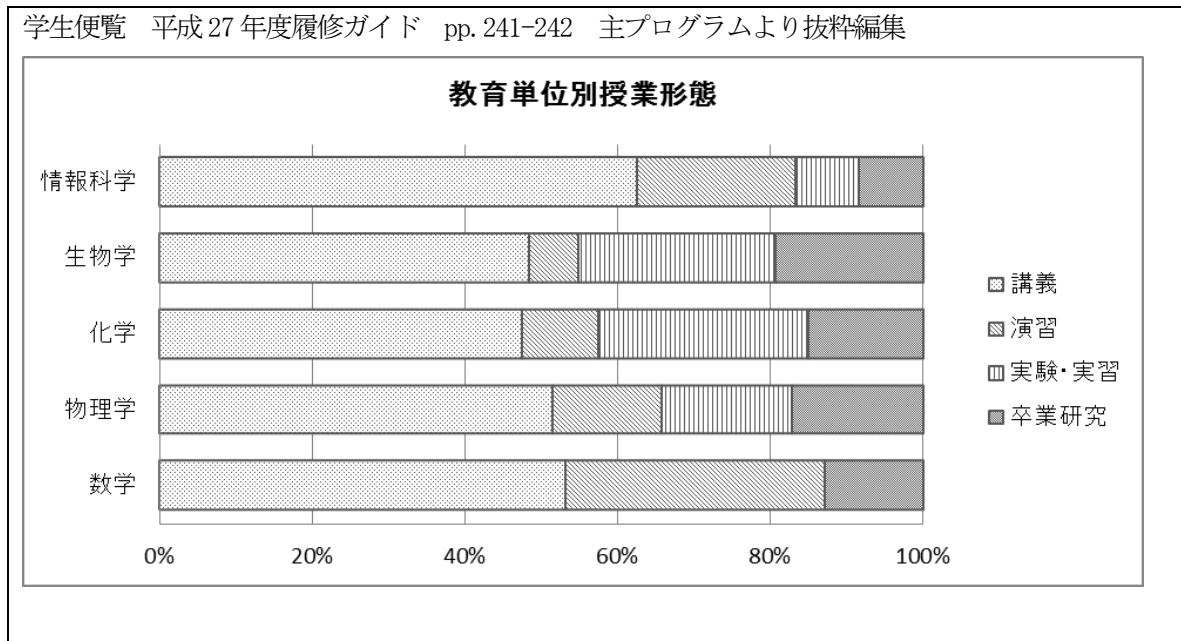
自然界には多様な形をした物質や生物が存在し、時間とともに変化します。その形（構造、集合体）の実態とその変化が何を意味するかについて、数学・物理学・化学・生物学・情報学などの理学的な学問が解き明かしてくれます。本講義では、時間と形に関わるサイエンスを中心に、理学部の教員がオムニバス形式でそれぞれの研究分野の視点から英語で解説します。さらに、各専門分野での最新トピックスについても、わかりやすく説明します。

(http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/others/2015_ThemeII.pdf)

8. 教育方法の工夫

理学部各学科においては、学士課程の教育において各学問分野の修得を確実なものとするために、実験・演習及び卒業研究を単位数において35%以上に設定している(資料 E-2-8-1 教育単位別授業形態)。特に、化学科・生物学科においては50%以上を実験・演習及び卒業研究に充てることで、当該学問分野の内容を、より確実に身につけられるようにしている。

資料 E-2-8-1 教育単位別授業形態



9. インターンシップ

一般に大学院進学後に活用するが多いが、最近は学部3年生を中心として夏期休業期間中にインターンシップに出掛けている。企業・研究所等、理学部独自のインターンシップに参加する学生の約半数が単位認定を利用している(資料 E-2-9-1 インターンシップ実施状況)。

資料 E-2-9-1 インターンシップ実施状況

年度	派遣先	派遣期間	派遣者数(学科・学年)	単位認定
H 22	(独)物質・材料研究機構	8、9月 2-3 週間	5名(化学科3年4名、生物学科3年1名)	有
	(独)産業技術総合研究所	8、9月 2-3 週間	2名(化学科3年、化学科2年各1名)	有
H 23	(独)物質・材料研究機構	8、9月 2-3 週間	3名(物理学科4年1名、化学科2・3年各1名)	有
	(独)産業技術総合研究所	8、9月 1-2 週間	4名(化学科4年1名、化学科2年2名、情報科学科2年1名)	無
	三井住友海上火災保険(株)	不明	5名(数学科3年4名、物理学科3年1名)	無
H 24	(独)物質・材料研究機構	8、9月 2-3 週間	5名(化学科3年5名)	有
	(独)産業技術総合研究所		1名(化学科2年1名)	無
	栃木県庁	8月 5日間	1名(生物学科3年1名)	無
H 25	(独)物質・材料研究機構	8、9月 2-3 週間	1名(化学科3年1名)	無
	ニューサウスウェールズ大学		1名(生物学科3年1名)	有
	香川県庁	8月 9日間	1名(物理学科3年1名)	無
	理化学研究所	8月 5日間	1名(生物学科3年1名)	無
H 26	(独)物質・材料研究機構	8、9月 2-3 週間	4名(化学科3年4名)	無
	理化学研究所		1名(生物学科3年1名)	有
	認定NPO法人 生態工房		1名(生物学科2年1名)	有
	植物防疫所	9月 5日間	1名(生物学科1年1名)	無
	理化学研究所	8月 6日間	1名(生物学科3年1名)	無
H 27	(独)物質・材料研究機構	8、9月 2-3 週間	10名(化学科3年6名、化学科2年4名)	有

(出典：学生・キャリア支援課資料)

10. 学生の主体的な学習の促進

各学科の講義室や演習室は、授業使用时以外は、学生に開放され、本学附属図書館、理学部図書室及び各学科図書室と並び、自習の場として活用されている。また、談話室やディスカッションルーム等を整備し、自習のみならず学習相談の場として活用している。講義、演習、実験、実習の授業形態に応じて課題の提示と添削、あるいは自発的な課題についての調査・実験を重視し、自発的な学習を促している。さらに、平成26年度からは理学部共通図書室の一部を改修し、新たにセミナー室及び情報機器を整備したスタディコモンズを開設した(資料 E-2-10-1 理学部学習環境の状況、資料 E-2-10-2 理学部講義室等配置状況、資料 E-2-10-3 理学部スタディコモンズ)。

学業成績の優秀な学生を表彰する全学的な賞に加えて、理学部では独自に「数学奨学基金」、「生物学優秀学生賞奨学基金」等、学部学生を対象にした奨学金制度を多く設け、学習意欲を触発している(資料 E-2-10-4 各種奨学金)。

資料 E-2-10-1 理学部学習環境の状況(出典：学務課資料)

学部・大学院の学習環境

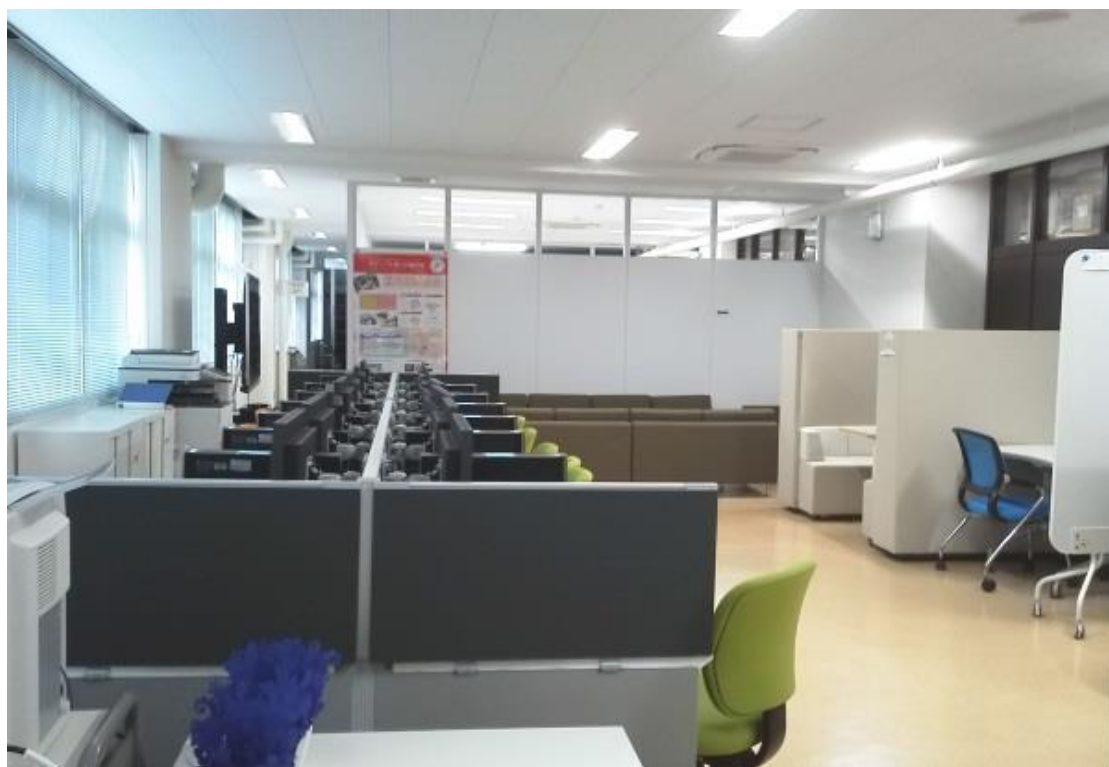
学部学科

学部学科等		学修環境の状況				
		学生控室の有無	図書館の有無	学生用パソコンの有無	個人ロッカーの有無	その他、各学科等の状況
理 学 部	数学科	有(理1-618)	有(理1-602)	有(7台)	有(理1-618)	他、控室(理1-522、628、632、641)など
	物理学科	有(理1-218)	有(理1-601)	有(76台)	有(理1-218)	4年次配属先研究室にて、机、ロッカー、パソコンを配分。パソコンは大学院生と共有。
	化学科	有(理1-418)	有(理1-601)	有(50台)	有(理1-玄関)	他、ロッカー室(共3-3階)、理1-4階
	生物学科	有(理1-518)	有(理1-601)	有(57台)	有(理1-518)	他、ロッカー室(理1-1階)
	情報科学科	有(理3-604)	有(理3-501)	有(60台)	有(理3-604)	他、控室4年次には研究室で机を用意

資料 E-2-10-2 理学部講義室等配置状況(出典：学務課及び施設課資料)

管理学科	名称	面積(m ²)	収容人数	用途	建物名	部屋	備考
数学科	数学第一講義室	82	56	講義室	理学部1号館	621	
	数学第二講義室	52	34	講義室	理学部1号館	629	
	教室	42	24	講義室	理学部2号館	501	
	数学講義室	111	78	講義室	理学部2号館	507	情報科学科と共用
	セミナー室	26	32	演習室	理学部1号館	627	
	数学演習室	52	32	演習室	理学部1号館	633	
	数学セミナー室	19	20	演習室	理学部1号館	636	
	数学セミナー室	19	20	演習室	理学部2号館	504	
物理学科	物理学第一講義室	82	72	講義室	理学部1号館	201	
	物理学第二講義室	78	72	講義室	理学部1号館	207	
	第一輪講室	30	16	演習室	理学部1号館	115	
	第二輪講室	26	16	演習室	理学部1号館	235	
	物理学第三講義室	56	27	講義室	理学部1号館	241	
	第2物理学実験室	97	30	実習室	共通講義棟3号館	508	
	第3物理学実験室	71	20	実習室	共通講義棟3号館	507	
化学科	化学第一講義室	74	64	講義室	理学部1号館	415	
	化学第二講義室	39	30	講義室	理学部1号館	414	
	化学第一演習室	42	16	演習室	理学部1号館	422	
	化学第二演習室	23	16	演習室	理学部1号館	444	
	化学実験準備室1	16	—	実験室	共通講義棟3号館	306	
	化学実験準備室2	17	—	実験室	共通講義棟3号館	308	
	化学学生実験室	108	30	実験室	理学部1号館	321	
	化学実験機器室	16	—	実験室	共通講義棟3号館	305	
	第1化学学生実験室	97	30	実験室	共通講義棟3号館	310	
	第2化学学生実験室	71	24	実験室	共通講義棟3号館	309	
生物学科	生物学第一講義室	56	40	講義室	理学部1号館	401	
	生物学第二講義室	81	72	講義室	理学部2号館	405	
	生物学演習室	42	16	演習室	理学部1号館	402	
	生物学第一実習室	82	24	実習室	理学部1号館	521	
	生物学第二実習室	47	24	実習室	共通講義棟3号館	307	
	生物学第三実習室	82	24	実習室	理学部1号館	539	
情報科学科	情報科学講義室(1)	97	80	講義室	共通講義棟3号館	409	
	情報科学講義室(2)	71	42	講義室	共通講義棟3号館	408	
	情報科学科計算機室	125	50	実習室	理学部3号館	504	
理学部	大講義室	197	166	講義室	理学部3号館	701	主にコア科目、 全学共通科目 に使用
	IT ルーム3	65	36	演習室	理学部2号館	101	
	IT ルーム4	61	30	演習室	理学部2号館	105	
	IT ルーム1	197	50	演習室	理学部3号館	601	
	セミナー室	26	16	演習室	理学部1号館	627	理学部共通

資料 E-2-10-3 理学部スタディコモンズ



資料 E-2-10-4 各種奨学金 (本学ウェブサイトから理学部学部生が対象に入るものを抜粋)

(http://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/list.html)

基金の名称	授与対象者	奨学金の額	人数	申請時期
学部生成績優秀者奨学金	学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生(中途に休学期間がない者に限る。)のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者	200,000 円	(H27) 25 名※	—
桜蔭会奨学金	各学部より推薦された学部3年生	100,000 円	(H27) 4 名※	—
海外留学特別奨学金	1.大学間交流協定に基づく交換留学派遣学生等として留学(1年を限定)し、留学先の大学に留学期間中の授業料を納付する者 2.留学期間中、本学の授業料免除の全額免除を受けていない者 (1~2の全てを満たす者)	本学の授業料の年額または年額の2分の1に相当する額が上限	(H27) 0 名	随時
海外留学支援奨学金	本学学生の短期留学(short visit) 1.学部生及び大学院生(ただし、留学期間に休学する者を除く。) 2.外国の大学、短期大学又は大学院に留学する者 3.グローバル教育センターが募集する短期留学(サマープログラム等)に申請した者 海外の大学間交流協定校からの短期留学(short stay) 1.海外の大学間交流協定校に在学し、所属校から推薦された者 2.特に成績優秀な者	50,000 円	(H27) 120 名※	夏期: 4月中旬~5月下旬 春期: 10月中旬~1月中旬
保井・黒田奨学基金	自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	30,000 円	(H27) 1 名	—
湯浅年子記念特別研究員奨学基金	本学出身者、在学する者又は附属高等学校出身者で、自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	250,000 円	(H27) 0 名	—
数学奨学基金	本学出身者又は本学大学院博士前期課程及び学部在学する者で、数学の成績顕著な者	100,000 円	(H27) 0 名	—
生物学優秀学生賞奨学基金	本学理学部生物学科4年生に在学する者で、生物学の成績顕著な者	20,000 円	(H27) 1 名	—
化学科(宮島直美)奨学基金	本学理学部化学科4年生、大学院博士前期課程理学専攻化学・生物化学コース1年生及び大学院博士後期課程理学専攻化学・生物化学領域に在学する者で、成績等顕著な者	100,000 円	(H27) 6 名	—
生物学科(小沼英子)奨学基金	本学理学部生物学科に在学する者で、成績及び人物が優秀であり、本基金による支援が必要な者	500,000 円を 限度	(H27) 0 名	—
矢部吉禎・矢部愛子奨学基金	本学学部または大学院に在学する者で、植物学または数学を学ぶ者のうち、学業や研究能力に優れ、本奨学金による経済的支援を必要とする者	500,000 円	(H27) 0 名	—

* 申請時期が記載されていない奨学金は、その年により時期が異なるか、推薦による受付のものです。

※は理学部、文教育学部、生活科学部を含めた全学の実績です。

1 1. 単位の実質化に関する取組

各学科におけるカリキュラム体系や、履修方法に関しては、学部の履修規程のみならず、学科ごとのガイダンス、研修会などにおいて、時間割例を配布してきめ細かい履修指導を行っている。シラバスに関しても、全学管理のものに加え、多くの授業科目で、より詳細な講義内容の小冊子を用意し、双方向の授業展開に役立てている。なお、情報科学科の分野では、学科のカリキュラムに合わせて教科書シリーズを分担で執筆し、学生の学内外での自発的な学習に資している。また、多くの教員が各自の Web サイトを開設し、講義の事前学習やアフターケアとして活用し、学生の自主的学習に供している（資料 E-2-11-1 自主学習用 Web ページ例）。

卒業研究に関しては、1 教員当たり 1 ～ 3 人程度の学部学生が所属しており、卒業研究及び専門授業科目の単位の実質化が行われている。

資料 E-2-11-1 自主学習用 Web ページ例

(積分論 1)

Chimes2015
日本語 (ja)
山下 真

Home ▶ マイコース ▶ 理学部 ▶ 数学科 ▶ 15C1226
編集モードの開始

ナビゲーション

- Home
- マイホーム
- サイトページ
- マイプロフィール
- 現在のコース
- 15C1226**
- 参加者
- バッジ
- 一般
- 2014/04/07
- 演習問題追加分
- 演習問題リスト
- チェックリスト
- 追試問題
- トピック 6
- トピック 7
- トピック 8
- トピック 9
- トピック 10
- マイコース

2014/04/07

- オリエンテーションプリント (訂正版)
- オリエンテーション スライド

演習問題追加分

- 演習問題追加分

演習問題リスト

- 第1週 (04/07): 0.2.1, 0.2.5, 0.2.6
- 第2週 (04/13, 04/14): 1.1.2, 1.1.5*, 1.1.8*, 1.2.1, 1.2.3*, 1.2.9*, 1.2.11
- 第3週 (04/20, 04/21): 1.3.2, 1.3.4, 1.3.5*, 1.4.1*, 2.1.1, 2.1.7*, 2.1.9*
- 第4週 (04/27, 04/28): 2.2.3, 2.2.4*, 2.3.2*, 2.3.4*, 1.5.1
- 第5週 (05/07): 2.a*, 2.b, 2.c*

管理

- コース管理

フォーラムを検索する

Go
検索オプション

最新ニュース
トピックを追加する...
(新しいニュースはありません)

直近イベント
第4学期授業・試験期間 後学期試験・補講期間
2016年 01月 28日, 09:00
» 2016年 02月 3日, 09:00
カレンダーへ移動する...
新しいイベント...

最近の活動

(計算生物学)

Chimes2015 日本語 (ja) 由良 敬

Chimes
Chimera university Information and Media Square

Home ▶ マイコース ▶ 全学共通科目 ▶ 15N3029

編集モードの開始

フォーラムを検索する
Go
検索オプション (?)

最新ニュース
直近イベント
最近の活動

計算生物学 (1) / 計算生物学

ニュースフォーラム

第1回: 10月6日: はじめに & セントラルドグマ

講義資料
課題レポート

第2回: 10月13日: タンパク質のコード領域を推定する

講義資料
課題レポート
レポートの解説

第3回: 10月20日: 分子進化の基礎

講義資料
課題レポート

第4回: 10月27日: アミノ酸配列を比較する

ナビゲーション
Home
マイホーム
サイトページ
マイプロフィール
現在のコース
15N3029
参加者
バッジ
計算生物学 (1) / 計算生物学
第1回: 10月6日: はじめに & セントラルドグマ
第2回: 10月13日: タンパク質のコード領域を推定する
第3回: 10月20日: 分子進化の基礎
第4回: 10月27日: アミノ酸配列を比較する
第5回: 11月3日: 分子系統樹を推定する
第6回: 11月10日: 遺伝子配列の違いから何を見出すのか?
第7回: 11月17日: アミノ酸配列から二次構造を予測する
第8回: 11月24日: 第3学期試験
マイコース
管理
コース管理
編集モードの開始
設定を編集する
ユーザ
フィルタ
レポート

(関数型言語)

2015年度、関数型言語 (OCaml 演習) の授業のページ

浅井 健一

[シラバス](#)

予習クイズ

お茶大の [Moodle](#) の [関数型言語のページ](#) を参照。授業登録キーは ocaml (初回登録時に必要)。

レポート課題

- 4月 7日 (火) [番外編](#)。
- 4月 7日 (火) [第1回](#)。教科書 4.5 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 4月 14日 (火) [第2回](#)。教科書 6 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。 [デザインレシピのページ](#)
- 4月 21日 (火) [第3回](#)。教科書 8 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。 [tuareg mode の説明](#)
- 4月 28日 (金) [第4回](#)。教科書 10 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。 [Huse について](#)
- 5月 12日 (火) [第5回](#)。教科書 11 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 5月 19日 (火) [第6回](#)。教科書 12 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 5月 26日 (火) [第7回](#)。教科書 13 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 6月 2日 (火) 休講。
- 6月 9日 (火) [第8回](#)。教科書 14 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 6月 16日 (火) [第9回](#)。教科書 16 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 6月 23日 (火) [第10回](#)。教科書 17 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 6月 30日 (火) [第11回](#)。教科書 18 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。
- 7月 7日 (火) [第12回](#)。教科書 20 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。 [ビデオ2](#)、[スライド2](#)。 [tree.ml](#)、[tree.mli](#)、[OCamlMakefile](#)、[Makefile](#)。
- 7月 14日 (火) [第13回](#)。教科書 21 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。 [input.html](#)、[input2.html](#)、[output.php.txt](#)、[output2.php.txt](#)。
- 7月 21日 (火) [第14回](#)。教科書 22 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。 [ins.ml](#)。
- 7月 28日 (火) [第15回](#)。教科書 24 章まで、[ビデオ](#)、[スライド](#)。 [heap.ml](#)、[heap.mli](#)。

[演習課題チェックシステムの結果のページ](#)

駅名、駅間データ

- ・ 外ロネットワークデータ: [metro.ml](#)
- ・ 東日本ネットワークデータ: [higashi.ml](#)
- ・ 全ネットワークデータ: [global.ml](#)
- ・ 北海道ネットワークデータ: [hokkaido.ml](#)
- ・ 各路線別のデータ: [line/](#)
- ・ 県名ローマ字・漢字データ: [kenmei.ml](#)

(データは随時、更新中。)

(水準)期待される水準を上回る
(判断理由)

1. 本学部の教育の目的に照らし、理学部及び各学科の教育目的を、理学部カリキュラム・ポリシー並びに理学部ディプロマ・ポリシーに明記し、入学時に配布する履修ガイドに記載するとともに、履修指導を通じて学生全員に周知徹底している。
(1. 教育目的の明示参照)
2. 「新たな学士課程教育の構築」として、「21 世紀型文理融合リベラルアーツ」によって基礎となる教養教育の充実を行い、「複数プログラム選択履修制度」によって多様な専門性の育成を目指している。4 年次の卒業研究においては、他学科の教員の指導による卒業研究指導（通称「卒研シフト」）が行えるような制度の工夫を行い、「複数プログラム選択履修制度」の中で多様化した学生の科学への関心の受け皿とし、大学院で新たな領域の研究を目指すルートを築いている。
(2. 新しい学士課程専門教育プログラムのカリキュラム、3. 教養教育の充実と専門教育の関わり参照)
3. 新入学生に対する補完教育として補完授業（サプリメント）を行っている。また、社会人に対しては、科目等履修制度によりニーズに対応する工夫を行っている。
(4. 新入学生に対する補完教育、5. 社会人の学び直し参照)
4. 「科学への誘いセミナー」の実施、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）との交流、国際生物学オリンピックへの貢献等を通して、これから理工系を志す高校生に、研究の面白さや、その関心を大学でどのように発展させていけるのかを紹介している。
(6. 小、中、高等学校及び他大学との連携参照)
5. 学生が自主的に、将来を見据えたキャリア形成の仕方や、グローバル力を身につけていくことができるように、海外派遣プログラムや企業・研究機関でのインターンシップを実施している。また、教育効果を上げる工夫として、理学部各学科では実験・演習（卒業研究を含む）を単位数において 35%以上に設定している。
(7. グローバル人材養成、8. 教育方法の工夫、9. インターンシップ参照)
6. 専門課程のほとんどが少人数クラスで行われ、学生の理解度等の状況を十分に把握した上で、学習指導の工夫がなされるとともに、自主的な学習の啓発も日常的に行われている。また、自習の場となる学習環境も整備されている。
(10. 学生の主体的な学習の促進、11. 単位の実質化に関する取組参照)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 成績測定手法

国際的に通用する成績評価の「質」の保証を目指して、平成 23 年度から GPA 制度を年次進行で導入した。GPA 値は、奨学金、派遣留学生、学生表彰などの選考の際に、基準指標として使用される。

2. 卒業及び進級状況、単位の修得状況

約 9 割の学生が、4 年で卒業している。平成 26 年度の卒業時においては、半数以上の卒業生の取得単位数は 160 単位未満であるが、160 単位以上で S、A の評価を高い割合で取得する学生も少なからずいる（資料 E-1-1-2 学科別定員、現員、卒業者数、資料 E-3-2-1 卒業生単位取得状況、成績）。

資料 E-3-2-1 卒業生単位取得状況、成績

(平成 26 年度卒業生の取得総単位数（在学期間 4 年間の学生のみ）及び成績)

取得単位数	人数(%)	S(%)	A(%)	B(%)	C(%)
180 単位以上	16(12%)	19	56	18	7
160-179	28(21%)	13	55	22	10
140-159	48(35%)	15	57	20	8
124-149	44(32%)	11	49	27	13

注)人数欄は 人数及び割合を、S・A・B・Cは全体の割合をそれぞれ算出

(出典：学務課資料)

3. 資格取得状況

取得したほとんどの資格は教員免許である。22～43%の学生が中学あるいは高校の教員免許を取得している。特に数学科では、常に半数以上の学生が数学教員の免許を取得しており、平成 22～26 年度の平均で 10%の学生が中学・高校の教職に就いている（資料 E-3-3-1 教員免許取得者数）。

資料 E-3-3-1 教員免許取得者数（理学部）

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
中学校1種	48	31	41	31	38
高等学校1種	63	34	49	38	47

(出典：学務課資料)

4. 学生の表彰、論文発表等

学部段階においても、学会やコンテストへの参加が多くみられ、受賞者も出ている（資料 E-3-4-1 学会・コンテスト参加状況）。

資料 E-3-4-1 学会・コンテスト参加状況

学会・コンテスト	時期	テーマ	参加学生	プログラム
情報処理学会第 73 回全国大会	2011/3/2-4	郵便箱と 2 次元コードを用いたコミュニケーション支援	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 73 回全国大会	2011/3/2-4	文書内のイベントを対象にした潜在的ディリクレ配分法によるクエリに特化した要約	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 73 回全国大会	2011/3/2-4	ライフログ評価環境におけるアプリケーションの要求条件に基づくデータ品質保証に関する一検討	情報 4 年 1 名	卒研

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅱ

ACM 国際大学対抗プログラミングコンテスト 国内予選	2011/6/24		情報 4 年 3 名 情報 3 年 9 名	A
Young Researchers Conference on Evolutionary Genomics	2011/8/1	Identification and characterization of protochordate promoters (ポスター発表)	生物 1 年 1 名	A
ACM International Conference on Interactive Tabletops and Surfaces	2011/11/13-16	Chihiro Suga, Itiro Siiro, Anamorphicons: An extended display with a cylindrical mirror	情報 4 年 1 名	
第 34 回日本分子生物学会年会	2011/12/16	遺伝子発現データに基づく HTF アイランドプロモータの 定義と配列の特徴 (ポスター発表)	生物 2 年 1 名 情報 3 年 1 名	A
第 34 回日本分子生物学会年会	2011/12/16	レトロトランスポジションによるアレル特異的 DMR の生 成 (ポスター発表)	生物 3 年 1 名	A
第 1 回サイエンスインカレ	2012/2/18-19	自然界からのオイル産生藻類の探索 (ポスター発表)	生物 1 年 3 名	A
第 1 回サイエンスインカレ	2012/2/18-19	高等真核生物の遺伝子発現データのコンピュータ解析 による選択的スプライシングの発見 (ポスター発表)	生物 2 年 1 名 生物 4 年 1 名	A
第 1 回サイエンスインカレ	2012/2/18-19	タンパク質が RNA と相互作用する構造の情報収集 (ポ スター発表)	情報 3 年 1 名	A
第 1 回サイエンスインカレ	2012/2/18-19	Anamorphicons: 円筒鏡面を用いたディスプレイの拡張	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 74 回全国大会	2012/3/6-8	複数の時系列データの関連性発見に基づく言語化の一 考察	情報 4 年 1 名	卒研
言語処理学会第 18 回年次大会	2012/3/14-16	言語的テストに基づく意味アノテーションのガイドライン 設計-確実性判断に関わる表現を中心に (口頭発表)	情報 3 年 2 名	P
第 64 回日本動物学会関東支 部大会	2012/3/17	ウスエダミドリイシの出芽パターン (ポスター発表)	生物 3 年 1 名 生物 2 年 1 名	A
電子情報通信学会 Web インテ リジェンスとインタラクション研 究会	2012/3/17-18	潜在トピックの配分を考慮した複数文書要約	情報 4 年 1 名	卒研
第 9 回航空機による学生無重 力実験コンテスト	2012/3/20-21	微小重力下での水時計と砂時計	物理 3 年 2 名	A
第 3 回日韓 3 女子大学交流合 同シンポジウム	2012/7/16-18	Waterglass and sandglass under microgravity (ポスター 発表)	物理 4 年 2 名	A
第 3 回日韓 3 女子大学交流合 同シンポジウム	2012/7/16-18	Patterns of Budding from the Primary Polyp in the Reef-Building Coral <i>Acropora tenuis</i> (ポスター発表)	生物 4 年 1 名	A
第 3 回日韓 3 女子大学交流合 同シンポジウム	2012/7/16-18	Search for Oil-producing microalgae from nature (ポスタ ー発表)	生物 2 年 4 名	A
第 3 回日韓 3 女子大学交流合 同シンポジウム	2012/7/16-18	Methodology for Constructing Guidelines for Reliable Corpus-annotations by Means of Linguistic Tests (ポス ター発表)	情報 4 年 2 名	A
ACM 国際大学対抗プログラ ミングコンテスト 国内予選	2012/7/6		情報 4 年 3 名 情報 3 年 6 名	A
日本マイクロ重力応用学会 第 26 回学術講演会	2012/11/20-22	微小重力下での水時計と砂時計 (Waterglass and sandglass under microgravity) (ポスター発表)	物理 4 年 2 名	A
日本サンゴ礁学会第 15 回大会	2012/11/22-24	ウスエダミドリイシ初期ポリプからの出芽パターン (ポ スター発表)	生物 4 年 1 名	A
第 10 回航空機による学生無 重力実験コンテスト	2012/12/26-27	泡花の成長 【奨励賞】	化学 3 年 3 名 化学 1 年 1 名	A
第 3 回コーパス日本語学ワー クショップ	2013/2/28	複合機能表現「という」の分類にみる MCN コーパスの方 法論と検証 (ポスター発表)	情報 3 年 5 名	P
情報処理学会シンポジウム・ インタラクション 2013	2013/2/28-3/2	記憶の石: マルチタッチを用いた複数計算機間情報移 動	情報 4 年 1 名	卒研
第 2 回サイエンスインカレ	2013/3/2-3	自然界からのオイル産生藻類の探索 (ポスター発表)	生物 2 年 2 名	A
第 2 回サイエンスインカレ	2013/3/2-3	微小重力中の泡の成長 (ポスター発表)	化学 3 年 3 名	A
情報処理学会第 75 回全国大会	2013/3/6-8	Hadoop のノード脱退時, ノード削除時のレプリカ生成挙 動に関する評価	情報 4 年 1 名	卒研
映像表現・芸術科学フォーラ ム 2013	2013/3/15	提示量を適正化した女性向け商品検索支援システム	情報 4 年 1 名	卒研
日本動物学会関東支部第 65 回大会	2013/3/16	ミドリイシサンゴの変態を阻害するバクテリアの作用点 の特定 (ポスター発表)	生物 2 年 2 名	A
OIST 科学技術英語プレゼン テーションワークショップ	2013/3/18-19	Significance of basic study in biology (ポスター及び口頭 発表)	生物 1 年 1 名	A

お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅱ

情報知識学会 第 21 回(2013 年度)年次大会	2013/5/25-26	数学・理科教育教材の開発に向けての取組み(口頭発表)	生物 3 年 2 名 生物 1 年 2 名	A
日本マイクログラフィティ応用学会 第 27 回学術講演会	2013/11/27	泡花の成長 【毛利ポスターセッション敢闘賞】	化学 4 年 3 名 化学 2 年 1 名	A
NICOGRAPH 2013	2013/11/8-9	流体シミュレーションを応用したシューティングゲーム	情報 4 年 1 名	P
NICOGRAPH 2013	2013/11/8-9	蛋白質ポケット抽出のクイズソフトウェア	情報 3 年 1 名	P
日本サンゴ礁学会第 15 回大会	2013/12/12-14	ミドリイシサンゴ初期ポリプの骨格形成ステージ表	生物 3 年 1 名	A
第 3 回サイエンスインカレ	2014/3/1-2	オイル産生藻類の環境応答 【コンソーシアム奨励賞 DERUKUI 賞】	生物 3 年 3 名	A
第 16 回プログラミングおよびプログラミング言語ワークショップ	2014/3/5-7	限定継続を用いたフォーカスの分析と実装	情報 4 年 1 名	卒研
第 16 回プログラミングおよびプログラミング言語ワークショップ	2014/3/5-7	型デバッグのログの解析とエラーメッセージの改良	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 76 回全国大会	2014/3/11-13	パーツ単位のモーフィングによる似顔絵生成	情報 4 年 1 名	卒研
言語処理学会第 20 回年次大会	2014/3/18	MCN コーパスにおける形式名詞「はず」「わけ」「つもり」のアノテーション	情報 3 年 3 名	P
第 4 回サイエンスインカレ	2015/2/28	ヒトデ卵における星状体の動きについて(口頭発表) 【科学技術振興機構理事長賞】	生物 4 年 1 名	卒研
第 7 回 コーパス日本語学ワークショップ	2015/3/10-11	MCN コーパスにおける条件表現「たら」「れば」「ならば」のアノテーション	情報 3 年 2 名	P
日本動物学会関東支部第 67 回大会	2015/3/14	ミドリイシサンゴのプラヌラの遊泳パターン	生物 2 年 1 名	A
情報処理学会第 77 回全国大会	2015/3/17-19	楽曲群のコード進行・メタ情報・楽曲特徴量の統合可視化の一手法	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 77 回全国大会	2015/3/17-19	画像認識に基づくロボットの行動を制御する強化学習の取組み	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 77 回全国大会	2015/3/17-19	Twitter を用いた大規模災害時におけるシステム制御に有用な情報の抽出	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 77 回全国大会	2015/3/17-19	UniversalSAX を用いた人流可視化	情報 4 年 1 名	卒研
情報処理学会第 77 回全国大会	2015/3/17-19	薄暗い場面で撮影された画像の生理学的機能に沿った薄明視画像への変換	情報 4 年 1 名	卒研

プログラム A=アドバンスト・プログラム P=プレ卒業研究

5. 学生意識調査による評価

理学部の専門課程の教員指導の満足度については、「満足」と「ある程度満足」の合計が 80%を超えており、卒業研究の指導に対する満足度に関しては、「非常に満足」と「やや満足」で 80%を越えている(資料 E-3-5-1 平成 22 年度 お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査 (p. 7-23:2. お茶大の教育))。

資料 E-3-5-1 平成22年度 お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査
(p.7-23: 2. お茶大の教育)

1) 教養教育(コア科目)／専門教育への評価

これまで受けた授業のなかで意味があった教養教育(コア科目)と専門教育の割合を尋ねた。2007年に実施された全国大学生調査コンソーシアム／東京大学大学経営・政策研究センター「全国大学生調査」における全国平均は、教養・共通教育は 4.39 割、専門教育は 5.85 割であった。これと比較すると、お茶の水女子大学全体の平均は教養教育(コア科目)で 5.4 割、専門教育で 7.2 割と高めの割合であった。

学年別に見ると、意味があった専門教育の割合はとくに4年生で 7.5 割と高くなっている。学部別に見ると、理学部が 7.5 割と他学部 비해高くなっている。学科別に見ると、意味があった専門教育の割合がとくに高かった学科は芸術・表現行動学科、食物栄養学科、化学科であり、平均して 8 割近くの専門教育に意味があると学生が考えている結果となった。

図表 2-1 これまで受けた授業のなかで意味があった教養教育(コア科目)と専門教育の割合(学部)

	合計				1 年				2 年			
	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差
意味があった教養教育	949	5.4	5.0	2.35	221	5.8	6.0	2.37	211	5.4	5.0	2.33
意味があった専門教育	947	7.2	8.0	2.23	215	7.1	8.0	2.57	211	7.1	8.0	2.27
	3 年				4 年							
	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差
意味があった教養教育	216	5.4	5.0	2.25	301	5.1	5.0	2.40				
意味があった専門教育	218	7.1	8.0	2.27	303	7.5	8.0	1.88				

	文教育学部				理学部				生活科学部			
	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差
意味があった教養教育	438	5.5	6.0	2.41	247	5.3	5.0	2.34	264	5.3	5.0	2.27
意味があった専門教育	435	7.2	8.0	2.29	246	7.5	8.0	2.19	266	7.0	8.0	2.16

	人文科学科				数学科				食物栄養学科			
	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差
意味があった教養教育	111	5.6	6.0	2.50	38	5.0	5.0	2.48	72	5.3	5.0	2.40
意味があった専門教育	110	6.8	8.0	2.48	40	7.1	8.0	2.66	73	7.9	8.0	1.89

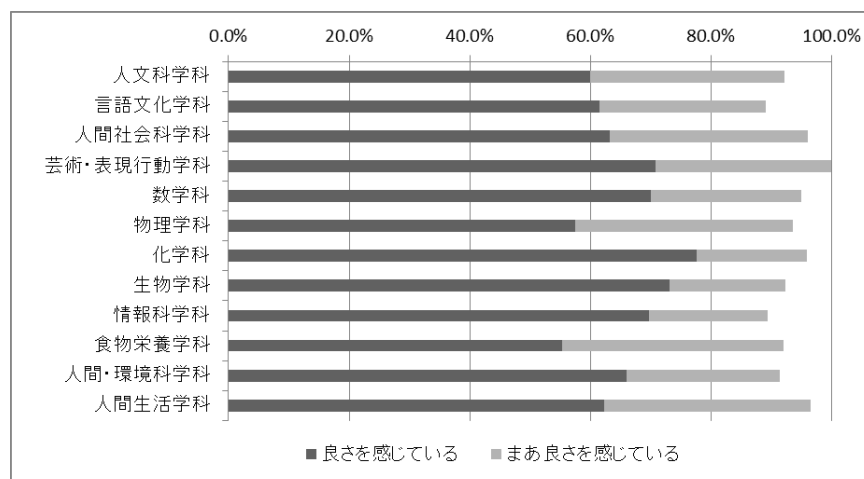
	言語文化学科				物理学科				人間・環境科学科			
	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差
意味があった教養教育	152	5.8	6.0	2.49	46	5.2	5.5	2.40	47	5.3	5.0	2.36
意味があった専門教育	149	7.2	8.0	2.39	47	7.0	8.0	2.37	47	6.9	7.0	2.15

	人間社会科学科				化学科				人間生活学科			
	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差
意味があった教養教育	128	5.3	5.0	2.28	47	5.7	6.0	2.15	145	5.4	5.0	2.19
意味があった専門教育	128	7.1	7.5	2.09	44	8.1	8.0	2.00	146	6.7	7.0	2.19

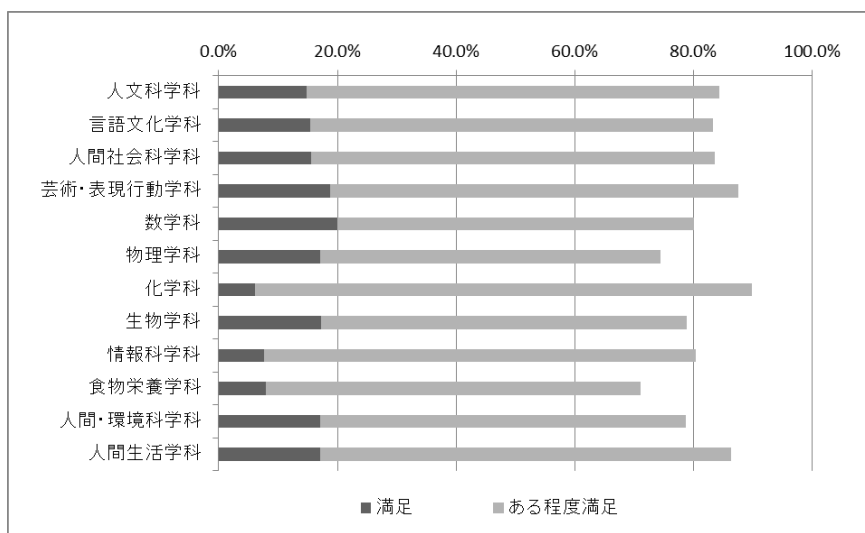
	芸術・表現行動学科				生物学科							
	N	平均値	中央値	標準偏差	N	平均値	中央値	標準偏差				
意味があった教養教育	47	5.1	5.0	2.25	52	5.6	6.0	2.29				
意味があった専門教育	48	8.1	9.0	1.81	52	7.6	8.0	2.06				

	情報科学科											
	N	平均値	中央値	標準偏差								
意味があった教養教育	64	5.0	5.0	2.37								
意味があった専門教育	63	7.5	8.0	1.90								

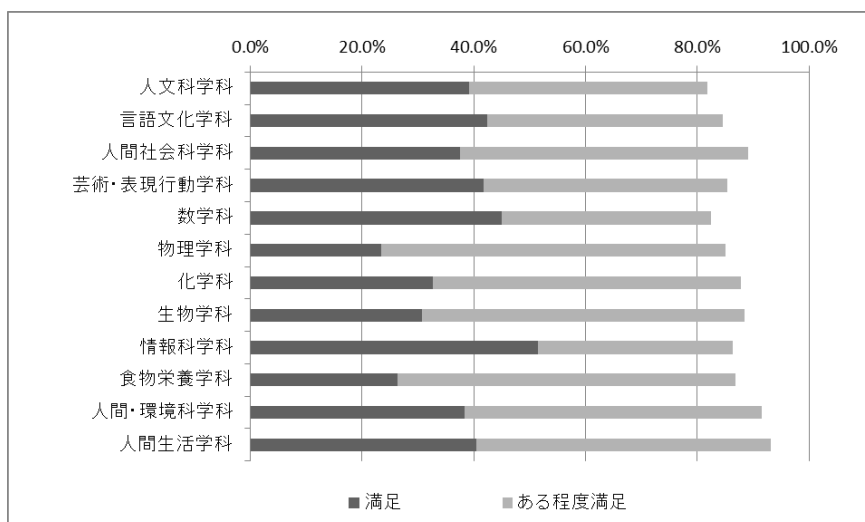
図表 2-18 少人数教育のよさ(学部)



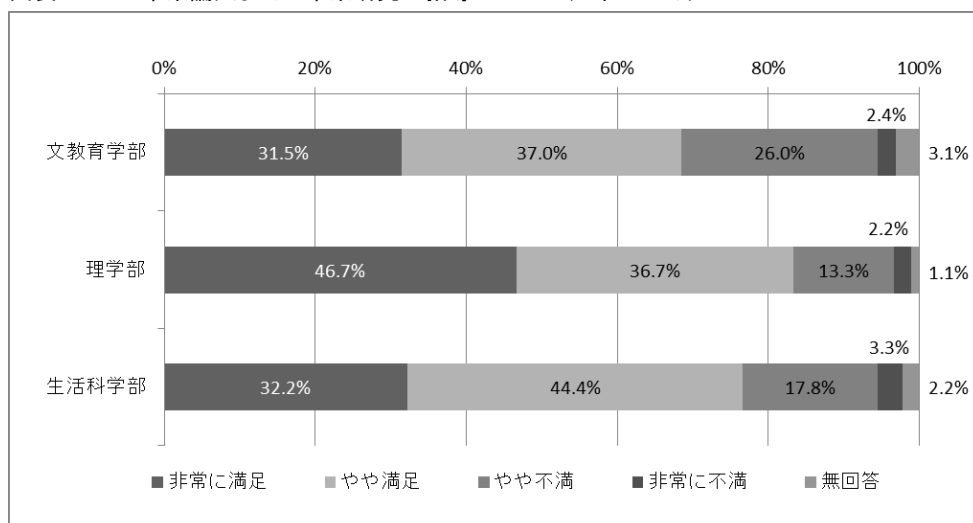
図表 2-20 全体的な教員指導の満足度(教養・共通教育(コア、LA など))



図表 2-21 全体的な教員指導の満足度(専門教育)



図表 2-23 卒業論文または卒業研究の指導について(4年生のみ)



(水準)期待される水準を上回る

(判断理由)

1. GPA 制度の導入によって、成績評価の「質」を客観的かつ透明性の高いものとし、さらに国際的にも通用するものとした。(1. 成績測定手法参照)
2. 各学年終了時及び卒業時において、平均約 9 割の学生が 4 年で卒業している。平成 26 年度では、半数以上の卒業生の取得単位数は 160 単位未満である。
(2. 卒業及び進級状況、単位の修得状況参照)
3. 資格に関して、22～43%の学生が中学あるいは高校の教員資格を取得しており、平成 22 年度から 26 年度の平均で約 10%の学生が中学・高校の教職に就いている。
(3. 資格取得状況参照)
4. 学生の学業や研究の成果に基づいた表彰の例が多数ある。
(4. 学生の表彰、論文発表等参照)
5. 学生意識調査において、専門課程の教員指導の満足度について、「満足」と「ある程度満足」の合計が 80%を超えている。また、卒業研究の指導に対する満足度に関しては、「非常に満足」と「やや満足」の合計が 80%を超えている。このように、教員指導が学生から高い評価を得ている。(5. 学生意識調査による評価参照)

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1. キャリア支援の取組

全学の組織として学生・キャリア支援センターが設置され、就職関連情報を提供するなど、学生の就職活動に関する支援を行っている（資料 E-4-1-1 学生・キャリア支援センターWeb サイト、資料 E-4-1-2 就職支援行事の情報提供例）。加えて理学部では、古くから（25 年来以上）各学科に就職担当教員を配置し、学科での学生の就職に関してきめの細かいケアを行っている（資料 E-4-1-3 平成 27 年度理学部就職担当教員一覧）。就職担当教員は企業からの就職窓口としての役割も果たしてきた。また、卒業生による各企業の会社説明会・業界紹介を学科別あるいは学科合同で毎年多数開催するなどして、理学部学生の業界研究の助けになるようなキャリア支援並びに就職指導も行っている（資料 E-4-1-4 OG 参加の会社説明会の例、資料 E-4-1-5 平成 25 年度の理学部対象の会社／業務説明会の例）。

資料 E-4-1-1 学生・キャリア支援センターWeb サイト

(http://www-w.cf.ocha.ac.jp/career/support/)

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
キャリア教育・キャリア支援部門

ホーム | サイトマップ | お問い合わせ・アクセス
お茶の水女子大学 学生生活支援

キャリア教育 | キャリア支援 | キャリア相談 | トピックス | 企業の方へ | リンク集

キャリア支援

就職ガイダンス
OG懇談会
企業合同説明会
内定者体験報告会
ワークショップ

キャリアデザインプログラム
コンピテンシー評価プログラム
就職支援カレンダー
JOB POSTING
求人情報検索システム

学生・キャリア支援センター
リーダーシップ養成教育研究センター
学生相談室
ポストドクター・キャリア開発事業

キャリア支援 新着情報一覧

- 2015.11.02 : [就職ガイダンス 動画放映のお知らせ](#)
- 2015.11.02 : [国家公務員の仕事と試験制度について【11/11（水）開催】](#)
- 2015.11.02 : [Uターン・Iターン就職ガイダンス【11/12（木）開催】](#)
- 2015.11.02 : [公務員ガイダンス【11/16（月）開催】](#)
- 2015.11.02 : [先輩の話を聞こう～内定者の体験、お話しします～【11/19（木）開催】](#)
- 2015.11.02 : [お茶大生のための自己分析セミナー＜アイテム編＞【11/20（金）開催】](#)
- 2015.11.02 : [お茶大生のための適性検査ガイダンス【11/25（水）開催】](#)
- 2015.11.02 : [お茶大生のための自己分析セミナー＜リクルート編＞【11/25（水）開催】](#)
- 2015.11.02 : [就職ガイダンス＜企業研究シリーズ＞【11/27（金）開催】](#)
- 2015.11.02 : [就職ガイダンス＜企業研究シリーズ＞【11/30（月）開催】](#)



お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
キャリア教育・キャリア支援部門

[ホーム](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ・アクセス](#)
[お茶の水女子大学](#) [学生生活支援](#)

[キャリア教育](#)
[キャリア支援](#)
[キャリア相談](#)
[トピックス](#)
[企業の方へ](#)
[リンク集](#)


**キャリアデザイン
プログラム**


**コンピテンシー
評価プログラム**


就職支援カレンダー


JOB POSTING


求人情報検索システム

学生・キャリア支援センター

リーダーシップ養成教育研究センター

学生相談室

ポストドクター・キャリア開発事業

カレンダー

カレンダーに表示されているイベントをクリックすると、ポップアップで詳しい時間などがご覧になれます。

先月
来月

3月 2015						
日	月	火	水	木	金	土
22	23 内定者による 業界企業研究講座 OG懇談会	24 OG懇談会	25	26	27	28
1	2 企業合同説明 会 OG懇談会	3 企業合同説明 会 企業研究交 渉会 OG懇談会	4 企業合同説明 会 OG懇談会	5 OG懇談会	6	7
8	9 企業合同説明 会	10 企業合同説明 会	11 企業合同説明 会	12	13 OG懇談会	14 企業合同説明
15	<div style="background-color: white; padding: 10px; border: 1px solid #add8e6; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: -10px; right: -10px; color: red; font-weight: bold;">×</div> <p>12:00 PM 【参加企業等】三菱UFJモルガン・スタンレー証券、協和発酵キリン、東芝、東レ、集英社、凸版印刷、三越伊勢丹 【場所】附属図書館1階キャリアカフェ</p> </div>					1
22	23 企業合同説明 会 OG懇談会	24 企業合同説明 会 OG懇談会	25 企業合同説明 会 OG懇談会	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

資料 E-4-1-3 平成 27 年度理学部就職担当教員一覧

(http://www.ocha.ac.jp/employment/company/list.html)

お茶の水女子大学 Ochanomizu University

> お問い合わせ > 交通・キャンパスマップ > サイトマップ 簡体字 | 繁体字 | 한국어 | English

キーワードを入力 検索

受験生・保護者の方 | 留学生・留学希望の方 | 在学生の方 | 卒業生の方 | 地域・一般の方 | 企業の方

お茶大案内 | 学部・大学院 | 教育・研究プログラム | 研究・産学連携 | 図書館 | センター | 附属学校 | 後援会・同窓会・事業会

トップページ > 企業の方 > 就職担当教員一覧（理学部）

■ 就職担当教員一覧（理学部）

就職担当教員一覧（理学部）

学部	学科	担当教員名	電話番号	メールアドレス
理学部	数学科	横川 光司 (よこがわ こうじ)	03-5978-5357	math-shushoku@cc.ocha.ac.jp
理学部	物理学科	森川 雅博 (もりかわ まさひろ)		morikawa.masahiro@ocha.ac.jp
理学部	化学科	山田 眞二 (やまだ しんじ)	03-5978-5349 (火・水・金 13:00~16:00)	kagaku@cc.ocha.ac.jp
理学部	生物学科	由良 敬 (ゆら けい)	03-5978-5514	yura.kei@ocha.ac.jp
理学部	情報科学科	吉田 裕亮 (よしだ ひろあき)	03-5978-5386	yoshida@is.ocha.ac.jp
理学部	情報科学科	小口 正人 (おぐち まさと)	03-5978-5379	oguchi@is.ocha.ac.jp

* 文教育学部、生活科学部および大学院については、就職担当教員はおりませんので、窓口は、学生・キャリア支援課 カリヤ支援担当となっております。

▲ ページの先頭へ

資料 E-4-1-4 OG 参加の会社説明会の例

NTT docomo

ドコモへの入社に興味をもたれている皆様へ

～ ドコモではお茶大生のエンタリを心よりお待ちしております ～

理学部向け学内説明会

お茶大OG社員がドコモの業務についてご紹介します

ー日時:2014年1月15日(水)16時30分～18時00分(入退自由)
ー場所:お茶の水女子大学理学部2号館507教室
ー内容:学内でお茶大生向けにドコモの業務紹介を行います。説明会の後にはOG社員による質問会も実施します。お気軽にお越し下さい。

ドコモR&Dセンタ見学会

ドコモの研究開発(R&D)センタを見学いただけます

ー日時:2014年1月27日(月)13時00分～17時30分(定員制)
ー場所:ドコモR&Dセンタ登壇演習
ー内容:研究開発の拠点であるR&Dセンタでドコモの最新技術をご紹介します。
【応募方法】
1/15の学内説明会にて申込みを受け付けます。応募多数の場合は抽選となります。

お茶大OG社員による相談窓口

分からないこと、聞きたいことがあれば何でもお答えします

お茶大OG社員がドコモの採用、仕事内容などに関する質問にお答えします。
何が分からないことがあれば、お気軽にお問い合わせください。

◆ お問い合わせ先 fujibayashi@nttdocomo.co.jp 副統 杉野子(河村研出身)

※ご案内しているイベント等は、選考には全く関係ありません。お気軽にお越しください。

株式会社リコー 会社説明会のご案内

【日時】2014年2月28日(金) 15:00～17:00
【場所】理学部2号館507室
【内容】

1. 会社概要、推薦について (10分)
2. OG社員の紹介 (20分)
3. 質疑応答 (30分)

質疑応答の後に座談会
座談会の際は、お菓子を用意させていただきます。
お茶をしながら気軽にお話ししましょう。
ご都合のつく方はぜひ参加して見て下さい!

※選考とは一切関係ありませんので、お気軽にご参加ください。
※当日は、楽な服装でお越しください。(私共も普段着で参ります。)
※出入りは自由なので、ご都合のつく時間だけでもご参加ください。

【参加社員】
栗野 潤子 2004年 物質科学専攻 修了 柴田研出身
Mail: shuiko.kuwano@nts.ricoh.co.jp
今野 早紀 2008年 物質科学専攻 修了 吉川研出身
Mail: saki.konno@nts.ricoh.co.jp
仁平 智子 2009年 情報科学科 卒業 吉田研出身
Mail: tomoko.nihei@nts.ricoh.co.jp
大村 蓉子 2010年 情報科学専攻 修了 瀬々研出身
Mail: yoko.ohmura@nts.ricoh.co.jp
中村 絵美 2011年 情報科学専攻 修了 河村研出身
Mail: emi.nakamura@nts.ricoh.co.jp

RICOH

資料 E-4-1-5 平成 25 年度の理学部対象の会社／業務説明会の例

開催日	開催者	備考
2014 年 1 月 14 日	コニカミノルタ	物理学科・化学科の卒業生3名で伺います
2014 年 1 月 15 日	NTTドコモ	OGリクルータが来校して説明する予定です
2014 年 1 月 16 日	TIS	OGが来校して説明します
2014 年 1 月 22 日	特許庁	情報科のOGが来校して説明する予定です
2014 年 1 月 23 日	リクルートコミュニケーションズ	物理科のOGの依頼による説明会です
2014 年 1 月 28 日	日本電気	情報科のOGが来校して説明する予定です
2014 年 1 月 29 日	NTT 研究所(R&D)	
2014 年 1 月 30 日	明治安田生命保険	アクチュアリー関連人材採用担当が来校
2014 年 1 月 31 日	三菱電機インフォメーションシステムズ	
2014 年 1 月 31 日	東レ	OG1名が来校しての座談会
2014 年 2 月 3 日	東芝	理学部のOGが来校して説明する予定です
2014 年 2 月 17 日	富士ゼロックス	情報科と物理科のOGが来校して説明する予定です
2014 年 2 月 18 日	日産自動車	
2014 年 2 月 20 日	JR 東日本	
2014 年 2 月 21 日	NTT東日本	お茶大OGが来校して説明する予定です
2014 年 2 月 27 日	日立製作所	情報科のOGが来校して説明する予定です
2014 年 2 月 28 日	リコー	情報科のOGが来校して説明する予定です
2014 年 2 月 28 日	大日本印刷	情報科のOGが来校して説明する予定です

2. 就職・進学率

平成 22～26 年度理学部卒業生のうち約 95%が大学院に進学あるいは就職している。大学院進学率は平成 17～21 年度の平均では 63%だったが、平成 22～26 年度では、年々増加する傾向になり、近年は 70%前後になっている（資料 E-4-2-1 就職、進学者統計）。就職者は 23～33%で、学科によっても異なるが、半数以上は、専攻分野に関わる職務内容で、80%近くは民間企業、残りは、教職あるいは官公庁になっている。また、博士前期課程修了者では、73～86%が就職し、そのうち 90%近くが民間企業で、大部分の学生は、研究開発部門に配属されている。これは、理学部の卒業生が、理学部で行われている教育を基に、更に大学院で専門を深めて、各メーカーでの研究開発部門で活躍していると言える（資料 E-4-2-1 就職、進学者統計、資料 E-4-2-2 理学部卒業生の就職先）。

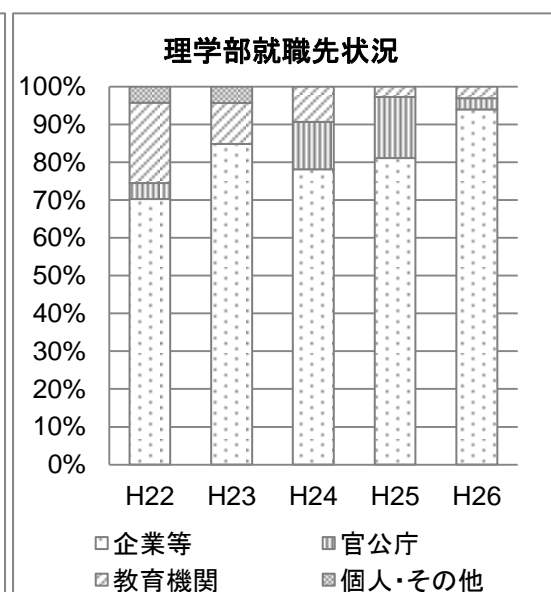
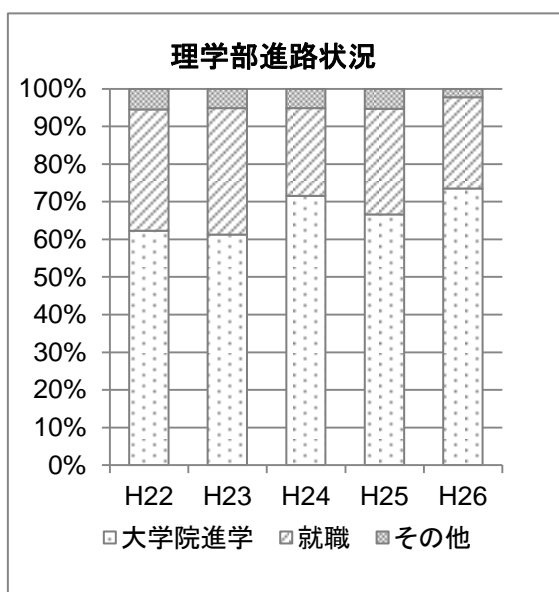
資料 E-4-2-1 就職、進学者統計

(人)

卒業年度	学科	卒業	大学院 進学	就職				その他
				企業等	官公庁	教育機関	個人・その他	
平成22年度 (卒業年23年)	数学科	23	7(0)	8	0	6	1	1
	物理学科	26	19(2)	4	0	0	0	3
	化学科	24	20(2)	1	1	2	0	0
	生物学科	26	19(2)	1	1	1	1	3
	情報科学科	47	26(0)	19	0	1	0	1
平成23年度 (卒業年24年)	数学科	23	10(2)	8	0	1	1	3
	物理学科	24	14(1)	4	0	3	0	3
	化学科	21	17(1)	4	0	0	0	0
	生物学科	28	16(7)	11	0	0	0	1
	情報科学科	41	27(1)	12	0	1	1	0
平成24年度 (卒業年25年)	数学科	24	9(2)	9	1	3	0	2
	物理学科	23	17(2)	5	0	0	0	1
	化学科	22	17(1)	3	0	0	0	2
	生物学科	25	20(4)	2	2	0	0	1
	情報科学科	43	35(0)	6	1	0	0	1
平成25年度 (卒業年26年)	数学科	20	7(4)	8	3	0	0	2
	物理学科	27	16(1)	7	2	0	0	2
	化学科	21	18(3)	2	0	0	0	1
	生物学科	25	16(3)	7	1	1	0	0
	情報科学科	38	30(0)	6	0	0	0	2
平成26年度 (卒業年27年)	数学科	20	11(5)	8	0	1	0	0
	物理学科	23	16(1)	6	0	0	0	1
	化学科	24	19(0)	4	0	0	0	1
	生物学科	25	19(7)	5	1	0	0	0
	情報科学科	44	35(1)	8	0	0	0	1

*大学院進学の（）内数字は、他大学大学院への進学者数

(出典：学生・キャリア支援課届け出による)



お茶の水女子大学理学部 分析項目Ⅱ

資料 E-4-2-2 理学部卒業生の就職先
理学部卒業生就職先

年度	学科	卒業 者数	大学院 進学者数	就職 者数	その他	就職先（企業・官公庁・教員等）
H22	数学科	23	7	15	1	(株)日立静電システムズ、(株)NTTデータ(2)、NTTデータフォース(株)、東日本旅客鉄道(株)、みずほ静電システム(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、第一生命静電システム(株)、東京海上日動火災保険(株)、(株)かんぽ生命保険、佐野日本大学高校、神奈川県公立高等学校、親和中学
	物理学科	26	19	4	3	大正製薬(株)、東日本旅客鉄道(株)、みずほ静電システム(株)、(株)かんぽ生命保険
	化学科	24	20	4	0	(株)北陸銀行、宮城県警察、光塩女子学院、(株)河合塾
	生物学科	26	19	4	3	理化学研究所、茨城県庁、富山県公立高等学校
	情報科学科	47	26	20	1	ソニー(株)(2)、(株)日立製作所、大日本印刷(株)、西日本電信電話(株)(2)、東日本電信電話(株)、日本ユニシス(株)、(株)NTTデータ、(株)ナビタイムジャパン、TIS(株)、NSSLCサービス(株)、(株)PFU、(株)YSK e-commerce、住商静電システム(株)、みずほ静電システム(株)(2)、みずほインベスターズ証券(株)、日本放送協会
H23	数学科	23	10	10	3	日立静電通信エンジニアリング(株)、プラザー工業(株)、東京コンピュータサービス(株)、(株)みずほフィナンシャルグループ(2)、SMBCフレンド証券(株)、(株)京葉銀行、(株)虎屋、湘南白百合学園中学高等学校
	物理学科	24	14	7	3	大司勢総研(株)、日本マイクロソフト(株)、(株)サンリオ、日本銀行、中部大学春日丘高等学校、大妻多摩中学高等学校、埼玉県公立中学校
	化学科	21	17	4	0	三菱ガス化学(株)、(株)みずほ銀行、みずほ静電システム(株)、(株)みずほフィナンシャルグループ
	生物学科	28	16	11	1	日本製鉄(株)、東京ガス(株)、花王(株)、ヒノキ新薬(株)、マルオ(株)、(株)オービック、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、東日本電信電話(株)、東京海上日動火災保険(株)、大和証券(株)、(株)ラストラム・ミュージックエンタテインメント
	情報科学科	41	27	14	0	(株)日立静電御リソリューションズ、九州電力(株)、シスコシステムズ合同会社、共可印刷(株)、(株)カラーチップス、(株)トスコ、TIS(株)、(株)UTBメディアリターニング、みずほ静電システム(株)(3)、日本銀行、山梨大学
H24	数学科	24	9	13	2	(株)みずほフィナンシャルグループ(2)、(株)理研総合研究所(2)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、ソフトバンク(株)、サイボウズ(株)、(株)リクルートコミュニケーションズ、(株)富士通北産システムズ、総務省、茨城県公立高等学校、東洋女子高等学校、星野学園
	物理学科	23	17	5	1	(株)三菱東京UFJ銀行、三菱商事(株)、(株)理研総合研究所、日本政策金融公庫、今井証券(株)
	化学科	22	17	3	2	キューピー(株)、三井住友信託銀行(株)、(株)テイクアンドグヴ・ニーズ
	生物学科	25	20	4	1	東日本電信電話(株)、ブロックター・アンド・ギャンプル・ジャパン(株)、東京都庁、台東区役所
	情報科学科	43	35	7	1	(株)エヌ・ティ・ティ・データ(2)、TIS(株)、日本電気(株)、(株)日立システムズ、大和証券(株)、東京国税局
H25	数学科	20	7	11	2	日本アイ・ビー・エム(株)、(株)FBS、Profit Cube Inc.、(株)セブテーニ、三菱UFJ信託銀行(株)、野村證券(株)、三井物産(株)、日本年金機構、財務省、海上自衛隊、豊島区役所
	物理学科	27	16	9	2	(株)リコー、(株)日立ソリューションズ・ネクサス、東日本電信電話(株)、エヌ・ティ・ティ・データ・システム技術(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、野村信託銀行(株)、(株)さなる、防衛省、富山県庁
	化学科	21	18	2	1	(株)NHKメディアテクノロジー、(株)池袋理数セミナー
	生物学科	25	16	9	0	東京ガス(株)、東日本電信電話(株)、東京急行電鉄(株)、(株)ナウビレッジ、日本ATM(株)、(株)ベネッセコーポレーション、(株)トールコーヒー、栃木県庁、学校法人八戸工業大学
	情報科学科	38	30	6	2	三菱電機(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、(株)理研総合研究所、富士ソフト(株)、アクセンチュア(株)、コーエーテクモホールディングス(株)
H26	数学科	20	11	9	0	(株)帝国データバンク、(株)シグマテック、野村信託銀行(株)、野村証券(株)、(株)青森銀行、(株)鹿児島銀行、明治安田生命保険相、関電システムソリューションズ(株)、日本大学東北高等学校
	物理学科	23	16	6	1	日本コントロールシステム(株)、(株)ブイキューブ、大和証券(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、三菱スペース・ソフトウェア(株)
	化学科	24	19	4	1	(株)エヌ・ティ・ティ・データ、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)、(株)コスモロール、(株)電通
	生物学科	25	19	6	0	(株)ローソン、富士ソフト(株)、アースサポート(株)、東日本電信電話(株)、日本放送協会、経済産業省
	情報科学科	44	35	8	1	日本電気(株)、三菱電機(株)、(株)NTTドコモ、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、立山科学工業(株)、三井住友信託銀行(株)、日本銀行、(株)理研総合研究所

(出典：学生・キャリア支援課資料)

3. 関係者からの評価

<卒業後の進路>

学生の80%は、進路が専攻分野と関連しており、55%では密接に関連していると判断している（資料 E-4-3-1 平成 27 年度卒業生アンケート結果（Q5））。

<卒業生による教育評価>

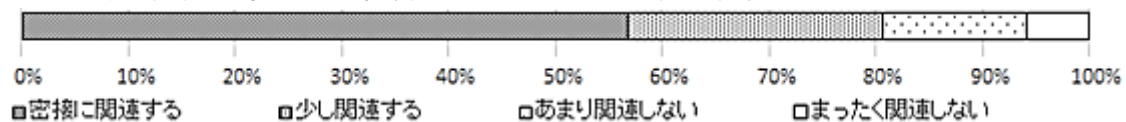
大学における教育の有用さ、あるいは充実度に関しては、全般に高い数値を示している。「専門・専攻科目（講義）」、「同（演習・実習・実験）」及び「同（卒業論文・卒業研究）」では、75～78%が、「非常に充実」又は「かなり充実」と回答し、特に専門教育に関する評価が高い。「課題を探究し問題解決する能力の養成」では約 65%が「必要に応じて自ら学習できる能力」では約 66%が、「組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力の獲得」では約 80%が、「非序に役立つ」又は「かなり役立つ」と評価している。また、このような学生による評価と就職先企業の評価はおおむね類似している（資料 E-4-3-1 平成 27 年度卒業生アンケート結果（Q6、Q7）、資料 E-4-3-2 企業・官公庁等アンケート結果）。

<学会などの評価>

卒業生で大学院に進学した者のほとんどが研究成果の学会発表を行う。この中には学会などから高い評価を得て表彰されるものがある（資料 E-4-3-3 学生の学会表彰例）。

資料 E-4-3-1 平成 27 年度卒業生アンケート結果（平成 28 年 1 月実施）

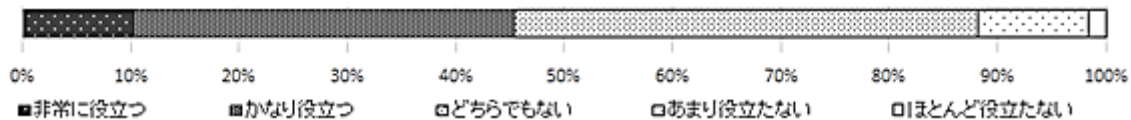
Q5 進路は、大学時代に専攻した分野と関連するものですか。（対象：理学部）



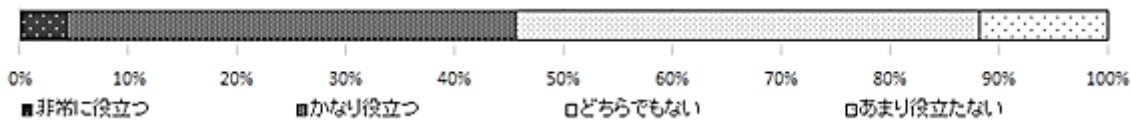
Q6 お茶の水女子大学における教育は、これまでのあなたご自身にとってどのようなものでしたか。

（対象：理学部）

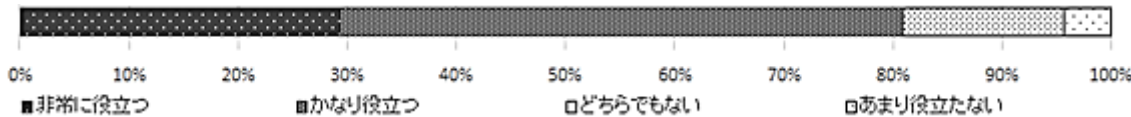
(1) 全般的な人格形成



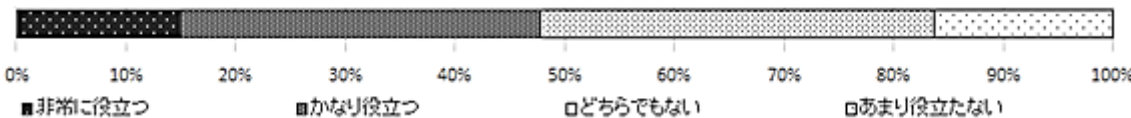
(2) 一般教養の獲得



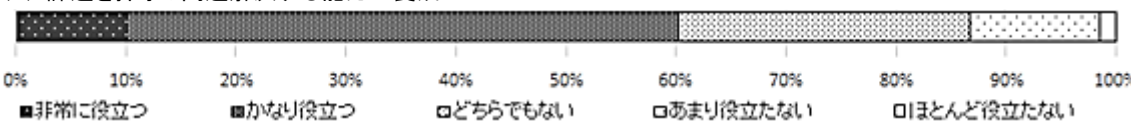
(3) 専門知識の獲得



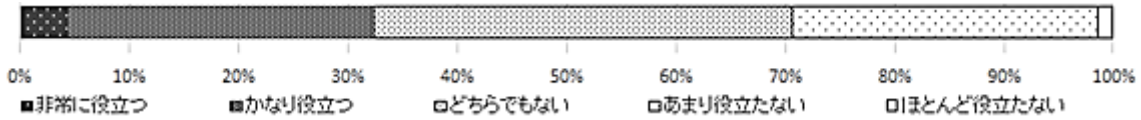
(4) 領域を超えた学際知識や興味の獲得



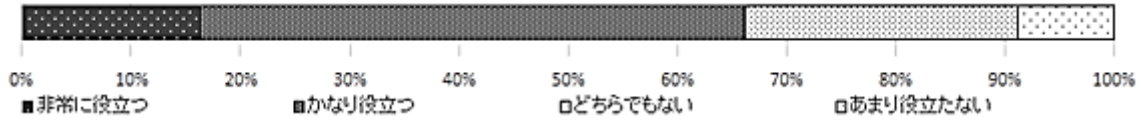
(5) 課題を探究し問題解決する能力の養成



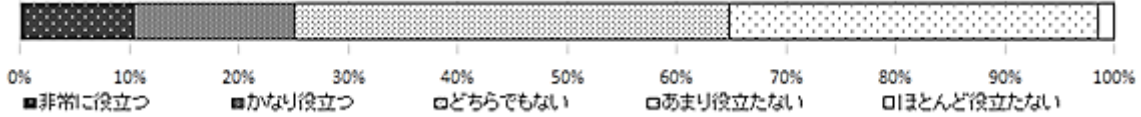
(6) ユニークな発想



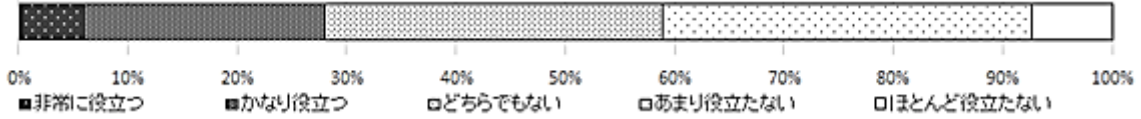
(7) 必要に応じて自ら学習できる能力



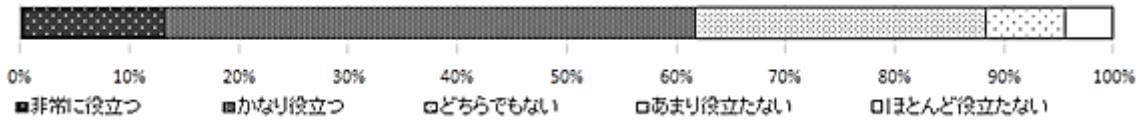
(8) リーダーシップの発揮



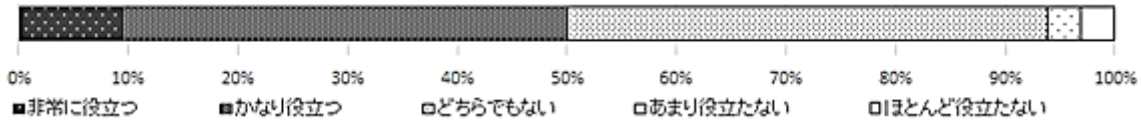
(9) 語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得



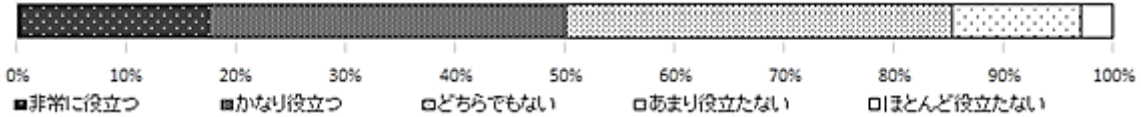
(10) 組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力の獲得



(11) パソコンやインターネットなどの技術革新や新しい社会システムに対応できる

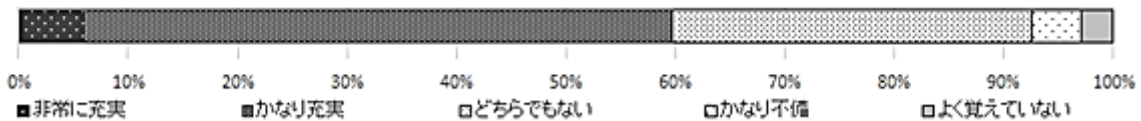


(12) 対話や討論などのコミュニケーション力

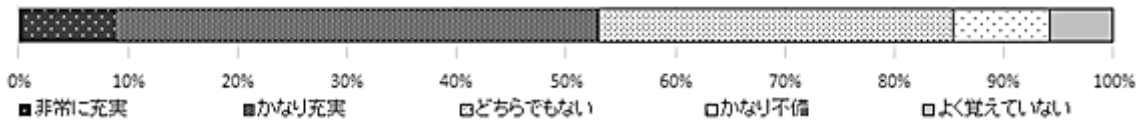


Q7 現在、大学でうけた教育をどのように評価しますか。(対象:理学部)

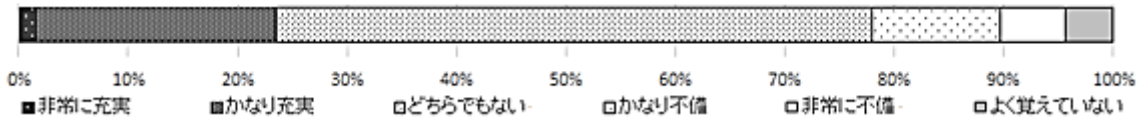
(1) 教育全般



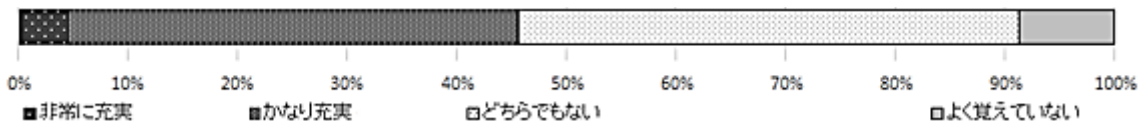
(2) 教養教育(リベラルアーツ)



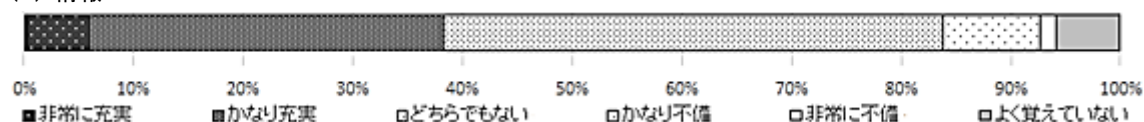
(3) 外国語(英語)



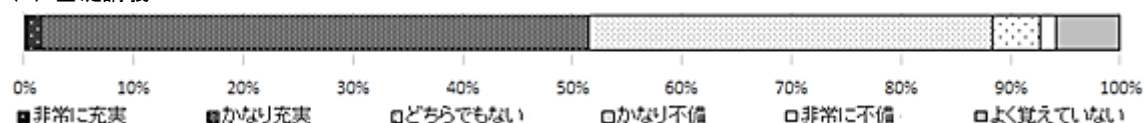
(5) 基礎ゼミ(リベラルアーツ・演習科目)



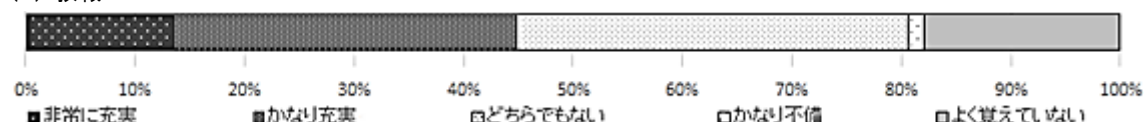
(6) 情報



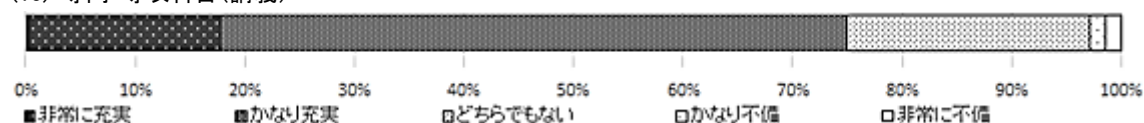
(7) 基礎講義



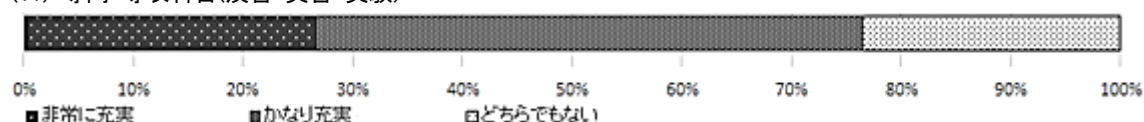
(9) 教職



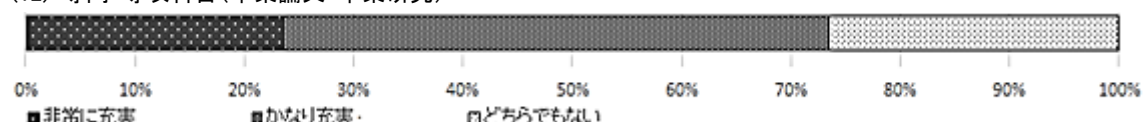
(10) 専門・専攻科目(講義)



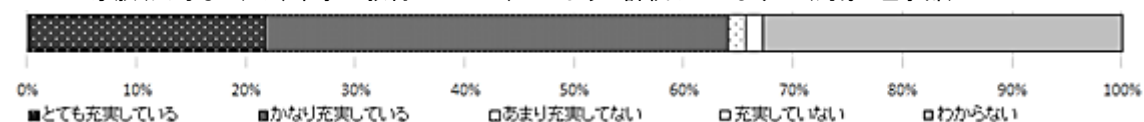
(11) 専門・専攻科目(演習・実習・実験)



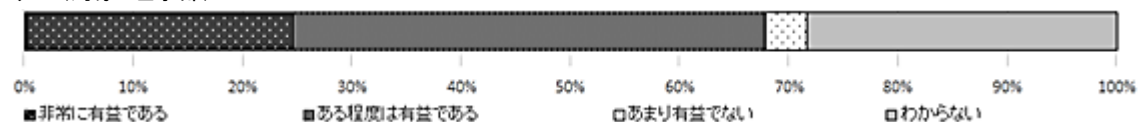
(12) 専門・専攻科目(卒業論文・卒業研究)



Q18 ご家族(父母など)は、本学の教育について、どのように評価していますか(対象:理学部)



Q19 (現在就職されている方)勤務先(上司や同僚など)は、本学の教育について、どのように評価していると思いますか(対象:理学部)



(出典:学務課資料より作成)

資料 E-4-3-2 企業・官公庁等アンケート結果（抜粋）

問 7 お茶の水女子大学の卒業生・修了生と一般的平均的な大学卒業生との比較

	小計	特に 優れて いる	優れて いる	同程 度で ある	劣る	特に 劣る
(1) 全般的な人格	41	27%	59%	15%	0%	0%
(2) 一般教養	41	22%	49%	29%	0%	0%
(3) 専門知識	41	10%	46%	44%	0%	0%
(4) 領域を超えた学際知識や興味	41	15%	44%	41%	0%	0%
(5) 課題を探索し問題解決する能力	41	34%	34%	29%	2%	0%
(6) ユニークな発想	41	10%	32%	56%	2%	0%
(7) 必要に応じて自ら学習できる能力	41	32%	49%	20%	0%	0%
(8) リーダーシップ	41	12%	44%	37%	7%	0%
(9) 語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力	41	10%	46%	44%	0%	0%
(10) 組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力	41	17%	54%	29%	0%	0%
(11) 適切な情報リテラシーを備え、技術革新や新しい社会システムに対応できる能力	41	12%	39%	46%	2%	0%
(12) 対話や討論などのコミュニケーション力	41	22%	49%	29%	0%	0%

(出典：学生・キャリア支援センター資料)

資料 E-4-3-3 学生の学会表彰例

■ News & Info

有本西さん、甲藤仁美さん、黒崎裕子さん、細谷柚子さん、清水柚里奈さん、恒川英里さん、宮城優里さん、青木花純さん、一瀬絢衣さん、上野真実さん、平久紬さん、十枝菜穂子さん、松尾映里さんが情報処理学会第78回全国大会にて学生奨励賞を受賞

2016年3月10日から12日に慶應義塾大学で開催された情報処理学会第78回全国大会にて、大学院 博士前期課程 理学専攻情報科学コース2年の有本西さん、甲藤仁美さん、黒崎裕子さん、細谷柚子さん、同1年の清水柚里奈さん、恒川英里さん、宮城優里さん、理学部情報科学科4年の青木花純さん、一瀬絢衣さん、上野真実さん、平久紬さん、十枝菜穂子さん、松尾映里さんが学生奨励賞を受賞しました。

学生奨励賞は全国大会学生セッションで発表された中から、各セッションごとに最大2名の優秀な発表に対して贈呈されます。

それぞれの発表テーマは以下のとおりです。

ー 情報処理学会第78回全国大会・学生奨励賞

- 有本西、椎尾一郎：魅力的な写真写りを達成するウェアラブルライティング, IZB-05
- 甲藤仁美、的場やすし、椎尾一郎：調味料メタファーに基づく食卓インタフェースデバイス, 1Z-01
- 黒崎裕子、竹房あつ子、中田秀基、小口正人：Apache Stormを用いたリアルタイムストリームデータ解析フレームワークにおけるセンサ・クラウド間負荷分散の性能評価, 4T-07
- 細谷柚子、三島健、小口正人：遠隔バックアップ機能を伴うクラスターデータベースシステムの提案と実装, 6L-05
- 清水柚里奈、菅野沙也、伊藤貴之、嵯峨山茂樹：動画特徴量からの印象推定に基づく動画BGMの自動生成, 2Q-01
- 恒川英里、Attamimi Muhammad、小林一郎、長井隆行、中村友昭、麻生英樹、持橋大地：強化学習を用いた物体の片付けに関する概念獲得への取り組み, 3P-07
- 宮城優里、大西正輝、渡辺知恵美、高塚正浩、伊藤貴之：記号列化した人流データからの特徴抽出と可視化, 4N-05
- 青木花純、小林一郎：時系列データのパターンを考慮した言語モデルに基づく自然言語生成, 3R-08
- 一瀬絢衣、中田秀基、竹房あつ子、小口正人：ディープラーニングフレームワークcaffeの分散処理に向けた検討, 4P-05
- 上野真実、齋藤京：周辺視野特性を考慮した顕著性マップの作成, 6W-08
- 平久紬、柳田晴香、中尾彰宏、山本周、山口実靖、小口正人：JGN-Xのネットワーク仮想化ノードFLAREによるSDN経路制御実験, 4S-05
- 十枝菜穂子、伊藤貴之、中澤里奈、齋藤隆文：有向グラフ可視化のためのバンドリングとノード配置, 5Y-02
- 松尾映里、小林一郎、西本伸志、西田知史、麻生英樹：深層学習を用いた画像を説明する文生成手法の一考察, 2R-08

ー 情報処理学会の学生奨励賞のホームページはこちらをご覧ください。

<http://www.ipsj.or.jp/award/taikaigakusei.html>

(水準)期待される水準を上回る
(判断理由)

1. キャリア支援の取組として、学生・キャリア支援センターが設置され、就職関連情報を提供するなど、学生の就職活動の支援を行う体制が構築された。また、理学部では各学科に就職担当教員を配置し、各学科での学生の進路相談を受ける等のケアを行うとともに、理学部学科間共同での理学部 OG による業界・企業説明会の機会も設定するなど理学部学生のきめ細かい就職支援を行っている。(1. キャリア支援の取組参照)
2. 理学部卒業生の 95%が大学院進学又は就職しており、大学院進学後の就職先を含めると、大半はその専門を活かせる進路に就いている。卒業生自身も専門教育を高く評価し、専門に関わる相応の能力が身についたと判断している。このように、学生及び学生以外の関係者が本学部の教育を評価し、卒業生の進路が学生の志向、期待と合致するとともに、学部の目的に添ったものであることは、本学の教育における中期目標である「21 世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成する」を十二分に達成している証左であり、関係者の期待に的確に応えている。(2. 就職・進学率参照)

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

1. 「多様な専門性」を実現するため、専門課程教育において、複数プログラム選択履修制度を平成 23 年度に導入、加えて、学科枠を越えた卒業研究が実施可能な制度を整備した。
2. 国際的な教育体制の整備に関しては、第 1 期中期目標期間から更に発展させ、第 2 期中期目標期間では、全学的に平成 25 年度から外国語科目の必修単位数を増加させるとともに、平成 26 年度からは国際交流の促進及び主体的な国際的修学活動の促進のために四学期制を導入した。
3. 教育プログラムの質保証・質向上のための更なる工夫として、第 2 期中期目標期間では次のことを行っている。
 - 1) 平成 24 年度に外部評価を実施し、その結果を受けて「改善を要する点」対応説明書を作成した。
 - 2) 平成 21 年度から 24 年度に、文部科学省の委託事業として「理数学生応援プロジェクト」を実施した。
4. 小、中、高等学校との連携について、これまでの連携に加えて、平成 26、27 年度にはスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定の関東近県 6 女子高校の交流会を本理学部で行っている。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

1. 成績測定手法として、第 2 期中期目標期間では成績評価の「質」の保証を目指して、平成 23 年度から GPA 制度を年次進行で導入し、GPA に基づく客観性と透明性の高い学業に関する学生表彰制度を確立させた。
2. 学生の学業の成果に基づいた表彰例が第 2 期中期目標期間において多数あり、学会からの期待にも応えている。
3. キャリア支援の取組として、第 1 期中期目標期間の成果を踏まえ、更に発展させるため、学生・キャリア支援センターが設置され、就職関連情報を提供するなど、学生の就職活動の支援を行う体制を構築した。また、理学部では各学科に配置されている就職担当教員が、理学部 OG による業界・企業説明会を積極的に開催している。
4. 第 2 期中期目標期間の大学院進学率は年々増加傾向にあり、卒業生のほとんどがその専門を活かせる進路に就いている。このことは、本学の教育による高度な教養と専門性を備えた理工系女性リーダー育成の成果が、関係者の期待に的確に応え続けていることを示している。

3. 生活科学部

I	生活科学部の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	3 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	・ ・ ・ ・ ・	3 - 3
	分析項目 I 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・	3 - 3
	分析項目 II 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・	3 - 31
III	「質の向上度」の分析	・ ・ ・ ・ ・	3 - 40

I 生活科学部の教育目的と特徴

1. 生活科学部の教育目的

中期目標において本学は「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」とし、時代と社会の要請に応える「女性リーダーの育成」をその使命としている。

特に、生活科学部は、アドミッション・ポリシーにおいて、「それぞれの専門を深めるばかりでなく、文理融合の学部の特性を生かして、他の専門分野にも関心を持ち、多面的で総合的な視点から現実の人間生活の問題に取り組む力を持った、社会の多方面で活躍できる女性リーダーを育成することを目指しています。」と譜っている。また、カリキュラム・ポリシーでも、「生活科学部は、人間と生活と環境を分析的かつ総合的に理解する技法を学び、専門的学知に裏打ちされた確かな教養と豊かな構想力を身につけ、将来、社会の多方面で活躍する女性リーダーを育成することを使命としている。」と規定し、カリキュラムが構成されている。さらに、ディプロマ・ポリシーでは、「生活科学部は、自然・人文・社会科学の教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身につけ、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成することを目的としている。」と定めている。

この目的を実現するため、生活科学部は、食の科学と健康、人間と環境、人間の生活（発達と心の健康、社会、文化）という人間生活の主要問題群に従って、食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科の3学科で編成されている。

食物栄養学科は、生活者の視点に立った食と健康の専門家、特に食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた指導的人材の養成を目的としている。人間・環境科学科は、生活者たる人間と環境との相互作用に関する理解を備えるとともに、生活面での諸課題に対して科学的手法を応用することで、人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会で実践できる優秀な人材を養成することを目的とする。人間生活学科は、生活者の視点から、個人の発達や心の健康、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し探求する力を備えた優秀な人材を養成することを目的としている。

2. 生活科学部の特徴

生活科学部の特徴は、社会が抱える現実的課題を、「生活者」の立場から、「現実の社会場面」において、「幅広い視点」から、「実践的」に解明・解決する「リーダー」となる「専門家」の育成を目的とし、文理融合の総合応用科学としての生活科学を学ぶ点に特色がある。そのために、①基礎教育と専門教育を有機的に組み合わせたカリキュラム、②各領域の専門職業人育成に加え、専門職業人の中のリーダーを育成するためのプログラム、③現実社会の要請を理解させ、現場での実習・体験を持たせるとともに、資格取得を援助し、実践的な専門性を高めるプログラムを用意している。特に、少人数の実験・実習・演習科目を設けることで、実践力・応用力を高めることに力を入れている。

[想定する関係者とその期待]

現代社会は単なる専門職ではなく、生活者の視点を重視し、常に広い視点から有用な専門知や実践的対処を与えることのできる専門性を有した人材を必要としている。こうした人材を必要とする企業、官公庁、各種教育機関、NPOなど社会の様々な組織が想定する関係者である。また、専門性を備えた社会人を目指す在学生、及びそうした志向のある受験生・保護者も想定する関係者であり、そのニーズにも応えるべく、社会に出て活躍できるよう、各種資格等取得（管理栄養士、栄養士、建築士、家庭科教員、栄養教諭、学芸員、社会調査士、消費生活アドバイザー）のためのカリキュラム等も用意している。しかし、単なる専門職を養成するのではなく、専門知を持ちつつも、より幅広く問題を捉え、人間生活を真に豊かで安全なものとするための方策も併せて考えることのできるよう教導することが生活科学部の使命といえる。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

<概況>

本学部は平成 16 年度に、学科構成を食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科（発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座）に再編し、現在に至っている（資料 E-1-1）。

資料 E-1-1 学部学科の構成

第 3 条 本学に、次に掲げる学部を置く。

生活科学部

3 前項に規定する学科に、次に掲げる講座を置く。

生活科学部

食物栄養学科 食物栄養学講座

人間・環境科学科 人間・環境科学講座

人間生活学科 発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座

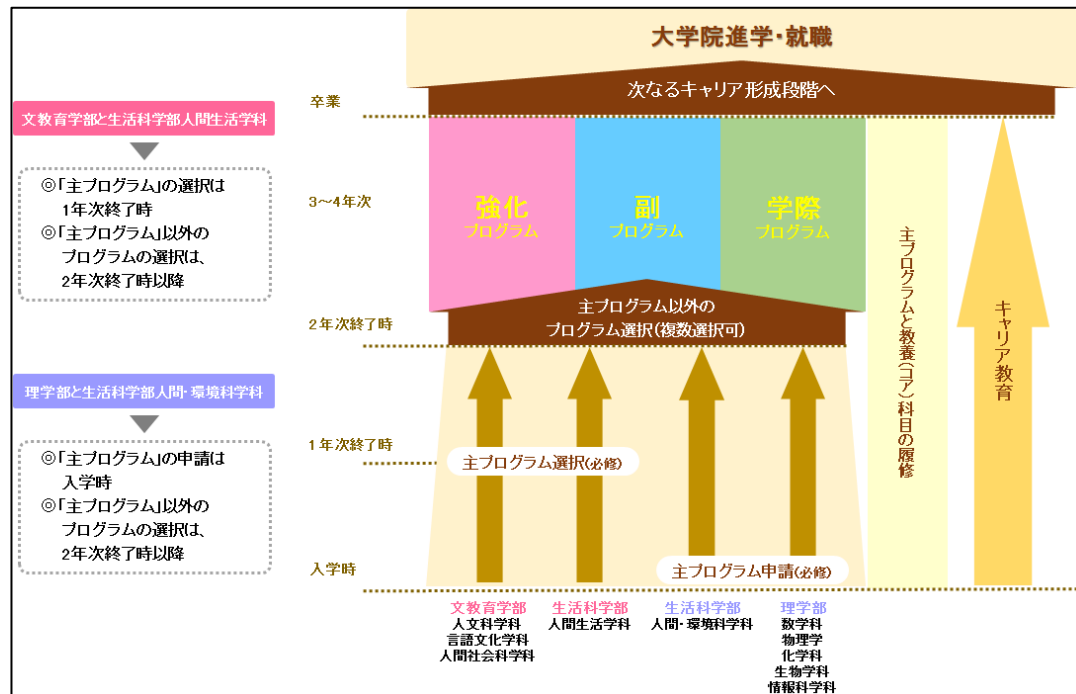
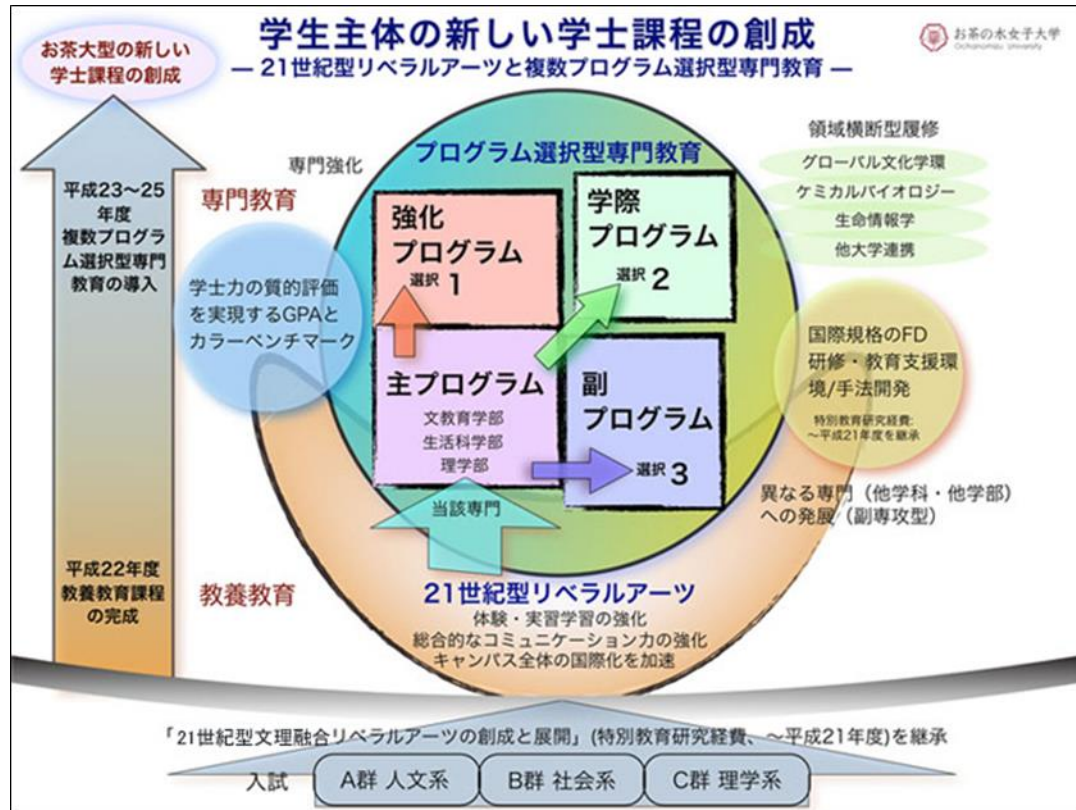
（出典：国立大学法人お茶の水女子大学学則）

<教育組織体制と教育課程の編成>

教育組織は、教育と研究が十分に連携するよう、教育課程に対応した編成となっている。すなわち、教育課程としては人間・環境科学科と人間生活学科は、平成 23 年度以降、複数プログラム選択履修制度（資料 E-1-2 及び観点「教育内容・方法」<体系的な教育課程の編成状況>参照。）において 4 つの主プログラムと強化プログラム（人間・環境科学、発達臨床心理学、生活社会科学、生活文化学）、5 つの副プログラム（人間・環境科学、発達臨床心理学、公共政策論、ジェンダー論、生活文化学）及び 1 つの学際プログラム（消費者学）を担っている。また、資格（資料 E-1-3）に関しては、食物栄養学科は管理栄養士と栄養教諭の養成課程を、人間・環境科学科は 1 級建築士の受験資格を得ることができるカリキュラム（平成 25 年度設置）を、人間生活学科は中・高等学校の家庭科教諭（資料 E-1-4）の養成課程を有している。生活社会科学講座においては、社会調査士の養成に、生活文化学講座は学芸員の養成にも対応している。加えて、発達臨床心理学講座は保育士と臨床心理士の養成に、生活社会科学講座は消費生活アドバイザーの養成（資料 E-1-5）にそれぞれ留意している。こうした教育課程に対応した、教育組織における人員配置は資料 E-1-6 のとおりである。

資料 E-1-2：複数プログラム選択履修制度の概要

複数プログラム選択履修制度とは、主プログラム（専攻）と選択プログラム（強化プログラム、学際プログラム、副プログラムの三種から構成。自由選択、複数選択可。）の組合せにより、多様な可能性をもつ専門基礎力を育成することを目的とした専門教育課程である。



資料 E-1-5 消費生活アドバイザー資格の取得奨励

(出典：生活科学部ウェブサイト (<http://www.hles.ocha.ac.jp/shouhiseikatu.pdf>))

掲載 パンフレット (抜粋)

お茶の水女子大学 生活科学部

あなたのキャリア計画を支援します

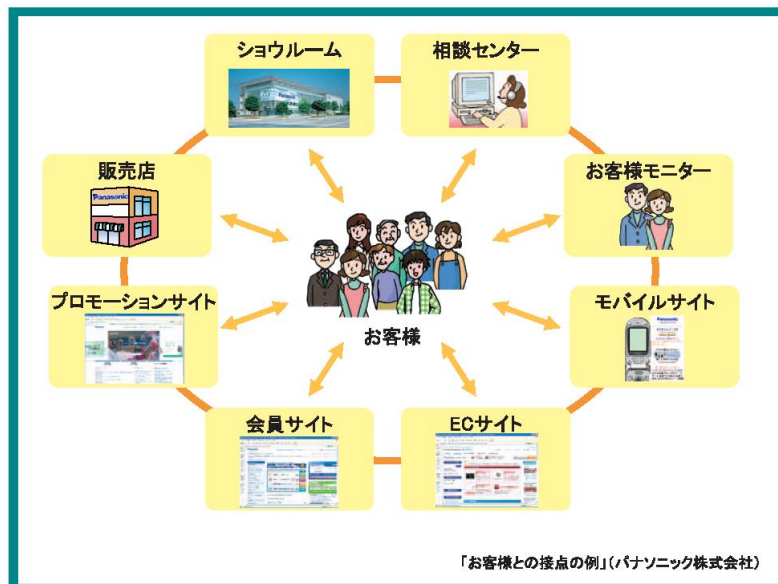
消費生活アドバイザー資格取得 支援プログラムに登録しましょう

生活科学部には、消費生活アドバイザー資格取得に必要なカリキュラムが揃っています。

消費者と企業の関係、消費者行政、消費者相談、消費者問題などに関心がある人、

消費生活アドバイザー資格に関心のある人は、

プログラムに登録して、アドバイザー資格取得に挑戦しませんか。



消費生活アドバイザーの活躍の場は、企業や行政機関などさまざま。

【企業での例】消費生活アドバイザーは、企業と消費者とのさまざまな接点で、コミュニケーションを円滑かつ有意義にするために力を発揮している。

支援プログラムに登録すると、こんなメリットがあります。

- ◆ 消費生活アドバイザー資格取得のための履修計画のアドバイスが受けられます。
- ◆ 消費生活アドバイザー、消費者関連専門家会議、消費生活アドバイザー・コンサルタント協会などの情報が得られます。
- ◆ 消費生活アドバイザー資格で活躍している人からのメッセージを受けられます。

資料 E-1-6 学科・講座別人員配置 平成 27 年度 (出典：学務課資料)

生活科学部教授会構成員

平成27年4月1日現在

	食物栄養学科	人間・環境科学科	人 間 生 活 学 科		
			発達臨床心理学講座	生活社会科学講座	生活文化学講座
教 授	赤 松 利 恵	太 田 裕 治	井 原 成 男	石井クンツ昌子	宮 内 貴 久
	香 西 み どり	大 瀧 雅 寛	小 玉 亮 子	小 谷 眞 男	
	鈴 木 恵 美 子	仲 西 正	柴 坂 寿 子	杉 田 孝 夫	
	藤 原 葉 子	松 浦 秀 治	高 濱 裕 子	永 瀬 伸 子	
	村 田 容 常		簗 倫 子	藤 崎 宏 子	
	森 光 康 次 郎		浜 口 順 子		
			藤 田 宗 和		
准 教 授	飯 田 薫 子	長 澤 夏 子	青 木 紀 久 代	大 森 正 博	鈴 木 禎 宏
	須 藤 紀 子	元 岡 展 久	伊 藤 亜 矢 子	斎 藤 悦 子	
			岩 壁 茂	申 琪 榮	
			刑 部 育 子	De Alcantara Marcelo	
講 師	市 育 代				
助 教	佐 藤 瑠 子	小 崎 美 希			難 波 知 子
		近 藤 恵			新 實 五 穂
		中 久 保 豊 彦			
	10	9	11	9	4

43

学科・講座	大学設置基準により算出される専任教員数 (内、教授数)	実員				計
		教授	准教授	講師	助教	
食物栄養学	6 (3)	6	2	1	1	10
人間・環境科学	6 (3)	4	2		3	9
人間生活学	7 (4)	13	9		2	24
(発達臨床心理学)		(7)	(4)			(11)
(生活社会科学)		(5)	(4)			(9)
(生活文化学)		(1)	(1)		(2)	(4)
	19 (10)	23	13	1	6	43

<多様な教員の確保の状況>

専任教員には、外国人教員2名、テニユア・トラック制による若手助教5名、医師や看護師の有資格者が含まれる。女性教員数は26名であり、教授会に占める割合は60%である。このように、小規模な学部ではあるが、多様な人材を擁している。

教育課程には、上記専任教員の他、学内(附属学校部など)及び学外非常勤講師95名が関わっている(平成26年度)。さらに、学部教育研究協力員5名、アカデミック・アシスタント(AA)12名、アソシエイトフェロー(AF)2名がおり、各学科講座の教育研究の支援・補助に携わっている。大学院生のティーチング・アシスタント(TA)は授業の運営を補助している。

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目 I

＜少人数教育の実施＞

本学部では、実践力・応用力を高めるため、少人数教育を実施しており、専任教員一人当たりの学生数は、1 学年平均 3.3 名である（平成 27 年 5 月 1 日現在、資料 E-1-7）。これにより、特に専門教育課程において、個々の学生が目指す目標に合致するきめ細やかな指導が可能となっている。

E-1-7 生活科学部の入学者数・在学者数・収容定員等（平成 27 年 5 月 1 日）

（出典：学務課資料）

	入学 定員	第3年次 入学定員	収容 定員	入学者・在学者数								
				1年次	2年次	3年次		4年次		合計		
				入学者	在学者	在学者	※(編入者)	在学者	※(編入者)	入学者 +在学者	※(編入者)	
食物栄養学科	36	10	144	39	39	37	(0)	41	(0)	156	(0)	
人間・環境科学科	24		96	24	25	29	(3)	31	(1)	109	(4)	
人間生活学科	65		260	71	72	35	(6)	26	34	(10)	306	(16)
								生活社会科学講座	34			
								生活文化学講座	34			
学部共通						16		18				
計	125	520	134	136	143	(9)	158	(11)	571	(20)		

＜入学者選抜方法の工夫＞

本学の大学憲章を基に、本学部はアドミッション・ポリシーを定め、一般入試、A0 入試、推薦入試、帰国子女・外国学校出身者特別入試、私費外国人留学生特別入試、第三年次編入学試験を実施し、複数の判定方法により、高校出身者のみならず、短大や高専の出身者、社会人、外国人など、様々な経歴や資質を有する人材に教育機会を提供している。

＜教育プログラムの質保証・質向上のための工夫＞

内部質保証システムの観点から、平成 24 年度に外部評価報告書を受け、「改善を要する点」に関し、対応説明書を作成した（資料 E-1-8）。

学部カリキュラム委員会は毎年、『生活科学部履修の手引き』を発行している（資料 E-1-9）。4 年間の履修の実際及び資格の取得方法などを入学時に学生に周知させることにより、学生に対し、能動的で計画的な履修を促している。一方、生活科学部履修の手引きの毎年の見直しによる改訂・発行は、教員組織全体に制度の自己点検と点検結果に基づく制度変更を促すことになり、教育方法改善への努力が常に払われる仕組みになっている。

全学的な取組として「カラーコードナンバリング」及び改良型の「GPA（Grade Point Average）制度」を開発した。カラーコードナンバリングは学士課程の全科目について、カリキュラム・ポリシーに則り、科目ごとに色分けし、履修の順序性を設定して色で表現することで到達目標を可視化した。また、スマートフォン等を利用して時間割、履修状況、成績等の学修状況をチェックできるシステム、alagin: Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) を開発し、学生が自律的に学びを管理することを可能にした。

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目Ⅰ

資料 E-1-8 平成 24 年度自己点検・評価及び外部評価の「改善を要する点」対応説明書（抜粋）

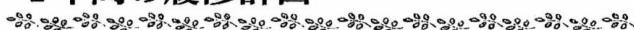
（出典：大学ウェブサイト

（http://www.ocha.ac.jp/introduction/hyouka/info/hyouka05_d/fil/050205_24sei.pdf）

指摘事項	対応・改善策
<p>【改善を要する点】</p> <p>○食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科（発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座）という、自然・人文・社会科学の総合的な学識にまたがる学科を設置し、管理栄養士や家庭科教員という専門職として、また、環境や人間発達、生活政策などを生活者の立場から社会に発言する市民性を持った人材を養成している。ただし、各学科（講座）の独立性が高く、それらを貫く文理融合の総合的応用科学の視点が弱いように思われる。（P6、82）</p>	<p>【生活科学部】</p> <p>生活科学部では既に、生活科学概論（1 年次科目）、学際プログラム『消費者学』、家庭科教員免許取得、消費生活アドバイザー資格取得支援などを実施し、学部全体で文理融合の総合教育に取り組んできている。家庭科教員免許取得についてはカリキュラムポリシーにも掲げている。複数プログラム選択履修制度の完成年度以降（平成 26 年度以降）、学科（講座）を越えて、プログラムを組み合わせ卒業する学生も出ることが予想される。従って、学部全体で文理融合教育を実施していると考えられるが、指摘のように外部から判りにくいことに関しては今後の改善事項である。今後は、上記以外にも学際プログラムを新たに起こすなど、文理融合的視点を一層強めた教育を展開したい。</p>
<p>【改善を要する点】</p> <p>○家庭科教員、管理栄養士、消費生活アドバイザーなど、生活科学の専門性を生かした資格が取得できる教育課程であり、特に管理栄養士の国家試験合格率は高い。しかし、多くの学生がその資格を生かした職業に就いているとは限らない。こうしたキャリア形成の支援に関しては、卒業生による消費生活アドバイザーの支援体制は一定程度できているが、他の専門職では整備されておらず、学外の関係者の意見が生かされる仕組みは十分ではない。（P82）</p>	<p>【生活科学部】</p> <p>管理栄養士に関しては、本年度、厚生労働省所属の管理栄養士による講演会を企画実施し、学生のキャリア形成の支援を行った。家庭科教員についても、学部内にキャリアコース支援委員会が設置されており体制は整っている。講座によっては、ピアサポート活動などを通じて卒業生を招くなど、自主的にキャリア形成支援に努めている。今後、専門職関係者による講演会等を企画し学外者の意見を収集するとともに、充実した学生支援活動を実施したい。</p>

資料 E-1-9 生活科学部履修の手引き（平成 27 年度版 p. 26 より抜粋）

4 年間の履修計画



1 年生は・・・

(1) コア科目を履修する

- ① 第一外国語を履修しなければなりません。英語、ドイツ語、フランス語、中国語から 1 カ国語 12 単位が必修となります。英語が一般的です。
- ② ドイツ語、フランス語、中国語などの第二外国語も履修することができます。
- ③ 「◎情報処理演習（生活 D）」はコア科目の必修です。履修してください。
- ④ 「◎スポーツ健康実習」はコア科目の必修です。履修してください。
- ⑤ 文理融合リベラルアーツ（L A 科目）は、共通テーマによってグループ分けされています。同一科目群から決められた科目数を履修すると、申請に基づき、成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。毎年、開講される科目が変わりますので、Web シラバスに注意して履修計画を立ててください。

(2) 主プログラムの必修科目を履修する

必修の「◎基礎有機化学」「◎数学物理学演習Ⅰ」を履修します。

(3) 主プログラムの選択科目を履修する

専門の基礎となる科目です。「○機械と運動」「○デザイン工学演習」「○数学物理学演習Ⅱ」「○ヒトと文化」「○●建築一般構造」「○●住居学概論」「○●設計製図基礎」「○生活科学概論」を積極的に履修してください。

<国際的な教育体制の整備>

グローバル人材育成を見据えた四学期制の導入に伴い、平成 25 年度から、全学的に外国語科目の必修単位数を増加させた。また、生活科学部においても短期・長期留学を考慮したカリキュラム編成を行い、学生の語学学修やサマープログラムの履修及び短期・長期留学等を奨励している（観点「教育内容・方法」＜社会のニーズに対応した教育課程の編成と実施上の工夫＞を参照。）。

<FD(ファカルティ・ディベロップメント)>

FD を目的に、学生による授業アンケート調査が毎学期に実施され、教員は科目ごとに集計された授業評価結果を受け取り、授業の進め方について改善する。平成 27 年 12 月の FD 委員会では、授業アンケートの活用に関して話し合われた。

<成績不振学生への対応>

成績不振学生に対しては、「指導ガイドライン」が定められており、GPA を用いた判定基準により成績不振と判別された学生に対し、学科・コース別に面談・指導が行われている。この面談は「成績不振学生への面談要領」に則って行われている。また、平成 27 年度には成績不振学生をチェックするシステムを開発し（資料 E-1-10）、修得単位や GPA といった客観的事実に基づく学修指導を行った。

資料 E-1-10 成績不振学生をチェックするシステムの画面

本システムでは、以下、Ⅰ～Ⅲの指標により学習成果不振の兆候を判断する。

- Ⅰ 最新学期の累積 GPA
- Ⅱ 学期ごとの GPA の推移・最小二乗近似による直線回帰の負の傾斜（成績下落）の大きさ
- Ⅲ 単位取得率（取得単位数／履修単位数）

閲覧権を付与された教職員は、下記のアラート基準（赤、橙、黄の三色の alert color code）により、学習成果の状況を確認することができる。

【アラート基準】

全学的に見て、指標Ⅰ：下位 5 %、指標Ⅱ：上位 5 %、指標Ⅲ：下位 5 %にあることをアラート基準とし、

全指標が該当する場合を 赤

2 指標が該当する場合を 橙

1 指標が該当する場合を 黄

として表示する。

（出典：学務課資料）

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

平成 16 年度に学科を、食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科に再編成したことにより、大学の目的に沿いつつ、時代と社会の要請に適合した教育実施体制を実現した。平成 25 年度には 1 級建築士の受験資格を取得可能なカリキュラムを設置する等、ニーズに合わせたカリキュラム編成を行っている。

また、教員数は、第 1 期の 41 名から第 2 期は 43 名を確保し、医師や弁護士の有資格者、外国人教員、テニュア・トラック制の若手教員といった多彩な人材を擁して、教育実施体制の基盤を強化した。特に、女性教員が 60%を占めることは、本学が女性リーダーの育成を使命として掲げる点において特筆すべき事項である。

教育課程については、大学が実施する四学期制に応じて国際的に活躍する女性人材の育成に寄与する教育プログラムを編成しているほか、複数プログラム選択履修制度を導入し、4つの主プログラムと強化プログラム、5つの副プログラム及び1つの学際プログラムを開設し、学生の領域横断的学習を可能にした。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

＜体系的な教育課程の編成状況＞

本学部教育課程は学則及び生活科学部履修規程により定められている。また、ディプロマ・ポリシーを資料 E-2-1 に示す。

資料 E-2-1 生活科学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（出典：履修ガイド平成 27 年度 pp. 12-13 より抜粋）

生活科学部は、自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身につけ、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成することを目的としている。課程を修了し学位が授与されるためには、学生には以下のことが要件として求められる。

生活科学部の学生は、所定の期間在学し、生活科学部履修規程に定められた科目群から所定の単位数を修得しなければならない。

学生は、教員の指導のもとに卒業論文のテーマを決定し、資料・データの収集を行い、学問の手法に則り、論理的な分析を行い、自ら卒業論文を完成することが求められる。卒業論文は、審査によって合格することが必要である。

(1) 食物栄養学科

生活者視点に立った食と健康の専門家、とくに食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた指導的人材の養成を目標としている。これを実現すべく、学科が定める栄養士免許取得および管理栄養士国家試験受験資格に必要な全単位を含む所定の単位を修得し、食品栄養科学分野に関する幅広い知識とその実践・応用能力を身につけたことが認められた者に、学位が授与される。

(2) 人間・環境科学科

生活者たる人間と環境との相互作用に関する理解を備えるとともに、生活面での諸課題に対して科学的手法を応用することで、人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会にて実践できる優秀な人材を養成することを目的とする。これを実現すべく、学科の教育理念・目標にそって設定された授業科目群を履修し、理工系の基礎学力を身につけ、所定の単位を修得した者に、学位が授与される。

(3) 人間生活学科

生活者の視点から、個人の発達や心の健康、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し探求する力を備えた優秀な人材を養成することを目的としている。これを実現すべく、学科の教育理念・目標にそって設定された授業科目群を履修し、人文社会科学系の基礎学力を身につけ、所定の単位を修得し者に学位が授与される。

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目Ⅰ

本学部は「コア科目」30 単位（食物栄養学科）又は 34 単位（人間・環境科学科及び人間生活学科）を必修として課し、資料 E-2-2 に示すように、「専門教育科目」として「主プログラム」、「強化プログラム」、「副プログラム」及び「学際プログラム」を置いている。なお、平成 24 年度に、グローバル人材育成推進事業へ採択され、平成 25 年度から外国語の必修単位を 8 単位から 12 単位へ増加させた。

資料 E-2-2 生活科学部の授業配置

注：自由科目は生活科学部の他学科の科目・他学部の科目を指す。

（出典：履修ガイド平成 27 年度版 生活科科学部履修規程 p. 166 より抜粋）

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位				自由に選択して履修する科目・単位										卒業に必要な履修単位数		
		コア科目				専攻科目	学部共通科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目		必修以外の選択プログラム	
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語													スポーツ健康
食物栄養学科		30				101	4					3						138

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位							自由に選択して履修する科目・単位										卒業に必要な履修単位数	
		コア科目					専門教育科目 (必修プログラム)		コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム			
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム										副プログラム		学際プログラム
人間・環境科学科		34					60	20		10										124
人間生活学科		34					42	20		28										124

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

また、本学は、平成 23 年度から「複数プログラム選択履修制度」を導入しており、生活科学部では、本制度を最大限活用し、下記に合致した履修プログラムを組み立てている（資料 E-2-3）。

○1 年次の教育課程の特徴は、英語を中心とした語学学修の強化と基礎講義・文理融合リベラルアーツ科目等を中心とした教養科目の学修の推進であり、グローバル化した時代に対応した基礎学力、教養を養成することを目指す。

○2、3、4 年次の教育課程の特徴は、積み上げ型学修による高い専門性の修得である。専門分野の基礎科目を主プログラムに配置し、強化プログラムでは、専門分野の発展的な科目を配置して、学生の段階的な学修を可能としている。

○学生の学際的学びを促すため、各学問分野の主プログラムの次の第二プログラムとして、強化プログラムではなく、他の学問分野の設置している副プログラムを選択できるようにしている。さらに、第三のプログラムでは、学部内のみならず、学部を超えた副プログラムの選択も可能にしている。

資料 E-2-3 複数プログラム選択履修制度（出典：履修ガイド平成 27 年度版 p. 167、生活科学部ウェブサイト（<http://www.hles.ocha.ac.jp/humanlife/backup.html>））

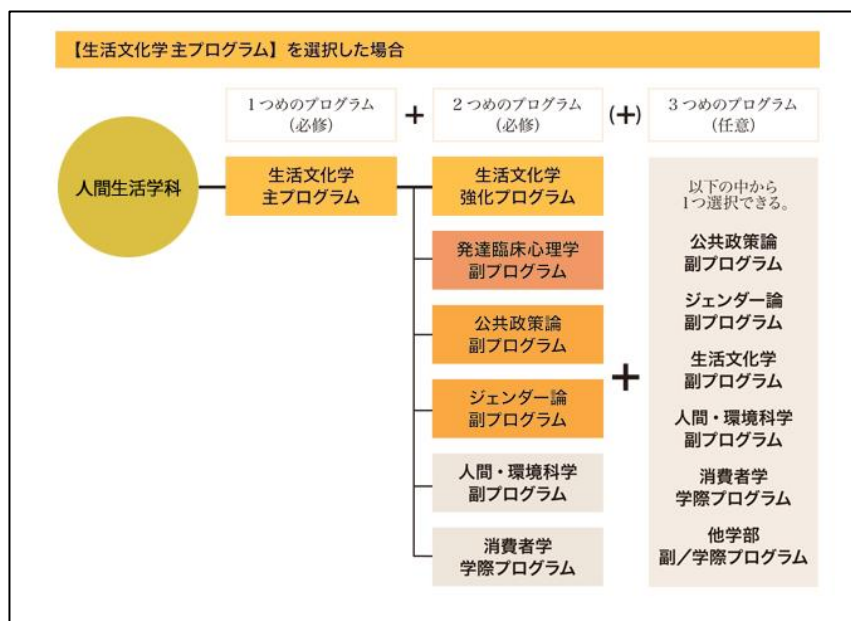
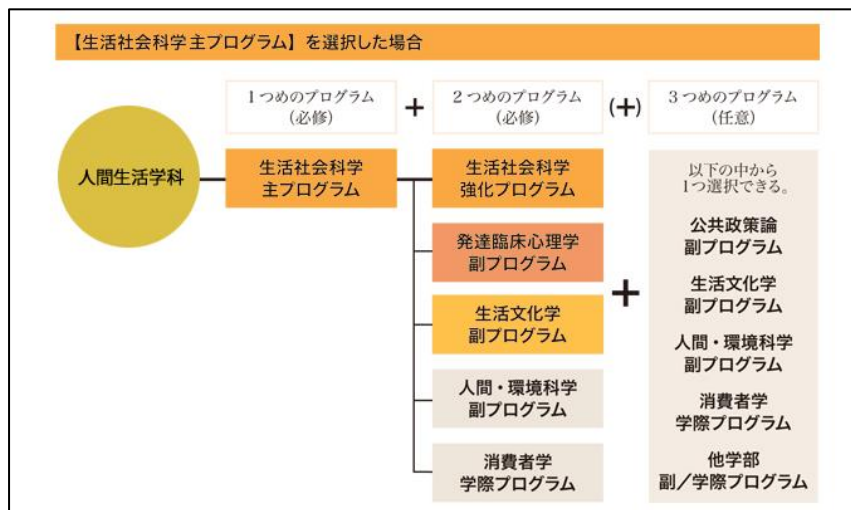
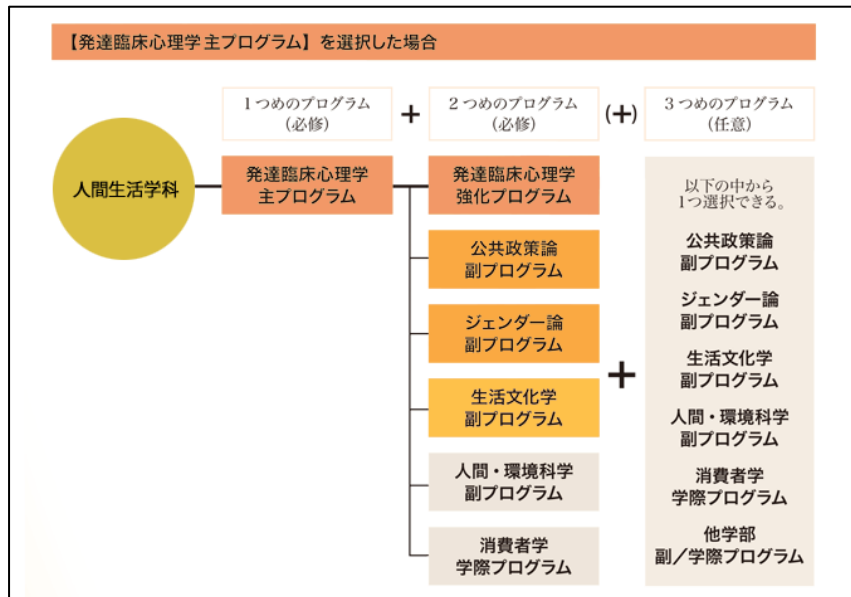
別表第 2 【(生)二つ目の選択プログラム】(別表第 1-1 備考 5 関係)						
所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
	人間・環境科学 (副)	発達臨床心理学 (副)	公共政策論 (副)	ジェンダー論 (副)	生活文化学 (副)	消費者学 (学際)
食物栄養学科						
人間・環境科学科		×	×	×	×	○
人間生活学科	○		○	○	○	○
発達臨床心理学講座						○
生活社会科学講座	○	○			○	○
生活文化学講座	○	○	○	○		○

【(生) 三つ目の選択プログラム (文・プログラム)】(別表第 1－1 備考 8 関係, 別表第 1－2 備考 4 関係)																
所属学科・講座		哲 学・ 倫理学・ 美 術 史 (副)	比 較 歴 史 学 (副)	地 理 学 (副)	日 本 語 日本文学 (副)	中国語圏 言語文化 (副)	英語圏 言語文化 (副)	仏語圏 言語文化 (副)	日 本 語 教 育 (副)	社 会 学 (副)	教育科学 (副)	心 理 学 (副 A) 人間社会科学科対象	心 理 学 (副 B) 人間社会科学科以外 対 象	舞 台 演 習 学 (副)	音楽表現 (副)	グローバル 文 化 学 (学際)
食 物	栄 養 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
人 間・	環 境 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
人 間 生 活 学 科	発達臨床心理学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	生活社会科学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	生活文化化学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○

【(生)三つ目の選択プログラム (理・プログラム)】(別表第 1-1 備考 8 関係、別表第 1-2 備考 4 関係)									
所属学科・講座	数学 (副)	物理学 (副)	化学 (副)	生物学 (副)	情報科学 (副)	応用数理 (学際)	物理・化学 (学際)	ケミカルバイオロジー (学際)	生命情報学 (学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活学科	○	○	○	○	○	×	×	×	×
発達臨床心理学講座	○	○	○	○	○	×	×	×	×
生活社会科学講座	○	○	○	○	○	×	×	×	×
生活文化学講座	○	○	○	○	○	×	×	×	×

【(生)三つ目の選択プログラム (生・プログラム)】(別表第 1-1 備考 8 関係、別表第 1-2 備考 4 関係)						
所属学科・講座	人間・環境科学 (副)	発達臨床心理学 (副)	公共政策論 (副)	ジェンダー論 (副)	生活文化学 (副)	消費者学 (学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科		○	○	○	○	○
人間生活学科	○		○	○	○	○
発達臨床心理学講座	○		○	○	○	○
生活社会科学講座	○	○			○	○
生活文化学講座	○	○	○	○		○

■生活科学部における複数プログラム選択履修制度の履修例



■生活科学部 主プログラム

(出典:履修ガイド平成27年度版 pp. 168、170、172、174 より抜粋)

学科名	教育目標	内容・構成
人間・環境科学科	環境と人間との間でのアンバランスから生じるさまざまな問題に対し、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置付けた上で、互いに影響を受け合って変化する環境と人間との間のダイナミクス(相互作用)を、環境と人間の双方の視点から、また歴史・進化的視点のもとで科学的に理解することを目標とする。さらには、人間と環境がバランスを保ちつつ暮らせる具体的な対策を、社会に対して提案して実践する能力を養うことを教育目標とする。	人間と環境のあいだの問題の解決には定量性や客観性といった科学的な思考能力が不可欠であるため、入学後の1・2年次には、徹底した自然科学系基礎教育(数学、物理、化学、生物、統計学など)を行い、卒業研究のための基礎力を涵養する。3年次には関心に従い、応用へ展開する諸科目を学習する。4年間の勉学を通じて、科学技術の実践的な応用、生活関連分野におけるタイムリーなテーマへの取組み、研究成果の社会での応用・評価などを学ぶ。
人間生活学科	本プログラムでは、生涯にわたる人間の発達・変容と、それに対する支援・援助のあり方について、理論的に、かつ、実践的に考究する。そのため、家庭、就学前教育施設、児童福祉施設、学校、心理臨床など、様々な現場とのダイナミックな連携を重視しつつカリキュラムが構成されている。卒業後は、学校教育の教員、心理臨床の専門家(臨床心理士)養成の準備教育を行うと同時に、大学で学んだ知見をあらゆる社会生活の中で実践的に生かせる態度と見識を養うことを目標としている。	臨床心理学、発達心理学、教育心理学、保育学、教育学などの基礎となる様々な学問的知見について学び、研究の姿勢と方法を身につけることが目指されているが、加えて、実践の場で求められる知識や態度のために必要な基礎的学習を重視している。したがって、主プログラムでは、講義科目として、発達と臨床に関する基礎的な知識を習得する科目、また、観察・診断・検査・統計分析といった方法論や分析スキルを身につける科目を用意している。さらに、演習科目として、講義講読科目群と研究演習科目群が用意されており、計2科目以上の演習科目を履修し、卒業論文を執筆する。
	本プログラムは、社会科学の理論と方法論を習得し、身近な生活問題の発生メカニズムを理解するとともに、その解決の方途について提案する力を養うことを目的とする。法学、政治学、経済学、社会学の4分野にわたり広く社会科学の基礎知識を習得し、これを応用して各自の研究課題を説明するための基礎力を身につける。	社会科学の理論と方法論の基礎を集中的に学ぶとともに、家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法、生活政治学等、本主プログラムと強化プログラムの柱となる現代的トピックについて学ぶ。3年次にはいずれかの演習を選択して密度濃い指導を受けつつ卒業研究のテーマを明確にし、4年次では卒業論文の作成に取り組む。
	生活文化学は、日常生活に関わる文化事象、とくに服飾、住まい、工芸、デザインなどの生活造形を対象とし、比較文化論、民俗学、歴史学、美学などの手法によって新しい文化論を構築することを目指している。生活に根差した文化論の考究を基盤とすることにより、現代生活の諸問題を解決する実践能力を養い、生活文化をリードする見識と創造力を養う。	古今東西の生活文化に関する幅広い知識の習得と、自ら問題意識をもって文化事象を追究することのできる基礎力を養うことを重視する。そのために、人間生活学科の共通科目、生活文化学の各領域の基本的な知識を習得する概論科目、分析スキルを習得する基礎科目、自らの問題意識で分析・解釈を試みる基礎演習、および卒業論文で構成される。

■生活科学部 強化プログラム

(出典：履修ガイド平成 27 年度版 pp. 168、170、172、174 より抜粋)

学科名		教育目標	内容・構成
人間・環境科学科		科学技術応用による具体課題の解決に対する社会的要求に応えるべく、実験実習を中心に充実した工学教育プログラムを提供する。本プログラムでは工学分野における主要科目(講義科目ならびに実験演習科目)を配置し、設計から評価にわたる徹底した一連の工学教育を展開する。そして、理系における実務教育の実施および女性技術者の育成に努める。なお、建築士受験資格を取得する場合必要となる単位数が異なるので注意すること。	主プログラムで学んだ自然科学基礎力を一層発展させることとし、工学的トレーニングを通じて、設計・評価能力を養う。また、プレゼンテーション技術を身につける。世界的科学技術競争の激化、少子高齢化、安全と安心の問題や地球的課題などに対応すべく、優れた創造的人材を育成する。理工系の基礎能力を身に付け、かつ、生活・生活の質に関連した具体的応用課題に対する解決能力を有する人材の育成をはかる。
	発達臨床心理学	発達臨床心理学主プログラムにより基礎的な力を養った後、より広範な専門的知識と分析方法を学習し、自ら分析・研究を進めていく力を養うためのプログラムである。また、充実した実習科目や演習科目を履修することによって、専門的な研究方法や、実践的な思考を深めることを目標としている。	人の心やコミュニケーションの問題、子どもから大人まで生涯にわたる発達に関する課題等、専門に関する講義科目がすべて選択科目として用意されているので、各自の関心を深めると同時に視野を広げるために自由に選択することができる。実習科目については、履修年次制限に留意すること。4年次向けに開講されている発達臨床論文演習Ⅰ・Ⅱは必修ではないが、卒業論文執筆に当たっては、履修することが望まれる。
	生活社会科学	生活社会科学主プログラムにより基礎的な力を養った後、各自の研究テーマ及びその関連領域につき体系的な知識を習得するためのプログラムである。本強化プログラムを履修することにより、社会科学の高度な知識と研究方法を自在に使いこなす力を身につけることができる。	講義科目は、家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法、生活政治学など、主プログラムにより提示された柱となるトピックへの関心をさらに広げ、同時に深めるための科目群からなる。一部必修化するが、大半の科目は選択科目であり、各自の関心に応じて自由に選ぶことができる。また、演習科目については、主プログラムに組み込まれた2科目4単位分は必修であるが、さらにもう一種の演習(ⅠⅡ)を選択して学際的な視点をもって卒業論文の作成に取り組むことも可能である。
	生活文化学	生活造形の領域に関する専門的な知識に加え、より広範の生活文化に関する知識を習得し、また自ら分析・解釈を試みる演習を少なくとも二つの領域で履修することにより、生活文化に対する深い見識を養うとともに、より深い思考力と柔軟な分析力を養う。服飾制作実習や、民俗学のフィールドワークを含む実習によって身体を通して学び、理解力を深める。	生活造形に関するより専門的な講義科目、生活史・生活思想、芸術・情報・環境など生活文化の関連領域に関するより広範なテーマの講義科目、基礎演習を展開させ、自らの分析スキルによって調査・解釈を試みる演習科目、あるいは実習科目、そして生活文化学専門英語で構成される。

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

■生活科学部 副プログラム・学際プログラム

(出典：履修ガイド平成 27 年度版 pp. 176-179、181-183 より抜粋)

プログラム名	教育目標	内容・構成
人間・環境科学	人間や環境に係る理学や工学を総合的に幅広く学ぶことを目標とする。環境と科学技術のあり方について、今後の技術動向に関する分析力を養うとともに、人間・環境に係る科学技術についての理解を目指す。文系・理系学習者のいずれも受講可とする。	人間・環境科学科の主プログラムならびに強化プログラムにおいて提供される科目群から、受講者の関心に従って選択して受講する。なお、所属学部学科にかかわらず、建築士受験資格に関する科目を所定の単位以上履修修得した上で、卒業すれば二級建築士の受験資格を得ることができる。(取得単位数により必要な実務経験が0年～2年となる。)ただし、二級建築士受験資格を取得するには、厳しい履修条件が課されているので、二級建築士受験資格希望者は、かならず、人間・環境科学科の教員に事前に相談すること。
発達臨床心理学	生涯にわたる人間の発達・変容と、それに対する支援・援助のあり方について、理論的に、かつ、実践的に考究する。副プログラムでは、発達臨床心理学に関する学問的知見を学ぶことによって、それらをあらゆる社会生活の中で生かす態度と見識を養うことを目標としている。	臨床心理学、発達心理学、教育心理学、保育学、教育学などの様々な学問的知見について、学ぶことができる科目が用意されている。幅の広い領域をまなぶことによって、視野を広げていくことが可能となる科目から構成されている。
公共政策論	さまざまな主専攻領域で学んできた学生を想定し、社会科学の基本的な考え方と方法論の基礎を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ実践に活かすための力を養うことを目的とする。公務員受験を志望するものにも役立つカリキュラムを提供する。	社会科学の基本的な考え方と方法論を習得するため、「生活社会科学概論(1)(2)」「生活社会科学演習(1)(2)」を必修とする。また、自ら調べ自ら考える力を強化するために、演習科目に参加することが望ましい。他の講義科目については、各自の関心に応じ、体系的なメニューのもとに学んでいく。
ジェンダー論	さまざまな主専攻領域で学んできた学生を想定し、社会科学領域におけるジェンダー研究の視点と方法を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ研究や実践に活かすための力を養うことを目的とする。	社会科学とジェンダー研究の基本的な考え方と方法論を習得するため、「生活社会科学概論(1)(2)」「生活社会科学演習(1)(2)」「ジェンダー論」を必修とする。また、自ら調べ自ら考える力を強化するために、演習科目に参加することが望ましい。他の講義科目については、各自の関心に応じ、体系的なメニューのもとに学んでいく。
生活文化学	生活科学を学ぶ学生が文化的視野をもち、人間の精神生活に対する理解を深めることは、生活の質を考える上でもっとも重要である。またどのような学問領域であれ、学生が生活を取りまく身近な文化に関心をもつことは、生活人として重要である。本プログラムは、生活造形を中心とした生活文化学の基本を学ぶことにより、より創造的な生活の感性を養うことを目指す。なお学芸員の資格を取得するための履修科目が複数含まれている。	生活造形に関するもっとも基礎的な知識を習得する概論などの基礎科目、生活文化・思想・芸術など、多様なテーマに関する講義科目、および基礎演習科目で構成される。基礎4科目を必修とし、他は自由に選択することができる。演習科目を一つは履修することが望ましい。
消費者学	消費生活にともなう諸問題を学際的・総合的に学ぶ。成熟した市民社会を担う能動的消費者となるための基礎的カリキュラム。消費生活アドバイザー資格試験を受ける人などにも最適。	消費者科学の基礎となる「消費者科学入門」「国民経済と生活」「消費者法」の3科目6単位を必修科目として履修する。選択科目として、消費者科学に関連する科目を14 単位履修する。

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

＜社会のニーズに対応した教育課程の編成と実施上の工夫＞

本学は教育課程の編成に当たり、社会の要請に応えることを念頭に置き、大学憲章（資料 E-2-4）に教育目的を明示している。本学部の教育課程もこれに沿うように編成している。

資料 E-2-4 大学憲章（抜粋）

お茶の水女子大学は、創設以来一貫して、女性の自立と社会的 活躍、そして社会の知的基盤の充実に寄与してきた。

1875 年(明治 8 年)、「御茶ノ水」(文京区湯島)に東京女子師範学校が開校され、その後、東京師範学校女子部、高等師範学校 女子部、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校を経て、1949 年(昭和 24 年)に新制大学お茶の水女子大学となり、現在に至っている。この 135 年の間、本学は国によって設置された最も歴史ある女性の高等教育機関としての使命を遂行し、多くの優れた女性を社会に輩出してきた。またこの間、附属学校園と同じキャンパスで歩みを共にしてきたことも本学の特徴である。

そして、2004 年(平成 16 年)、国立大学の法人化に伴い、本学は、 国立大学法人お茶の水女子大学となり、これを機に、自らの使命と存在意義とを改めて確認し、それを内外に広く示すこととした。 法人化に際して本学は次の標語を掲げている。

「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、 真摯な夢の実現される場として存在する。」

この標語の下、本学は、常に時代の変化に敏感でありつつも普遍的な真理を追究し、そのことによって、女性も男性も自由かつ対等に活躍できる多様で豊かな人間社会を実現するという歴史的使命を果たしていくことを目指し、ここに大学憲章を定める。 2011 年春

また、資料 E-2-5 に示すように、本学部では少人数による演習・実習・実験科目の比率を高くしている。さらに、全ての学科・講座において卒業論文を必修としている。卒業論文は単位数 8 とし重点を置いている。これらの科目は、自ら考える力、考えたことを発信する力を養成するために極めて効果的と考える。

資料 E-2-5 平成 27 年度生活科学部学科別の講義、演習・実習・実験科目数

	講義	演習・実習・実験
食物栄養学科	32	34
人間・環境科学科	43	51
人間生活学科	98	121
合計 (比率 (%))	173 (45.6)	206 (54.4)

(学務課・授業登録データより作成)

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

学生の学ぶ意欲を喚起すべく成績評価に GPA を導入し、同データ等に基づくことで、優秀学生を表彰し、奨学金を授与する制度（「学内表彰」）を実施している。学部学生に対する授与実績を資料 E-2-6 に示す。

資料 E-2-6 学生表彰者数

学生表彰者数(平成22年度～平成27年度) ※第1号関係							
		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
食物栄養学科		2	1	2	1	5	5
人間・環境科学科		1	0	1	1	1	1
人間生活学科	発達臨床心理学講座	0	0	0	0	2	0
	生活社会科学講座	0	3	2	0	3	0
	生活文化学講座	0	0	0	0	0	1
合計		3	4	5	2	11	7

（※第1号関係とは、『学部1年次から引き続き在学する学部4年生であって、1年次から4年次前学期まで累積された GPA が原則として 3.2 以上かつ3年次までの修得単位数が 93 以上の者で、所属学部長より推薦のあった者』である。）

（出典：学務課資料）

本学部では他学部の科目を履修することが許可されており、その状況は資料 E-2-7 のとおりである。人間生活学科の3講座において、他学部の科目を履修する傾向が高く、学部をまたぐ学際的な学修が行われている。

資料 E-2-7 生活科学部生による他学部科目の履修（延べ履修人数、科目数）

		H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度	
		延べ人数	延べ科目数	延べ人数	延べ科目数	延べ人数	延べ科目数	延べ人数	延べ科目数	延べ人数	延べ科目数	延べ人数	延べ科目数
文教育学部 専門科目	食物栄養学科	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1
	人間・環境科学科	32	18	23	16	34	15	19	12	9	5	14	3
	発達臨床心理学講座	122	51	94	41	63	37	105	36	86	30	87	33
	生活社会科学講座	145	48	168	57	138	54	165	45	154	56	133	54
	生活文化学講座	104	50	109	33	98	39	74	42	58	34	68	34
	小計	404	168	395	148	334	146	365	137	309	126	303	125
理学部 専門科目	食物栄養学科	-	-	2	1	5	2	3	2	-	-	6	6
	人間・環境科学科	3	3	-	-	7	6	-	-	-	-	2	1
	発達臨床心理学講座	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
	生活社会科学講座	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-
	生活文化学講座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	3	3	2	1	14	10	4	3	0	0	8	7
合計		407	171	397	149	348	156	369	140	309	126	311	132

また、国内他大学との単位互換、国外の大学との単位互換を認めており、その実績は資料 E-2-8 のとおりである。単位互換を利用した例として、人間生活学科の学生が経済学等の社会科学分野の授業を履修した例、人間・環境科学科の学生が建築・土木工学系の授業を履修した例等があり、専門分野の学習の補強としても活用されている。さらに、国外の大学の単位互換を履修する学生も年々増加している。

資料 E-2-8 生活科学部学生による単位互換の利用（他大学での履修）

（単位：人）

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
国内※	0	2	4	5	3
国外*	8	9	14	22	21
合計	8	11	18	27	24

※国内の単位互換協定校への派遣者数

* 大学間交流協定校での学習における単位認定者数

（学務課・履修登録及び単位認定データより作成）

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目Ⅰ

■国内協定校の単位互換における履修科目名（所属学科ごと）

年度	所属学科	履修科目名（協定校名）
H23	人間・環境科学科	都市計画概論、交通計画（東京工業大学）
H24	人間・環境科学科	会計情報論、水理学原理（東京工業大学） アートマネジメント概論（東京藝術大学）
H25	人間生活科学科	管弦楽史、副科合唱、舞台語発音法（東京藝術大学） 労働経済学、経営学概論（一橋大学）
H26	人間生活科学科	スポーツと開発、社会思想、マスコミュニケーション基礎論、 西洋近代法史、経済史 A、地方自治法、比較政治（一橋大学）

■海外協定校における単位互換（所属学科ごと）

年度	学科(講座)名	人数	単位互換先協定校名
H22	食物栄養学科	2	オタゴ大学(ニュージーランド)
	人間・環境学科	3	モナシュ大学(豪)、ハル大学(英)
	人間生活学科(発達臨床心理学講座)	0	
	人間生活学科(生活社会学講座)	3	オタゴ大学(ニュージーランド)
	人間生活学科(生活文化学講座)	0	
H23	食物栄養学科	2	マンチェスター大学(英)、オタゴ大学(ニュージーランド)
	人間・環境学科	3	モナシュ大学(豪)、マンチェスター大学(英)、バーギシェ・プッパタール大学(独)
	人間生活学科(発達臨床心理学講座)	0	
	人間生活学科(生活社会学講座)	4	マンチェスター大学(英)、オタゴ大学(ニュージーランド)
	人間生活学科(生活文化学講座)	0	
H24	食物栄養学科	4	マンチェスター大学(英)、オタゴ大学(ニュージーランド)、カリフォルニア大学デービス校(米)
	人間・環境学科	1	マンチェスター大学(英)
	人間生活学科(発達臨床心理学講座)	4	ハル大学(英)、マンチェスター大学(英)、オタゴ大学(ニュージーランド)、パーデュー大学(米)
	人間生活学科(生活社会学講座)	5	ハル大学(英)、ニューサウスウェールズ大学(豪)、カリフォルニア大学リバーサイド校(米)、ブカレスト大学(ルーマニア)
	人間生活学科(生活文化学講座)	0	
H25	食物栄養学科	6	ニューサウスウェールズ大学(豪)、モナシュ大学(豪)、オタゴ大学(ニュージーランド)、カリフォルニア大学リバーサイド校(米)、国立台湾大学(台)
	人間・環境学科	7	ニューサウスウェールズ大学(豪)、トムスク国立教育大学(露)
	人間生活学科(発達臨床心理学講座)	2	オタゴ大学(ニュージーランド)、ニューサウスウェールズ大学(豪)
	人間生活学科(生活社会学講座)	6	ニューサウスウェールズ大学(豪)、モナシュ大学(豪)、マンチェスター大学(英)、ヴァッサー大学(米)
	人間生活学科(生活文化学講座)	1	サピエンツァ ローマ大学(伊)
H26	食物栄養学科	8	ハル大学(英)、マンチェスター大学(英)、オタゴ大学(ニュージーランド)、モナシュ大学(豪)
	人間・環境学科	2	バーギシェ・プッパタール大学(独)、トムスク国立教育大学(露)
	人間生活学科(発達臨床心理学講座)	5	梨花女子大学(韓)、オタゴ大学(ニュージーランド)、モナシュ大学(豪)、マンチェスター大学(英)、ハル大学(英)、ケルン大学(独)
	人間生活学科(生活社会学講座)	4	ハル大学(英)、カリフォルニア大学リバーサイド校(米)
	人間生活学科(生活文化学講座)	2	サピエンツァ ローマ大学(伊)、トムスク国立教育大学(露)

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

さらに、資料 E-2-9 のような多様な制度を採用し、本学学部生に語学や海外の知見を学ばせている。年度を追うごとに国際的な学修活動が活発化する傾向にあることが見て取れる。四学期制の導入により短期・長期留学のし易いカリキュラム編成としたこと、新入学時のオリエンテーション等において学生に積極的に語学学修を行うことを勧めていること、サマープログラムの履修や海外大学への短期留学・長期留学を在学時の学修計画に入れることを勧めていること、外国語科目の必修単位数の増加などから、海外語学研修・短期留学・長期留学共に積極的に行われるようになってきている。このような海外大学での語学研修も単位化されている。

資料 E-2-9 生活科学部学生の留学及び海外語学研修等への参加（単位：人）

種別	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
交換留学及び短期留学	1	2	5	3	6
海外語学研修	12	17	16	35	25
国際調査（スタディーツアー）	0	0	5	2	0
国際学生フォーラム	0	0	0	2	0
国際共生社会論実習（注 1）	0	0	0	0	5
KAKEHASHI Project（注 2）	0	0	0	0	4
合計	13	19	26	42	40

注 1：全学共通科目「国際共生社会論実習」の一環として派遣

注 2：文教育学部専門科目「国際交流論Ⅱ」の一環として派遣

（国際課・海外派遣実績データより作成）

インターンシップについては、全学としては平成 19 年度からキャリア教育として設置・単位化されたが、生活科学部では、人間生活と文化に関する諸問題に生活者の視点から総合的・実践的に取り組むという生活科学部の性質から、それ以前より専門教育の一環として取り組んできており、食物栄養学科と生活文化学講座を除く全学科・講座で行われ、単位化してきた（資料 E-2-10）。

資料 E-2-10 インターンシップ科目履修状況（単位：人）

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
食物栄養学科 専門科目	—	—	—	—	—
人間・環境科学科 専門科目	11	11	14	11	8
発達臨床心理学講座 専門科目	17	15	18	18	14
生活社会科学講座 専門科目	2	5	0	1	7
生活文化学講座 専門科目	—	—	—	—	—
全学共通科目（生活科学部全体）	1	0	0	2	4
コア科目（生活科学部全体）	11	2	9	7	2
専門科目合計	30	31	32	30	29
全学共通科目・コア科目合計	12	2	9	9	6

人間・環境科学科専門科目名：人間環境科学特別実習Ⅰ・Ⅱ／人間・環境科学特別実習

発達臨床心理学講座専門科目名：発達臨床心理学特別実習Ⅰ・Ⅱ

生活社会科学講座専門科目名：生活社会科学実習／生活社会科学特別実習

全学共通科目名：インターンシップ

コア科目名：NPO インターンシップ

（学務課・履修登録データより作成）

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

人間・環境科学科及び人間生活学科では、下記の資料 E-2-11 のごとく、第三年次編入学及び社会人特別選抜を実施している（入学定員 10 名、カッコ内は社会人特別選抜者）。編入生に対しては、他大学等において取得した単位の認定を行っている。

資料 E-2-11 第三年次編入学及び社会人特別選抜（出典：入試課資料）

第3年次編入学試験(入学者数)

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
人間・環境科学科		—	—	0(0)	1(0)	1(0)	3(0)
人間生活学科	発達臨床心理学講座	2(1)	2(0)	4(0)	3(0)	2(2)	3(0)
	生活社会科学講座	1(2)	3(1)	4(0)	4(0)	4(0)	3(0)
	生活文化化学講座	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)

組織的な学修指導として、新入生に対しオリエンテーション合宿を実施し、履修計画作成の指導を行っている。その際、『履修ガイド』と『生活科学部履修の手引き』を配付し、学科・講座ごとに各学年で履修すべき科目や、資格取得に必要な科目について、詳細な説明とモデル時間割を示している（資料 E-2-12）。編入生に対しては別途オリエンテーションを実施し、履修計画作成の指導を行っている。

資料 E-2-12 学科・講座のカリキュラム構成とモデル時間割の例（人間・環境科学科）
（出典：生活科学部履修の手引き 平成 27 年度版 pp. 30-31 より抜粋）



カリキュラムの構成

- ◎ 必修科目
- 選択科目
- 一級建築士受

験資格関連科目

		1 年 (2015年度)	2 年 (2016年度)	3 年 (2017年度)	4 年 (2018年度)
専 門 教 育 科 目 必 修 プ ロ グ ラ ム	主 プログラム (必修)	◎ 基礎有機化学 ◎ 数学物理学演習Ⅰ	◎ 環境科学 ◎ 生物化学 ◎ 統計学	◎ 情報工学演習 ◎ 人間環境科学演習 ◎●人間環境科学実験実習Ⅰ ◎●人間環境科学実験実習Ⅱ ◎ 人間環境科学実験実習Ⅲ	◎ 人間環境科学輪講Ⅰ ◎ 人間環境科学輪講Ⅱ ◎ 卒業論文
	主 プログラム (選択)	○ 数学物理学演習Ⅱ ○ デザイン工学演習 ○ 機械と運動※ ○ ヒトと文化 ○●建築一般構造 ○●居住学概論 ○ 生活科学概論 ○●設計製図基礎	○ 設計製造演習 ○ デザインとテクノロジー※ ○ 物理化学 ○ 反応工学論 ○●環境生理学 ○ 人体計測学演習 ○ 機器分析演習 ○ 応用統計学 ○●建築環境計画論 ○●建築史※	○ 応用統計学 (時間割の都合上2年で履修で きなかった場合) ○ 計測工学 ○●基礎構造力学※	
	強化 プログラム (選択)		○ 人間工学※ ○ 数学物理学演習Ⅲ ○ 人類進化史 ○ 環境衛生学 ○●建築環境工学※ ○●建築材料学Ⅰ※ ○●建築構造力学※ ○●建築設計製図演習Ⅰ	○ 電子工学 ○●環境物理学 ○ 環境材料物性 ○ 医用工学 ○●システム工学 ○ 水環境工学 ○ 環境評価学 ○●建築施設計画 ○ 人間環境科学特別講義 ○ 人間環境科学特別実習Ⅰ ○●人間環境科学特別実習Ⅱ	
	強化 プログラム (建築)		● 建築設計製図演習Ⅱ ● 建築法規※ ● 建築構法計画※ ● 環境デザイン論※ ● 測量学※	● 建築生産※ ● 建築材料学Ⅱ※ ● 建築設備学※ ● 建築設計製図演習Ⅲ ● 建築意匠論※	
学部共通科目		○ 生活科学概論			
コア科目 (LA、基礎講義、 外国語など) の例		◎☆スポーツ健康実習 ◎☆情報処理演習(生活D) ◎ 外国語 ● 知覚認知と環境デザイン※ 水の安全保障※ 安全管理概論 生物人類学	◎ 外国語 一般物理学実験 一般化学実験		
自由選択科目					

注) ※は、隔年開講の科目を示す。

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

資料 E-2-12(続き)

2015年度 1年生前期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	基礎有機化学 打田 ◎	LA科目 ◇	生活科学概論 ＊	ヒトと文化 松浦 ＊	
火	語学(独仏中) ◇◆		スポーツ 健康実習 ◎◇		機械と運動 太田(隔年) ○
水	安全管理概論 ◇	水の安全保障 (隔年)大瀧 ◇	語学初級Ⅰ (応用) ◇	語学(英語) ◇◆	
木	語学(英語) ◇◆	数学物理学演習Ⅰ 太田・未定◎		情報処理 演習 生活D ◎	
金	語学(独仏中) ◇◆	応用統計学 岩崎 ＊		サプリメント (物理/生物)	

前期集中

測量学(隔年開講) ●

2015年度 1年生後期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	知覚認知と 環境デザイン (隔年)未定 ◇●	数学物理学演習Ⅱ 太田・大瀧・他 ＊		住居学概論 未定・横山 ＊●◇	設計製図基礎 元岡・長澤 ＊●
火	語学(独仏中) ◇◆		スポーツ 健康実習 ◎◇		
水	生物人類学 松浦・近藤 ◇	建築一般構造 元岡 ○●	語学初級Ⅱ (応用) ◇	語学(英語) ◇◆	
木	語学(英語) ◇◆				
金	語学(独仏中) ◇◆		デザイン工学演習 太田・未定 ＊		

2016年度 2年生前期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	人体計測学演習 近藤 ＊		生物化学 仲西 ◎		
火	環境科学 近藤 ◎		設計製造演習 太田・元岡 ＊		デザインと テクノロジー 太田(隔年)○
水					
木	語学(英語) ◇◆	語学(独仏中) ◇◆	建築環境 計画論 長澤 ＊●	建築設計 製図演習Ⅰ 未定・伊藤 ○●	
金	数学物理学演習Ⅲ 太田・大瀧 ○				

前期集中

人類進化史 松浦 ○

2016年度 2年生後期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月			機器分析演習 仲西 ＊		
火	環境生理学 近藤 ＊●	建築構造力学 (隔年)糸井 ＊●		環境衛生学 大瀧 ○	人間工学 (隔年)太田 ○
水	反応工学論 大瀧 ＊			統計学 土 ◎	建築構法計画 ・建築法規 (隔年)河野 ●
木	語学(英語) ◇◆	語学(独仏中) ◇◆	建築史(隔年) 元岡 ●	建築材料学Ⅰ (隔年)兼松 ●	建築設計 製図演習Ⅱ 元岡・非常勤 ●
金		物理化学 仲西 ＊			建築環境工学 (隔年)小崎 ●

2017年度 3年生前期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	水環境工学 (1学期)大瀧 ○		環境評価学 (移動の可能性 有り)○	建築生産 (隔年)河野 ●	
火		環境材料物性 仲西 ○	人間・環境科学実験実習Ⅰ 全教員 ◎●		
水		電子工学 (移動の可能性 有り)○			
木	建築施設計画 未定 ○●		人間・環境科学実験実習Ⅱ 全教員 ◎●		
金		応用統計学 岩崎 ＊	人間・環境科学実験実習Ⅲ 全教員 ◎		

前期集中

人間環境科学特別実習Ⅰ 太田 ○/人間環境科学特別実習Ⅱ 元岡 ○●

1～4年生 不定期

LDDE演習(全教員)1～4年 不定期

2017年度 3年生後期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	医用工学 山内○		環境物理学 太田・大瀧・他 ○●		建築設計 製図演習Ⅲ 未定・非常勤 ●
火		基礎構造力学 (隔年)小山 ＊●	情報工学演習 太田・元岡・未定 ◎		計測工学 (隔年)太田 ＊
水		システム工学 西谷 ○●			
木			建築意匠論 (隔年)元岡 ●	建築材料学Ⅱ (隔年)兼松 ●	
金			人間環境科学演習 松浦・仲西・大瀧・近藤 ◎		建築設備学 (隔年)三上 ●

◎:主プログラム必修(34)

＊:主プログラム選択(26)

○:強化プログラム(選択)(20)

●:建築関連科目

◇:コア科目(LA科目、基礎講義、語学など)

◆:コア科目の必修をみたす語学(12)

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目Ⅰ

また、本学部教員全員がオフィス・アワーを設け、学部ウェブサイトやシラバスに掲載し、周知を図っている（資料 E-2-13）。

資料 E-2-13 平成 27 年度 生活科学部教員オフィス・アワー

食物栄養学科

氏 名	専 門	オフィスアワー	研 究 室
赤松 利恵	栄養教育学	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟509室
香西 みどり	調理学	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟410室
鈴木 恵美子	応用栄養学	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟613室
藤原 葉子	栄養化学	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟406室
村田 容常	食品貯蔵学	概ね平日 8:30～9:30	総合研究棟510室
森光 康次郎	食品機能化学	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟507室
飯田 薫子	生活習慣病学	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟612室
須藤 紀子	公衆栄養学	概ね平日 12:20～13:00	大学本館204室
市 育代	臨床栄養学	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟407室
佐藤 瑠子	給食経営管理論	概ね平日 12:20～13:00	総合研究棟410室

人間・環境科学科

氏 名	専 門	オフィスアワー	研 究 室
太田 裕治	人間医工学	月 13:00～15:00	総合研究棟809室
大瀧 雅寛	環境衛生工学	月 13:30～15:00	総合研究棟710室
仲西 正	材料物性・高分子化学	木 13:00～15:00	総合研究棟708室
松浦 秀治	自然人類学・文化財科学	(前期)月 13:30～14:30 (後期)水 11:00～12:00	総合研究棟609室
長澤 夏子	建築計画	木 13:00～15:00	総合研究棟807室
元岡 展久	建築意匠論・建築設計学	火 11:00～12:00	総合研究棟811室
小崎 美希	建築環境工学・設備	火 11:00～12:00	総合研究棟706室
近藤 恵	自然人類学・人類年代学	水 10:40～12:30	総合研究棟611室
中久保 豊彦	環境システム学	月 13:00～15:00	総合研究棟707室

人間生活学科

発達臨床心理学講座

氏 名	専 門	オフィスアワー	研 究 室
井原 成男	病院臨床・心理療法論	火 12:10～13:00	大学本館351室
小玉 亮子	教育学・子ども社会学	金 12:20～13:10	生活科学部本館 2-364室
柴坂 寿子	子ども行動学	(前期)金 12:20～13:20 (後期)木 15:00～16:00	大学本館349室
高濱 裕子	発達心理学・保育学	木 11:30～12:30	生活科学部本館 2-362室
篁 倫子	発達臨床心理学・発達障害	金 12:00～13:30	大学本館348室
浜口 順子	保育学・幼児教育学	金 12:20～13:10	大学本館343室
藤田 宗和	非行臨床・心理査定	木 12:20～13:20	大学本館350室
青木 紀久代	生涯発達臨床心理学・保育・学校臨床	火 12:20～13:20	大学本館342室
伊藤 亜矢子	学校臨床心理学・コミュニティ心理学	火 12:20～13:20	大学本館332室
岩壁 茂	臨床心理学・心理療法学	木 12:20～13:10	大学本館333室
刑部 育子	発達心理学・幼児教育学	(前期)火 15:00～16:00 (後期)木 17:00～18:00	大学本館337室

生活社会科学講座

氏 名	専 門	オフィスアワー	研 究 室
石井クンツ昌子	家族社会学	火 12:30～13:20(前期不在)	大学本館317室
小谷 眞男	生活法学	月 13:20～16:30	大学本館307室
杉田 孝夫	政治学・政治思想史	月 11:00～13:00	大学本館302室
永瀬 伸子	労働経済学	金 15:00～16:00	大学本館309室
藤崎 宏子	福祉社会学・家族社会学	木 12:30～13:30	大学本館316室
大森 正博	公共経済学・産業組織・医療経済学	金 15:00～16:30	大学本館308室
斎藤 悦子	生活経済学	月 16:30～18:00	大学本館304室
テ・アウカンタ マルロ	家族法・比較法	火 16:30～18:00	大学本館314室

生活文化学講座

氏 名	専 門	オフィスアワー	研 究 室
宮内 貴久	日本民俗学	月 12:15～13:15	大学本館327室
鈴木 禎宏	比較文化史・生活造形論	月 16:40～17:30	大学本館328室
難波 知子	日本服飾史	金 12:15～13:15	大学本館323室
新貫 五穂	西洋服飾史・フランス文化論	金 12:15～13:15	大学本館326室

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目 I

キャリア教育に関しては、全学で実施しているキャリアデザイン科目に加え、各学科・講座において、卒業生・有識者など社会人による講演会を定期行事として開催し、学生の進路選択を想定した履修を促している。また、教員免許や消費生活アドバイザーの資格取得を希望する学生への支援のために、それぞれ「家庭科教員キャリア支援コース（免許取得後の多彩なキャリアコースを提示し支援）」、「家庭科教員相談室及び消費生活アドバイザー資格取得支援プログラム（主に資格取得のための履修計画のアドバイス。資料 E-1-5）」を設置している。数少ない国立大学法人・生活科学系学部として、学生・教育界・産業界・消費者からの期待に応える取組といえる。

＜他学部生、社会人等へ学びの機会提供＞

資料 E-2-14 に、他学部学生の履修受入状況を示す。また、資料 E-2-15 のように、国内外の学生を受け入れ、科目等履修生・聴講生・研究生を受け入れている。国費留学生や私費外国人留学生を受け入れると同時に、講義・演習における国内学生との交流を促進している。社会人の受入れに関しては、ECCCELL 社会人プログラムを特設している（下表*印及び資料 E-2-16）。

資料 E-2-14 他学部（文教育学部・理学部合計）学生による生活科学部科目の履修
（単位：延べ履修人数、科目数）

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
履修人数	370 人	423 人	357 人	293 人	297 人
科目数	77 科目	91 科目	90 科目	73 科目	82 科目

（学務課・履修登録データより作成）

資料 E-2-15 生活科学部への科目等履修生等の受入れ

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
科目等履修生(延べ人数) (実数)	延べ22人 16人	延べ8人 6人	延べ27人 25人	延べ29人 21人	延べ11人 8人
生活科学部特別設置科目* 科目等履修生(延べ人数) (実数)	延べ52人 32人	延べ53人 34人	延べ74人 48人	延べ84人 52人	延べ109人 74人
聴講生 (延べ人数) (実数)	延べ4人 4人	延べ7人 6人	延べ3人 2人	延べ3人 3人	延べ1人 1人
生活科学部特別設置科目 聴講生 (延べ人数) (実数)	延べ0人 0人	延べ0人 0人	延べ7人 4人	延べ5人 5人	延べ0人 0人
研究生	5人	2人	3人	4人	2人
単位互換(国内)	3人	5人	15人	14人	17人
単位互換(国外)※	6人	6人	6人	6人	6人
合計(実数)	66人	59人	103人	105人	108人

*生活科学部特別設置科目とは、Early Childhood Care / Education and Lifelong Learning, ECCCELL（乳幼児教育と生涯学習）社会人プログラム「変革期の乳幼児教育・保育を考える」である。

※生活科学部で受け入れた交換留学生の数。

（出典：学務課・履修登録データ、国際課・留学生受入実績データ）

現職保育者および乳幼児教育に関心を持つ社会人等の学び直し場として「保育リカレント講座」を開設し、学部・大学院および附属幼稚園・附属ナースリーとの連携を図りつつ、多様な保育人材の戦略的育成を複合的に実現する循環的な生涯学習モデルを構築。

◆「保育リカレント講座」の開設

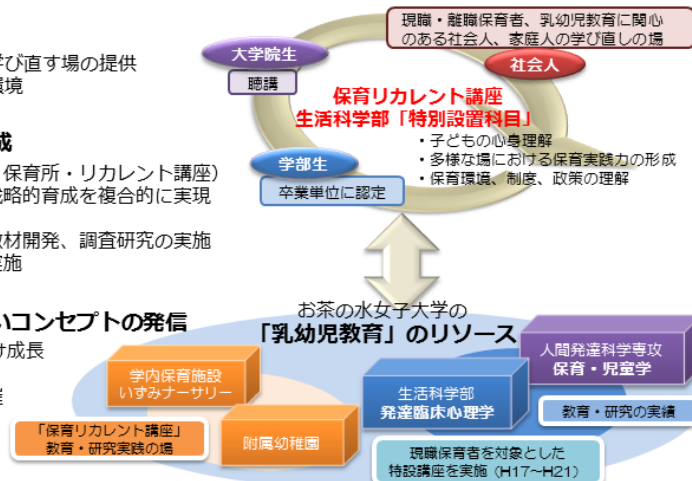
- ・現職保育者、一般社会人、家庭人等が学び直す場の提供
- ・女性が生涯学び続けられるリカレント環境

◆「循環型学習システム」の基盤形成

- ・学内リソース（学部・大学院・幼稚園・保育所・リカレント講座）の有機的連携による多様な保育人材の戦略的育成を複合的に実現する循環的な生涯学習モデルの構築
- ・協働による社会人教育カリキュラム・教材開発、調査研究の実施
- ・附属園との協力による附帯教育改革の実施

◆「保育者の専門性」にかかる新しいコンセプトの発信

- ・教養教育としての保育者養成、学び続け成長し続ける保育者像
- ・公開シンポジウム、保育フォーラム開催による教育研究成果の発信



グローバル化に備えた人材育成のための教育プログラムを整えており、生活科学部も積極的に協働している。本学学部生の留学・海外研修などの実績・工夫については資料 E-2-8 を通じて示した。また、学科・講座における海外の大学との交流事例も増えている。

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目Ⅰ

＜養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫＞

本学部では高度な総合性と実践性が必要とされ、文理両系にまたがる学士課程の教育目的に応じ、授業形態の組合せと学修指導法に工夫を凝らしてきた。本学部の学際性を体現する特徴的科目として「生活科学概論」がある。食物栄養学、人間・環境科学、発達臨床心理学、生活社会科学、生活文化学の各主プログラム担当者が、「生活者」に関わる共通課題についてオムニバス形式の講義を展開するとともに、講義最終回では、取り上げられた各回テーマについて、担当教員と学生間でディスカッションの時間を設けている。平成27年度の講義テーマは「防災・災害」であり、生活科学的観点から様々な講義内容が展開された（資料 E-2-17）。

資料 E-2-17 平成27年度生活科学概論シラバス

授業計画	
第1回	4/13 大学で学ぶことと生活科学について：藤田学部長
第2回	4/20 家庭科教職および消費生活アドバイザー資格の紹介
第3回	4/27 講演「生活者の視点からみた東日本大震災」
第4回	5/7 課題①
第5回	5/11 「心と防災」：伊藤亜矢子（発達臨床心理学講座）
第6回	5/18 「心と防災」：伊藤亜矢子（発達臨床心理学講座）
第7回	5/25 「住・建築と防災」：元岡展久（人間・環境科学科）
第8回	6/1 「住・建築と防災」：元岡展久（人間・環境科学科）
第9回	6/8 「衣と防災」：難波知子（生活文化学講座）
第10回	6/15 「衣と防災」：難波知子（生活文化学講座）
第11回	6/22 「災害リスクと裁判：生活者の視点から」：小谷眞男（生活社会科学講座）
第12回	6/29 「災害リスクと裁判：生活者の視点から」：小谷眞男（生活社会科学講座）
第13回	7/6 「食と防災」：香西みどり（食物栄養科学科）
第14回	7/13 「災害時の食」：須藤紀子（食物栄養科学科）
第15回	7/27 まとめ：討論会

資料 E-2-18 には生活科学部の特徴的な授業科目例を示した。このほかの特色ある科目を以下に記述した。

資料 E-2-18 生活科学部の特徴的な授業科目例

科目名	（担当）学科・講座	対象学年	H26 年度受講生数
調理科学	食物栄養学科	1	39
ライフステージ栄養学	食物栄養学科	3	38
建築環境工学	人間・環境科学科	2～3	30
水環境工学	人間・環境科学科	3	28
心理臨床実習	発達臨床心理学講座	3	21
保育臨床実習	発達臨床心理学講座	2	8
消費者経済学	生活社会科学講座	2	39
家族社会学	生活社会科学講座	3	34
民俗学	生活文化学講座	1	33
比較生活文化論	生活文化学講座	2	21

（学務課・履修登録データより作成）

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目 I

『LIDEE演習（人間・環境科学科）』（説明資料冊子、別途添付）

受講対象は学部1～4年生である。生活科学部人間・環境科学科が企画運営するワークショップ型教育プログラムであり、技術、社会、生活のイノベーションの創造プロセスを学ぶ問題解決型の演習授業である。平成24年度から開始し、平成27年度で4年目である。社会的テーマを課題とし、毎回、専門家のセミナーを受けながら、グループ作業によって問題解決の方策を提案する。平成26年度には、学生が本演習内容を基に日本経済新聞主催のテクノルネサンス・ジャパンに応募し、1つのグループが最優秀賞を受賞している。

『食物栄養管理論総合演習（食物栄養学科）』

対象は3年生であり、平成18年度から継続的に実施している。平成24年度に実施した自己点検・評価の外部評価による指摘事項を受けて、平成25年度に厚生労働省職員等の実務者による講義・演習としてブラッシュアップした。管理栄養士養成に関する専門知識の提供（厚生労働省職員や実務者による講義と演習）や、臨地実習に向けた専門職員（保健所職員など）から話題提供を受け、将来の職種に関するイメージ取得の一助となる。

＜学生の主体的な学修を促すための取組＞

教育スタッフに関しては、生活科学部担当事務職員（学務課）1名を配置している。ティーチング・アシスタント（TA）に関しては学部カリキュラム委員会が中心となり、

（1）教職関係科目の実習とコア科目、

（2）実験、実習、調査法、学部共通科目、教職関係科目（実習以外）

を優先し、TAが配置されている。資料E-2-19に平成27年度のTA配分科目数と時間数を記した。平成19年度の配分科目数は54科目であり、平成27年度は70科目と増加している。このように、TAの活用により、学部における実験・実習の安全性確保と円滑な講義や演習の進行が補助されている。

資料E-2-19 平成27年度TA配分科目数と時間数

TA	総数	うち講義数	うち演習・実習・実験数
科目数※	70	14	56
時間数※	2,156	350	1,806

※前（1・2）学期は実績、後（3・4）学期は平成27年10月時点の申請ベースで作成（学務課・TA雇用データより作成）

また、本学部の「文理融合・学際的に生活を科学する」という目的を実現する場として特徴的な教育研究施設や実験実習施設を有しており、調理実習室では専門教育に加えて、全学部を対象とした文理融合リベラルアーツ教育に使用している。また、子どもの遊ぶ環境としてプレイルームを有しており、親子の行動観察や遊具の有効性等についての実習に使用している。なお、講義室のOA機器敷設率は100%である（資料E-2-20）。

資料E-2-20 平成26年度における施設数と面積、OA機器敷設率

講義・演習室数	13
講義・演習室面積(m ²)	857
実験実習室数	11
実験実習室面積(m ²)	831
講義室OA機器敷設率(%)	100

（出典：施設課資料）

さらに、自主学修の場を提供する意味で、学部共通自習室（1室）を、各学科にそれぞれ自習室又は学習室を設けている（資料 E-2-21）。

資料 E-2-21 学習室及び自習室の面積

	面積(m ²)	場所	備考	管理
学部共通自習室	78	第6講義室		(生活科学部)
学科学習室	21	総研棟504室	PC、NET利用可	食物栄養学科
学科学生学習室	21	総研棟806室		人類・環境科学科
学科学習室	65	319室	PC、NET利用可	生活社会学講座
学科準自習室	234	資料室(4室)	ゼミ時間外に利用可	生活社会学講座
学科自習室	26	347室		発達臨床心理学講座
学科準自習室	78	解析室、機器室	時間外に利用可	発達臨床心理学講座
学科自習室	182	資料室(2室)		生活文化学講座

※ 学習室と自習室は名称の違いだけで双方とも学生用の自主学習室として開放されている部屋である。（出典：学務課及び施設課資料より作成）

学部共通自習室は、授業以外の時間帯で学生が自由に利用できる場としており、学部1～2年の低学年層が積極的に利用している。学部共通図書室は2室が設置されており、主体的な学修環境が整えられている。また、学術雑誌の購入については、毎年度、購読アンケートを実施し、購入図書の選定を行っている。

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

平成23年度の複数プログラム選択履修制度の導入以来、生活科学部のプログラムは、基礎的学問分野の内容の修得、学生の基礎学力の充実を確保しながら、学生の自ら調べ自ら考える、主体的な学びを促進してきた。学際プログラムを設けることで学科間の連携も図られている（資料 E-2-2、E-2-3）。各学科・講座においては、生活を科学するという特徴的な授業科目が開設され（資料 E-2-18）、LIDEE 演習（人間・環境科学科）のようなワークショップ型教育プログラムも加わって、学部全体として教育課程の編成の体系性が確保されていると判断する。

生活科学部では、他大学との単位互換制度の利用、留学や海外語学研修も単位化されて、その数も増加している（資料 E-2-7、E-2-8）。インターンシップについても単位化されてきた（資料 E-2-10）。人間・環境科学科並びに人間生活学科では、第三年次編入学及び社会人特別選抜が行われている。科目等履修生等も受け入れている（資料 E-2-14）。以上のことから、学生の多様なニーズ、社会からの国際化等の要請に対応した教育課程の編成に配慮していると判断する。

また、生活科学部の実践的専門性を涵養する視点から、実験実習室、演習室、図書・資料室等が整備されている（資料 E-2-20）。また、主体的な学習の場として各学科講座には自習室も設置され（E-2-21）、教育研究上望ましい環境も整備されている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

<学生が身に付けた学力や資質・能力>

(1) 取得単位数の概要

資料 E-3-1 に、生活科学部卒業生（22～26 年度）の平均取得単位数を示す。卒業に要する総単位数は 124 単位である（食物栄養学科のみ 138 単位である）。卒業生の学部平均取得単位数は 142～149 単位で推移している（食物栄養学科は卒業に要する総単位数が多いため、平均取得単位数は 150～164 単位である。食物栄養学科を除いた同数値としては 138～143 単位となる。）。この数値は総じて学生の履修意欲の高さを実証している。また、授業満足度（平成 26 年度授業アンケートにおける満足度は約 81～89%）が高いことと合わせると、期待に十分応えとともに、学生が身に付けた学力の高さを示すと考える。

資料 E-3-1 生活科学部卒業生平均取得単位数

平成 19 年度入学平成 22 年度卒業生

学科・講座	食物栄養	人間・環境科学	発達臨床心理学	生活社会科学	生活文化学	学部全体
卒業生人数	39	20	32	27	17	135
最小取得単位数	147	125	128	124	126	124
最大取得単位数	199	177	168	160	176	199
平均取得単位数	163	146	142	137	145	148

平成 20 年度入学平成 23 年度卒業生

学科・講座	食物栄養	人間・環境科学	発達臨床心理学	生活社会科学	生活文化学	学部全体
卒業生人数	39	19	29	29	13	129
最小取得単位数	139	124	124	124	126	124
最大取得単位数	194	164	190	168	169	194
平均取得単位数	157	137	145	136	138	145

平成 21 年度入学平成 24 年度卒業生

学科・講座	食物栄養	人間・環境科学	発達臨床心理学	生活社会科学	生活文化学	学部全体
卒業生人数	38	27	28	28	16	137
最小取得単位数	141	124	124	124	126	124
最大取得単位数	190	196	170	188	161	196
平均取得単位数	158	142	146	139	138	146

平成 22 年度入学平成 25 年度卒業生

学科・講座	食物栄養	人間・環境科学	発達臨床心理学	生活社会科学	生活文化学	学部全体
卒業生人数	36	26	27	25	14	128
最小取得単位数	143	124	126	124	127	124
最大取得単位数	194	166	179	158	164	194
平均取得単位数	164	149	141	139	144	149

平成 23 年度入学平成 26 年度卒業生

学科	食物栄養	人間・環境科学	発達臨床心理学	生活社会科学	生活文化学	学部全体
卒業生人数	38	25	29	29	12	133
最小取得単位数	141	124	128	124	124	124
最大取得単位数	184	158	216	170	148	216
平均取得単位数	150	135	143	139	138	142

注：この数値は各年度の卒業判定資料に基づき、留年した者や 9 月卒業者を除く 3 月卒業者のみを算出対象とした。平均取得単位数は小数点以下を切り捨てた。（出典：学務課資料）

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目Ⅱ

(2) 教員免許及び各種免許の取得状況

教員免許等の取得状況を資料 E-3-2 に示す（全て家庭科）。取得者実数として、例年卒業生の 10～20%が取得している。

資料 E-3-2 教員免許等の取得状況

生活科学部	卒業者数	取得者実数※	中学校一種	高等学校一種	栄養教諭	合計(延数)
平成 22 卒	135	29	15	18	18	51
平成 23 卒	129	17	7	7	11	25
平成 24 卒	137	15	8	8	9	25
平成 25 卒	128	23	14	14	15	43
平成 26 卒	133	14	10	8	6	24

※取得者実数は、中・高・栄養いずれかの免許を取得した者の人数。

(出典：学務課資料)

また、本学部における各種資格取得状況の変遷を資料 E-3-3 に示す。平成 19 年度卒業生より栄養士及び管理栄養士の資格取得者が加わり、専門分野を活かした有資格者が新しい職業分野で活躍できるようになった。これらの有資格者の大半が大学院に進学している。

資料 E-3-3 各種資格取得状況

	22 年度卒	23 年度卒	24 年度卒	25 年度卒	26 年度卒
食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格(注 1)	39	39	38	36	38
栄養士資格(注 1)	39	39	38	36	38
管理栄養士国家試験受験資格(注 1)	39	39	38	36	38
学芸員資格(注 2)	1	1	4	8	3
社会教育主事(注 2)	0	0	0	1	4
社会調査士	14	10	10	10	12

注 1：留年者や 9 月卒業者を除き、3 月卒業者のみを算出した。

注 2：当該年度の 3 月卒業者のうち、卒業までに各種資格実習単位を取得した者の人数を計上した。

(出典：学務課資料)

なお、建築士受験資格に関しては、人間・環境科学科が提供するカリキュラムが、平成 24 年度入学生以前は 2 級建築士受験資格に、また、平成 25 年度入学生以降は 1 級建築士受験資格に対応し、平成 27 年度現在に至る。本現況分析に関わる年度においては、2 級建築士受験資格取得者数が該当するが、建築士資格に関しては、卒業時に受験資格が認定付与されるものではなく、必要な実務経験年数を経た後、受験者が受験時に試験実施機関に自己申告する仕組みであるため、当該資格取得者の統計評価には時間が必要である。

＜学業の成果に関する学生の評価＞

毎学期末（7月並びに1月）に、学生による授業アンケートを全学的に実施している。アンケートの調査項目を下表に示す（資料 E-3-4）。

資料 E-3-4 授業アンケート 調査項目

Q1. シラバスの活用	Q2. 授業の選択理由
Q3. 学生の意欲度	Q4. 予習・復習の実行
Q5. 予習・復習の時間	Q6. 授業の聞き取りやすさ
Q7. 板書などの見やすさ	Q8. 説明の判りやすさ
Q9. 授業の創意・工夫	Q10. 授業内容の量・スピード
Q11. 教員の熱意	Q12. 質問・発言の促し
Q13. 授業内容の興味・関心	Q14. 授業の理解度
Q15. Q14 で理解度が低い者の理由	Q16. 授業に対する満足度
Q17. 授業目標に対する理解	Q18. 目標の達成度
Q19. 自分の学習への有益度	Q20. 視聴覚機器設備

（出典：学務課資料）

同アンケート結果の一例として、資料 E-3-5 のように高いスコアが得られている。アンケート結果は直ちに担当教員にフィードバックされ、アンケートを通じ、各教員が授業に対する学生の受け止め方を認識し、授業改善に資する、という合意が形成されている。

資料 E-3-5 平成 26 年度授業アンケート 結果例

	前期	後期・通年
Q3 学生の意欲度：授業に対する意欲有り	82.0%	81.4%
Q14 授業の理解度：よく理解できた	89.7%	89.0%
Q16 授業に対する満足度：満足した	89.1%	89.2%

（出典：学務課資料）

また、学生満足度に関する調査として、「平成 22 年度お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」が実施されており、以下に結果を抜粋する（資料 E-3-6）。専門科目についてより高度な内容を学びたいという意見もあったが、教員の指導、卒業研究指導については満足度が高かった。

資料 E-3-6 平成 22 年度「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」

（pp. 7、10、11、15～17 から抜粋）

これまでに授業を受けた教養教育科目群(コア科目)と専門教育科目群のなかで、意味があったと考える科目の割合を調査した。「全国大学生調査(2007年)」によれば、その全国平均は、教養教育科目群で43.9%、専門教育科目群で58.5%であった。これに対し、本学の平均は、前者54%、後者72%と、いずれも全国平均と比べ高い傾向であった。学年別に見ると、意味があった専門教育科目群の割合はとくに4年生で75%と高数値であった。全学的に食物栄養学科ではこの数値が高い。平均すれば8割近くの専門教育に意味があると学生が考える結果であった。
卒業論文・卒業研究指導に対する評価を4年生に調査した結果、「非常に満足」36.2%、「やや満足」39.1%であった(全学の結果)。両項目の和として、生活科学部においては76.6%であった(理学部83.4%、文教育学部68.5%)。
教員指導に対する評価について調査した。教養・共通教育(コア、LAなど)の教員指導については、全学部で平均82%が「満足」または「ある程度満足」と回答した。専門教育の教員指導の満足度はより高く、平均87%が「満足」または「ある程度満足」と回答した。とくに人間・環境科学科、人間生活学科では9割以上が満足と回答した。

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目Ⅱ

授業評価や意識調査に加え、人間・環境科学科では平成 27 年度より毎年ペアレンツデイを企画し、保護者からのフィードバックも得る仕組みも構築している。平成 27 年 11 月 28 日に実施したペアレンツデイでのアンケートからは、

○今後も継続して実施してほしい。

○進路を決める前にこのような機会があればよかった。（4 年生保護者）

等の意見が挙げられた。このような説明会を開催することにより、大学院進学希望者が増えると判断している。

卒業状況に関して、平成 23 年度入学生（平成 27 年 3 月卒業）の例を資料 E-3-7 に示す。教員 1 人あたりの学生数が少ない等、少人数教育による手厚い指導により、留年者数は少ないといえる状況である。

資料 E-3-7 平成 23 年度生（平成 27 年 3 月卒業）の卒業状況

平成23年度生(平成27年3月卒業)の卒業状況						
学科	講座	入学者数	卒業者数	転部	退学	留年
食物栄養学科		39	38		1	
人間・環境科学科		26	24		1	1
人間生活学科	発達臨床心理学	70	27			1
	生活社会科学		25			2
	生活文化学		12		1	2

（出典：学務課資料）

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由）

学業の成果である学生が身に付けた学力や資質・能力に関しては、単位の取得状況、免許・資格の取得状況、卒業状況のデータから、期待される水準を上回ると判断する。

すなわち、卒業生の平均取得単位数に関しては、卒業要件の 124 単位を 13%程度超える、140 単位程度となっている（E-3-1）。また、学生の授業への満足度も高いところから（E-3-5、E-3-6）、学生が自主的に勉学に取り組みつつ、学生は十分な学力を身に付けていると考える。

資格に関しては、学生は毎年教員免許、管理栄養士（平成 16 年度入学生以降）をコンスタントに取得している。加えて、建築士（2 級・平成 24 年度入学生以前、1 級・平成 25 年度入学生以降）の資格取得のカリキュラムを整備し、社会で必要とされる資格が得られる体制を強化した。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

<卒業後の進路の状況>

平成 22 年度から平成 26 年度卒業生の就職率を資料 E-4-1 に示した。

資料 E-4-1 就職率

			H22	H23	H24	H25	H26
食物栄養学科		卒業者数	40	40	38	37	39
		就職希望者数	16	17	13	7	17
		就職者数	13	15	13	7	17
		就職/希望者(%)	81.3	88.2	100	100	100
人間・環境科学科		卒業者数	20	22	30	28	25
		就職希望者数	12	13	25	20	14
		就職者数	11	13	25	20	14
		就職/希望者(%)	91.7	100	100	100	100
人間生活学科	発達臨床	卒業者数	35	32	29	30	32
		就職希望者数	21	19	19	13	19
		就職者数	16	17	17	13	19
		就職/希望者(%)	76.2	89.5	89.5	100	100
	生活社会	卒業者数	28	31	34	25	34
		就職希望者数	24	27	26	23	31
		就職者数	19	26	25	22	31
		就職/希望者(%)	79.2	96.3	96.2	95.7	100
	生活文化	卒業者数	21	15	21	15	16
		就職希望者数	18	14	16	10	15
		就職者数	13	13	16	10	15
		就職/希望者(%)	72.2	92.9	100	100	100
	人間生活 計	卒業者数	84	78	84	70	82
		就職希望者数	63	60	61	46	65
		就職者数	48	56	58	45	65
		就職/希望者(%)	76.2	93.3	95.1	97.8	100
生活科学部 計		卒業者数	144	140	152	135	146
		就職希望者数	91	90	99	73	96
		就職者数	72	84	96	72	96
		就職/希望者(%)	79.1	93.3	97	98.6	100

お茶の水女子大学生生活科学部 分析項目Ⅱ

平成 22 年度から平成 26 年度卒業生の進学率を資料 E-4-2 に示した。生活科学部全体の平成 22 年度から平成 26 年度の 5 年間の進学率は、30%前後を推移し、理系の専門分野を有する食物栄養学科及び人間・環境科学科並びに臨床心理士の資格取得課程を大学院に有する発達臨床心理学講座において大学院への進学率がやや高い傾向にあり、専門への志向を示している。

資料 E-4-2 卒業後の進学者数及び進学率

			H22	H23	H24	H25	H26
食物栄養学科		卒業者数	40	40	38	37	39
		進学者数	23	21	22	28	21
		うち、内部進学	22	18	20	27	18
		進学率	57.5	52.5	57.9	75.7	53.8
人間・環境科学科		卒業者数	20	22	30	28	25
		進学者数	8	9	5	8	11
		うち、内部進学	8	8	3	5	8
		進学率	40	40.9	16.7	28.6	44
人間生活学科	発達臨床	卒業者数	35	32	29	30	32
		進学者数	12	12	7	12	12
		うち、内部進学	10	8	6	7	9
		進学率	34.3	37.5	24.1	40	37.5
	生活社会	卒業者数	28	31	34	25	34
		進学者数	3	4	4	2	1
		うち、内部進学	3	3	1	2	0
		進学率	10.7	12.9	11.8	8	2.9
	生活文化	卒業者数	21	15	21	15	16
		進学者数	0	0	3	4	1
		うち、内部進学	0	0	0	3	1
		進学率	0	0	14.3	26.7	6.3
	人間生活 計	卒業者数	84	78	84	70	82
		進学者数	15	16	14	18	14
		うち、内部進学	13	11	7	12	10
		進学率	17.9	20.5	16.7	25.7	17.1
生活科学部 計		卒業者数	144	140	152	135	146
		進学者数	46	46	41	54	46
		うち、内部進学	43	37	30	44	36
		進学率	31.9	32.9	27	40	31.5

(出典：学生・キャリア支援課資料)

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目Ⅱ

就職先に関して、産業別就職状況を資料 E-4-3 に示した。生活科学部は文系理系の学科・講座があり、各方面に多様な人材を輩出している。産業別就職先では、学科・講座の専門領域との関連性が見られる。例えば、管理栄養士等の資格取得が可能な食物・栄養学科では食品関係に毎年一定数の就職者があり、建築系の分野を有する人間・環境科学科においては、ほぼ毎年度建設業への就職者を輩出している。また、学部全体の傾向として公務員になる学生の割合が高いといえるが、特に人間生活学科は、法学・政治学・社会学を学ぶ生活社会学講座を有しており、公務への就職者が多くみられるほか、法務への就職者もみられる。また、同学科では服飾文化等を学ぶ生活文化学講座も有しており、繊維業への就職者もみられる。国家公務員と地方公務員を合わせると、毎年約 10%～20%が採用されており、我が国全体として地域貢献やふるさと創生が求められているが、生活科学部の卒業生はその一翼を担っている。

資料 E-4-3 産業別就職状況

		H22				H23				H24				H25				H26			
		食物栄養学科	人間・環境科学科	人間生活学科	計	食物栄養学科	人間・環境科学科	人間生活学科	計	食物栄養学科	人間・環境科学科	人間生活学科	計	食物栄養学科	人間・環境科学科	人間生活学科	計	食物栄養学科	人間・環境科学科	人間生活学科	計
農業・林業					0				0			1	1				0				0
建設業			1		1		1		1				0		2	2	4	1		2	3
製造業	食品	4		1	5	4		2	6	2	1	1	4	3	1		4	4		1	5
	繊維			2	2				0			1	1			1	1				0
	印刷・出版			1	1	1			1			1	1			1	1				0
	化学				0				0			1	1	1			1			2	2
	鋼鉄・非鉄				0				0				0				0				0
	業務用機械				0				0		1	2	3				0				0
	電子部品・デバイス				0				0				0				0				0
	電気・情報・通信機器				0				0				0		1		1				0
	輸送用機器				0			1	1				0				0			1	1
	その他			1	1			1	1			2	2			1	1		2		2
電気・ガス					0	1		1	2		1		1				0		1		1
情報通信		1	1	3	5	4	7	9	20	3	10	8	21		7	9	16	2	1	13	16
運輸			1	2	3				0		1	2	3		2		2		1	2	3
卸・小売業	卸		1	2	3		1	1	2			2	2				0	2		6	8
	小売			2	2	2		8	10		1	3	4			4	4		2	2	4
金融			2	9	11		2	4	6		1	4	5		1	2	3	1	1	6	8

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目Ⅱ

業	保険		1	2	3			4	4			2	2			2	2	1		3	4
不動産業				1	1		1	1	2			3	3			2	2			1	1
学術・研究、専門技術	学術・研究				0			1	1		1		1				0				0
	法務				0				0				0			2	2			2	2
	専門・技術サービス				0			1	1		2	4	6		1	3	4		1	1	2
宿泊・飲食サービス					0				0				0	1			1			2	2
生活関連サービス					0	1		1	2	1			1	1	1	2	4	1		1	2
教育	学校教育	1		4	5			7	7			6	6			4	4		1	4	5
	学習支援			3	3				0	1		2	3			1	1			2	2
医療・福祉	医療	1			1			1	1	2			2				0	2			2
	社会保険				0			2	2			1	1				0		1	1	2
複合サービス					0				0				0				0	1			1
サービス	宗教				0				0				0				0				0
	サービス		3	7	10			1	1		1	3	4	1	1	4	6		1	3	4
公務	国家公務	1		5	6			2	2			1	1			2	2			2	2
	地方公務	4	1	3	8	2	1	7	10	4	5	8	17		2	3	5	2	2	8	12
その他		1			1			1	1				0		1		1				0
合計		13	11	48	72	15	13	56	84	13	25	58	96	7	20	45	72	17	14	65	96

(出典：学生・キャリア支援課資料)

お茶の水女子大学生活科学部 分析項目Ⅱ

＜関係者からの評価＞

企業官公庁アンケート結果（資料 E-4-4）は、本学卒業生は、全項目（除く（13））について「特に優れている」という回答が上回った。

資料 E-4-4 企業・官公庁等アンケート結果（抜粋）（平成 28 年 1 月現在）

	小計	特に優 れている	優れてい る	同程度 である	劣る	特に劣る
(1) 全般的な人格	41	27%	59%	15%	0%	0%
(2) 一般教養	41	22%	49%	29%	0%	0%
(3) 専門知識	41	10%	46%	44%	0%	0%
(4) 領域を超えた学問知識や興味	41	15%	44%	41%	0%	0%
(5) 課題を探究し問題解決する能力	41	34%	34%	29%	2%	0%
(6) ユニークな発想	41	10%	32%	56%	2%	0%
(7) 必要に応じて自ら学習できる能力	41	32%	49%	20%	0%	0%
(8) リーダーシップ	41	12%	44%	37%	7%	0%
(9) 語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力	41	10%	46%	44%	0%	0%
(10) 組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力	41	17%	54%	29%	0%	0%
(11) 適切な情報リテラシーを備え、技術革新や新しい社会システムに対応できる能力	41	12%	39%	46%	2%	0%
(12) 対話や討論などのコミュニケーション力	41	22%	49%	20%	0%	0%
(13) その他(自分を変革しようとするエネルギー)	1	100%	0%	0%	0%	0%

* お茶の水女子大学の卒業生・修了生について、一般的な平均的な大学卒業生と比べて、上記の項目についての評価を、企業・官公庁に依頼した。

（出典：学生・キャリア支援センター資料）

なお、平成 20 年 4 月に実施した同様のアンケート結果と比較すると、以前は「特に優れている」との回答率が 10%を越えた項目が 4 つで最高 21%だったのに対して、平成 28 年 1 月は全項目で 10%を越え、最高も 34%と全体的に上昇しており、企業・官公庁等という関係者からの評価はより高くなっていると判断する。

就職率は希望者に対する就職者の割合が平成 22 年度から平成 23 年度は約 80～90%であり、平成 24 年度から平成 26 年度はほぼ 100%へと上昇し、就職希望者のほぼ全員が就職しており、これは本学部を志望する生徒・父母にとって重要な情報であり本学入学への動機となりうる。

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

生活科学部の卒業生は、学際性を備えた学部の特徴を反映して、大学院への進学者が多数に上る学科及び就職者多数に上る学科が混在し、就職先も専門性を活かした業種への就職者がある一方、公務員をはじめとする多様な業種への就職者も輩出しており、就職率も平成 25、26 年度にはほぼ 100%に達している。このことは、生活科学部の目的とする専門的学知に裏打ちされた確かな教養と豊かな構想力を身につけ、社会の多方面で活躍する女性リーダーを育成することにも合致しているといえ、本学部で学んだ卒業生の就職先からのアンケート結果を踏まえても、社会及び関係者の要請に応じていると判断する。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

①専門資格取得のための諸科目を整備すると同時に、専門領域でのリーダーとしての学際的な広い視野の養成に役立つ複数プログラム選択履修制度を導入した。また、資格取得のためのカリキュラムを作成し、社会に実践的に貢献、活躍できる専門性を高める制度を整備した。さらに、留学制度、他大学との単位互換制度を充実させた。

②「生活者」を共通主題とした学部共通の学際的科目である「生活科学概論」の提供、平成28年度に開始する大学院人間工学共同専攻への接続も見越した人間・環境科学科のワークショップ型教育プログラムLIDEE演習の実施、演習・実習・実験科目の増加、及びインターンシップの充実により、偏らない社会的視野を持ち、社会で何が要請されているかを経験しつつ、学生が実践的な専門的スキルを身に着けることができるように教育内容を充実させた。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

①卒業生の平均取得単位数に関しては、卒業要件の124単位を13%程度越え、140単位程度である。学生の授業への満足度も高いことから、学生が自主的に勉学に取り組みつつ、学生は十分な学力、専門性を身に付けていると考える。

②国家公務員、地方公務員になる学生が1割近くおり、前回報告書と比較すると増加している。就職先の企業・官公庁等アンケート結果は、本学卒業生は、他大学の卒業生との比較、過去の同様の調査との比較でも、「特に優れている」との回答率が上昇し、関係者からの評価はより高くなっていると判断する。

③管理栄養士に加えて、第2期に1級建築士の受験資格取得に関する科目が設定され、卒業後の進路の範囲が拡大した。

4. 人間文化創成科学研究科

I	人間文化創成科学研究科の教育目的と特徴	・ ・ 4 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	・ ・ ・ ・ ・ 4 - 5
	分析項目 I 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・ 4 - 5
	分析項目 II 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・ 4 - 44
III	「質の向上度」の分析	・ ・ ・ ・ ・ 4 - 59

I 人間文化創成科学研究科の教育目的と特徴

1. 目的

大学憲章に、「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する。」と中心理念が示されている（資料 0-1）。また、大学院学則に博士前期課程（第 3 条）、博士後期課程（第 4 条）の目的を定め、

(1) 社会のニーズに応えた学術研究の成果を教育研究に反映させ、より高度で学際的・総合的な教育研究を行なうこと、

(2) 国際的視野を持ち、創造性豊かで、深い知識と能力を有する女性研究者・専門職業人の養成を行なうこと、

を理念としている。

この理念の下に、本学大学院は、多種多様な社会的要請に対応できる高度な女性専門職業人、女性研究者を育成し、各分野において女性リーダーとして活躍できる人材を養成することを目標としている（資料 0-2）。

資料 0-1 大学憲章（抜粋） <http://www.ocha.ac.jp/introduction/charter.html>

■ 大学憲章

大学憲章の策定にあたって

お茶の水女子大学は、創設以来一貫して、女性の自立と社会的 活躍、そして社会の知的基盤の充実に寄与してきた。

1875 年(明治 8 年)、「御茶ノ水」(文京区湯島)に東京女子師範学校が開校され、その後、東京師範学校女子部、高等師範学校 女子部、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校を経て、1949 年(昭和 24 年)に新制大学お茶の水女子大学となり、現在に至っている。この 135 年の間、本学は国によって設置された最も歴史 がある女性の高等教育機関としての使命を遂行し、多くの優れた女 性を社会に輩出してきた。またこの間、附属学校園と同じキャンパスで歩みを共にしてきたことも本学の特徴である。

そして、2004 年(平成 16 年)、国立大学の法人化に伴い、本学は、国立大学法人お茶の水女子大学となり、これを機に、自らの使命 と存在意義とを改めて確認し、それを内外に広く示すこととした。法人化に際して本学は次の標語を掲げている。

「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、 真摯な夢の実現される場として存在する。」

この標語の下、本学は、常に時代の変化に敏感でありつつも普遍的な真理を追究し、そのことによって、女性も男性も自由かつ対等に活躍できる多様で豊かな人間社会を実現するという歴史的 使命を果たしていくことを目指し、ここに大学憲章を定める。

2011年春

資料 0-2 研究科概要 <http://www.dc.ocha.ac.jp/about.html>

本大学院の博士前期課程には 5 つの専攻があります。大学院学則では「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。」と目的を定めていますが、それを踏まえて

① 高度の専門性に加えて幅広い教養に基づく豊かな学識

② 深い洞察力とともに国際的にも通用する視野

③ 時代を先取りする先見性と強い自立心

を培うことを理念としています。この理念のもとに、多種多様な社会的要請に対応できる高度な女性専門職業人、女性研究者を育成し、各分野において女性リーダーとして活躍できる人材を養成することを目標としています。

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科

博士後課程には同じく 5 専攻があります。大学院学則で「高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。」と目的を定めていますが、それを踏まえて

- ①高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力

- ②研究者として自立し研究活動を行う能力

- ③専門的な職務に従事するに必要な能力及びその基礎となる豊かな学識

を培うことを理念としています。こうした理念のもとに、国際的な視野を持ち、社会と文化、科学の分野にわたる高度な学際融合的研究を通じて、国際社会で活躍できる女性研究者の養成を目指しています。

2. 特徴

平成 19 年の教育組織の改組により、区分制大学院として 博士前期課程・博士後期課程ともに 5 専攻を設けている(資料 I-1-1)。博士前期課程の各専攻では、コース別に教育プログラムが用意され、博士後期課程の各専攻では、領域に分かれた指導体制をとって、高度な専門性、自立した研究能力、豊かな学識を身に付けられるように教育体制が整備されている。また、身に付けた専門性等を社会の中で活かして行くために必要な、広い研究の視野と複眼的・領域横断的な思考の構築を目的として、前期課程では副専攻を設けており、後期課程では、専門を異にする複数の教員による複数指導体制をとっている。さらに、優秀な学生を俯瞰的視野と独創力を備え広くグローバルに活躍するリーダーへと導くため、博士前期課程・後期課程の一貫した教育体制も視野に入れ、様々な教育・研究プロジェクトを取り入れた大学院教育を推進している。

資料 I-1-1 博士前期課程コース、博士後期課程領域一覧

人間文化創成科学研究科									
博士後期課程									
専攻名	比較社会文化学専攻				人間発達科学専攻	ジェンダー学専攻	ライフサイエンス専攻	理学専攻	
定員	27名				14名	4名	15名	13名	
領域名	国際日本学領域	言語文化論領域	比較社会論領域	表象芸術論領域	教育科学領域 心理学領域 発達臨床心理学領域	保育・児童学領域 社会学・社会政策領域	ジェンダー論領域	生命科学領域 人間・環境科学領域	数学領域 物理学領域 化学・生物化学領域
博士前期課程									
専攻名	比較社会文化学専攻				人間発達科学専攻	ジェンダー社会科学専攻	ライフサイエンス専攻	理学専攻	
定員	60名				27名	18名	47名	70名	
コース名	日本語日本文学コース	アジア言語文化学コース	英語圏仏語圏言語文化学コース	日本語教育コース	教育科学コース 心理学コース 発達臨床心理学コース	保育・児童学コース 応用社会学コース	生活政策学コース 地理環境学コース	開発・ジェンダー論コース 生命科学コース	人間・環境科学コース 食品栄養科学コース
								遺伝力ワンセリングコース	数学コース 物理学コース 化学・生物化学コース

(出典：大学院案内 2016 p.2 より抜粋)

[想定する関係者とその期待]

(1) 在学生

在籍する大学院生を対象としたアンケート調査によれば、前期課程・後期課程への進学動機は、順番に相違はあるが、1. 研究者になるため、2. 専門知識や技術を習得するため、3. 学問的興味を満たすため、という3つになっており（資料Ⅱ-2-2）、研究者や高度専門職業人を養成するという大学院の目的と合致している。

(2) 修了生

博士前期課程の修了者の進路状況を見ると、企業、研究所、教育関係機関等によって多くの修了生が採用されている。後期課程では主に研究能力が評価され、教育・研究関係の職（常勤及び非常勤）を得ている（分析項目Ⅱ観点「進路・就職の状況」参照）。これらも、研究者や高度専門職業人を養成するという大学院の目的と合致している。

(3) 就職先関係者

本学卒業生・修了生の就職先関係者を対象にしたアンケート調査によれば、特に、「必要に応じて自ら学習できる能力」に秀でているという評価が得られ（分析項目Ⅱ観点「進路・就職の状況」参照）、この点でも、「創造性豊かで、深い知識と能力を有する」人材育成という、理念に合致している。

Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 組織体制

平成19年度の大学院改組により、人間文化研究科から人間文化創成科学研究科と名称を改め、平成22年度～26年度は、その体制を維持していた。その間、大学院は、教員所属組織としての研究院(2部門4系)、教育担当組織としての大学院(博士前期課程、博士後期課程、各5専攻)より構成された。平成27年度に、教員組織の改組により、大学院研究院は廃止され、新たに、大学院とは切り離された教員所属組織としての基幹研究院が設置された。この結果、教員の所属組織と教育担当組織としての大学院が、部局として、分離することになった。

大学院は博士前期課程、後期課程とも5専攻より成り、前期課程ではコース制、後期課程では領域制をとっており、前期課程からの繋がりが分かりやすい組織になっている(前掲資料I-1-1)。

第2期中期計画(I-1-(1)-3)(資料I-1-2)に則り、大学院では、文理融合・学際教育の特色を一層活かし、教育・研究上の課題に応じられる弾力的な体制を構築して、副専攻プログラム制度や領域横断型の教育プログラムの実施を容易にするとともに(資料I-1-3)、博士前期課程から後期課程への学内進学制度の下(資料I-1-4)、前期課程・後期課程の5年間を見通した一貫教育課程を重視し、学生にとっても分かりやすい組織になっている。

資料 I-1-2 お茶の水女子大学第2期中期目標・中期計画(抜粋)

- | |
|---|
| <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 教育の質保証を行うために、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの策定により大学院課程の到達目標を明確化する。</p> <p>2. 学際的な分野、及び工学分野における大学院教育の充実を図るため、大学間連携を推進する。</p> <p>3. 多様化・複雑化する高度専門職業人の養成ニーズを踏まえ、大学院課程における横断的、複合的な履修取り組みを推進する。</p> <p>10. 高度専門性と探究力・研究力を備えた学校教員を養成し、教員免許更新講習などの現職教員研修に資するシステムを開発する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>5. 育英及び奨学の両目的に即し、大学独自の奨学金制度を再編整備する。また緊急奨学金制度を拡充する。</p> |
|---|

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

資料 I-1-3 大学院副専攻プログラム(出典: 大学院案内 2016 p.9 より抜粋)

【副専攻プログラム】

大学院では専門性を深めることはもちろんですが、同時に視野を広げることも重視しています。そのために、各専攻の専門教育の充実を図るだけでなく、領域横断的な副専攻プログラムを設けています。

○男女共同参画リソース・プログラム

男女共同参画アドバイザーや各地の男女共同参画センター及び女性センターの専門員や管理職、JICAなどの国際機関の女性に関わる案件の専門家など実務家育成を目途としている。さらに、研究者であれば、大学及び研究機関での男女共同参画やセクシュアル・ハラスメントに関する見識のある人材を、文化マネージメントの専門家に対しては、ジェンダー視点からのアイディアによる企画展示ができる人材を、そして企業においては、広く人事・キャリア形成のアドバイザーや男女共同参画の視点で企画・運営ができる人材を育成することを目指している。

○日本文化論プログラム

本学大学院では、大学院修了後に国際的な場で社会貢献を行う人材(留学生を含む)の育成を積極的に推進しています。こうした学生が日本文化と日本の思维方法を理解することは、日本文化理解の適切な国際標準の形成に資するでしょう。さらに、グローバル化に伴う価値一元化傾向に対する批判的視点を積極的に提示し、それを通じて多様な文化の共生を促進する一助となることも期待されます。

○コア・サイエンス・ティーチャー(CST)プログラム

理学部出身の大学院生を指導力と教材開発力に優れた小・中学校教員に育てることを目指します。本プログラムを受講することで、今後地域のリーダーとなって理科教育を改善できる人材を養成することを目標とします。

○探究力・活用力養成型教師教育プログラム

教育学や児童学、教科に関する科目の背景にある専門的な内容をもつ科目群と、附属学校園と連携した教育実践的な内容の科目群を、博士前期課程に提供するものです。それにより在籍学生に、自身が研究領域としている深い専門知識に根ざしながら、子どもの実態に即した、知識・技能の「探究力」や「活用力」を育成する方法の習得を促すことを目的としています。

○SHOKUIKUプログラム

大学院博士課程における文理融合を目指すもので、どの専攻に所属する学生も履修することができます。また、ベーシックコースとアドバンスコースを設け、ベーシックコースは、博士前・後期課程のいずれからでも履修できます。食の学問領域を4部門(食教育、食科学、食環境、食文化)に大別し、教育及び研究を進めることを基本とし、学際的基盤に立った食に関する幅広い専門性と実践力をもつ高度専門家の早期育成を目指します。コース修了者は、「お茶の水女子大学専門食育士」の認定が受けられます。

○グローバル理工学プログラム(博士課程教育リーディングプログラム)

リーディングプログラムの案内を参照ください。(p.11)

資料 I-1-4 大学院内部進学制度に基づく博士後期課程進学者選考要項

平成27年度

お茶の水女子大学大学院

人間文化創成科学研究科(博士後期課程)

進学者選考要項

(注) お茶の水女子大学博士前期課程から引き続き

学内進学する者は、留学生も含めて「進学者選考要項」で出願すること。

○平成27年度お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科(博士後期課程) 進学者選考要項

II 学生募集日程等

1. 専攻・領域及び募集人員

専攻	領域	9月入試	3月入試	募集人員(注1)
比較社会文化学専攻	国際日本学領域、言語文化論領域、比較社会論領域 社会言語学領域	×	○	27名 専攻主
人間発達科学専攻	教育科学領域、心理学領域、発達臨床心理学領域 社会学・社会政策領域、保育・児童学領域	×	○	14名 専攻主
ジェンダー学専攻	ジェンダー論領域	×	○	4名 専攻主
ライフサイエンス専攻	生命科学領域、人間・環境科学領域、食品栄養科学領域 遺伝カウンセリング領域(注2)、疾患予防科学領域	○	○	15名 専攻主
理学専攻	数学領域、物理科学領域、化学・生物化学領域 情報科学領域	○	○	13名 専攻主

(注1) 募集人員(一般)には、進学者選考以外の一般入試の募集人員を含む。
(注2) ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリング領域については、9月入試のみ実施する。

2. 試験日程

9月入試	平成26年9月4日(木)
3月入試	平成27年3月4日(水)・5日(木)

※ 試験科目は社会情報により、急きょ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらかじめ通知します。随時、ホームページで最新情報を随時更新してまいります。

3. 出願資格

- 比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻、ジェンダー学専攻専攻
4月進学: 本学大学院(博士前期課程)を平成26年9月修了した者及び平成27年3月修了見込の者
- ライフサイエンス専攻、理学専攻
10月進学: 本学大学院(博士前期課程)を平成26年9月に修了見込の者。ただし、ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリング領域を除く。
4月進学: 本学大学院(博士前期課程)を平成27年3月に修了見込の者。

(出典: 入試課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

2. 在籍学生数

志願者数の状況と、いわゆる「理系女子」の養成といった社会的要請に対応するため、平成25年度より、博士前期課程理学専攻の定員を、51名から70名へと大幅に増員した。

定員の充足状況は、各専攻によりバラツキはあるものの、大学院全体としては、定員はおおむね充たされている（資料I-1-5、資料I-1-6）。第1期中期目標期間の最終年度のデータと比較して、学生数に関しては、上記の定員増があるものの、博士前期課程では減少傾向にあり、博士後期課程は増加している。

資料 I-1-5 平成 27 年度人間文化創成科学研究科在籍学生数

平成 27 年度人間文化創成科学研究科在籍学生数

平成 27 年度 大学院在籍学生数

(博士前期課程)

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

(外国人留学生は内数)

専攻	1 年次				2 年次								合計			
	定員	在籍数	外国人 国費	外国人 私費	定員	在籍数	外国人 国費	外国人 私費					定員	在籍数	外国人 国費	外国人 私費
比較社会文化学	60	76	6	11	60	73	2	13					120	149	8	24
人間発達科学	27	47	0	12	27	58	0	6					54	105	0	18
ジェンダー社会科学	18	22	0	5	18	32	2	8					36	54	2	13
ライフサイエンス	47	55	0	2	47	50	0	2					94	105	0	4
理学	70	63	0	0	70	84	0	0					140	147	0	0
計	222	263	6	30	222	297	4	29					444	560	10	59

(博士後期課程)

専攻	1 年次				2 年次				3 年次				合計			
	定員	在籍数	外国人 国費	外国人 私費	定員	在籍数	外国人 国費	外国人 私費	定員	在籍数	外国人 国費	外国人 私費	定員	在籍数	外国人 国費	外国人 私費
比較社会文化学	27	22	1	2	27	23	2	1	27	137	2	25	81	182	5	28
人間発達科学	14	18	0	1	14	15	0	1	14	78	2	10	42	111	2	12
ジェンダー学際研究	4	4	0	0	4	7	0	2	4	18	0	2	12	29	0	4
ライフサイエンス	15	15	0	0	15	13	0	0	15	32	0	1	45	60	0	1
理学	13	14	1	0	13	8	0	1	13	37	0	1	39	59	1	2
計	73	73	2	3	73	66	2	5	73	302	4	39	219	441	8	47

大学院合計													663	1001	18	106
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	------	----	-----

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

資料 I-1-6 平成 21 年度人間文化創成科学研究科在籍学生数

平成 21 年度人間文化創成科学研究科在籍学生数

平成 21 年度 大学院在籍学生数

(博士前期課程)

(平成 21 年 4 月 1 日現在)

(外国人留学生は内数)

専攻	1 年次				2 年次								合計			
	定員	在籍数	外国人		定員	在籍数	外国人						定員	在籍数	外国人	
			国費	私費			国費	私費							国費	私費
比較社会文化学	60	86	7	11	60	97	2	11					120	183	9	22
人間発達科学	27	47	0	6	27	55	0	7					54	102	0	13
ジェンダー社会科学	18	27	2	6	18	22	1	2					36	49	3	8
ライフサイエンス	47	74	1	5	47	67	0	1					94	141	1	6
理学	51	81	1	2	51	70	1	1					102	151	2	3
計	203	315	11	30	203	311	4	22					406	626	15	52

(博士後期課程)

専攻	1 年次				2 年次				3 年次				合計			
	定員	在籍数	外国人		定員	在籍数	外国人		定員	在籍数	外国人		定員	在籍数	外国人	
			国費	私費			国費	私費			国費	私費			国費	私費
比較社会文化学	27	47	6	6	27	29	0	4	27	80	4	36	81	156	10	46
人間発達科学	14	15	0	0	14	19	0	1	14	26	2	10	42	60	2	11
ジェンダー学際研究	4	4	0	0	4	14	0	4	4	11	1	3	12	29	1	7
ライフサイエンス	15	29	0	1	15	23	1	1	15	20	0	3	45	72	1	5
理学	13	9	1	0	13	14	0	1	13	4	0	0	39	27	1	1
計	73	104	7	7	73	99	1	11	73	141	7	52	219	344	15	70

大学院合計													625	970	30	122
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	-----	----	-----

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅰ

3. 教員の配置

大学院では、人件費の抑制から、平成 27 年度では、平成 21 年度と比較して、教員数は 10% 程減少しているが、博士前期課程・後期課程各専攻ともに大学院の設置基準を十分に満たす教員を、各専攻の教育目的に適合するように適正に配置している（資料 I-1-7、資料 I-1-8）。なお、女性教員の比率は、第 2 期中期目標期間中、常に 40% を超えており、国立大学法人の中でトップを維持している（資料 I-1-9）。

資料 I-1-7

平成 27 年度人間文化創成科学研究科博士前期・後期課程担当教員数（平成 27 年 4 月）

前期課程								
(()) 内はそのうちの女性教員内数)								
専攻	教授	准教授	講師	助教	兼任	客員	○合	合
比較社会文化学	26 (11)	17 (9)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	44	7
人間発達科学	20 (7)	7 (5)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	27	0
ジェンダー社会科学	10 (4)	7 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17	0
ライフサイエンス	20 (6)	9 (4)	1 (1)	5 (5)	8 (6)	7 (1)	28	7
理学	26 (4)	15 (6)	3 (3)	3 (0)	3 (1)	0 (0)	43	4
計	102 (32)	55 (28)	4 (4)	16 (13)	13 (8)	7 (1)	159	18
* 兼任は授業担当のみ								
後期課程								
専攻	教授	准教授	講師	助教	兼任	客員	○合	合
比較社会文化学	26 (11)	17 (9)	0 (0)	5 (5)	1 (0)	0 (0)	39	9
人間発達科学	22 (9)	8 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	28	2
ジェンダー学際研究	8 (3)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	13	1
ライフサイエンス	19 (6)	10 (4)	2 (2)	0 (0)	6 (5)	7 (1)	25	6
理学	26 (4)	13 (6)	3 (3)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	37	6
計	101 (33)	54 (28)	5 (5)	6 (5)	10 (7)	7 (1)	142	24
* 兼任は授業担当のみ								

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅰ

資料Ⅰ-1-8

平成 21 年度人間文化創成科学研究科博士前期・後期課程担当教員数（平成 21 年 4 月）

前期課程								
(() 内はそのうちの女性教員内数)								
専攻	教授	准教授	講師	助教	兼任	客員	○合	合
比較社会文化学	32 (16)	29 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	59	2
人間発達科学	14 (5)	12 (8)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	25	1
ジェンダー社会科学	12 (7)	8 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20	0
ライフサイエンス	21 (5)	16 (5)	2 (2)	1 (1)	10 (7)	5 (2)	34	6
理学	29 (8)	16 (4)	2 (1)	3 (3)	2 (0)	0 (0)	45	5
計	108 (41)	81 (34)	4 (3)	4 (4)	14 (8)	5 (2)	183	14
* 兼任は授業担当のみ								
後期課程								
専攻	教授	准教授	講師	助教	兼任	客員	○合	合
比較社会文化学	32 (16)	28 (12)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	53	7
人間発達科学	15 (6)	13 (7)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	18	10
ジェンダー学際研究	9 (5)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	13	2
ライフサイエンス	20 (5)	15 (4)	1 (1)	0 (0)	7 (6)	5 (2)	28	8
理学	29 (8)	14 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	38	8
計	105 (40)	76 (31)	2 (2)	2 (2)	11 (8)	5 (2)	150	35
* 兼任は授業担当のみ								

(出典：学務課資料)

資料Ⅰ-1-9 国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第 11 回追跡調査報告書（平成 27 年 1 月）国立大学法人 抜粋

C. 大学別女性教員比率一覧

大学名	ランキング		合計(助手を除く)			学長		理事		副学長		教授		准教授		講師(常勤)		助教		助手	
	順位	第10回(数値)	男	女	女性比率(%)	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国立大学全体	-	-	54,358	9,382	14.7	83	3	325	6	212	23	19,886	1,894	15,424	2,712	3,971	1,026	14,457	3,718	294	369
お茶の水女子大学	1	1	110	84	43.3	0	1	3	0	0	0	71	32	31	29	0	12	5	10	1	20
東京外国語大学	2	2	163	88	35.1	1	0	2	0	2	1	90	32	50	37	14	18	4	0	1	0
奈良女子大学	3	3	144	72	33.3	1	0	3	1	0	0	78	22	53	20	5	6	4	23	0	0
総合研究大学院大学	4	4	21	10	32.3	1	0	1	1	0	0	3	1	4	1	3	3	9	4	0	0
東京学芸大学	5	6	253	76	23.1	1	0	4	0	3	0	138	27	84	34	17	14	6	1	0	0
京都教育大学	6	8	100	30	23.1	0	1	3	0	4	0	54	14	36	12	3	3	0	0	0	0
兵庫教育大学	7	9	119	35	22.7	1	0	2	0	1	0	73	15	37	16	3	2	2	2	0	0
大阪教育大学	8	5	198	57	22.4	1	0	4	0	3	1	120	24	61	27	8	5	1	0	0	0
福岡教育大学	9	7	150	43	22.3	1	0	3	0	6	0	88	24	47	14	5	4	0	1	0	0
鳴門教育大学	10	14	117	33	22.0	1	0	3	0	0	0	63	12	38	17	12	3	0	1	0	0
上越教育大学	11	10	125	34	21.4	1	0	1	1	3	0	59	13	47	16	13	4	1	0	0	0
東京医科歯科大学	12	11	605	163	21.2	1	0	4	0	5	0	122	23	108	23	95	22	270	95	0	0
滋賀大学	13	12	170	43	20.2	1	0	4	0	2	0	80	21	67	16	16	6	0	0	1	3
和歌山大学	14	15	232	57	19.7	1	0	3	0	6	0	112	20	81	30	10	0	19	7	1	2
奈良教育大学	15	13	90	22	19.6	1	0	2	0	3	0	53	6	28	16	3	0	0	0	0	0
滋賀医科大学	16	24	298	72	19.5	1	0	4	0	0	0	50	10	34	7	40	11	169	44	2	9
千葉大学	17	16	941	221	19.0	1	0	5	0	6	1	357	59	281	58	59	19	232	84	0	6
徳島大学	18	17	790	185	19.0	1	0	4	0	0	0	253	17	181	29	94	22	257	117	0	0
筑波技術大学	19	20	94	22	19.0	1	0	1	0	2	0	41	9	34	7	5	3	10	3	0	0
長崎大学	20	29	945	218	18.7	1	0	6	0	7	1	288	29	233	52	74	13	336	123	2	0

4. 大学院の入口・出口戦略とその体制

本学大学院の入口（入試）戦略としては、主として、アドミッション・ポリシー（AP）の策定、定員充足対策（資料 I-1-10）、進学生に対する「予約型奨励賞」の設置（資料 I-1-11）、附属学校教員を対象とした特別入試制度の設定（資料 I-1-12）、社会人特別入試の設定（ライフサイエンス専攻以外の4専攻）等に取り組んでいる。

出口戦略、すなわちポスドク対策やキャリアパス拡充対策に関しては、平成23年度より、大学院の人文社会系3専攻、理系2専攻を3グループに分けて、毎年、専攻長を中心として、講演会、セミナー、企業合同説明会等、出口戦略プロジェクトを実施している（資料 I-1-13）。

資料 I-1-10 代議員会議題（抜粋）

代 議 員 会 議 題	
	〔25. 5. 22〕
I 前回 代議員会議事録の確認〔平成25年4月17日〕（資料 P1～7）	
II 報告了承事項	
1. 研究科長報告	
(6) 博士後期課程「出口戦略」を主とした教育プログラムについて	
2. 系会議報告	
3. 専攻会議報告	
4. 委員会報告	
5. 外国出張について	
6. 外国出張期間の変更について	
7. 外国出張の取り消しについて	
8. 海外研修について	
9. 大学院入学試験志願者減少の分析とその対応策について	

（出典：学務課資料）

資料 I-1-11 大学院予約型奨学金のパフレット

平成 28 年度桜蔭会研究奨励賞
(予約型奨学金)

お茶の水女子大学では、博士前期課程入学対象の奨学金を拡充し、皆さんの研究を支援します。

奨学金の概要

本奨学金は、博士前期課程進学を希望する本学学部生に対し、進学後の経済的支援を行うことを目的とする制度です。入学前に奨学金を申請し、採用となった場合、入試合格・入学後に奨学金を受け取ることができます。

申請資格

① 平成 28 年 3 月に本学学部を卒業見込みの者で、引き続き平成 28 年 4 月に本学大学院博士前期課程に進学を希望する者
 (又は、平成 27 年 9 月に本学学部を卒業見込みの者で、引き続き平成 27 年 10 月に本学大学院博士前期課程に進学を希望する者)
 ② 学業、人物ともに優れた者

給付額・採用者数

① 奨学金支給額 1 年目 10 万円 2 年目 10 万円
 ② 採用者数 20 人 (文系 9 人 理系 11 人)

申請期間

① 理系 (ライフサイエンス専攻、理学専攻、(注)生活工学共同専攻) 進学希望者
 平成 27 年 4 月 21 日 (火) ～5 月 8 日 (金) (注) 平成 28 年 4 月設置予定 (設置認可申請中)
 ② 文系 (比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻、ジェンダー社会科学専攻) 進学希望者
 平成 27 年 10 月 1 日 (木) ～10 月 16 日 (金)

申請方法

本学ホームページより募集要項をダウンロードし、上記申請期間内に学生・キャリア支援課に提出してください。

審査

書類審査合格者に対し、プレゼンテーション審査 (理系 6 月 3 日予定、文系 11 月 25 日予定) を実施します。(本奨学金の内定は、本学の合格を保障するものではありません。)

問合せ先

お茶の水女子大学学生・キャリア支援課
 Tel: 03-5978-5147 Mail: gakusei@cc.ocha.ac.jp

大学院予約型奨学金【同時募集】

大学院博士後期課程研究奨励賞
錦織チサエ奨学金

奨学金の概要

大学院博士後期課程研究奨励賞及び錦織チサエ奨学金は、博士後期課程進学を希望する本学博士前期課程学生で成績、人物ともに優れた者に対し、進学後の研究の奨励を行うことを目的とする制度です。入学前に奨学金を申請し、採用となった場合、入試合格・入学後に奨学金を受け取ることができます。

申請資格

下記①または②に該当する者
 ① 平成 28 年 4 月時点で本学大学院博士前期課程比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻又はジェンダー社会科学専攻に在学する者で、引き続き平成 27 年 4 月に本学大学院博士後期課程に進学を希望する者 (以下、文系)
 ② 申請時点で本学大学院博士前期課程ライフサイエンス専攻又は理学専攻に在学する者で、引き続き本学大学院博士後期課程に進学を希望する者 (以下、理系)

給付額・採用者数

(1) 大学院博士後期課程研究奨励賞
 奨学金支給額 1 年目 20 万円 2 年目 20 万円 3 年目 20 万円
 採用者数 10 人 (文系 6 人 理系 4 人)
 (2) 錦織チサエ奨学金
 奨学金支給額 初年度 1 年限り 50 万円
 採用者数 2 人 (文系 1 人 理系 1 人)

申請期間

平成 28 年 10 月 6 日 (月) ～10 月 23 日 (木) 8:30-17:00

申請方法

本学ホームページより募集要項をダウンロードし、上記申請期間内に学生・キャリア支援課に提出してください。

審査

書類審査合格者に対し、プレゼンテーション審査を 12 月に実施します。(本奨学金の内定は、本学の合格を保障するものではありません。)

問合せ先

お茶の水女子大学学生・キャリア支援課
 Tel: 03-5978-5148 Mail: gakusei@cc.ocha.ac.jp

（出典：学生・キャリア支援課資料）

資料 I-1-12

附属学校教員を対象とした特別入試制度の募集要項（平成 27 年度）（抜粋）

平成 27（2015）年度
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科（博士前期課程）
学生募集要項〔附属学校教員特別入試〕

1. 募集人員

専 攻	募集人員
比較社会文化学専攻	全専攻で 2 名以内
人間発達科学専攻	
※発達臨床心理学コースは除く	
ジェンダー社会科学専攻	
ライフサイエンス専攻	
理学専攻	

- 2. 対象者** 学校教育法及び学校教育法施行規則に定められた博士前期課程の入学資格を満たし、かつ、附属学校教員サバティカル制度（A サバティカル）に基づき附属学校から推薦を受けた者。

3. 出願期間

平成 26（2014）年 12 月 17 日（水）～ 平成 26（2014）年 12 月 25 日（木）

4. 出願手続

出願者は次のように出願手続きをし、受験票の交付を受けること。

(1) 提出書類

1	入学願書・写真票 受験票	〔本学所定の用紙〕A 票・B 票ともに記入すること。 5 cm×4 cm で出願前 3 か月以内に撮影した写真 2 枚を指定欄に貼付。
2	卒業証明書	出身大学の学長又は学部長が作成したもの。
3	研究報告書	〔本学所定の用紙〕1, 6 0 0 字程度の概要を提出すること。
4	研究計画書	〔本学所定の用紙〕今後の研究テーマ、目的及び方法等を記入したものを提出すること。1, 6 0 0 字程度。
5	成績証明書	出身大学の学長又は学部長が作成したもの
6	返信用封筒	本学所定の封筒
7	あて名シール	合格通知に必要なため、確実に連絡が取れる住所を記入すること。

（出典：入試課資料）

資料 I-1-13 大学院出口戦略プロジェクト

○ 大学院出口戦略プロジェクトの一例

博士後期課程ライフサイエンス専攻ウェブサイト

(<http://www.eng.ocha.ac.jp/biomedeng/deguchi/index.html>)

■■■■ 出口戦略 ■■■■

(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻)

■ 出口戦略とは、大学院修了後の進路選択に際して、参考にして頂くための様々な支援プログラムです。おもに後期課程の学生を対象としています。

■ [ポストドクター・キャリア開発事業のページ](#)も参考して下さい。

■ 2013年度の活動

講演会(第一回)

日時 7月4日(木)12:20-12:50(30分程度)

場所 総合研究棟306室

内容 経産省での業務に関して(児玉歩, 経済産業省)

OG懇談会

日時 10月25日(金)17:00~18:00

場所:附属図書館1階オープンスペース

説明者:経済産業省 大臣官房秘書課 人事専門職

児玉 歩(人間文化研究科人間環境科学専攻修了)

対象:全学生(総合職・一般職・行政系・技術系全て)

○企業合同説明会においてポスター発表会を実施(理学専攻と共同実施, 予定)。

■ 名刺印刷について

大学院生(D, M)を対象に名刺を印刷します。学会発表や研究活動の場で役立てて下さい。

○名刺交換のアドバイスもしています。

○両面に印刷できます。裏面には研究活動の内容(研究テーマや学会発表の日時など)を書くことができます。

積極的にアピールするためのツールとして活用しましょう。

○印刷の申し込みは, ohata.yuji@ocha.ac.jp まで。

5. 国際化を確保する体制

国際化を確保するため、大学間交流協定を結んでいる海外協定校の数は、平成 27 年 3 月 1 日現在、64 校を数える。第 1 期中期目標期間最終年度（平成 21 年度）末は 40 校であったから、着実にその数を増やしている（資料 I-1-14）

資料 I-1-14 大学間交流協定校（海外）

平成 27 年 3 月 23 ヶ国・地域 64 校	平成 22 年 3 月 22 ヶ国・地域 40 校
<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア芸術大学デンパサール校 ・韓国芸術総合学校舞踊院 ・慶北大学校 ・啓明大学校 ・建国大学校 ・高麗大学校 ・淑明女子大学校 ・同徳女子大学校 ・釜山大学校 ・梨花女子大学校 ・アジア工科大学院大学 ・タマサート大学 ・チェンマイ大学 ・プリンス・オブ・ソンクラーク大学 ・開南大学 ・国立政治大学 ・国立台北芸術大学 ・国立台湾大学 ・大連外国語大学 ・北京外国語大学 ・北京大学歴史学系 ・復旦大学歴史学系 ・国立ハノイ教育大学 ・ハノイ大学 ・ベトナム科学技術アカデミー・ゲノム機関 ・アンカラ大学 ・カイロ大学 ・マンソウラ大学 ・ヴァッサー大学 ・カリフォルニア大学サンディエゴ校 ・カリフォルニア大学デービス校 ・カリフォルニア大学リバーサイド校 ・パーデュー大学 ・南オレゴン大学 ・ニューサウスウェルズ大学 ・モナシュ大学 ・オタゴ大学 ・オックスフォード大学クイーンズコレッジ ・マンチェスター大学 ・ハル大学 ・ロンドン大学キングスカレッジ ・ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院 ・国立ナポリ大学オリエンターレ ・コッレージョ・ヌーヴォ ・‘サピエンツァ’ローマ大学 ・先端研究国際大学院大学（SISSA） ・ウィーン工科大学 ・リンショープン大学 ・スロバキア工科大学 ・カレル大学 ・ケルン大学 ・バーギシェ・ブッパタール大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・淑明女子大学校 ・同徳女子大学校 ・梨花女子大学校 ・タマサート大学 ・プリンス・オブ・ソンクラーク大学 ・アジア工科大学院大学 ・国立政治大学 ・国立台北芸術大学 ・国立台湾大学 ・大連外国語学院 ・北京外国語大学 ・北京大学歴史学系 ・国立ハノイ教育大学 ・カブール大学 ・アンカラ大学 ・カイロ大学 ・マンソウラ大学 ・ヴァッサー大学 ・パーデュー大学 ・南オレゴン大学 ・マウントアリソン大学 ・モナシュ大学 ・オタゴ大学 ・オックスフォード大学クイーンズコレッジ ・マンチェスター大学 ・ケンブリッジ大学ガートンコレッジ ・ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院 ・ウィーン工科大学 ・スロバキア工科大学 ・カレル大学 ・ケルン大学 ・バーギシェ・ブッパタール大学 ・タンペレ大学 ・オウステロボテンニア先端科学大学 ・ストラスブール大学 ・パリ・ディドロ（パリ第 7）大学 ・ブレーズ・パスカル（クレルモン第 2）大学 ・ワルシャワ大学 ・ブカレスト大学 ・トムスク国立教育大学 ・ロシア連邦国立科学センター理論実験物理学研究所

（出典：国際課資料）

6. 外部機関・他大学との連携体制

第2期中期計画（Ⅰ-1-(1)-2 前掲資料Ⅰ-1-2）に則り、外部機関や他大学と、主として以下の連携を行っている。

- 国内の数多くの大学と単位互換協定を締結している（資料Ⅰ-1-15）。その数は、第1期中期目標期間最終年度と比較して、倍増している。
- 本学大学院と東京医科歯科大学、北里大学、学習院大学との連携による「東京コンソーシアム」を基盤とした「疾患予防科学コース」及び「疾患予防科学領域」を設置した（資料Ⅰ-1-16）。
- 平成25年度には、日本学術振興会の事業「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された（資料Ⅰ-1-17）。その事業の教育目的に則り、30名を超える学外研究者が、プログラム担当者として、大学院学生の指導に当たっている。
- 平成28年度開設が了承されたことを受け、奈良女子大学大学院と生活工学共同専攻の運営態勢を整えている。

資料Ⅰ-1-15 単位互換協定締結校

	前期課程	後期課程
平成21年度時点	計7校 (東京大学、東京工業大学、東京芸術大学、奈良女子大学、日本女子大学、中央大学、東京医科歯科大学)	計7校 (東京大学、東京工業大学、東京芸術大学、奈良女子大学、日本女子大学、中央大学、東京医科歯科大学)
平成27年度時点	計16校 (東京大学、東京工業大学、東京芸術大学、奈良女子大学、日本女子大学、中央大学、東京外国語大学、東京女子医科大学、首都大学東京、東京医科歯科大学、学習院大学、北里大学、東京海洋大学、筑波大学、慶應大学、総合研究大学院大学)	計14校 (東京大学、東京工業大学、東京芸術大学、奈良女子大学、日本女子大学、中央大学、東京外国語大学、首都大学東京、総合研究大学院大学、東京医科歯科大学、学習院大学、北里大学、東京海洋大学、筑波大学)

(出典：学務課資料)

資料Ⅰ-1-16 疾患予防科学

○疾患予防科学コース・領域のウェブサイト（抜粋）
(<http://dpsec.cf.ocha.ac.jp/DPSC/>)

文部科学省・大学間GP「大学間連携共同教育推進事業」



TOKYO CONSORTIUM

DPSC

課題発見・解決型Ph.Dプログラム 疾患予防科学コース・領域

Disease Prevention Science Course

検索

共通シラバス

English

疾患予防科学領域

授業科目

授業カレンダー

研究

キャリア

領域内専用

ライフサイエンス専攻

お茶の水女子大学

学際生命科学東京コンソーシアム



お茶の水女子大学 大学院ライフサイエンス専攻 疾患予防科学領域

博士後期課程 大学院生募集(9月入試)

資料 I-1-17 博士課程教育リーディングプログラム

○『「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成』プログラムのポスター



お茶の水女子大学

複合領域型一横断的テーマ 採択年度：平成 25 年

「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成

Fostering long-term creativity and innovation with science and technology disciplines based on Ochanomizu spirit

"Migakazuba" in the next generation of global leaders, Ochanomizu University

物理・数学・情報の基盤力強化とチームスタディに基づき理工学分野のソフトリーダーを育成

● 女子大学のノウハウを活用した理工系女性人材の育成

お茶の水女子大学は、これまで校歌に謳われた「みがかずば」精神に基づき、女性リーダーの育成を行ってきました。特に、理系分野には、多くの優れた女性研究者や高度職業人を育成し、産・学・官に輩出してきた伝統と実績があります。

この「みがかずば」の精神は、原石（自己）を磨くことにより、自己と他者、ひいては世界に変革をもたらすものであり、まさにイノベーション創出の精神に他なりません。

本プログラムでは女性人材が不足している理工学分野（物理、情報など）において、物理・数学・情報を基盤的な素養として持ち、そのため社会の様態やニーズの変化に即応でき、必要なイノベーションを創出し続けることのできる高い柔軟性をもった、グローバルに活躍できる女性人材を、お茶大をハブにして、産学官が協働して養成します。



● 企業等で即戦力として活躍する人材育成

本プログラムでは本学の大学院に新たにグローバル理工学副専攻を立ち上げ、そこで企業等で即戦力として働ける未来の女性グローバルリーダーを育成します。そのために **1. 基盤力強化 2. グローバル力強化 3. チーム力強化 (PBTSの実践)**を行います。

本プログラムに参加する学生は各自の主専攻における研究を極めながら、グローバル理工学副専攻にも所属し、英語で開講される Essential Physics for Global Leaders I・II など物理、情報、数学の基盤力強化科目群および Essential Culture and Arts などのグローバル力強化科目群を履修します。また異文化対応力、主体的問題解決力、プロジェクトマネジメント力等をつけるため PBTS の実践を行います。

1. 基盤力強化

イノベーション創出基盤コースワーク

Essential Mathematics for Global Leaders I・II
Essential Physics for Global Leaders I・II
Essential Chemistry for Global Leaders I・II
Essential Bioinformatics for Global Leaders I・II
Essential Information Science for Global Leaders I・II
Essential Engineering and Technology for Global Leaders I・II

イノベーションを起こす人材となるための要件は、専門分野において学位を授けられるレベルの深い専門性を持ち、物理・数学・情報の異なる専門分野にまたがる新たな課題を見出し解決していくための基盤力を有することで、基盤力強化のための科目群を設置しています。

2. グローバル力強化

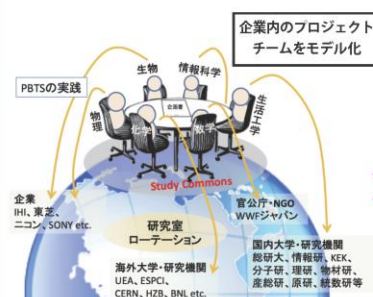
次世代リーダーのためのコースワーク

英語教育：「英語アカデミック・プレゼンテーション」
「サイエンス・リーディング」「サイエンス・ライティング」
「英語アカデミック・ライティング」「プレゼンテーション法研究」
キャリア教育：「キャリア開発特論」
リーダー教育：「グローバル女性リーダー特論」
「プロジェクトマネジメント特論」
！！技術関連科目：「IT活用I,II」
博士課程リベラルアーツ：⇒人文学

グローバルに活躍できるための要件は、十分な語学力とコミュニケーション力、リーダーとしてプロジェクト等をまとめる能力を有していることです。グローバル力強化のための科目群を設置しています。

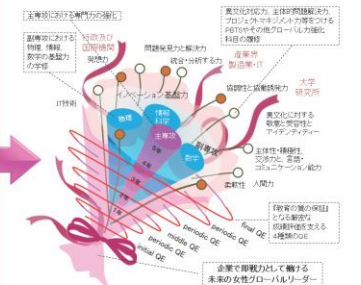
3. チーム力強化

PBTSの実践



本プログラムの最大の特長である PBTS とは PBL における受身的な Learning を、主体的、競争的、目標指向的な Team Study へ深化させたものです。異質な背景を持つ学生が自主課題を見つけ、互いに切磋琢磨しながら各自の専門性と個性を最も効果的に発揮できるようにする教育システムです。PBTS の指導には外国人メンターも加わり複数のチーム間で競争的に課題を推進し、英語の副論文をチーム単位で共同執筆します。

本プログラムで育成する学生の成長イメージ



円創りに広がる花束により、入学した学生ひとりの成長をイメージしています。そして、この花束を作ることが教育システムそのものを意味しています。7年後にはこの教育システムを無償提供します。

● 厳正な成果評価と学修支援システム

成績評価を厳密化するため、functional strict GPA とルーブリック評価に基づく 4 種類の Qualifying Examination (QE) を反復実施し、厳正、緻密に学修成果を評価します。それを可能にする 3 種の学修関連システム（①大学院学修評価、②スタディポートフォリオ、③スタディコミュニティ活用）を開発し、事業終了後にそれらを希望する他大学に無償提供します。また、PBTS の評定基盤としてチームワークポートフォリオシステムを導入します。

プログラムマネジメントのトレーニング



チームワークポートフォリオシステムのイメージ

● お茶大をハブとする産学官の緊密な連携

産・学・官（総研大、理研、情報研、統計研、分子研、高エネ研、産総研、ソニー、IHI、東芝、ニコンおよび海外の著名な研究機関等）から多彩な人材をプログラム担当者やアドバイザーボードに迎え、お茶大がハブとなり産学官の緊密な連携の下に、学位プログラムを実施し、博士人材の社会への進出を促進させます。また、上記の著名連携機関において研究室のローテーションを行い、視野を広めるとともに研究力の向上を図ります。



プログラムの詳細・お問い合わせ：<http://www.cf.ocha.ac.jp/leading/>

7. 研究指導体制

主任指導の教員の他、博士後期課程では、副指導教員を定め、複数指導教員制をとっている（資料Ⅰ-1-18）。また、前記の本学博士課程教育リーディングプログラムでは、産学官の研究機関を通じて、履修大学院生の研究室ローテーションを実施している。

資料Ⅰ-1-18 指導教員に関する申合せ

○指導教員

博士後期課程では、深い専門性と同時に幅広い視野を修得させるため複数指導教員体制をとっている。専門領域の教員を主任指導とし、隣接する領域の研究者を副指導教員とすることができる。学生はまず主任指導教員1名を決めた上で、学生の研究テーマに合わせて、より専門に近い副指導教員（原則として1名以上）を決める。

（出典：平成27年度大学院履修ガイドp.19より抜粋）

8. 教員の流動性確保と質向上のための体制 —テニユア・トラック制度—

教員の流動性の確保と、着任後の研究・教育力の向上を担保とするため、新任の助教に対しては、基本的に5年任期のテニユア・トラック制度を設けている（資料Ⅰ-1-19）。テニユア・トラック制度では、採用された教員は着任後、3年を経過した時点で、テニユア申請が可能である（資料Ⅰ-1-20）。

資料Ⅰ-1-19 公募要領例

○平成24年度に実施した教員公募の公募要領（抜粋）

平成24年 5月 7日

関係各大学長
関係各大学大学院研究科長
関係各大学学部長 殿
関係各機関の長

国立大学法人お茶の水女子大学長
羽 入 佐和子（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本学では、グローバルにネットワーク化する社会で多言語多文化共生の実現に貢献するために、高等教育機関において活躍できる日本語教育の専門家を育成する国際拠点の形成を目指しています。

このたび、その一層の充実を図るため、下記のとおり、高度な日本語教授法の開発に寄与できる教員を公募いたします。

つきましては、貴学・機関関係者及び関係諸方面にご周知いただくとともに、適任者の推薦についてよろしくお取り計らいくださいますようお願いいたします。 敬具

記

1. 職名及び人員 助教(Assistant Professor) 1名（常勤、任期5年）

2. 所 属 お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科

...

7. 雇用期間 平成25年4月1日以降手続き完了日から5年

（任期途中でテニユア審査を実施する。）

（出典：学務課資料）

資料Ⅰ-1-20 テニユア・トラック制度におけるテニユア申請

○国立大学法人お茶の水女子大学教員の任期に関する規則に基づき任期を定め
て任用された教員から任期の定めのない教員への移行に関する取扱い（抜粋）

（任期の定めのない教員への移行の申出）
第3条 テニユア・トラック型任期付助教等は、原則として採用日から4年を経過する日までに、基幹研究院長（以下「研究院長」という。）又はお茶大アカデミック・プロダクション人材育成部長（以下「人材育成部長」という。）を通じて教員人事会議に、任期の定めのない教員への移行希望申出書（別記様式第1号）により移行希望の有無を申し出るものとする。
2 前項の申出は、任期の定めのない教員への移行を希望する者は、採用後3年経過後から行うことができる。
3 第1項の申出は、任期の定めのない教員への移行を希望する者で、かつ、極めて顕著な実績があると研究院長又は人材育成部長が認める場合は、採用後2年経過後から行うことができる。
4 教員人事会議は、前項までの申出に基づき、任期の定めのない教員への移行を希望するテニユア・トラック型任期付助教等について、研究院長に任期の定めのない教員への移行に係る審査を付託する。

（出典：大学規則集）

9. 教員の教育力向上への体制

大学院では、各専攻の委員から成るFD委員会を設け、大学院組織として教員の教育力向上や授業の改善に努めている（資料Ⅰ-1-21）。取組の一つは、大学院授業アンケートである。また、全学のFD・SD企画と合同で、教職員向けの講演、意見交換会、研修会等を実施している（資料Ⅰ-1-22）。

資料Ⅰ-1-21 FD委員会資料

○平成23年度第1回ファカルティ・ディベロップメント委員会議事録

平成23年度 第1回 ファカルティ・ディベロップメント委員会 議事録

日 時：平成23年5月26日（木） 12時30分～13時20分

場 所：学生センター棟4階 第五会議室

出席者：委員長、委員（5名）

議 題：

1) 平成23年度前学期授業アンケートについて

今年度は、履修者数が5名以上の授業科目を対象とした従来のアンケートに加え、4名以下の科目も自由記述の部分のみを対象として実施することとした。

なお、集中講義及び修者数が4名以下で非常勤講師が担当する科目については、実施するかどうかは、担当教員の判断に任せることとした。

2) 授業参観について

委員長より昨年度の授業参観の実施状況について説明があり、検討の結果、今年度は授業参観を実施せず、それに代わる取組みとして、現実の問題に対応した院生指導をめぐる意見交換や新しい授業モデルを探す試みすることとした。

3) 教員と職員との懇談会について

委員長より、院生の育成という共通目標の中でFD委員と関係するチームリーダーとの意見交換の実施及び和歌山大学学長による講演会（指導困難な院生をどう指導するか等）について提案があった。

以 上

（出典：学務課資料）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

資料 I-1-22 FD 委員会の事業

○平成 25 年度 改正学位規則に関する研修会概要

改正学位規則に関する研修会開催概要

1. 目的

研究科担当教員を対象に改正学位規則の趣旨を周知し、学位論文に関する著作権等の権利処理に必要な知識を得ることにより、大学院生には適確なアドバイスをを行い、本学の教育・研究成果である学位論文を広く公表できるようにすることを目的とする。

2. 開催日程

平成 25 年 7 月 17 日（水） 13:30～15:30 司会 大学院 FD 委員長

① 開会挨拶 ・ ・ ・ 13:30～13:35（5分）

（人間文化創成科学研究科長）

② 学位規則改正の趣旨、意義について ・ ・ ・ 13:35～14:05（30分）

（文部科学省 ○○氏）

③ 著作権等の権利処理について ・ ・ ・ 14:05～14:50（45分）

（信州大学附属図書館 ○○氏）

④ 学位審査時の変更点について ・ ・ ・ 14:50～15:00（10分）

（教務チーム）

⑤ 質疑応答 ・ ・ ・ 15:00～15:30（30分）

3. 会場

お茶の水女子大学 共通講義棟 2 号館 201 教室

4. 参加対象者

本学全教員（及び近隣大学の教員、図書館関係者等）

（出典：学務課資料）

10. 教育プログラムの質保証への体制

教育プログラムの質保証に関しては、大学院に研究・教育委員会が設置されている（資料I-1-23）。さらに、大学院自己評価委員会があり、平成24年度には、この委員会が主体となって、自己評価を実施し、外部評価を受けた（資料I-1-24）。外部評価委員からは、「改善を要する点」が指摘されたが、それに対し、適切に対応している（資料I-1-25）。

資料 I-1-23 研究・教育委員会資料

○平成 25 年度第 7 回研究・教育委員会記録（議題のみ）

平成 25 年度第 7 回 研究・教育委員会記録

日 時 : 平成 26 年 1 月 8 日（水） 14:00～15:40

場 所 : 理学部 3 号館会議室

出席者 : 委員長、副委員長、委員 5 名

欠席者 : 委員 1 名

オブザーバー参加 : 比較社会文化学専攻 ○○教授

議 題 :

1. 副専攻「グローバル理工学プログラム」の新設について

2. 副専攻「日本文化論プログラム」の見直しについて

3. 大学院学則の一部改正について（平成 26 年度カリキュラム改正）

4. 学位論文審査基準の改訂について

5. 特別講義の開講形態について

6. 博士論文提出要項の改訂について

（出典：学務課資料）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

資料 I-1-24 大学院自己評価書 (平成 24 年度作成)

(http://www.ocha.ac.jp/introduction/hyouka/info/hyouka05_d/fil1/050107_24grad.pdf)

平成24年度 お茶の水女子大学部局別評価	目次
自己評価書	I 研究科の現況及び特徴 1
	II 目的 2
	III 基準ごとの自己評価
	基準1 部局等の使命・目的 5
	基準2 教育研究組織 7
	基準3 教員及び教育支援者 12
	基準4 学生の受入 16
	基準5 教育内容及び方法 23
	基準6 学習成果 56
	基準7 施設・設備及び学生支援 64
	基準8 教育の内部質保証システム 69
基準10 教育情報等の公表 77	
基準11 研究活動の状況 80	
平成24年10月	
お茶の水女子大学	
大学院人間文化創成科学研究科	

資料 I-1-25 自己点検・評価及び外部評価の「改善を要する点」対応説明書 (抜粋)

(http://www.ocha.ac.jp/introduction/hyouka/info/hyouka05_d/fil1/050206_24grad.pdf)

<p>平成24年度 お茶の水女子大学部局別評価</p> <p>自己点検・評価及び外部評価の 「改善を要する点」対応説明書</p>	<p>【改善を要する点】 ○ 組織に関し、教授会、代議員会、系会議、前期・後期専攻会議という階層的組織を設けているため、会議体として多重な構成となっており、時間的に過密になっている点は、機能を損なうことなく何らかの合理化をはかることが望まれる。(P9)</p>	<p>【人間文化創成科学研究科】 ・根本的な合理化を図るには、組織改組が必要であり、今後執行部先導の下、大学改組、大学院改組の枠組みの中で改善に取り組む。 なお、平成 25 年度より実施された先端融合系の見直しにより、会議の移行はスムーズになっている。それでもなお、会議の長時間化により、会議の移行に遅滞が生じる場合には、当該の会議を、全会議終了後に再開するよう指導している。</p>
	<p>【改善を要する点】 ○ 人件費削減が進めば、現在の高質な研究教育の維持が困難になることが予測される点は、重要な問題であり、早急に方策を立てることが望まれる。(P6、9)</p>	<p>【人間文化創成科学研究科】 ・学長主導の下、大学全体で取り組んでいる。</p>
	<p>【改善を要する点】 大学院の内部志願者、さらに内部入学者の割合を高める必要がある。(P4、94)</p>	<p>【人間文化創成科学研究科】 内部進学率を増やすため、以下の対応を行っている。 ・予約型奨学金の拡充・新設（教育機構の取り組み） 平成 24 年度より、松蔭会研究奨励金の拡充、博士後期課程研究奨励金の新設を行い、内部進学を促進している。 ・大学院の活性化 外部競争資金や特別経費の獲得などによって大学院における研究活性化を図り、学生の参加を促す。</p>

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅰ

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ① 教員組織を改組した結果、大学院・学部・センターの教員による教育体制が弾力化し、カリキュラムにおいても教育の多様化を図ることができ、今後の第3期中期目標・中期計画での進捗が期待できる。
- ② 人件費削減による、教員数の減少にも関わらず、女性教員の比率は、第2期中期目標期間中、常に40%を超えており、国立大学法人の中でトップを維持している。
- ③ 国内外の大学や研究・教育組織と積極的に協定を結び、連携体制を整えている。第1期中期目標期間と比較して、その数は倍増している。
- ④ 大学院の出口対策に積極的に取り組んでいる。
- ⑤ 日本学術振興会の事業「博士課程教育リーディングプログラム」に採択され、その結果、多数の学外研究者が、プログラム担当者として、大学院学生の指導に当たっている。
- ⑥ 平成24年度に自己評価を実施し、外部評価を受けた。外部評価委員からの「改善を要する点」に対して、適切に対応している。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 教育課程の編成

(1) カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの明確化

平成23年度、第2期中期計画の開始に当たり、大学院課程全体の到達目標を明示するために、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの策定を行った(資料I-2-1、I-2-2)。それにより、育成する人材像と教育課程、学位授与の方針が明確化された。

資料 I-2-1 お茶の水女子大学大学院 カリキュラム・ポリシー

大学院の教育課程編成・実施方針

1. 博士前期課程では、学士課程の教育によって得た成果を発展させて、本学の多様かつ学際的な学術研究を背景とした広い視野に立つ精深な学識を授け、専門分野における研究能力または高度な専門性を有する職業を担うために必要な能力を有する人材を養成する。
2. 博士後期課程では、高度な専門教育および専門諸分野の基礎に立つ学際的総合研究を行うために必要な創造的能力を有し、研究者として自立して研究活動を行い、あるいはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力とその基礎となる豊かな学識を有する人材を養成する。
3. 幅広い視野から自己の研究を位置づけることができるように、既成の専門分野にとらわれない文理融合と学際性を特色とするカリキュラムを編成・実施する。さらに、複数教員による指導体制を確立し、また、副専攻と大学間交流協定を整備することにより、高い専門性に立ちながら豊かな広がりを持つ知の創造に挑戦する研究を実践させる。
4. 国際性を重視し、海外の研究機関と積極的に連携したカリキュラムを編成することにより、最先端の研究成果に触れる機会を提供すると同時に、多文化の相互理解に立脚した学際的な研究を推進する国際社会で活躍できる能力を養成する。
5. 社会と連携し、社会的ニーズを視野に入れた教育と研究を行うことにより、社会の変化に敏感でありつつも一貫して真理を探究する姿勢を身につけさせ、社会との間で望ましい知の循環を実現しうる研究者ならびに高度な職業人を養成する。

(出典：平成27年度大学院履修ガイド p.2 より抜粋)

資料 I-2-2 お茶の水女子大学大学院 ディプロマ・ポリシー

大学院の学位の方針

1. 博士前期課程にあつては、所定の年限在学して、人間文化創成科学研究科が教育の理念と目的に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが、学位授与の要件である。さらに、修士論文の審査又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することが必須である。
2. 博士前期課程にあつては、幅広い視野に立った学識を備え、専門分野における研究能力または高度な専門性を必要とする職業を担うために必要な能力を身につけていることが、課程修了の基準となる。
3. 博士後期課程にあつては、所定の年限在学して基準となる単位数を修得し、人間文化創成科学研究科の教育理念と目的に沿った研究指導を受け、標準修業年限内に博士論文の審査及び最終試験に合格することが、課程修了の要件である。
4. 博士後期課程にあつては、高度な専門研究や学際的総合研究のために必要な能力を身につけ、研究者として自立して研究活動を行い、あるいは高度な専門的業務に従事するために必要な能力と学識を身につけていることが、課程修了の基準となる。

(出典：平成27年度大学院履修ガイドp.10より抜粋)

(2) 講義、演習、実習等のバランスの取れた配置とシラバスの義務化

専攻ごとの特性に応じて、講義、演習、実習の間のバランスに留意しカリキュラムを構築しており、特に講義と演習の科目数において適度な均衡状態を維持している(資料 I-2-3)。

教育課程に関しては、研究・教育委員会で検討を行い、原則的に全科目の授業評価を実施して、授業内容の改善やカリキュラム体系の見直しに反映させている。

また、学部と同様に、シラバスの作成を義務づけ、記入ガイドラインを設定して記述の標準化を図っている。

資料 I-2-3

平成27年度 博士前期課程専攻別の講義、演習、実習科目数

	比較社会 文化学	人間発達 科学	ジェンダー 社会科学	ライフ サイエンス	理学
講義	99	55	33	117	84
演習	100	22	21	35	44
実習	2	5	1	0	3

(出典：学務課資料)

(3) 他専攻科目の履修及び他大学との大学間協定による単位互換

所属専攻にのみ狭く関心を局限することなく、他専攻や他大学にまで視野を広げて、領域横断的・複合的で自由な発想を持つことができるように、教育課程を編成している（資料Ⅰ-2-4）。

資料Ⅰ-2-4

博士前期課程修了者の、他専攻授業の取得単位数及び履修者数、並びに、他大学授業の取得単位数と履修者数

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	合計
他 専 攻	取得単位 (単位)	103	163	149	128	168	711
	履修者 (人)	34	42	55	41	42	214
他 大 学	取得単位 (単位)	20	46	81	132	78	357
	履修者 (人)	5	15	30	42	28	120

(出典：学務課資料)

(4) 学位取得のためのステージ・ポイント制

人間発達科学専攻では、第1期に、博士学位取得のプロセスを明確化したステージ・ポイント制を策定し、それを継続している。この制度は、学位論文提出までのどの段階にいるのかを明示する仕組みである（資料Ⅰ-2-5）。

資料 I-2-5 学位取得のためのステージ・ポイント制の一例

保育・児童学領域:ステージ制

◆申請時期

ステージ制の認定は年2回であり、9月末および次年の3月末に申請する。

◆認定されるポイント

ステージ制のポイントは、原則として、博士後期課程進学後の教育・研究活動に対して認定される(例外がある場合は、各領域で判断する)。

◆休学時の扱い

研究ポイントについては、休学中の研究活動も認める。

教育ポイントについては、休学中の活動については原則認めない

教育ステージ		
1	2	3
3ポイント	6ポイント	9ポイント
<p>コースワーク 3p/種目 ※但し1年に1種目以上、合計2種目を必修とし、2年目までに合格すること。 60点以上を合格とする。</p> <p>英語(保育・児童学関連分野の英文課題文献) 1種目(必修)</p> <p>専門知識・方法論・保育理論などに関する内容 2種目(1種目必修)</p> <p>研究の中間発表 1p/回(1年目と2年目の終わりのプレゼンテーションを必須とする)</p> <p>インターンシップ 3p(現職保育者、現職教員はインターンシップの代わりに3p)</p> <p>教員免許(一種免許以上)・保育士資格 ※但し、いずれか一方のみ1p</p> <p>TA実績 1p/科目 ※但し、1pまで</p> <p style="text-align: right;">等</p>		

研究ステージ		
1	2	3
3ポイント	6ポイント	9ポイント
<p>海外主要雑誌 6p/論文(レフリー付き) ※但し第一著者であること</p> <p>国内雑誌 3p/論文(レフリー付き) ※但し第一著者であること</p> <p>海外誌・国内誌をあわせレフリーつき論文2本を必須とする。</p> <p>目安として、修士論文をまとめなおして1本、博士課程で1本</p> <p>学会発表 国内 1p/回、海外2p/回 ※但し第一発表者であること、3pを上限とする</p> <p>紀要、報告書 2p/論文(レフリー付き)、1p/論文(レフリーなし)、※但し第一著者であること</p> <p style="text-align: right;">等</p>		

※グレーゾーンはその都度委員会にて協議する。

学位取得プロセスイメージ

後期課程入学

(研)修士論文をまとめ直して投稿/学会発表

/(研究の構想)

(教)コースワーク(1種目以上)/(教)中間発表

2年目

(研)学会発表/(調査・研究進行・新たな論文)

(教)コースワーク(1種目以上)/(教)中間発表

3年目

(研)(新たな論文)/学会発表

(教)

予想される投稿ジャーナル

保育学研究 発達心理学研究 乳幼児教育学研究 質的心理学研究 日本家政学会誌
教育心理学研究 教育学研究 家族心理学研究 子ども社会研究 小児保健研究 等

2. 横断的・複合的な専攻・履修プログラムの設置

(1) 新たな副専攻プログラムの設置

①コア・サイエンス・ティーチャープログラム

本プログラムは優れた教育実践を行い、理数教育に関する地域の研修会などで中心的な役割を果たす小中学校教員コア・サイエンス・ティーチャーの養成と、その活動を通じて、小中学校教員の理数教育における指導力向上を目指す副専攻プログラムである。

②SHOKUIKU プログラム

食育に関する副専攻プログラムであり、平成 23 年度に開設した。食の学問領域を 4 部門に大別し、コースワークを行うベーシックコースと、副論文の作成と食育研究を行うアドバンスコースを設けている。修了するとそれぞれ「お茶の水女子大学専門食育士」と「同（上級）」に認定される（資料Ⅰ-2-6、資料Ⅰ-2-7）。

資料Ⅰ-2-6 SHOKUIKU プログラム履修者数

履修登録者数		H23	H24	H25	H26	H27	計
副専攻：新規		25 (3)	20 (2)	41 (14)	31 (8)	29 (15)	146 (42)
副専攻：新規+継続		25	28	62	50	49	
博士 前期	エビデンス食教育論	39 (11)	25 (8)	43 (22)	41 (18)	39 (23)	187 (82)
	食育研究コロキウム	18 (2)	22 (2)	35 (10)	25 (6)	35 (19)	135 (39)
	食のサイエンス	19 (4)	19 (2)	35 (11)*	22 (4)*	29 (15)*	124 (36)
	食をめぐる環境論	24 (9)		71 (31)	26 (8)*		121 (48)
	食文化論	23 (13)		27 (14)		33 (15)	83 (42)
博士 後期	食育総合研究**		1	2	2	1	6

() 内：食品栄養科学コース以外の履修者数

*：科目履修を副専攻履修者に制限（教育効果の観点から、履修人数を抑えるため）

**：博士後期課程科目（副論文・審査あり）

（出典：学務課資料）

資料Ⅰ-2-7 SHOKUIKU プログラム 称号認定者数

称号認定者数	H23	H24	H25	H26	H27	計
専門食育士		15 (1)	42 (5)	18 (3)	28 (9)	103 (18)
専門食育士（上級）		1	2	2	1	6

() 内：食品栄養科学コース以外の認定者数

（出典：学務課資料）

③探究力・活用力養成型教師教育プログラム

平成 23 年度に開設された。教育学や児童学、教科に関する科目の背景にある専門的な内容を持つ科目群と、附属学校園と連携した教育実践的な内容の科目群を、複合的に博士前期課程に提供するものである（資料Ⅰ-2-8）。

資料Ⅰ-2-8 「探究力・活用力養成型教師教育プログラム」の授業科目

〔必修科目〕	
探究力・活用力養成法研究（基礎）	2 単位
探究力・活用力養成法研究（発展）	2 単位
〔選択科目〕以下の科目から 3 科目 6 単位以上を履修すること	
探究力・活用力養成論	2 単位
教育思想特論	2 単位
教育史演習（現代）	2 単位
学校社会学	2 単位
教育開発論演習（理論）	2 単位
生涯学習研究特論	2 単位
カリキュラム研究論	2 単位
比較教育文化特論	2 単位
博物館学習論	2 単位
ライフサイエンス論	2 単位
理学総論	2 単位
ジェンダー社会科学論	2 単位
比較社会文化総論	2 単位

（出典：平成 27 年度大学院履修ガイド p. 34 より抜粋）

(2) 博士課程教育リーディングプログラム

理工系グローバルリーダー育成プログラムが、平成 25 年に日本学術振興会推進事業の博士課程教育リーディングプログラムとして採択された(前掲資料 I-1-17)。本プログラムの一環として、理学専攻とライフサイエンス専攻の協働により、博士前期課程 2 年と博士後期課程 3 年の 5 年一貫制の「グローバル理工学副専攻」(資料 I-2-9)が新設され、「イノベーション創成基盤科目」を平成 26 年度から開講している(資料 I-2-10)。

資料 I-2-9 グローバル理工学副専攻

(<http://leading.dc.ocha.ac.jp/scitech/>)



お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅰ

資料Ⅰ-2-10 「グローバル理工学副専攻プログラム」科目の履修者数

年度・学期	科目名	履修者数	聴講生、他
平成 26 年度 前学期	Essential Computer Science for Global Leaders I	10 名	
	Essential History for Global Leaders	3 名	(聴講生 2 名)
平成 26 年度 後学期	Essential Physics for Global Leaders I	12 名	
	Essential Mathematics for Global Leaders I	10 名	
	Essential Chemistry for Global Leaders I	5 名	
	Essential Bioinformatics for Global Leaders I	4 名	(聴講生 9 名)
	Essential Engineering and Technology for Global Leaders I	14 名	(聴講生 3 名)
	Essential Ethics for Global Leaders	4 名	(聴講生 3 名)
	Essential Culture and Arts for Global Leaders	22 名	(聴講生 3 名、学 外生 3 名)
平成 27 年度 前学期	Essential Mathematics for Global Leaders I	11 名	
	Essential Computer Science for Global Leaders I	10 名	(聴講生 1 名)
	Essential Chemistry for Global Leaders I	9 名	(聴講生 4 名)
	Essential Engineering and Technology for Global Leaders II	12 名	
平成 27 年度 後学期	Essential Physics for Global Leaders I	11 名	
	Essential Mathematics for Global Leaders II	2 名	(聴講生 5 名)
	Essential Computer Science for Global Leaders II	3 名	
	Essential Bioinformatics for Global Leaders I	7 名	(聴講生 1 名)
	Essential Engineering and Technology for Global Leaders I	4 名	
	Essential History for Global Leaders	5 名	

(出典：学務課資料)

(3) 他大学との連携による共同プログラム

①学際生命科学東京コンソーシアム

4 大学大学院を核とした連携プログラムであり、地方自治体、経済団体と有機的に連携し、東京に生命科学領域の地域拠点を確立することを目指して、「共通カリキュラム」が、平成 22 年 4 月から始まった（資料 I-2-11）。また、大学院生へのキャリア支援として合同企業説明会（資料 I-2-12）や企業研修（資料 I-2-13）を行った。

資料 I-2-11 学際生命科学東京コンソーシアムプログラムの履修者数

	本学から他大学への履修 (カッコ内は実数)	他大学の受入数 (カッコ内は実数)	全体 (カッコ内は実数)
H23	30(27)	11(11)	77(63)
H24	24(19)	1(1)	32(27)
H25	30(22)	21(12)	79(48)
H26	30(21)	10(7)	52(37)
H27(前学期)	17(14)	40(25)	99(72)
合計	131(103)	83(56)	339(247)

(出典：学務課資料)

資料 I-2-12 合同企業説明会への参加者数

年度	開催回数	本学参加延べ人数 (カッコ内は実数)	全参加者延べ人数 (カッコ内は実数)
H22	5 回	32(21)	137(84)
H23	3 回	25(17)	144(65)
H24	4 回	33(13)	169(66)
H25	5 回	30(11)	176(61)
H26	6 回	16(11)	169(66)
合計		136(73)	795(342)

(出典：学際生命科学東京コンソーシアム学生支援部会報告 H27. 5. 1)

資料 I-2-13 企業研修への参加者数

年度	受入企業数	本学参加延べ人数 (カッコ内は実数)	全参加者延べ人数 (カッコ内は実数)
H22	5 社	8(8)	32(28)
H23	4 社	5(5)	34(29)
H24	5 社	5(3)	34(32)
H25	4 社	1(1)	34(34)
H26	5 社	6(5)	38(36)
合計		25(22)	172(159)

(注) 企業研修の受入実績を有する企業としては、エーザイ、ソニー、リニカル、福田電子、産業技術総合研究所環境管理技術研究部門、HPC ソリューションズなどがある。

(出典：学際生命科学東京コンソーシアム学生支援部会報告 H27. 5. 1)

②疾患予防科学コース・領域

学際生命科学東京コンソーシアムが、平成 26 年度に博士課程前期課程・後期課程に新設した組織である。疾患予防科学概論、データサイエンス特論Ⅰ・Ⅱ、マネジメント特論、国際動向論、知的財産特論、の各科目を開講している（資料Ⅰ-2-14）。おおよそ半分のコマを企業・公的機関などの外部組織から招聘した講師が担当している。本学からは 7 名の教員が 14 コマ（およそ 3 割）を担当している。

資料Ⅰ-2-14 疾患予防科学コース・領域の授業担当コマ数（平成 27 年度）

	4 大学				ステークホルダーを含む外部組織	
	お茶大	医科歯科大	北里大	学習院大	企業	公的機関/大学
疾患予防科学概論Ⅰ・Ⅱ	3	4	2	2	3	2
データサイエンス特論Ⅰ（基礎）	8					
データサイエンス特論Ⅱ（応用）			1		6	1
マネジメント特論					8	2
国際動向特論	3	1			3	1
合計	14	5	3	2	20	6
	24				26	

（出典：疾患予防科学コース・領域シラバス平成 27 年度版）

③大学院生活工学共同専攻

奈良女子大学との共同で平成 28 年 4 月に設置することが認められた。特徴として、学籍を置く大学から主指導教員を、もう一方の大学から副指導教員を選択する。修了条件のうち博士前期課程では 10 単位、博士後期課程では 2 単位を、学籍を置かない大学の講義から履修する。

(4) 研究科共通科目（全専攻共通科目）の設定

横断的・複合的な専攻・履修プログラムの設置の一環として、個別の専攻内における専門的カリキュラムとは別に、研究科全体の枠組みの中に「共通科目」数十科目を設置し、専攻を異にする院生との領域横断的な議論などを経験する機会を提供している（資料Ⅰ-2-15）。

資料Ⅰ-2-15 大学院共通科目「トランス・サイエンス論」の授業記録

大学院前期・後期全専攻共通科目「トランス・サイエンス論」平成26年度（記録）

参加院生：人間発達科学・理学専攻に所属するM・Dの院生、計10名

テキスト：藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東大出版会、2005年

4/15 ガイダンス・warming-up 課題（尾内隆之・本堂毅論文「御用学者がつけられる理由」）

4/22 warming-up 課題文献をめぐる自由討議、各院生の発表担当・日程の決定

4/29 「§4 薬害エイズ問題の科学技術社会論的分析」

5/13 「§1 水俣病事例における行政と科学者とメディア」

5/20 「§8 地球温暖化と不確実性」

5/27 「§3 もんじゅ訴訟からみた日本の原子力問題」

6/3 「§9 最先端技術と法：Winny 事件」

6/10 「§2 イタイイタイ病問題解決にみる専門家と市民の役割」

6/17 ゲスト・セミナー「科学の不定性と社会的意思決定プロセスへの科学者の関与---イタリアの震災事例を中心に」（ゲスト：本堂毅（東北大・物理学）・瀬戸一（東大地震研）、参加者：お茶大教員4・院生9、他大学教員4・院生1、その他ジャーナリスト等5、計23名）

6/24 「§5 BSE にみる日本の食品問題」

7/1 「§7 医療廃棄物をめぐる攻防」

7/8 映画「モンサントの不自然な食べもの」DVD 上映およびディスカッション

7/15 「§6 遺伝子組換え食品規制のリスクガバナンス」

7/22 総括討議および学期末レポート課題の提示

(5) 附属学校園との連携

大学院と附属学校との領域を超えた連携の一環として、附属校園のサバティカル制度を活用し、附属学校教員の資質及び能力の向上、附属学校全体の教育力向上を図ることを目的とする大学院での教員学修制度を平成25年度から設けた（前掲資料Ⅰ-1-12、資料Ⅰ-2-16）。

資料Ⅰ-2-16 Aサバティカルを取得した附属学校教員の大学院入学実績

Aサバティカルを取得した附属学校教員の大学院入学実績

平成26年度 1名 小学校教諭（女性） 人間発達科学専攻入学

平成27年度 1名 小学校教諭（女性） 人間発達科学専攻入学

（注）「Aサバティカル」とは、本学大学院に入学する方法による種別である。

（出典：学務課資料）

(6) 女性のライフプランニングに対応した授業・講座の開設

本学のグローバルリーダーシップ研究所を中心として、「グローバル女性リーダー特論」(資料 I-2-17、資料 I-2-18)、「未来きりぎりプログラム」(資料 I-2-19)等、大学院生及び社会人対象の授業・講座を開設した。

資料 I-2-17 グローバル女性リーダー特論シラバス例

(http://tw.ao.ocha.ac.jp/syllabus/index_kamoku.cfm?jugyo=15S2010)

グローバル女性リーダー特論(基礎編) [15S2010]

科目名 Course Title	グローバル女性リーダー特論(基礎編) [15S2010] Special course on Global Female Leader: Basic		
科目区分・科目種	共通科目(後期課程)	クラス	博士課程共通
OCBM		キャリアデザイン	
単位数	2.0単位	履修年次	1～3年

担当教員	塚田 和美
	星 かおり
学期	前集中
日程・時限・教室	2015/05/09 1～8限 (10:00～16:30) アカプロ棟2階
	2015/05/16 1～8限 (9:30～16:30) 生活科学部本館120室
	2015/05/23 1～8限 (9:30～16:30) アカプロ棟2階
	2015/05/30 1～8限 (9:30～16:30) アカプロ棟2階

受講条件・その他注意

博士前期・後期課程生

単位の認定を必要とする受講生は講義終了後にレポートを提出していただきます。

聴講・ポスドク・OGの参加も歓迎しております(講義終了後のレポートは不要)。

モチベーションアセスメントを事前に受けることが出来ます(無料・単位認定に関わる評定とは関係はありません)。

授業の形態

講義、実習・実技、演習

教科書・参考文献

なし

評価方法・評価割合

小論文(レポート)=40%, 授業への参加態度=60%

主題と目標

社会のあらゆる分野において中核的役割を果たす女性リーダーの育成を目的とした「グローバル女性リーダー特論」の基礎編です。基礎編では、一人ひとりがリーダーシップを発揮することで組織や社会が成り立っていること、リーダーは特別な人だけになれるものではないこと、リーダーシップのあり方は多様であることを理解するとともにグローバル人材になるためのグローバル社会についての理解を深めます。

授業計画

5月9日:リーダーは必要ですか? チームの中のあなたの役割

5月16日:女性リーダーシップの定義を変えた! ? 多様なリーダーシップのあり方

5月23日:「リーダーにはなりたくない! ?」という理由について

5月30日:リーダーを楽しもう!

上記のテーマについて、講義・ディスカッション・ゲームを通して考え、受講生の皆さんが持っているリーダーシップマインドに気づきかけをつくります。

学生へのメッセージ

受講生はモチベーションアセスメントを事前に受け、結果のフィードバックを無料で受けることができます(希望者)。ご自身の強みや弱みを理解した上で講義を受けることは、より深い自己開発につながるでしょう。本講義でリーダーシップについて学び、日々の生活で楽しく実践しましょう。

学生の問い合わせ先

お茶大アカデミック・プロダクション人材育成部(内線:2708)

メールアドレス: docca-info@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅰ

資料Ⅰ-2-18 グローバル女性リーダー特論受講者数

	科目名	開講学年	開講学期	履修	聴講	合計
平成 24 年度	グローバル女性リーダー特論 (基礎編)	1 年 ～ 3 年	後学期	11	0	11
平成 25 年度	グローバル女性リーダー特論 (応用編)	1 年 ～ 3 年	後集中	7	0	0
	グローバル女性リーダー特論 (ロールモデル編)	1 年 ～ 3 年	前集中	9	0	0
	グローバル女性リーダー特論 (実践編)	1 年 ～ 3 年	前不定期	5	0	0
平成 26 年度	グローバル女性リーダー特論 (基礎編)	1 年 ～ 3 年	前集中	12	0	12
	グローバル女性リーダー特論 (応用編)	1 年 ～ 3 年	後集中	7	0	7
	グローバル女性リーダー特論 (ロールモデル編)	1 年 ～ 3 年	後集中	14	0	14
	グローバル女性リーダー特論 (実践編)	1 年 ～ 3 年	前集中	17	0	17
平成 27 年度	グローバル女性リーダー特論 (基礎編)	1 年 ～ 3 年	前集中	21	1	22
	グローバル女性リーダー特論 (応用編)	1 年 ～ 3 年	後集中	0	0	0
	グローバル女性リーダー特論 (ロールモデル編)	1 年 ～ 3 年	後集中	5	0	5
	グローバル女性リーダー特論 (実践編)	1 年 ～ 3 年	前集中	1	0	1

(出典：学務課資料)

資料Ⅰ-2-19 平成 26 年度「未来きらりプログラム」実施状況概要

日付	協力・連携内容	備考
26 年 6 月 2 日	福井県未来きらりプログラムへの講師派遣 講義内容「キャリア・デザイン」	受講者数 20 名
同 6 月 11 日	お茶の水女子大学学生との交流会	福井県参加者数 4 名 学生 6 名
同 6 月 11 日	お茶の水女子大学連続講演会 「リーダーシップ論」への聴講受入	福井県参加者数 4 名
同 7 月 16 日	お茶の水女子大学「ロールモデル講演会」への 聴講受入	福井県参加者数 1 名
同 8 月 8 日	福井県未来きらりプログラムへの講師派遣 講義内容「ワーク・ライフ・バランス」	受講者数 20 名
同 10 月 21 日	お茶の水女子大学「女性リーダーへの道（ロー ルモデル入門編）への聴講受入	福井県参加者数 1 名
27 年 1 月 13 日	同上授業への聴講受入	福井県参加者数 1 名
同 3 月 2 日	福井県未来きらりプログラムへの講師派遣 交流会、修了式	

(注)「未来きらりプログラム」は、福井県と共同して、社会人女性リーダー育成のためのカリキュラムを開発・実施するものである

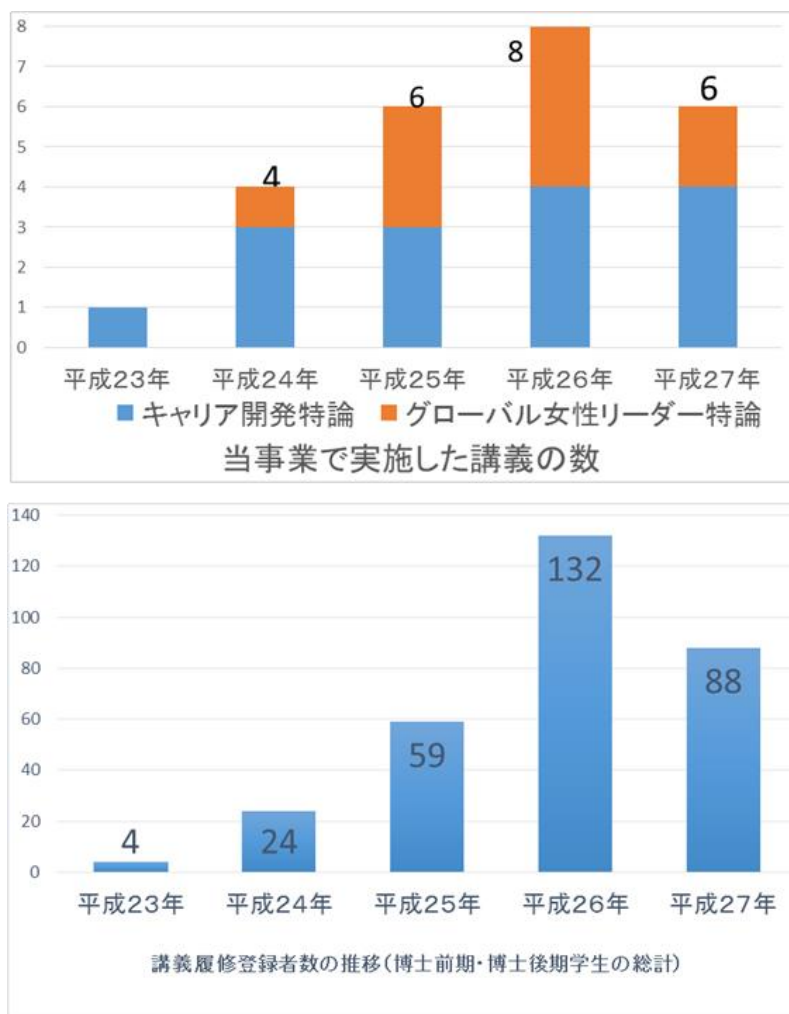
(出典：企画戦略課（男女共同参画推進担当）資料)

3. 学生・キャリア支援

(1) ポストドクター・インターンシップ推進事業

平成 23 年度に「ポストドクター・インターンシップ推進事業」（「ポストドクター・キャリア開発事業」に改称）に採択された。平成 23 年度から 27 年度にわたり、女性リーダー育成カリキュラム（資料 I-2-20）、企業・博士人材相互交流会（資料 I-2-21）、博士キャリアデザインインタビュー等を実施した。

資料 I-2-20 女性リーダー育成カリキュラムの実績



注：平成 23 年度は、単位認定されていないので、履修登録者ではなく、参加者である。
 （出典：アカデミックプロダクション：ポストドクター・キャリア開発事業資料）

資料 I-2-21 企業・博士人材相互交流会

	参加者数（ポストドク含む）	お茶大大学院生の参加者総数
第 1 回企業合同説明会ポストドク/ドクター発表会（H24 年度）	44	記録なし
第 2 回企業合同説明会ポストドク/ドクター発表会（H25 年度）	40	記録なし
第 3 回企業合同説明会ポストドク/ドクター発表会「ポストドク・博士課程生のワークインプログレス」（H26 年度）	22	12（うち博士前期 2）
第 4 回企業合同説明会ポストドク/ドクター発表会「ポストドク・博士課程生のワークインプログレス」（H27 年度）	30	11（うち博士前期 4）

（出典：アカデミックプロダクション：ポストドクター・キャリア開発事業資料）

(2) TA、RA

TA 制度は、優秀な大学院生に対して教育補助業務を行わせ、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的としたものである（資料 I-2-22）。

RA 制度は、博士後期課程に在学する優秀な学生に、学内の部局で行う研究プロジェクト等の研究補助業務を担当させ、研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び若手研究者の研究遂行能力の育成を図ることを目的としたものである（資料 I-2-23）。なお、RA の採用数は、各専攻にあらかじめ割り当てられ、各専攻で事前に選考しているので、応募者数は、その数に応じた数となる。

資料 I-2-22 平成 27 年度博士前期課程及び博士後期課程の専攻別 TA

博士前期課程

所属専攻	学生総数	人数	延べ人数	TA 割合 (%)
比較社会文化学	132	55	97	41.67%
人間発達科学	80	26	32	32.50%
ジェンダー社会科学	39	10	11	25.64%
ライフサイエンス	106	52	93	49.06%
理学	138	58	84	42.03%
合計	495	201	317	40.61%

博士後期課程

所属専攻	学生総数	人数	延べ人数	TA 割合 (%)
比較社会文化学	149	25	34	16.78%
人間発達科学	97	24	41	24.74%
ジェンダー学際研究	27	9	17	33.33%
ライフサイエンス	55	6	9	10.91%
理学	54	5	9	9.26%
合計	382	69	110	18.06%

（出典：学務課資料）

資料 I-2-23 平成 27 年度博士後期課程専攻別 RA

所属専攻	在学生	応募者	採用人数	RA 割合 (%) *	RA 採用率 (%) *
比較社会文化学	149	4	4	2.68%	100.00%
人間発達科学	97	3	3	3.09%	100.00%
ジェンダー学際研究	27	2	2	7.41%	100.00%
ライフサイエンス	55	3	3	5.45%	100.00%
理学	54	4	3	5.56%	75.00%
合計	382	16	15	3.93%	93.75%

*RA 割合は在学生に対する割合 RA 採用率は応募者に対する割合であるが、採用割当数が各専攻に予め決められており、各専攻で事前に選抜しているので、基本的には、100%となる。

（出典：学務課資料）

(3) 図書館 LALA デスク

附属図書館における学修支援の一環として、ICT サポート及び論文の書き方や情報探索の仕方などのアカデミック・スキルのトレーニングを受けた大学院生による LALA (Library Academic Learning Advisor) デスクを、平成 26 年度より継続的に図書館内に設置し、学修支援活動を行っている（資料 I-2-24、資料 I-2-25）。

資料 I-2-24 平成 26～27 年度 LALA デスクのメンバー
平成 26 年度

	院生数	うち後期課程	うち前期課程
比較社会文化学専攻	5 名	5	0
理学専攻	3 名	1	2
ジェンダー社会科学専攻／ ジェンダー学際研究専攻	3 名	2	1
	11 名（応募 13 名）		

平成 27 年度

	院生数	うち後期課程	うち前期課程
比較社会文化学専攻	6 名	3	3
ジェンダー学際研究専攻	1 名		1
理学専攻	3 名*	1*	2
	10 名（応募 10 名）		

*理学専攻を修了した RF1 名を後期課程に記載（出典：図書・情報課資料）

資料 I-2-25 LALA デスク紹介ポスター

What's
ラ ラ
LALA デスク?
Library Academic Learning Adviser

大学院生がラーニングアドバイザーとして
皆さんの学習活動を支援します！
相談者の主体性を大切に、一緒に問題解決をめざします。

授業期間 平日 9:00-18:00
授業がない期間 平日 12:00-15:00

例えば、こんな質問にお答えしています…

- Q レポート課題…何から始めたらいい？
- Q レポートを書くための資料探しの方法を教えてください！
- Q 論文執筆に行き詰まった…相談に乗ってほしい！
- Q 文献検索・文献管理の仕方を教えてください！
- Q 図書館の使い方が知りたい！
- Q 履修登録のPC操作方法がわからない！
- Q 履修登録画面が印刷できない！
- Q 印刷がうまくいかない！
- Q 学内無線LANの接続方法を知りたい！

4. 国際的連携と留学促進

国際化に関する第2期中期計画（I-3-(2)-1～6 資料 I-2-26）に則り、国際的連携や留学対策に関する取組を進めている。

国際交流協定校の数は、平成27年3月時点で64校であり、第1期中期目標期間末に比較して24校増加している（前掲資料 I-1-14 参照）。また、留学対策としては、資料 I-2-27 のような各種のプログラムがある。さらに、「英語によるサマープログラム」（資料 I-2-28）、ACT（Advanced Communication Training）プログラム（資料 I-2-29）など、グローバル化に向けたプログラムを開設・実施している。これらの取組の結果、海外への派遣学生数は、平成22年度以降、大幅に伸びている（資料 I-2-30）

一方、海外から優秀な留学生を受け入れるため、渡日前オリエンテーション、オンライン日本語プレースメントテストを実施している。平成25年度からは、留学前後の日本語能力を測定できるようにするため、J-CATを導入した。そのほか、日本語学習サイト（<http://www-w.a.o.o.cha.ac.jp/intl/studyjp>）を開設している。

資料 I-2-26 国際化に関するお茶の水女子大学第2期中期計画（抜粋）

- I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
- 3 その他の目標を達成するための措置
 - (2) 国際化に関する目標を達成するための措置
 - 1. グローバル社会で活躍できる女性人材育成のための教育プログラムを実施する。特に、平成28年度実施を予定している学士・修士一貫の6年制トラック等の導入及び英語での教育を拡充するための制度設計を行う。
 - 2. 海外からの優秀な留学生を受け入れるため、留学生のサポートを強化しキャリアパスを見通したプログラムを策定する。
 - 3. 短期研修プログラムによる広範な留学生の受入れと日本人学生の海外派遣を推進する。
 - 4. 教員の教育・研究能力の向上のため、海外の交流協定校と教職員の相互交換研修などのシステムをつくる。
 - 5. 開発途上国の女子教育・幼児教育に関する支援事業を強化充実する。
 - 6. 国内外の女子大学と連携して、女性のエンパワーメントに関する支援事業に取り組む。

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

資料 I-2-27 本学主催の留学プログラム

プログラム名	概要	担当組織
交換留学・短期派遣	交換留学は、協定大学に1年以内で留学。短期研修は語学研修を目的とする短期留学。	グローバル教育センター
創立120周年記念桜蔭会国際交流奨励賞	博士課程後期在学学生または修了者対象。	
*SOAS とのダブル・ディグリー・プログラム	SOAS(ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院)で1年間の修士課程を修了した者に、SOASの修士号、本学の修了要件を満たした者には別途本学の修士号を授与。	
協定校主催短期研修	協定大学で主催する夏季・春季研修に参加。	グローバル教育センター
*国際学生フォーラム	海外からの学生と発表・討論・報告・イベントを行う	同上
*グローバル人材育成のための海外日本語教育実習	大学院で日本語教育コースを専攻する学生が対象。協定校で実習を行う。	同上
平和構築分野における国際調査・スタディツアー	発展途上国での体験や調査研究を希望する学生を対象とするプログラム	同上
*開発途上国女子教育支援事業野々山基金	女子教育分野における国際調査を行う院生を対象としたプログラム	同上
*女性リーダーを創出する国際拠点の形成	「国際的に活躍する女性リーダーの育成」推進事業の一環として、大学院生の海外研究活動の支援・育成プログラムや海外の大学との合同シンポジウムを実施	リーダーシップ養成教育研究センター
湯浅年子記念特別研究員奨学基金	自然科学分野の研究をする学生のフランス留学支援	
*官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	学びと実践活動を組み合わせた留学プログラムを作成し、選考を通過した学生に渡航費・学費・奨学金等を支援するプログラム	

「*」を付してあるのは、第2期中期目標期間中に新設されたものである

(出典：国際課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

資料 I-2-28 英語によるサマープログラムの概要と履修者数

年度	テーマ	題名
23	I	現代日本の家族と労働
	II	形・色・美
24	I	現代日本の社会政策、教育、家族、発達に関するパースペクティブ
	II	形と色の科学
	III	東アジア世界における儀礼と権力
25	I	現代日本の社会政策、教育、家族、発達に関するパースペクティブ
	II	自然科学の最新トピックスと日本の貢献
	III	“美しさ”のグローバリゼーションー 現代アート、建築、文学におけるクロスカルチャー的発展
26	I	現代日本の社会政策、教育、家族、発達に関するパースペクティブ
	II	科学の中の形
	III	国境を越えて考えるー日本と世界
27	I	現代日本の社会政策、教育、家族、発達に関するパースペクティブ
	II	科学の中の時間と形
	III	世界の中の日本、日本の中の世界ー変容する国際リンケージ

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅰ

サマープログラム履修者数

年度	テーマ	お茶大			国内	海外	合計
		学部	大学院	計	協定校	協定校	
23	I	15	3	18	2	0	20
	II	16	3	19	7	2	28
年度計		31	6	37	9	2	48
24	I	12	5	17	1	8	26
	II	13	5	18	0	0	18
	III	10	13	23	3	1	27
年度計		35	23	58	4	9	71
25	I	6	10	16	0	22	38
	II	7	6	13	3	14	30
	III	13	0	13	8	19	40
年度計		26	16	42	11	66	108
26	I	8	3	11	2	13	26
	II	10	3	13	3	8	24
	III	27	2	29	2	20	51
年度計		45	8	53	7	67	101
27	I	16	2	18	1	13	32
	II	11	1	12	0	12	24
	III	28	2	30	3	18	51
年度計		55	5	60	4	62	107

(合計は学部も含む)

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目 I

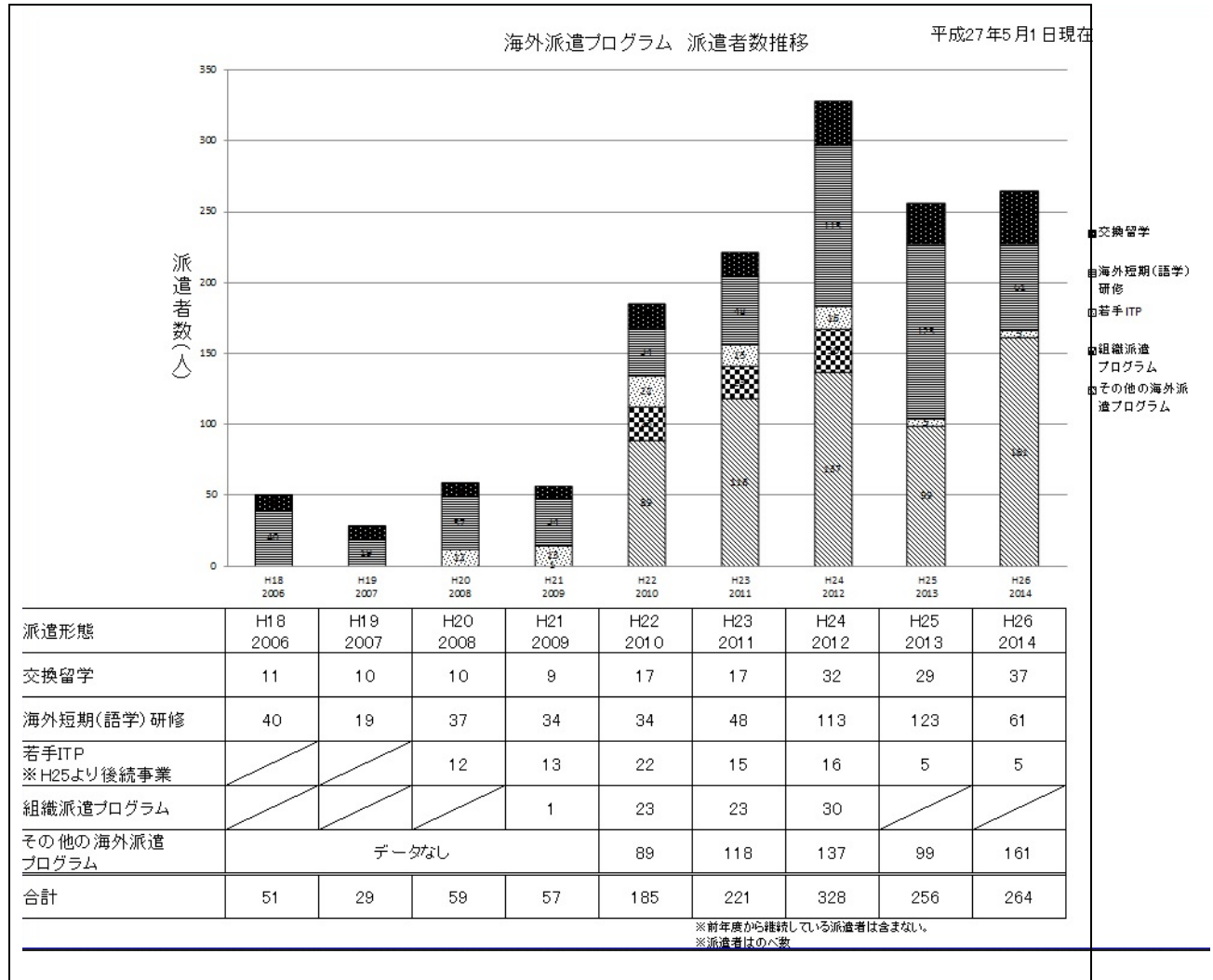
資料 I-2-29 ACT プログラム 博士前期課程履修状況 (平成 27 年度)

共通科目(前期課程)					
科目名	開講学年	開講学期	履修	聴講	合計
英語アカデミック・ライティング	1 ～ 3 年	前学期	19	1	20
英語アカデミック・ライティング	1 ～ 3 年	前学期	12	1	13
英語アカデミック・プレゼンテーション	1 ～ 3 年	後学期	6	0	6
英語アカデミック・プレゼンテーション	1 ～ 3 年	後学期	8	0	8

共通科目(前期課程)修了要件外					
科目名	開講学年	開講学期	履修	聴講	合計
Special Lectures in Humanities and Sciences I	1 ～ 3 年	前集中	2	0	2
Special Lectures in Humanities and Sciences II	1 ～ 3 年	前集中	1	0	1
Special Lectures in Humanities and Sciences III	1 ～ 2 年	前集中	2	0	2
TOEFL 対策演習 S/W	1 ～ 3 年	前学期	1	0	1
TOEFL 対策演習 R/L	1 ～ 3 年	前学期	0	0	0
上級英語コミュニケーション演習 (ESA) I	1 ～ 2 年	前学期	1	0	1
上級英語コミュニケーション演習 (ESA) II	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0
上級英語コミュニケーション演習 III	1 ～ 2 年	前学期	2	0	2
上級英語コミュニケーション演習 IV	1 ～ 2 年	後学期	1	0	1
上級英語演習 II (R/W)	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0
上級英語演習 III (L/S)	1 ～ 2 年	前学期	1	0	1
上級英語演習 IV (L/S)	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0
IELTS 対策演習 R/L	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0
IELTS 対策演習 S/W	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0
時事英語演習 I	1 ～ 2 年	前学期	1	0	1
時事英語演習 II	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0
ビジネス英語演習 I	1 ～ 2 年	前学期	0	0	0
ビジネス英語演習 II	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0
英語プレゼンテーション演習 I	1 ～ 2 年	前学期	2	0	2
英語プレゼンテーション演習 II	1 ～ 2 年	後学期	1	0	1
上級英語コミュニケーション演習 (ESA) I	1 ～ 2 年	前学期	0	0	0
上級英語コミュニケーション演習 (ESA) II	1 ～ 2 年	前学期	0	0	0
上級英語コミュニケーション演習 III	1 ～ 2 年	前学期	1	1	2
上級英語コミュニケーション演習 IV	1 ～ 2 年	後学期	0	0	0

(出典：学務課資料)

資料Ⅰ-2-30 海外派遣学生数の推移



(出典：グローバル教育センター資料)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ① カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを設定し、さらに、学位取得のためのステージ制を継続的に実施している。
- ② 博士課程教育リーディングプログラムに採択され、イノベーションを創出し、グローバルに活躍できる女性人材を養成する体制を整えた。
- ③ 学際生命科学東京コンソーシアム、疾患予防科学コース・領域、大学院生活工学共同専攻など、他大学との連携による共同プログラムを進展させている。
- ④ 附属学校教員のサバティカル制度を利用した大学院での学修を促進することで、附属学校との連携を強化した。
- ⑤ ポストドクター・インターンシップ推進事業により、大学院、特に博士後期課程の出口戦略を進めている。
- ⑥ 様々な国際的連携の取組の結果、海外への派遣学生数は、第2期中に大幅に伸びている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 学位授与状況

博士前期課程における標準修業年限内での修了率はおおむね80%から100%である(資料Ⅱ-1-1)。ただし、理系領域がほぼ95%以上であるのに対して、文系領域はおおむね80%台である。博士後期課程では、毎年40件前後の学位授与件数で安定している(資料Ⅱ-1-2、Web資料Ⅱ-1-1)。なお、博士前期課程については、修業年限を3年ないし4年とする長期履修学生制度を利用し、自身のライフサイクルに合わせた長期の修学者がいる。また、多彩な副専攻プログラムがあり、幅広い視野を身につけた学生を輩出している(資料Ⅱ-1-3)。

Web 資料一覧

資料番号	資料名又は掲載内容(URL、該当頁又は該当条文)
Web 資料Ⅱ-1-1	お茶の水女子大学博士論文リスト (附属図書館ウェブサイト) (http://www.lib.ocha.ac.jp/gakui.html)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

資料Ⅱ-1-1 【修士学位授与件数】

		9月修了者					計	3月修了者					計	合計	修学期間 2年間で の学位取 得率
		人文	社会	生活	理学	学術		人文	社会	生活	理学	学術			
平成 22 年度	比較社会文化学	1				1	2	69				1	70	72	81.9%
	人間発達科学		1				1	16	18	3		4	41	42	85.7%
	シェンター社会科学						0		12			4	16	16	81.3%
	ライフサイエンス			4			4			28	27	5	60	64	96.9%
	理学				1		1				75		75	76	98.7%
	計	1	1	4	1	1	8	85	30	31	102	14	262	270	90.7%
平成 23 年度	比較社会文化学	2					2	59				2	61	63	85.7%
	人間発達科学	1					1	13	14			1	28	29	82.8%
	シェンター社会科学						0	1	16			1	18	18	83.3%
	ライフサイエンス				2		2			24	16	3	43	45	97.8%
	理学						0				74		74	74	98.6%
	計	3	0	0	2	0	5	73	30	24	90	7	224	229	91.7%
平成 24 年度	比較社会文化学	1					1	70				1	71	72	97.2%
	人間発達科学	1	1				2	14	19				33	35	85.7%
	シェンター社会科学	1	1				2	2	14				16	18	83.3%
	ライフサイエンス			2			2			30	28	4	62	64	95.3%
	理学				3		3				77		77	80	94.8%
	計	3	2	2	3	0	10	86	33	30	105	5	259	269	96.1%
平成 25 年度	比較社会文化学	2					2	52				2	54	56	77.6%
	人間発達科学	1					1	9	18				27	28	85.7%
	シェンター社会科学						0		17				17	17	70.6%
	ライフサイエンス						0			24	21	4	49	49	100.0%
	理学				1		1				67		67	68	100.0%
	計	3	0	0	1	0	4	61	35	24	88	6	214	218	90.8%
平成 26 年度	比較社会文化学						0	44				1	45	45	93.3%
	人間発達科学		1				1	12	31	1			44	45	82.2%
	シェンター社会科学						0		13			2	15	15	73.3%
	ライフサイエンス						0			25	19	2	46	46	97.9%
	理学				2		2				80		80	82	100.0%
	計	0	1	0	2	0	3	56	44	26	99	5	230	233	94.0%

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

資料Ⅱ-1-2 【博士学位授与件数】

		課程博士					計	論文博士					計	合計
		人文	社会	生活	理学	学術		人文	社会	生活	理学	学術		
平成22年度	比較社会文化学	4					4	2	1			1	4	8
	人間発達科学						0	1	2			1	4	4
	シ ^ン タ ^ー 学際研究						0		1				1	1
	ライフサイエンス			2	6	3	11			1	2	1	4	15
	理学					5	5				1		1	6
	計	4	0	2	6	8	20	3	4	1	3	3	14	34
平成23年度		課程博士					計	論文博士					計	合計
		人文	社会	生活	理学	学術		人文	社会	生活	理学	学術		
	比較社会文化学	2					2	7					7	9
	人間発達科学		2				2	1	1			1	3	5
	シ ^ン タ ^ー 学際研究			3			3		2				2	5
	ライフサイエンス			3	5	4	12			1	1		2	14
平成24年度	理学				10		10				2		2	12
	計	2	2	6	15	4	29	8	3	1	3	1	16	45
平成25年度		課程博士					計	論文博士					計	合計
		人文	社会	生活	理学	学術		人文	社会	生活	理学	学術		
	比較社会文化学	5					5	6				1	7	12
	人間発達科学	2	3			1	6	2	1				3	9
	シ ^ン タ ^ー 学際研究		3				3						0	3
	ライフサイエンス			2	2	4	8			1	3		4	12
平成26年度	理学					9	9					1	1	10
	計	7	6	2	2	14	31	8	1	1	3	2	15	46
平成25年度		課程博士					計	論文博士					計	合計
		人文	社会	生活	理学	学術		人文	社会	生活	理学	学術		
	比較社会文化学	8				2	10	7				2	9	19
	人間発達科学	2	3				5	1	3				4	9
	シ ^ン タ ^ー 学際研究		4				4		1			1	2	6
	ライフサイエンス			1	6	3	10						0	10
平成26年度	理学				10		10						0	10
	計	10	7	1	16	5	39	8	4	0	0	3	15	54
平成26年度		課程博士					計	論文博士					計	合計
		人文	社会	生活	理学	学術		人文	社会	生活	理学	学術		
	比較社会文化学	10				1	11	4				2	6	17
	人間発達科学		2				2	2					2	4
	シ ^ン タ ^ー 学際研究	1	2			1	4	1				1	2	6
	ライフサイエンス			2	2	4	8					1	1	9
平成26年度	理学				5		5						0	5
	計	11	4	2	7	6	30	7	0	0	0	4	11	41

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

資料Ⅱ-1-3 【副専攻修了者数】（単位：人）

プログラム名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
男女共同参画リソース・プログラム	0	2	0	6	2	2	12
コア・サイエンス・ティーチャー(CST)プログラム	3	0	0	5	1	2	11
日本文化論プログラム	4	3	4	1	6	4	22
探究力・活用力養成型教師教育プログラム (教職就職人数)	— (—)	— (—)	1 (1)	4 (3)	3 (3)	3 (3)	11 (10)
SHOKUIKU プログラム	0	25	28	62	50	29	194
文化マネジメント・プログラム	10	14	10	4	10	—	48
政策評価・政策分析法	1	3	2	5	0	4	15
特設・社会コミュニケーション前期	0	1	0	—	—	—	1
生命情報学	0	2	0	0	—	—	2
グローバル理工学プログラム※	—	—	—	—	12	15	27

注) 募集を停止した年度以降は登録人数を「—」で表記した。

※グローバル理工学プログラムは博士前期課程・博士後期課程一貫のためプログラム登録者数を計上した。

(出典：学務課資料)

2. 資格取得状況

教員免許（専修免許）取得者数は、博士前期課程修了者に対して23～37%と比較的高い比率を維持している（資料Ⅱ-1-4）。近年では複数の科目、もしくは学校種の免許を取得する者が多い。人間発達科学専攻発達臨床心理学コースは、臨床心理士資格の指定校になっているが、修了者のほぼ全員が資格を取得している（資料Ⅱ-1-5）。ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリングコース・領域では、遺伝カウンセラーの取得を目指し、希望者のほとんどが資格を取得している（資料Ⅱ-1-6）。なお、カリキュラムを改正し、平成27年度以降は、遺伝カウンセリングコース修了のみで資格取得が可能となった。

資料Ⅱ-1-4 【教員免許（専修免許）取得状況】

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
幼稚園	4 名	2 名	0 名	5 名	2 名
小学校	1 名	2 名	1 名	4 名	1 名
中学校	29 名	32 名	46 名	24 名	24 名
高等学校	31 名	38 名	52 名	22 名	27 名
総数	65 名	74 名	99 名	55 名	54 名
対修了者数比率	24%	33%	37%	25%	23%

(出典：学務課資料)

資料Ⅱ-1-5 【臨床心理士資格取得状況】

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
発達臨床心理学コース修了生	14 名	13 名	14 名	14 名	19 名
受験者数	14 名	13 名	13 名	14 名	19 名
合格者数	14 名	12 名	13 名	14 名	16 名

(出典：発達臨床心理学コース資料)

資料Ⅱ-1-6 【認定遺伝カウンセラー資格取得状況】

	平成 22 年 度	平成 23 年 度	平成 24 年 度	平成 25 年 度	平成 26 年 度
遺伝カウンセリング領域在学生数	25 名	25 名	22 名	21 名	22 名
受験者数	9 名	9 名	5 名	3 名	3 名
合格者数	9 名	8 名	5 名	3 名	3 名

注：平成 26 年度までは、カリキュラムの都合上、博士後期課程 1 年次修了以降、認定遺伝カウンセラー試験の受験が可能であった。従って、上記の表では、博士後期課程遺伝カウンセリング領域の学生数を明示した。

（出典：遺伝カウンセリングコース資料）

3. 研究水準

大学院における学生の研究に関しては、年間の学会発表件数は200件前後（資料Ⅱ-1-7）、学会誌等への論文発表数は80～200件近くある（資料Ⅱ-1-8）。この数字は、第1期での値（平成16年度～19年度の平均値。以下同様）と比較すると、ともに、かなり減少している（第1期学会発表件数 319.5件／年；論文発表数 304件／年）。一方、学会等での受賞件数（平均8.6件／年；資料Ⅱ-1-9）は、第1期（平均8.5件／年）と比較してほぼ同数であり、また、競争的資金の獲得件数（平均19.8件／年）は、第1期（平均15件／年）と比較すると大きく伸びている（資料Ⅱ-1-10）。なお、平成24年度調査より、研究協力課による直接調査から、指導教員自身による教員活動データベースへの入力へと、調査様式が変わったので、学会発表数や論文発表数などの学生の研究データに関しては、その影響を受けている可能性がある。

資料Ⅱ-1-7 【学会発表（件数）】

専攻名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
比較社会文化学	66	40	27
人間発達科学	63	40	39
ジェンダー学際研究	31	21	18
ライフサイエンス	31	34	37
理学	52	72	49
合計	243	207	170

（出典：教員活動状況データベース）

資料Ⅱ-1-8 【論文掲載（件数）】

専攻名	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
比較社会文化学	15	34	49	35	25
人間発達科学	31	56	59	45	12
ジェンダー学際研究	12	14	24	0	4
ライフサイエンス	2	19	28	24	16
理学	19	30	37	29	23
合計	79	153	197	133	80

（出典：教員活動状況データベース）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

資料Ⅱ-1-9 【受賞状況（件数）】

専攻名	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
比較社会文化学	0	0	1	1	4
人間発達科学	0	1	0	2	1
ジェンダー学際研究	0	0	2	0	1
ライフサイエンス	1	1	2	2	4
理学	1	4	4	8	3
合計	2	6	9	13	13

（出典：教員活動状況データベース）

資料Ⅱ-1-10 【学外競争的資金獲得状況（件数）】

専攻名	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
比較社会文化学	3	6	7	2	0
人間発達科学	5	3	7	4	0
ジェンダー学際研究	2	8	10	1	2
ライフサイエンス	0	1	3	5	4
理学	3	7	5	7	4
合計	13	25	32	19	10

（出典：教員活動状況データベース）

4. 学生からの評価

平成27年度後学期に、大学院FD委員会が中心となって、博士前期課程学生（1年生）を対象とした授業アンケート調査（自由記述形式）を行った。その結果によれば、ディベートやディスカッション形式の授業への評価が高く、一方、施設・環境への要望が高かった（資料Ⅱ-1-11）。

また、平成27年度に行われた大学院修了生へのアンケート結果では、大学院で受けた教育に対して、教育全般、授業科目、研究指導ともに、かなり充実していたと評価されている（資料Ⅱ-1-12）。

資料Ⅱ-1-11 博士前期課程学生への授業アンケート結果抜粋（平成 27 年度実施）

専攻	1. 印象に残っている良かった授業	2. 希望する大学院の授業	3. その他、カリキュラム全体に対する意見
比較社会文化学	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い授業、様々な分野、視野が広がる、研究以外の勉強、多様な視点 等 先生が学生だけでは不明瞭な点を補足、先生の指導・指摘が充実、先生自身の執筆論文の目的等の解説 ディスカッション、議論、能動的、意見交換 等 （事前にHPにレジュメをUPし、意見・疑問を書いて授業当日に意見交換） 唯一の講義の授業で勉強になった、先生の研究についての講義 実際に行って見る、なかなかいく機会がない場所へ連れて行く 先輩の意見や発表を聞けるゼミ 授業ガイダンスが丁寧、調査の仕方などの基本を最初に扱った 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数制、少人数のゼミ形式 他コースや他分野の意見が聞ける、交流できる、コースに捉われない授業 意見が言いやすい環境、ディスカッションしやすい、全員参加型 講義の授業をもっと開講してほしい 一人一台iPadのようなもの、新しいパソコンがほしい、せめて教室に一台 照明をもっと明るく、室温の調整 工事の騒音が少ないように時期を調整 コピーを無料にしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 文系にもネイティブと英語で討議できるゼミや英語で専門授業がほしい 祝日の授業は困る 夜より、朝がいい、夜遅い時間は困る 他分野や他大学の履修をもっととり易く 時間割的に他学科の必修がとりにくい オンライン講義を増設してほしい 集中講義は、朝早くから夜遅くまでなので、子育て中は物理的に困難 オンラインでアンケートができるようにしてほしい

（出典：学務課資料）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

資料Ⅱ-1-12 本学修了生へのアンケート結果抜粋（平成27年度実施）

質問：本学の大学院で受けた教育をどのように評価しますか（実数）

		非常に充実	かなり充実	どちらでもない	かなり不備	非常に不備
博士前期	(1)教育全般	28	68	30	4	1
	(2)授業科目	22	66	37	5	1
	(3)研究指導	47	51	21	9	3
博士後期	(1)教育全般	3	5	6	0	0
	(2)授業科目	2	6	6	1	0
	(3)研究指導	6	8	1	0	0

（出典：学務課資料）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

学生の在学中の学習は順調に行われ、質量両面にわたりその水準は高い。大学院生の学会での受賞件数、競争的資金の獲得件数、資格取得数など、学習成果の高い水準を証明している。特に、前期課程における高度な職業人養成という目的を遂げていることが資格取得状況より確認できる。また、在学生や修了生へのアンケート調査の結果からも、教育への満足度が高いと判断される。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1. 本大学院の人材育成の目的と学生の志向性

本学大学院では、社会的要請に応えることのできる高度な研究者及び専門職業人の養成を目指して教育を行なっている(資料Ⅱ-2-1)。実際、本学大学院に在籍する学生の意識調査(平成22年12月実施)によれば、博士前期課程では、「専門知識や技術を習得するため」(65.8%)に、また、博士後期課程では、「専門知識や技術を習得するため」(60.8%)、「研究者になるため」(58.7%)に大学院に進学している(資料Ⅱ-2-2)。

資料Ⅱ-2-1 大学院学則(抜粋)

○国立大学法人お茶の水女子大学大学院学則(抜粋)

第1章 総則

(目的)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科(以下、「本学大学院」という。)は、本学の目的使命に則り、高度の専門学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

第2章 構成及び収容定員等

(大学院)

第2条 本学大学院は博士課程とし、前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。)及び後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)に区分する。この場合において、博士前期課程は修士課程として取り扱うものとする。

(博士前期課程)

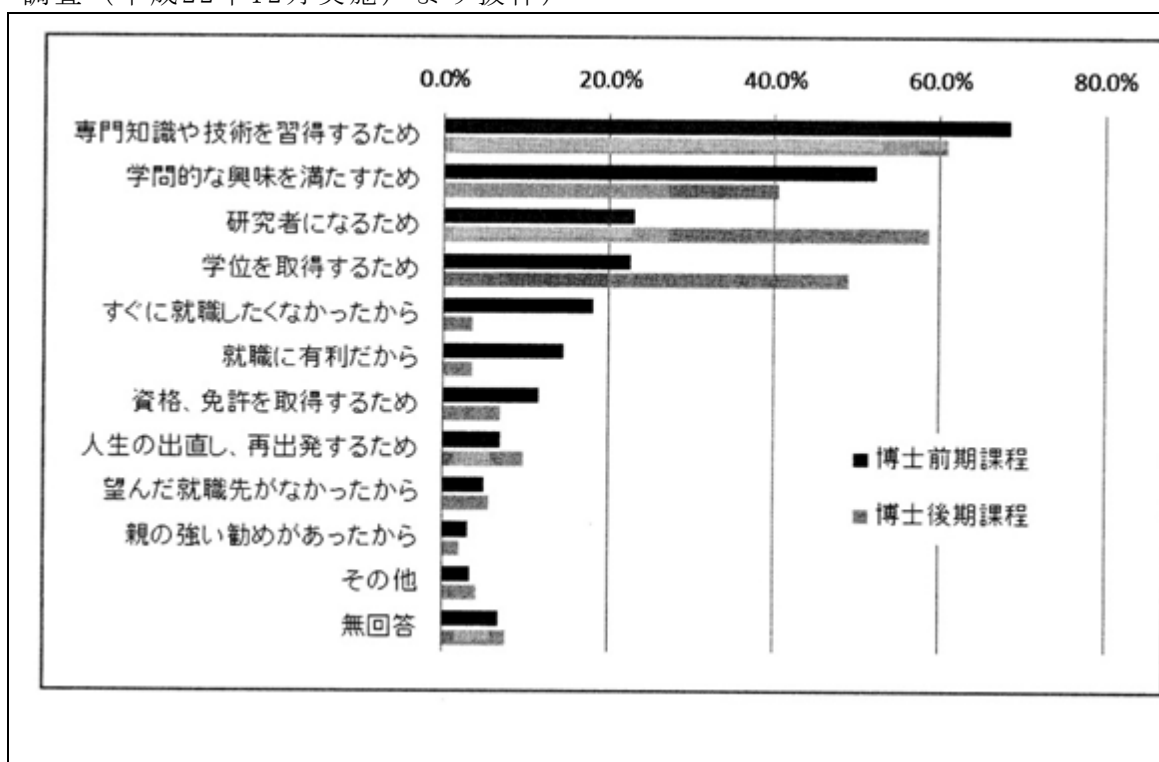
第3条 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

(博士後期課程)

第4条 博士後期課程は、高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(出典：平成27年度大学院履修ガイドp.98(抜粋))

資料Ⅱ-2-2 本学在籍大学院生の進学動機（本学大学院に在籍する学生の意識調査（平成22年12月実施）より抜粋）



2. 前期課程修了者の進路

資料（資料Ⅱ-2-3）に示すとおり、平成22年度から平成26年度までの博士前期課程修了者のうち、20.9%が進学、61.1%が就職している。進学者の比率は、文系の3専攻において24～29%程度と相対的に高い。

修了生全体の就職率は、平成22年度は50%未満であったが、その後増加し、平成23年度をピークとして65%前後である。理系（ライフサイエンス専攻、理学専攻）と文系（比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻、ジェンダー社会科学専攻）別にみると、理系修了者の就職率は70～80%と高く、文系修了者は40～45%である。ただし、文系修了者の就職者も平成23年度には増加し、進学者数を上回るようになる。「その他」に分類される18%程度の修了生は、留学者や、一時的な職に就いた者、就職準備中の者等が含まれるが、理系は1割以下にすぎず、また全体として増加はしていない。

平成24～26年度の前期課程修了者466名の進路を産業別に見ると、製造業が150名（32.2%）と最も多く、以下、情報通信業103名（22.1%）、教育64名（13.7%）、公務58名（12.4%）、学術・研究・専門技術30名（6.4%）と続き（資料Ⅱ-2-4）、高度な専門性を活かしている。

資料Ⅱ-2-3 大学院博士前期課程専攻別修了者進路（平成22～26年度）

H22年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	72	42	16	64	76	270	
進学者	29	13	3	12	16	73	27.0%
就職者	13	17	5	33	57	125	46.3%
その他	30	12	8	19	3	72	26.7%
H23年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	63	29	18	45	74	229	
進学者	17	10	5	6	7	45	19.7%
就職者	31	12	9	37	65	154	67.2%
その他	15	7	4	2	2	30	13.1%
H24年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	72	35	18	64	80	269	
進学者	20	9	5	12	14	60	22.3%
就職者	33	21	10	44	63	171	63.6%
その他	19	5	3	8	3	38	14.1%
H25年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	56	28	17	49	68	218	
進学者	14	6	3	10	4	37	17.0%
就職者	27	17	5	36	59	144	66.0%
その他	15	5	9	3	5	37	17.0%
H26年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	45	45	15	46	82	233	
進学者	10	11	4	5	10	40	17.2%
就職者	18	14	9	39	71	151	64.8%
その他	17	20	2	2	1	42	18.0%
H22-26 年度計	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	308	179	84	268	380	1219	
進学者	90	49	20	45	51	255	20.9%
就職者	122	81	38	189	315	745	61.1%
その他	96	49	26	34	14	219	18.0%

※「その他」は、一時的な職に就いた者、就職準備中の者、その他不明な者を含む。

（出典：学生・キャリア支援課資料）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

資料Ⅱ-2-4 大学院博士前期課程 産業別就職状況（平成24～26年度）

産業別就職状況

博士前期課程専攻別修了者進路(平成24～26年度)

		H24						H25						H26					
		比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	計	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	計	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー社会科学	ライフサイエンス	理学	計
農業・林業							0						0					1	1
建設業							0				1		1						0
製造業	食品				9		9				2		2				11	1	12
	繊維					1	1					1	1						0
	印刷・出版	1				1	2		1		2	3	6	1		1		3	5
	化学		1		5	4	10				5	7	12			1	6	5	12
	鉄鋼・非鉄						0						0					1	1
	業務用機械					3	3					1	1			2			2
	電子部品・デバイス		1			1	2			1			1				1	1	2
	電気・情報通信機器	2			4	8	14				2	9	11	1			4	13	18
	輸送用機器					5	5					4	4					6	6
	その他	1		1		2	4						0				3	1	4
電気・ガス					1		1				3	1	4						0
情報通信		6		3	12	23	44	4	2		5	19	30	2		1	4	22	29
運輸				1		1	2				1	3	4					1	1
卸・小売業	卸	1					1				1		1					1	1
	小売	1		1			2						0			1			1
金融業	金融	1			1	2	4	1			1		2					3	3
	保険						0			1			1			1			1
不動産業							0						0						0
学術・研究、専門技術	学術研究	1		1	4		6					2	2	2			1	2	5
	法務	1		1			2	1					1						0
	専門・技術サービス	1			1		2	2			1	3	6	1	2			3	6
宿泊・飲食サービス							0						0	1					1
生活関連サービス				1			1	2			2		4						0
教育	学校教育	7	2		3	11	23	11	3		3	4	21	4	2	1		5	12
	学習支援	4	2				6	1					1		1				1
医療・福祉	医療		4				4		2		1		3		2		4		6
	社会保険		1			1	2		1				1		1	1			2
複合サービス							0						0						0
サービス	宗教						0						0						0
	サービス		1		1		2				1		1	2			1		3
公務	国家公務	3	6				9	1	5	1	2		9		2		2	1	5
	地方公務	3	3	1	3		10	4	3	2	3	2	14	4	4		2	1	11
その他							0						0						0
合計		33	21	10	44	63	171	27	17	5	36	59	144	18	14	9	39	71	151

（出典：学生・キャリア支援課資料）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

3. 後期課程修了者の進路

資料(資料Ⅱ-2-5)に示すように、博士後期課程修了後直ちに就職した者は、平成22年度から26年度までの修了者総数の51.7%である。理系は6割を超えるが、文系3専攻では3割強であり、修了直後の就職は容易ではない。「就職者」の中には、日本学術振興会のポスドク研究員なども含まれる。半数弱の「その他」の中には、非常勤講師などを務めながら、研究職に就く機会を待つ者が多い。

大学院生数の増加の一方で、大学の定員削減などで研究職のポストが増えない中で、一般に博士後期課程修了者の就職は厳しい状況にある。ただし、平成23年度69.0%、平成25年度59.0%など、高い就職率を示す年もある。

平成24～26年度の後期課程修了者93名(満期退学の者を含む)の進路を産業別に見ると、教育49名(52.7%)が過半数を占め、これに学術・研究・専門技術12名(12.9%)が次ぐ(資料Ⅱ-2-6)。すなわち、研究者、高度な職業人となっていることが確認できる。

資料Ⅱ-2-5 博士後期課程専攻別修了者進路(平成22～26年度)

平成22年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	4	0	0	11	5	20	
進学者						0	0.0%
就職者	1			5	3	9	45.0%
その他	3			6	2	11	55.0%
平成23年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	2	2	3	12	10	29	
進学者						0	0.0%
就職者	1		3	10	6	20	69.0%
その他	1	2	0	2	4	9	31.0%
平成24年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	5	6	3	8	9	31	
進学者						0	0.0%
就職者		2	1	4	7	14	45.2%
その他	5	4	2	4	2	17	54.8%
平成25年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	10	5	4	10	10	39	
進学者						0	0.0%
就職者	5	2	2	9	5	23	59.0%
その他	5	3	2	1	5	16	41.0%
平成26年度	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	11	2	4	8	5	30	
進学者						0	0.0%
就職者	1	0	1	6	3	11	36.7%
その他	10	2	3	2	2	19	63.3%
平成22-26年度計	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	合計	百分率
修了者	32	15	14	49	39	149	
進学者	0	0	0	0	0	0	0.0%
就職者	8	4	7	34	24	77	51.7%
その他	24	11	7	15	15	72	48.3%

※「その他」は、一時的な職に就いた者、就職準備中の者、その他不明な者を含む。

(出典：学務課資料)

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

資料Ⅱ-2-6 大学院博士後期課程 産業別就職状況（平成24～26年度）

産業別就職状況

博士後期課程専攻別修了者進路(平成24～26年度)

		H24					H25					H26					合計
		比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	比較社会文化学	人間発達科学	ジェンダー学際研究	ライフサイエンス	理学	
農業・林業																	0
建設業																	0
製造業	食品																0
	繊維																0
	印刷・出版																0
	化学		1			2				1	1				1		6
	鋼鉄・非鉄					2											2
	業務用機械																0
	電子部品・デバイス									2	1						3
	電気・情報通信機器																0
	輸送用機器																0
	その他																0
電気・ガス																	0
情報通信		1									2					1	4
運輸																	0
卸・小売業	卸											1			1		2
	小売							1									1
金融業	金融																0
	保険																0
不動産業																	0
学術・研究、専門技術	学術研究	1			1	3					2				2	1	10
	法務																0
	専門・技術サービス													2			2
宿泊・飲食サービス																	0
生活関連サービス																	0
教育	学校教育	1	5	2	3	3	7	6	4	5	1	6	1	2	1	1	48
	学習支援															1	1
医療・福祉	医療				1					1			1		3		6
	社会保険				1							1					2
複合サービス																	0
サービス	宗教																0
	サービス											1					1
公務	国家公務				1					2					1	1	5
	地方公務																0
その他																	0
合計		3	6	2	7	10	7	7	4	11	7	9	2	2	11	5	93

（出典：学務課資料）

4. 関係者からの評価

平成27年度に、企業等の関係者を対象としたアンケート調査を行った。その結果、本学卒業生・修了生への評価は、特に「必要に応じて自ら学習できる能力」、「リーダーシップ」、「組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力」が、他大学の学生と比較して、高いと評価されている（資料Ⅱ-2-7）。

また、本学で平成23年度より実施している、ポストドクター・キャリア開発事業では、長期インターンシップ先の民間企業等から、被派遣者に関するフィードバックを得ている。そのコメントでは、適応能力の高さが評価されているものが多い（資料Ⅱ-2-8）。

資料Ⅱ-2-7

「企業・官公庁・学校からみたお茶の水女子大学の教育と就職活動」調査結果（抜粋）（平成27年度実施）

問7 お茶の水女子大学の卒業生・修了生と一般的平均的な大学卒業生との比較

	総合・一般職						専門職					
	小計	特に優れている	優れている	同程度である	劣る	特に劣る	小計	特に優れている	優れている	同程度である	劣る	特に劣る
(1) 全般的な人格	28	7	16	5	0	0	13	4	8	1	0	0
(2) 一般教養	28	6	13	9	0	0	13	3	7	3	0	0
(3) 専門知識	28	2	15	11	0	0	13	2	4	7	0	0
(4) 領域を超えた学際知識や興味	28	4	12	12	0	0	13	2	6	5	0	0
(5) 課題を探索し問題解決する能力	28	9	9	9	1	0	13	5	5	3	0	0
(6) ユニークな発想	28	4	9	15	0	0	13	0	4	8	1	0
(7) 必要に応じて自ら学習できる能力	28	10	12	6	0	0	13	3	8	2	0	0
(8) リーダーシップ	28	4	13	10	1	0	13	1	5	5	2	0
(9) 語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力	28	3	12	13	0	0	13	1	7	5	0	0
(10) 組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力	28	5	13	10	0	0	13	2	9	2	0	0
(11) 適切な情報リテラシーを備え、技術革新や新しい社会システムに対応できる能力	28	3	11	14	0	0	13	2	5	5	1	0
(12) 対話や討論などのコミュニケーション力	28	6	14	8	0	0	13	3	6	4	0	0
(13) その他（自分を変革していこうとするエネルギー）	1	1	0	0	0	0	0					

（出典：学生・キャリア支援センター資料）

資料Ⅱ-2-8 インターンシップ派遣先からのコメント（抜粋）

⑦理学博士（当時35歳）

インターンシップ先：＊＊特許事務所

企業からのコメント

インターンシップの目的である「研究成果がいかに知的財産権として保護・活用されているか」について十分な理解が出来たと思われる。また、大学の知財戦略の課題についても感じ取ることが出来たようである。特許関連業務については作業が多種多様であり、習得するまでには経験が必要となるが、慎重にかつ適切な対応が出来、その適応能力を高く評価している。総合的に本人の持つ専門性、本職との適合性を勘案して、この分野での活躍に今後十分に期待できるものと判断している。

＊＊印は、個人情報保護対象

（出典：アカデミックプロダクション：ポストドクター・キャリア開発事業資料）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 分析項目Ⅱ

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

- ① 本学の大学院在籍者の多くは、「専門知識や技術の習得」「研究者になる」といった明確な問題意識を持って入学し、実際にその目標を達成している。
- ② 大学院修了者の進路を見ると、前期課程については、進学、民間企業・官公庁などへの就職など多岐にわたり、また、後期課程については、大学・公的機関の研究者が大部分を占め、研究者、高度な職業人となっていることが確認できる。この点から、本学の大学院教育の目的が十分に達成されていると判断される。
- ③ 関係者からの評価では、企業等やインターンシップ派遣先から、高い評価を得ている。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

1. 教員組織改組による教育・研究体制の弾力化と教育の多様化

(質の向上があったと判断する取組)

教員組織を改組したことによって、大学院は、純然たる教育組織となった。その結果、大学院・学部・センターの教員による教育体制が弾力化し、カリキュラムにおいても教育の多様化を図ることができ、今後の第3期中期目標・中期計画期間での進捗が期待できる。

2. 女性教員の比率の維持

(質の向上があったと判断する取組)

人件費削減による、教員数の減少にも関わらず、女性教員の比率は、第2期中期目標期間中、常に40%を超えており、国立大学法人の中でトップを維持している。トップを維持することは、本学の教員配置の取組が適切であり、「質の向上」の一側面と考えられる。

3. 理工系グローバル女性リーダー育成の強化と大学間連携共同教育推進

(質の向上があったと判断する取組)

以下の取組が、教育の質の向上に寄与したと判断される。

- ① 平成25年度日本学術振興会「博士課程教育リーディングプログラム」の採択
- ② 学際的な分野及び工学分野における大学院教育の充実を図るため、大学間連携を推進した。特に、平成28年度に奈良女子大学との共同設置を予定する生活工学分野の共同教育課程の設置に向けた、カリキュラム開発などの必要な準備を行った。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

該当なし。